

PeopleSoft®

EnterpriseOne 8.9
サービス請求
PeopleBook

2003 年 9 月

PeopleSoft EnterpriseOne 8.9
サービス請求 PeopleBook
SKU PM89JSR0309

Copyright 2003 PeopleSoft, Inc. All rights reserved.

本書に含まれるすべての内容は、PeopleSoft, Inc. (以下、「ピープルソフト」) が財産権を有する機密情報です。すべての内容は著作権法により保護されており、該当するピープルソフトとの機密保持契約の対象となります。本書のいかなる部分も、ピープルソフトの書面による事前の許可なく複製、コピー、転載することを禁じます。これには電子媒体、画像、複写物、その他あらゆる記録手段を含みます。

本書の内容は予告なく変更される場合があります。ピープルソフトは本書の内容の正確性について責任を負いません。本書で見つかった誤りは書面にてピープルソフトまでお知らせください。

本書に記載されているソフトウェアは著作権によって保護されており、このソフトウェアの使用許諾契約書に基づいてのみ使用が許諾されます。この使用許諾契約書には、開示情報を含むソフトウェアと本書の使用条件が記載されていますのでよくお読みください。

PeopleSoft、PeopleTools、PS/nVision、PeopleCode、PeopleBooks、PeopleTalk、Vantiveはピープルソフトの登録商標です。Pure Internet Architecture、Intelligent Context Manager、The Real-Time Enterpriseはピープルソフトの商標です。その他すべての会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標である場合があります。ここに含まれている内容は予告なく変更されることがあります。

オープンソースの開示

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。Copyright (c) 1999-2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. このソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、特定の目的に対する商品性および適格性の黙示保証を含む、いかなる明示または黙示の保証も行いません。Apache Software Foundationおよびその供給業者は、損害の発生原因を問わず、責任の根拠が契約、厳格責任、不法行為(過失および故意を含む)のいずれであっても、また損害の可能性が事前に知らされていたとしても、このソフトウェアの使用によって生じたいかなる直接的損害、間接的損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、結果的損害に関しても一切責任を負いません。これらの損害には、商品またはサービスの代用調達、使用機会の喪失、データまたは利益の損失、事業の中断が含まれますがこれらに限らないものとします。

ピープルソフトは、いかなるオープンソースまたはシェアウェアのソフトウェアおよび文書の使用または頒布に関しても一切責任を負わず、これらのソフトウェアや文書の使用によって生じたいかなる損害についても保証しません。

目次

サービス請求の概要	1
システム・インテグレーション	1
システムの機能	6
サービス請求テーブル	9
システム・セットアップ・テーブル	9
ワークテーブル管理で使用するテーブル	9
収益認識で使用するテーブル	10
請求書処理で使用するテーブル	10
伝票処理に使用されるテーブル	10
システム・セットアップ	11
ワークテーブル管理	12
取引の処理	12
サービス請求メニューの概要	14
ワークテーブル管理	15
ワークテーブルの生成	15
給与計算の処理	16
間接労務費の処理	16
追加料金の処理	18
ワークテーブルでの親/子関係の定義	18
ワークテーブル取引の表示	18
適格性コードの割当て	19
順序番号の割り当て	21
ワークテーブルの生成	22
ワークテーブルの検討	24
ワークテーブル取引の検討	25
ワークテーブル取引の改訂の検討	30
取引合計の検討	31
間接費の取引の検討	31
追加料金取引の検討	33
ワークテーブル合計レポートの検討	36
ワークテーブル取引例外レポートの検討	36
ワークテーブル取引の検討	37

既存の取引明細レコードのワークテーブルへの追加.....	37
ワークテーブル取引の割増しの変更.....	39
アドホック・ワークテーブル取引の入力.....	43
保留状況の割当て.....	49
ワークテーブル取引の分割.....	50
ワークテーブル取引の再計算.....	53
ワークテーブル取引のワークテーブル履歴テーブルへの移動.....	54
ワークテーブル取引の印刷.....	56
ワークテーブル履歴の処理.....	57
履歴からの取引の移動.....	57
請求ワークテーブル履歴の除去.....	60
請求書の処理.....	62
順序/集計規則.....	64
請求書生成のバージョンとモード.....	65
仕訳の振替.....	66
関連する総勘定元帳バッチの処理.....	66
請求書処理の伝票タイプ.....	67
留保金.....	67
請求書の自動生成.....	68
請求書バッチの処理.....	72
請求書情報の検討.....	72
請求書バッチ見出し情報の改訂.....	79
請求書情報の削除.....	80
請求書の支払項目からのワークテーブル取引の削除.....	81
請求書の新しい請求書バッチへの移動.....	82
請求書情報の手動作成.....	83
請求書へのワークテーブル取引の追加.....	84
クレジット・メモの作成.....	90
予備的な請求書仕訳の作成.....	91
一時変更日付の改訂.....	94
予備的な請求書仕訳の検討.....	94
最終請求書仕訳の作成.....	96
請求書バッチと関連する元帳バッチの転記.....	100
請求書の印刷.....	101
請求書の自動印刷.....	101
請求書の手動印刷.....	102
請求書履歴の処理.....	107

履歴からの請求書の印刷.....	109
最終請求書の無効化.....	109
留保金の処理.....	112
収益認識	117
収益認識の理解.....	118
仕訳の自動作成のバージョンとモードの選択.....	118
仕訳の自動作成での対話型バージョンの使用.....	119
仕訳の種類.....	119
収益認識の伝票タイプ.....	119
仕訳の振替.....	120
関連する総勘定元帳バッチの処理.....	120
収益調整.....	120
収益認識と請求処理を異なるタイミングで行った場合の調整.....	121
収益金額と請求金額を別々に割り増した場合の調整.....	121
収益の逆仕訳.....	122
予備的な総勘定元帳仕訳の生成.....	123
総勘定元帳バッチの処理.....	125
総勘定元帳準備仕訳の検討.....	126
予備的な総勘定元帳仕訳の改訂.....	126
総勘定元帳最終仕訳の作成.....	127
総勘定元帳バッチの転記.....	129
サービス請求の伝票処理	130
伝票の自動生成.....	131
伝票バッチの処理.....	133
伝票情報の検討.....	133
伝票情報の削除.....	136
伝票の支払項目からのワークテーブル取引の削除.....	137
予備的な伝票仕訳の自動作成.....	138
予備的な伝票仕訳の検討.....	139
最終的な伝票仕訳の作成.....	140
買掛伝票バッチの転記.....	141
システム・セットアップ	143
機能セットアップ.....	143
請求システム固定情報の設定.....	144
収益金額と請求金額を別々に割り増した場合の注意点.....	144
請求料金と割増テーブルの主キー.....	152
請求料金と割増テーブルの補助キー.....	154
割増計算.....	155
複合割増し.....	155
追加料金情報.....	156
請求料金/割増テーブル一覧の印刷.....	168
請求料金/割増テーブル失効日の印刷.....	169

追加料金規則の定義	170
追加料金テーブル一覧の印刷	175
AAI の設定	177
順序/集計規則の定義	178
元帳クラスと留保金規則の定義	180
元帳クラスおよび留保金情報テーブルの機能	180
キー・タイプ/テーブル・キー	181
元帳クラス/留保金テーブルの主キー	181
元帳クラスと支払条件の一時変更	181
留保金情報	182
通貨モードの一時変更	182
元帳クラス/留保金テーブル一覧の印刷	186
税額決定規則の定義	186
税決定テーブル一覧の印刷	188
請求 AAI の処理	189
請求 AAI の主キー	190
請求 AAI のキー・タイプとテーブル・キー	192
請求 AAI の主キー	193
請求書および元帳仕訳生成用の AAI 処理	193
基本規則の定義	198
再配賦規則の定義	207
請求 AAI テーブル情報の検討	214
ユーザー定義コードの理解	215
テスト請求書および最終請求書の番号付け	216
請求書印刷バージョン相互参照テーブルの設定	218
請求書の印刷処理	219
請求書フォーマットの設定	222
請求書フォーマット・テンプレート	222
スマート・フィールドを使用した請求書フォーマット・テンプレートの修正	223
多通貨の設定	228

通貨モード	228
固定金額と非固定金額	228
請求書の通貨モード	229
多通貨取引	229
多通貨固定情報の設定	231
多通貨の請求料金/割増テーブルの設定	232
多通貨の追加料金の設定	235
元帳クラス/留保金テーブルの多通貨設定	236
請求書印刷バージョン相互参照の多通貨処理用の設定	236
ワークテーブル生成の多通貨処理	237
ワークテーブル改訂の多通貨処理	237
請求書生成の多通貨処理	238
請求書改訂の多通貨処理	239
請求書印刷の多通貨処理	241
請求書仕訳自動作成の多通貨処理	241
売掛金仕訳/総勘定元帳仕訳の作成の多通貨処理	241
転記プログラムの多通貨処理	242
請求書無効化の多通貨処理	242
請求時の会計処理	243
基本規則	243
再配賦規則	255
請求料金/割増規則の検索	266
主キーの値	266
補助キーの値	267
給与計算取引	267
設備の非給与計算取引	269
その他のすべての取引	270
請求書の設計	272
スマート・フィールド	274
時間会計の多通貨処理	280
請求明細ワークテーブル(F4812)のフィールド決定基準	290
WorldSoftware から J.D. Edwards 5 へのアップグレード	308
A7.3 サービス請求からのテーブル変換プログラム	309
A7.3 サービス請求リリースからのテーブル変換プログラム	344
Vertex 社の Quantum Sales & Use Tax	389

サービス請求の概要

サービス請求システムには、煩雑な部門間請求と顧客請求に対応するように設計された一連の機能が用意されています。サービス請求システムを使用することにより、顧客に提供したサービスや商品の請求処理が行えます。

どのサービス請求処理も、2つの当事者、顧客と業者または契約者の間で締結される契約から始まります。顧客はサービスを要求し、提供側である会社は、提供する製品やサービスについて、顧客に代価を請求します。

サービス請求システムを使用して次の処理を実行します。

- 商品やサービスの原価の計上
- 収益計上のための原価の割増し
- 提供した商品およびサービスに対する料金の請求
- 費用の請求事由を示す証明書の提供
- 商品およびサービスの仕訳作成

システム・インテグレーション

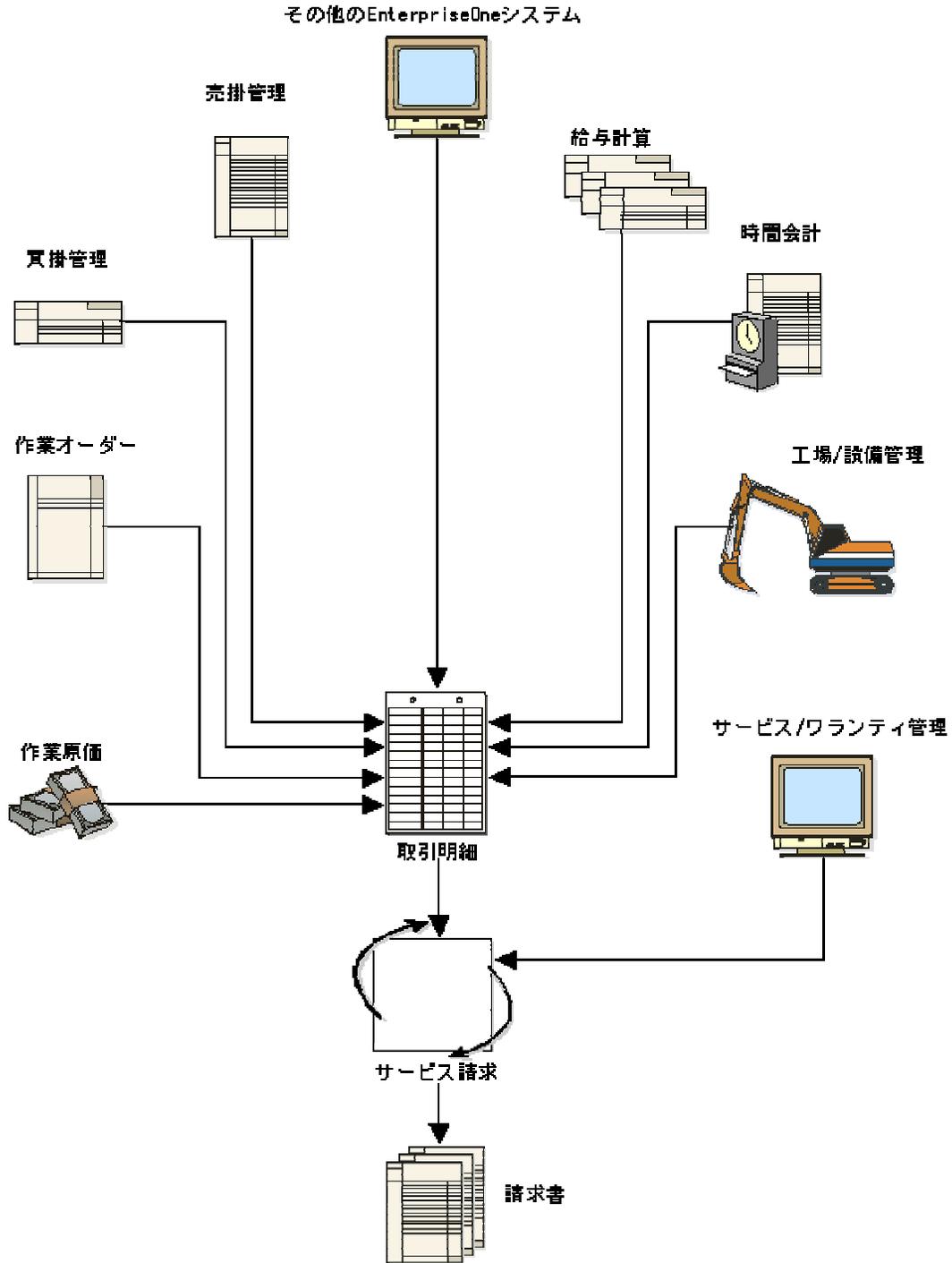
サービス請求システムでは、一般会計システムの取引明細テーブル(F0911)に情報を保存するシステムから、原価を取り込むことができます。原価は、給与計算ベースまたは非給与計算ベースとして分類できます。給与計算ベースの原価とは、従業員と設備の労務関連原価です。非給与計算ベースの原価とは、外注業者、資材、および旅費交通費などの原価です。

保存される情報には次のようなものがあります。

- 追加給付や給与関連税など、給与計算システムと時間会計システムからの労務費および関連間接費
- 設備/工場管理システムからの設備の運用保全費
- 旅費交通費など、買掛管理システムから作業に直接賦課できるその他費用

次の図は、サービス請求システムとその他の J.D. Edwards のシステムのインテグレーションを示します。

サービス請求システムと他のシステムとのインテグレーション



一般会計

契約請求システムでは、勘定科目マスター(F0901)の情報と取引明細テーブル(F0911)の取引を使用して、取引が請求システムでの処理に適格であるかどうかを確定します。

勘定科目マスター	勘定科目マスター(F0901)の[請求可]フィールドで、サービス請求システムで請求処理が可能な勘定科目かどうかを指定します。
取引明細	取引明細テーブル(F0911)の[請求コード]フィールドでは、契約請求システムでタイム・アンド・マテリアル取引が処理されているかどうかを示します。契約請求に関連するコードは次のとおりです。 ブランク 処理可能。 N 勘定科目マスター(F0901)の[請求可]フィールドがNまたはブランクに設定されているため請求対象外。 Z 既に処理済みで、請求明細ワークテーブル(F4812)に読込済み。

勘定科目マスター(F0901)の[請求可]フィールドと、〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[仕訳生成の制御]オプションに指定されている値に基づいて、ワークテーブル取引に適格性コードが割り当てられます。

給与計算と時間会計

給与計算ベースの原価には、次の金額を含めることができます。

- 控除前の従業員に対する実績支払金額と実績労働時間数
- 実績または固定(予想)間接費金額
- 従業員と関連時間数に関する割増労務費の請求配賦金額
- 従業員が設備を使用した実績時間数と、設備に関する請求レート
- 労務費および設備費配賦用の勘定科目コード

給与計算情報は、日次または給与計算サイクルに基づいて処理できます。給与計算システムにより次のテーブルが更新されます。

- 従業員トランザクション詳細テーブル(F06116)
- 従業員トランザクション履歴(F0618)
- 間接労務費配賦テーブル(F0724/F07241)
- 取引明細(F0911)

契約請求システムでは取引明細テーブルの取引が処理され、次に従業員トランザクション詳細テーブルと従業員トランザクション履歴テーブルから給与情報が読み込まれます。この後でサービス請求ワークテーブル(F4812)に対応する取引が作成されます。取り込まれる取引は、次の伝票タイプで識別されます。

- T2 - 給与計算の労務費配賦
- T3 - 間接費配賦
- T4 - 労務費請求配賦
- T5 - 設備費配賦

間接労務費配賦取引(T3)は、対応する給与計算の労務費配賦取引(T2)に常にリンクされています。間接費は、会社が従業員を雇用した結果として負担する賃金や給与に伴う原価です。この種の原価には、税や保険料を含めることができます。契約請求システムの固定情報の設定内容によっては、これらの間接費取引をサービス請求ワークテーブル内の関連労務費取引と連動して処理できます。

間接費には、次の2つの計算方法があります。

- 従業員の実績時間数と支払レートと共に実績間接労務費レートおよびパーセンテージを使用します。
- 固定(予想)間接費率を使用します。

通常の給与計算サイクル中に、固定間接費金額と実績間接費金額を計算できます。給与計算サイクルを完了させずに、給与計算仕訳を日次で処理する場合は、固定間接費のみが計算されます。

契約請求システムで給与計算情報が処理された後に、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)または従業員取引詳細テーブル(F06116)、および取引明細テーブル(F0911)の取引が処理済みとして更新されます。

工場/設備管理

通常、作業やプロジェクト、作業オーダーの実施には設備が必要になります。たとえば、警備員は会社所有の車を使ってオフィス・ビルの敷地を見回ります。警備会社とビル管理会社で交わす契約には、警備員が車を使用する時間に対して時間あたりのレートで請求をする内容が規定してあります。

別の例としては、クレーンを使って重い資材を作業場で動かす場合です。業者と顧客との契約には、クレーンをプロジェクトに使用した期間について時間単位で請求することが規定されています。

契約請求システムでは、設備/工場管理システムからの伝票タイプ TE の取引が処理されます。契約請求システムでは、次の情報を使用して設備取引を処理します。

- 請求対象の設備を識別する設備番号
- 従業員が設備を使用した時間数

作業オーダー

自動車修理のような場合は、サービス提供者はサービスの提供と同じ日に請求を行います。この場合は、短期プロジェクトであることを示す作業オーダーを使用します。取引の補助元帳タイプが W で、補助元帳フィールドに番号が付けられ、作業オーダーの請求状況が請求可能な場合に、この作業オーダーが請求可能となります。

サービス請求システムの固定情報を設定することにより、請求する顧客を作業オーダー・マスター(F4801)の顧客番号から確定できます。作業オーダーのその他の情報が、取引に適用する割増し、税、会計規則に影響する場合があります。

作業原価

定期点検のようなサービスには、作業オーダーを使用しません。この場合は、ビジネスユニット・マスター(F0006)に顧客情報が存在する必要があります。(作業は、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。)顧客番号はワークテーブル取引に記録され、請求書の請求明細情報になります。ビジネスユニット・マスターのオーナー住所番号が顧客を表します。ビジネスユニット・マスターには、作業の税情報も保存できます。ビジネスユニット・マスターのその他の情報が、取引に適用する割増し、会計規則に影響する場合があります。

売掛管理

契約請求システムでは、顧客マスター(F0301)を使用して次の情報を識別します。

- 支払条件
- 税目コード、税率、および税域
- 会計基準

請求データを生成したら、請求書の情報を顧客元帳(F03B11)に転記します。顧客からの支払の入金後は、それを顧客の売掛勘定と消し込みます。

住所録

サービス請求システムでは、作業オーダーまたは作業の住所番号により、次の情報を識別します。

- 担当者、会社または事業所など、請求先として使用する住所録マスター(F0101)と人名録テーブル(F0111)内の名称。
- 住所録マスターと日付別住所テーブル(F0116)内の請求用郵送先住所

買掛管理

契約請求システムでは、買掛管理システムに記録した原価取引が累計されます。契約請求システムでは、取引明細テーブル(F0911)の買掛取引情報を使用して、次の情報を認識します。

- 仕入先番号
- 仕入先請求書番号
- 仕入先サービス日付
- 実績金額
- 担当ビジネスユニット
- 作業オーダー番号

サービス管理システム

サービス契約およびサービス・オーダーの請求書を作成/印刷する元になるワークテーブル取引がサービス管理システムにより書き込まれます。これにより、サービス管理の請求とサービス請求システムの請求を1つの請求書にまとめることができます。

また、買掛管理システムに作成する伝票の元になるワークテーブル取引も、サービス管理により書き込まれます。この伝票により、社外のサービス提供者への支払が処理されます。

不動産管理(テナント作業オーダー)

テナントから要求された賃借スペースの改築テナント作業オーダーには、作業のトラッキングで使用する賃貸借契約番号、建物、区画情報を入力します。取引明細テーブル(F0911)の請求原価取引は、補助元帳としてテナント作業オーダーがリンクされている場合に、サービス請求システムから売掛管理システムに処理を進めることができます。

システムの機能

サービスごとに特定の割増規則と監査証跡が必要になります。また、サービスの実施には、時間、設備、および材料が必要になります。

サービス請求を使用して次のタスクを処理できます。

- 原価の認識と割増し
- 請求書の生成
- 顧客に対応した請求書デザインの作成
- 請求仕訳の作成

請求

サービス請求システムでは、提供した商品およびサービスに対する原価認識と料金請求が行えます。たとえば、次のタスクを実行できます。

- 請求書の生成
- 請求書の請求取引の変更
- 請求書の印刷

請求 AAI

請求 AAI を使用して、請求処理の会計基準を定義できます。収益および未請求分の会計処理には次のような高度な機能があります。

- 部門間での収益の配賦部門間でリソースを共有したり収益と原価をそれぞれトラッキングできます。
- 移動価格設定移動価格設定 - 複数部門、複数会社内で、労務費と資材の配賦に関する会計基準を定義できます。
- 売上税の勘定科目情報収益に売上税を含めてることも、別の未払税勘定科目に入力することもできます。
- マージン収益性を予測できるように請求や収益のマージンを分析できます。

柔軟な割増し

請求対象時間数、CAD(コンピュータ支援設計)時間数、コピー費用、電話料金など、あらゆる費目について、調整済み、顧客または契約特有の割増し用に柔軟な乗数を設定できます。任意割増しには、次のような利点があります。

- 原価計算用の割増規則をサポートします。直接原価として記録するか、部門間請求や原価再配賦のために一時的に間接労務費として記録できます。
- 収益金額とは関係なく金額を請求できます。
- 複数の従業員請求レートがサポートされるため、産業別、分野別、所在地別、または他のユーザー定義基準に基づいて請求処理を行うことができます。
- 高度な乗数と移動価格設定を使用して、設備費に関してプロジェクト特有の内部および外部請求処理がサポートされます。

請求書のフォーマット設定

契約請求システムには、請求書フォームをカスタマイズできるようにフォーマット設定機能が組み込まれています。J.D. Edwards で設計した請求書印刷バージョンをそのまま使用するか、独自に顧客に固有の請求書バージョンを設計できます。顧客ごとにニーズが大幅に異なる場合も、自社と各顧客の条件に合わせて調整することが可能です。

仕訳処理

請求システムでは、それぞれの会計業務の条件に最適なモードを選択できるように、多様な仕訳処理が用意されています。これらのモードは、請求固定情報で次のように制御されます。

請求処理のみ	収益を請求処理から切り離して認識する必要がない場合に選択します。
収益処理のみ	部門間の請求処理のみを行い、売掛金元帳で顧客の売掛金を更新する必要がない場合に選択します。
収益を伴う請求	収益を請求処理から切り離して認識できるようにする場合に選択します。
収益調整を伴う請求	見越収益を請求処理から切り離して認識できるようにする場合に選択します。見越収益は、請求書の生成時に実績収益として調整されます。

注:

いずれの仕訳モードでも、内部の原価再配賦と仕訳の再分類がサポートされます。

多通貨機能

J.D. Edwards の多通貨機能を使用すると、国内通貨および外貨建ての勘定残高や請求書を維持管理することができます。

システムのセットアップ時に、会社、顧客および仕入先の通貨を定義します。システムでは、会社に対して定義した通貨が国内通貨として認識されます。会社の通貨とは異なる顧客通貨や仕入先通貨は、外貨として認識されます。国内通貨金額と外貨金額は、特定の有効日付の範囲に対して定義した為替レートに基づいて確定されます。

サービス請求の多通貨機能

グローバルな顧客ネットワークを構築することで、EnterpriseOne サービス請求システムを使用して、多通貨環境における請求処理を最適化できます。サービス請求システムで多通貨を使用すると、次の処理を行うことができます。

- 割増金額を国内通貨または外貨で原価に適用します。
- 作業または作業オーダーとは異なる通貨(外貨)で顧客に対する請求書を生成します。

サービス請求システムでは、作業(ビジネスユニット)または作業オーダーを基に請求書を作成します。作業を担当する会社の通貨が国内通貨として認識されます。作業オーダーを元にする場合は、作業オーダーの変更先ビジネスユニットの通貨が国内通貨として使用されます。

顧客の通貨がシステムの国内通貨と異なる場合でも、作業または作業オーダーは国内通貨で管理します。そして、作業または作業オーダーに対する請求書の生成時、顧客の通貨(外貨)を使用して請求書が作成します。

参照

- 多通貨処理については、『多通貨処理』ガイドの「多通貨処理の概要」

留保金

留保金とは、請求額に占める作業完了後に支払われる金額の割合です。たとえば、顧客への請求書の10%を留保金とすることができます。顧客は留保金を作業完了後に支払います。留保金は、作業勧業まで顧客が留保する支払額を意味するため、支払保留額とも呼ばれます。

収益認識

収益認識は、現金に限らず商品やサービスのやりとりにおいて、収益を資産の流入として定義する会計基準です。収益を発生前ではなく発生時点で認識する必要があります。収益認識を使用して、請求書を生成せずに取引明細テーブル(F0911)の収入に関する仕訳を作成します。

通常は、次の状況で収益認識を使用します。

- 作業が完了し、収入が発生したが、顧客に請求する必要がない場合。
- 損益計算書と貸借対照表に、会社の現在の財務状況に即した金額を反映させる必要がある場合。

システム・セットアップ

サービス請求システムは、システム固定情報とシステム規則に基づいて請求原価取引を合計します。システム固定情報は、サービス請求システムで原価、顧客情報、日付などの処理方法を制御します。割増し、会計、留保金、税情報などはシステム規則で定義します。また、システムから印刷する顧客請求書のレイアウトをデザインすることもできます。

Vertex Tax インターフェイス

Vertex は、売上税/使用税を回収して各種管轄局に報告する必要のある会社を対象として、売上税準拠システムを提供するソフトウェア会社です。Vertex Quantum Sales and Use Tax 製品を EnterpriseOne の税テーブルと併用すると、請求費用に売上税を適用できます。

ワークテーブル管理

ワークテーブル管理には次の機能があります。

- 監査可能なワークテーブル取引のグループを提供します。変更前のワークテーブル取引のコピーを、請求ワークテーブル履歴(F4812H)に保存します。
 - 取引レベルでの制御。ワークテーブルの取引レベルで値を割り当てて、請求プロセスを制御できます。これらの値は[適格性コード]フィールドに保存され、ワークテーブル取引が特定の請求処理に適格かどうかは確定され、ワークテーブル取引に保存された各種金額フィールドの表示が制御されます。[適格性コード]フィールドには次の値が割り当てられます。
- 0 ワークテーブル取引は請求、収益認識、および原価計算処理に適格です。
 - 1 ワークテーブル取引は請求および原価計算処理に適格です。
 - 2 ワークテーブル取引は収益認識および原価計算処理に適格です。
 - 3 ワークテーブル取引は請求外です。

- 4 ワークテーブル取引は原価処理にのみ適格です。
- 5 ワークテーブル取引は買掛伝票の入力に適格
(サービス請求のサービス管理ワークテーブル取引の場合のみ)。
 - 取引の分割複雑な取引を分割して、請求可能、請求不可能な項目に分けることができます。
 - 高度なエラー修正顧客の情報や、割引、税および割増しの計算用に設定した最新の規則など、ワークテーブル取引の請求情報を「再適用」または「再拡張」できます。
 - 仕訳の再分類請求システム内の勘定科目コード構造に修正を加えて、自動的にそれらの修正を当初のシステムに適用できます。

参照

- サービス管理取引の買掛伝票については、『サービス請求』ガイドの「サービス請求の伝票処理」

サービス請求テーブル

次のセクションは、サービス請求システムの基本テーブルの一覧です。

システム・セットアップ・テーブル

サービス請求システムでは、次のシステム・セットアップ・テーブルを使用します。

- 勘定科目マスター(F0901)
- 取引明細(F0911)
- 請求システム固定情報(F48091)
- 請求料金/割増テーブル(F48096)
- 請求 AAI 情報テーブル(F48S95)
- 順序/集計データ項目テーブル(F4848)
- 相手科目/留保金情報テーブル(F48128)
- 税額決定基準情報テーブル(F48127)
- 従業員トランザクション履歴(F0618)
- 従業員トランザクション詳細テーブル(F06116)

ワークテーブル管理で使用するテーブル

ワークテーブル管理中に次のテーブルが使用されます。

- サービス請求ワークテーブル(F4812)
- 請求ワークテーブル履歴(F4812H)

請求明細ワークテーブルは、収益認識、請求書処理、および伝票処理の情報を供給します。

収益認識で使用するテーブル

収益認識中に次のテーブルが使用されます。

- 給与計算仕訳振替ワークテーブル(F48S0618)
- 従業員トランザクション履歴 (F0618)
- 請求 AAI 情報テーブル(F48S95)
- 請求明細仕訳テーブル(F48S910)
- 集計済み仕訳テーブル(F48S911)
- 取引明細(F0911)

請求書処理で使用するテーブル

請求書処理中に次のテーブルが使用されます。

- 順序/集計データ項目テーブル(F4848)
- 請求書集計ワークテーブル(F4822)
- 給与計算仕訳振替ワークテーブル(F48S0618)
- 従業員トランザクション履歴 (F0618)
- 請求明細仕訳テーブル(F48S910)
- 集計済み仕訳テーブル(F48S911)
- 取引明細(F0911)
- 売掛金元帳(F03B11)

伝票処理に使用されるテーブル

伝票処理中に次のテーブルが使用されます。

- 伝票集計(F4823)
- 請求明細仕訳テーブル(F48S910)
- 集計済み仕訳テーブル(F48S911)
- 取引明細(F0911)
- 買掛金元帳(F0411)

システム・セットアップ

次のテーブルで、システム・セットアップについての明細を説明します。

請求システム固定情報 (F48091)

次のグローバル処理を制御します。

- 請求費用
- 間接費の処理
- 有効日付
- 顧客情報
- 仕訳処理
- デフォルトの割増率

注:

このテーブルはサービス管理取引では使用されません。

請求料金/割増テーブル (F48096)

選択した取引に対する割増しの方法を確定します。次の割増規則が単独か組み合わせて使用されます。

- 単位レート
- 原価パーセント
- 原価に対して固定金額を追加
- 上記の規則の組合せ
- 割増しなし

注:

このテーブルはサービス管理取引では使用されません。

税額決定基準情報テーブル (F48127)

ワークテーブル取引に税目コードと税率/税域に割り当てる際に使用する情報が保存されます。

注:

このテーブルはサービス管理取引では使用されません。

相手科目/留保金情報テーブル (F48128)

ワークテーブル取引に相手科目を割り当てる際に使用される情報が保存されます。留保金制御と支払条件もこのテーブルで設定できます。

注:

このテーブルはサービス管理取引では使用されません。

順序/集計データ項目テーブル (F4848)

請求書の生成時に使用される順序/集計規則と支払項目レベル区切りが保存されます。

追加料金テーブル・マスター (F4860)

テーブルを識別するデータが保存されます。この情報は、請求料金/割増テーブルで正しいレコードを検索して、追加料金ワークテーブルの取引を作成する際に使用します。

注:

このテーブルはサービス管理取引では使用されません。

追加料金明細テーブル(F4861)

追加料金ワークテーブルの取引作成で、請求取引に適用される請求料金および割増しを確定します。次の計算規則が単独か組み合わせて使用されます。

- 数量ベース
- 金額ベース

注:

このテーブルはサービス管理取引では使用されません。

追加料金相互参照(F4862)

複合追加料金の計算で使用する相互参照情報を保存します。

注:

このテーブルはサービス管理取引では使用されません。

請求書印刷バージョン相互参照テーブル(F48S58)

請求書の印刷に使用するデータを保存します。このテーブルは、特定の顧客や作業、作業オーダーに請求書のフォーマット設定を割り当てる際に使用します。

請求 AAI 情報テーブル(F48S95)

次の項目の仕訳を制御する会計規則が保存されます。

- 実績収益
- 税
- 原価
- マージン
- 見越し収益(未請求)
- 見越し売掛(未請求)

注:

このテーブルはサービス管理取引では使用されません。

ワークテーブル管理

次のテーブルで、システム・セットアップについての明細を説明します。

サービス請求ワークテーブル(F4812)

ワークテーブル取引を請求費用のグループとして保存します。ワークテーブル取引は、他のシステムで生成されたり、契約請求システムに手入力された費用取引と相互に対応しています。このデータは請求プロセスの開始点となります。この情報を使用して、請求書に明細情報を印刷したり、売掛金元帳や取引明細、買掛金元帳に項目を作成します。

請求ワークテーブル履歴(F4812H)

処理が終わったワークテーブル取引の情報を保存します。この情報によって、個々のワークテーブル取引に関連する変更の監査証跡が得られます。

取引の処理

次のテーブルで、取引テーブルについての明細を説明します。

サービス請求バッチ見出しテーブル(F48011)

バッチ状況や現在の活動など、サービス請求システム内で作成された請求書や元帳バッチの情報が保存されます。

請求書集計ワークテーブル(F4822)

この情報を使用して次の処理が行われます。

- 請求書の印刷
- 売掛元帳の情報の作成

サービス請求留保金リリース相互参照テーブル(F48221)	請求書と関連するリリース済みの留保金の間の相互参照情報が作成されます。 注: このテーブルはサービス管理取引では使用されません。
削除済み請求書監査テーブル(F48229)	削除した請求書番号の監査証拠が提供されます。
伝票集計(F4823)	買掛金仕訳を作成する際に使用する情報が保存されます。 注: サービス管理取引のみがこのテーブルを更新します。
請求書集計アクセス(F48520)	請求書に請求累計額を表示する場合など、報告用に使用できる請求書の累計情報を保存します。ここには請求書集計ワークテーブルよりも詳細な請求累計データが保存されます。このサービス請求システムの任意テーブルは、〈請求固定情報〉プログラム(P48091)のオプション設定により制御されます。請求累計額は、元帳日付、従業員または仕入先、費用感情、契約請求行ごとに保存されます。
給与計算仕訳振替ワークテーブル(F48S0618)	給与計算システムからのワークテーブル取引の費用勘定が、サービス請求システムで変更になった場合、当初のデータと作成される修正項目を一時保存します。〈仕訳の作成〉プログラム(R48198)または売掛金仕訳の作成(R48199)を実行する際は、従業員トランザクション履歴(F0618)に仕訳が書き込まれます。
請求明細仕訳テーブル(F48S910)	ワークテーブル取引が仕訳の生成時に請求 AAI に対して処理されるときに、作成される明細仕訳の取引を一時保存します。
集計済み仕訳テーブル(F48S911)	請求明細仕訳テーブル(F48S910)に保存される明細仕訳取引の集計データを一時保存します。集計は元帳タイプ、通貨コード、元帳日付、ビジネスユニット、主科目、補助科目、補助元帳に基づいて行われます。これらレコードは、取引明細(F0911)に最終仕訳項目を作成する際に使用されます。
元帳リンク(F48S912)	ワークテーブル取引からの主要な情報およびそれらによって取引明細テーブルに作成される仕訳を保存します。このテーブルは、報告および監査目的で使用します。

サービス請求メニューの概要

J.D. Edwards システムは、メニューを選択してアプリケーションを実行します。メニューは機能と使用頻度に応じて編成されています。サービス請求のメニューには、〈サービス請求〉メニュー(G48S)からアクセスします。

日次処理

- 日次処理(G48S11)

定期処理

- 請求書処理(G48S21)
- 収益計上(G48S22)
- 伝票の処理(S&WM のみ) (G48S23)

上級/技術的操作

- 上級技術的操作メニュー(G48S31)
- サービス請求テーブルの J.D. Edwards からの変換(G48S32)

セットアップ

- システム・セットアップ(G48S40)
- テーブル情報(G48S41)
- ユーザー定義コード(G48S42)

ワークテーブル管理

ワークテーブルの管理は、サービス請求処理で最も重要な作業です。一般的な請求処理には、ワークテーブルの生成、請求書の作成および印刷、収益と売掛金の仕訳作成などがあります。

顧客への請求書、収益認識、および原価の配賦のために請求システムにワークテーブル取引を作成します。

ワークテーブル情報を検討および分析してワークテーブルの状況を把握し、請求サイクルの正確なプランを作成します。

ワークテーブル情報は、請求明細ワークテーブル(F4812)に保存されます。次のテーブルから、請求明細ワークテーブルに情報が供給されます。

- 請求システム固定情報(F48091)
- 請求料金/割増テーブル(F48096)
- 税額決定基準情報テーブル(F48127)
- 取引明細(F0911)
- 従業員トランザクション履歴 (F0618)
- 従業員トランザクション詳細テーブル(F06116)

請求ワークテーブル履歴(F4812H)を使用して請求明細ワークテーブルから履歴へ移動されるレコードを保存します。

ワークテーブルの生成

サービス請求ワークテーブル(F4812)の取引レコードを基に、請求書作成、収益認識、原価配賦が行われます。ワークテーブルに取引を作成するには、次の3つの方法があります。

ワークファイル生成プログラム(R48120) 取引明細テーブル(F0911)の請求仕訳からワークテーブル取引をバッチ・プログラムにより作成します。〈ワークテーブルの生成〉プログラムを実行すると、取引明細テーブル(F0911)の請求仕訳をコピーして、それに割増し、相手科目、税情報が適用されます。ワークテーブル取引は、〈ワークテーブルの処理〉フォームで照会できます。

会計取引の選択(P48124) 取引明細テーブル(F0911)の請求仕訳からワークテーブル取引を対話型処理により作成します。〈会計取引の選択〉を実行すると、取引明細テーブル(F0911)の選択された請求仕訳がコピーされ、それに割増し、相手科目、税情報が適用されます。ワークテーブル取引は、〈ワークテーブルの処理〉フォームで照会できます。

アドホック・ワークテーブル取引 取引明細テーブル(F0911)に元仕訳が存在しない場合に、ワークテーブル取引をこのテーブルにより作成します。

整合性を維持するために当初の請求仕訳はそのまま保存され、そのコピーが作成されます。コピーされた取引はワークテーブル取引と呼ばれ、請求明細ワークテーブル(F4812)に保存されます。

ワークテーブル取引には、割増後の原価、税、その他の重要な情報が含まれます。この後の請求処理は、ワークテーブル取引の情報に基づいて行われます。

適格性コード0(請求、収益、原価)または1(請求のみ)のワークテーブル取引には、すべて顧客番号が必要です。この顧客に対して、請求書が処理されます。取引に関連付けられた作業(ビジネスユニット)または作業オーダーの顧客番号を確認する必要があります。

注:

〈作業マスターの改訂〉フォーム(W510062)で、[作業場住所]フィールドではなく[所有者住所番号]フィールドで顧客番号を入力します。〈ビジネスユニットの改訂〉フォーム(W0006A)に表示される住所番号は、顧客番号とは異なります。

給与計算の処理

取引明細テーブルには、買掛管理システム、設備/工場管理システム、給与計算システムなど複数のシステムから取引が書き込まれます。〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)を実行することにより、これらのシステム内のレコードが請求システムに集められます。

給与計算システムからワークテーブル取引を作成する場合は、給与計算テーブルおよび従業員テーブルの情報が取引明細テーブル(F0911)の情報と同じである必要があります。取引明細テーブルの給与計算取引レコードは、請求に必要なすべての明細情報を含んでいないので、請求システムは給与計算システムからの明細情報を取り込んでワークテーブル取引を作成します。取引明細テーブルの次のフィールドが使用され、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)または従業員トランザクション明細テーブル(F06116)から追加情報を取り込みワークテーブル取引が作成されます。

- バッチ番号
- 勘定科目 No.
- 元帳日付
- 補助元帳情報

注意:

給与計算処理後は、取引明細テーブルのフィールドの値を変更または削除しないでください。

間接労務費の処理

間接労務費とは、雇用の結果発生する費用を定義します。間接労務費には、次のいずれかが含まれます。

- 会社負担の給与税
- 保険
- 年金などの追加給付
- 工具費などの労務関連の直接原価

ワークテーブルに間接労務費取引を自動作成するには次のことが必要です。

- 給与計算システムのビジネスユニット間接労務費フラグがオンになっている。これにより、間接労務費仕訳が間接費配賦テーブル(F0724)に書き込まれます。
- 間接労務費に控除が設定されている。
- 会社の間接費配賦規則が設定されている。
- 間接労務費仕訳は、取引明細テーブル(F0911)の請求対象勘定科目に入力する。
- 間接費仕訳も、取引明細テーブルの請求対象勘定科目に入力する。
- 請求システム固定情報テーブル(F48091)の[間接労務費の請求]フィールドをオンにする。

契約請求システムでは、個別に請求行を間接労務費として設定できます。間接労務費取引をこのように作成すると、間接労務費の請求行と労務費の請求行を区別できます。

給与計算システムで入力された間接労務費をワークテーブルに読み込むかどうかは、請求固定情報で指定します。間接労務費は、給与計算仕訳の作成時に計算されます。関連付けられた労務費ワークテーブル取引と合わせての場合のみ、請求システムで間接労務費を処理できます。

間接労務費取引の適格性コードは、関連する労務費ワークテーブル取引の適格性コードと一致している必要があります。労務費ワークテーブル取引の適格性コードを間接労務費取引の適格性コードよりも限定的にすることはできません。

たとえば、労務費仕訳に関連付けられた間接労務費仕訳が収益と請求に適格で、労務費仕訳が請求にのみ適格の場合、間接労務費取引の適格性コードは労務費ワークテーブル取引の適格性コードと同じ値に変更されます。

給与計算システムでは次のタイプの間接労務費が計算されます。

実際間接 労務費	給与関連税、保険、追加給付の実際の金額。従業員のタイムカードに関連付けられた実際金額の間接労務費が計算されます。
定額間接 労務費	直接労務費から計算される間接労務費の見積り額。タイムカードごとに労務費の一定の割合として間接労務費が計算されます。

労務費ワークテーブル取引に間接労務費取引が関連付けられている場合、ワークテーブルの処理フォーム(W4812C)の[B]カラム(間接労務費)にXが表示されます。これらのワークテーブルの取引を照会するには、[ロー]メニューの[間接労務費情報]を選択します。

注:

日次タイムカード入力プログラム(P051141)により時間を入力する場合、労務費ワークテーブル取引と関連付けることができるのは定額間接労務費のみです。日次の給与計算取引は、その合計がワークテーブルに書き込まれると、状況が請求済みになります。

当初給与計算取引が処理された後で新しく計算された間接労務費は、ワークテーブルには読み込まれません。たとえば、間接労務費を逆仕訳し、当初取引に対して間接労務費の実際金額を計算した場合でも、その新しい間接労務費取引はワークテーブルには読み込まれません。

参照

- 間接費の控除の設定については、『Workforce Management Foundation(人事管理基本操作)』ガイドの「Setting Up Deductions, Benefits, and Accruals(控除、福利厚生、見越しの設定)」
- 会社の間接費配賦規則の設定については、「Time Accounting(時間入力)」ガイドの「Setting Up Company Burden Rules(会社の間接費規則)」

追加料金の処理

追加料金とは、割増しの1種です。追加料金は、ソース取引の金額を基に計算されます。たとえば、借入金利息の請求分を追加料金として作成できます。

追加料金は、ワークテーブル取引に対する割増金額としてだけでなく、請求書金額に基づいて利息金を請求する際にも使用できます。複合追加料金とは、追加料金に基づく割増しです。

追加料金の計算規則は、追加料金テーブル・マスター(F4860)に設定します。次に、追加料金取引を作成するための追加料金規則を割増規則に割り当てます。

ワークテーブル取引に追加料金取引が関連付けられている場合、〈ワークテーブルの処理〉フォーム(W4812C)の[C]カラム(追加料金)に「X」が表示されます。追加料金仕訳を照会するには、[ロー]メニューの[追加料金情報]を選択します。

ワークテーブルでの親/子関係の定義

次の場合、ワークテーブル取引に親/子関係を設定できます。

ワークテーブル取引/追加料金	ワークテーブル取引に追加料金取引が作成された場合に成立します。
ワークテーブル取引	
労務費/間接費	ワークテーブルに労務費と関連付けられた間接労務費が保存されている場合に成立します。
間接費/追加料金	間接労務費取引に対する追加料金取引が作成された場合に成立します。

ワークテーブル取引の表示

次のようなワークテーブル取引が表示できます。

ワークテーブル取引

ワークテーブル取引とは、取引明細テーブル(F0911)に記録された請求対象費用の取引のコピーです。

間接労務費取引

間接労務費とは、従業員の雇用に伴って発生する原価を表すワークテーブル取引を表します。これは、給与などの直接労務費とは別に記録されます。間接労務費には次のようなものがあります。

- 会社負担の給与税
- 保険
- 年金などの追加給付

間接労務費は、常に関連する労務費ワークテーブル取引とともに処理されます。〈ワークテーブルの処理〉フォーム(W4812C)で、[ロー]メニューから[間接費情報]を選択してワークテーブル取引を検討します。

追加料金

追加料金とは、顧客への請求時に当初原価に上乗せして請求する金額のワークテーブル取引を意味します。たとえば、借入金利息の請求分を追加料金として作成できます。

追加料金は、常に関連するワークテーブル取引とともに処理されます。〈ワークテーブルの処理〉フォームで、[ロー]メニューから[追加料金情報]を選択してワークテーブル取引を検討します。

適格性コードの割当て

ワークテーブル取引と〈請求固定情報〉プログラム(P48091)で設定されている[仕訳作成の制御]オプションで参照される勘定の請求状況を基に、適格性コードがワークテーブル取引に割り当てられます。

注:

適格性コードは、表示額とワークテーブル取引が関わる請求処理を指定します。適格性コードには次のような値があります。

- 0 ワークテーブル取引は請求、収益認識、および原価計算処理に適格です。
 - 1 ワークテーブル取引は請求および原価計算処理に適格です。
 - 2 ワークテーブル取引は収益認識および原価計算処理に適格です。
 - 3 ワークテーブル取引は請求外です。
 - 4 ワークテーブル取引は原価処理にのみ適格です。
 - 5 ワークテーブル取引は買掛伝票の入力に適格(サービス管理ワークテーブル取引にのみ使用)。
-

たとえば、勘定科目マスターの[請求可]フィールドがY(請求可能)に設定され、請求システム固定情報の[仕訳記録制御]タブの[仕訳作成の制御]オプションで[調整なしの請求書/収益]が選択されている場合、適格性コードの値は0に設定されます。適格性コード0はワークテーブル取引が請求書、収益認識、および原価計算に使用できることを意味します。[請求可]フィールドがYの同じ勘定科目が請求システムで処理されており、[仕訳作成の制御]オプションで[請求書のみ]が選択されている場合は、適格性コードは1に設定されます。これはワークテーブル取引が請求書にのみ使用できることを意味します。

割り当てられる適格性コードは、条件によって次のようになります。

勘定科目の検討/改訂(P0901) – [請求可]フィールド	請求固定情報(P48091) – 仕訳作成制御オプション	ワークテーブルの改訂(P4812) – 適格性コード・フィールド
N (請求不可)	非適用	ワークテーブル取引は作成されない
Y (請求可)	請求書のみ	1 = 請求にのみ使用可能
Y (請求可)	収益のみ	2 = 収益にのみ使用可能
Y (請求可)	調整なしの請求書/収益	0 = 請求書/収益にのみ使用可能
Y (請求可)	調整ありの請求書/収益	0 = 請求書/収益にのみ使用可能
1 = 請求にのみ使用可能	請求書のみ	1 = 請求書にのみ使用可能
1 = 請求にのみ使用可能	収益のみ	ワークテーブル取引は作成されない
1 = 請求にのみ使用可能	調整なしの請求書/収益	1 = 請求書にのみ使用可能
1 = 請求にのみ使用可能	調整ありの請求書/収益	1 = 請求書にのみ使用可能
2 = 収益認識にのみ使用可能	請求書のみ	ワークテーブル取引は作成されない
2 = 収益認識にのみ使用可能	収益のみ	2 = 収益にのみ使用可能
2 = 収益認識にのみ使用可能	調整なしの請求書/収益	2 = 収益にのみ使用可能
2 = 収益認識にのみ使用可能	調整ありの請求書/収益	2 = 収益にのみ使用可能
4 = 原価にのみ使用可能	請求書のみ	4 = 原価にのみ使用可能
4 = 原価にのみ使用可能	収益のみ	4 = 原価にのみ使用可能
4 = 原価にのみ使用可能	調整なしの請求書/収益	4 = 原価にのみ使用可能
4 = 原価にのみ使用可能	調整ありの請求書/収益	4 = 原価にのみ使用可能

参照

- サービス管理取引の買掛伝票については、『サービス請求』ガイドの「サービス請求の伝票処理」

順序番号の割り当て

ワークテーブル取引を変更すると、履歴を残すために変更することにより順序番号がつけられます。

請求明細ワークテーブル(F4812)で割増しや分割などの改訂を行なう際には、請求明細ワークテーブルから請求ワークテーブル - 履歴テーブル(F4812H)に当初の取引がコピーされます。次に、後続番号が請求明細ワークテーブルの改訂された取引に割り当てられます。

順序番号を使用して、当初ワークテーブル取引にどのように改訂が加えられたかがトラッキングできます。次の番号が使用されてワークテーブル取引が共にリンクされます。

- 請求制御(BCI)番号** 最初に請求明細ワークテーブルで取引が作成されたときに割り当てられます。割り当てられる番号は、自動採番 - システム 48 インデックス 2(請求制御)を使って決められます。ワークテーブル取引の BCI 番号は、取引の改訂後も変わりません。ワークテーブル取引を分割した場合は、両方の取引に同じ番号が保持されます。
- 順序番号(SBSQ)** 当初ワークテーブル取引の順序番号には、常に 1 が割り当てられます。同じ BCI 番号を持つ取引から派生した取引には、次の未使用の番号が順序番号として割り当てられます。たとえば、最初にワークテーブル取引を分割すると、分割後の取引には順序番号 2 と 3 が割り当てられます。そのうち 1 つをさらに分割すると、分割後の取引には 4 と 5 が割り当てられます。
- 親順序番号(PRSQ)** 当初ワークテーブル取引の親順序番号には、常に 0 が割り当てられます。親順序番号が変更されるのは、ワークテーブル取引が分割された場合のみです。親順序番号は、ワークテーブル取引の分割により作成された取引に割り当てられます。分割元の取引の順序番号が、親順序番号として割り当てられます。たとえば、順序番号 1、親順序番号 0 のワークテーブル取引を分割すると、分割により作成されたワークテーブル取引の親順序番号として 1 が割り当てられます。
- 2 次順序番号(SCSQ)** 当初ワークテーブル取引の 2 次順序番号には、常に 1 が割り当てられます。2 次順序番号は、ワークテーブル取引に加えられた改訂数をトラッキングします。順序番号により、当初ワークテーブル取引にどのように改訂が加えられたかがトラッキングできます。たとえば、あるワークテーブル取引を 3 回改訂したとします。改訂対象のワークテーブル取引の 2 次順序番号は 1 です。最初の改訂により、2 次順序番号は 2 になり、次の改訂時に 3 になります。ワークテーブル取引を分割すると、分割により作成されたワークテーブル取引の 2 次順序番号には 1 が割り当てられます。
- 追加料金リンク番号(CLNK)** ワークテーブル取引(親)と追加料金取引(子)とのリンクを作成します。追加料金リンク番号が 0(ゼロ)の場合は、追加料金が存在しないことを意味します。追加料金のあるワークテーブル取引を分割すると、追加料金リンク番号が変わります。まず、分割により作成される親ワークテーブル取引に新しい追加料金リンク番号が割り当てられます。次に、この追加料金リンク番号が、関連付けられた追加料金に割り当てられます。

ワークテーブルの生成

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの生成〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの生成〉を選択します。

請求書は請求可能な費用に基づいて作成されます。請求処理の最初のステップは、ワークテーブルの生成です。請求可能な費用は、取引明細テーブル(F0911)に記録されています。

〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)を実行すると、次の処理が行われます。

- 取引明細テーブル(F0911)の未処理のソース取引を識別する。
- ソース取引が記録されている勘定科目が請求対象かどうかを勘定科目マスター(F0901)の[請求可]フィールドの値を元に判別する。
- システム固定情報とソース取引により追加情報が必要な場合(給与計算取引と関連付けられている間接労務費など)、関連テーブルを使用する。
- 取引明細テーブル(F0911)のソース取引を「処理済み」または「請求対象外」に更新する。
- 従業員トランザクション履歴(F0618)および従業員トランザクション詳細ファイル(F06116)を給与計算関連取引に対して更新する。
- 割増金額と税額を計算する。
- ソース取引のコピーをサービス請求明細ワークテーブル(F4812)に作成する。
- 請求システム固定情報の[仕訳作成の制御]オプションと勘定科目マスターの[請求可]フィールドの指定に基づいて、ワークテーブル取引に適格性コードを割り当てる。
- 契約情報を割り当てる(契約請求のみ)。
- ワークテーブルで作成されていないすべての請求可能取引のレポートを作成する。

取引明細テーブル(F0911)のソース取引には、N(勘定科目が請求対象外の場合)またはZ(勘定科目が請求対象であり、かつ請求システムにより処理された場合)が割り当てられます。〈ワークテーブルの生成〉プログラムの次回実行時には、それまでに〈ワークテーブルの生成〉プログラムに含まれていなかったソース取引のみのワークテーブル取引が作成されます。

参照

- 個々のソース取引に適用する特定の割増規則の認識については、『サービス請求』ガイドの「請求料金/割増規則の検索」

はじめる前に

- ワークファイル生成プログラム(R48120)を実行する前に次の情報が設定されていることを確認してください。
 - 住所録マスター(F0101)の各顧客の住所情報。『住所録』ガイドの「住所録の管理」を参照してください。
 - 顧客マスター(F0301)の各顧客のマスター情報。『売掛管理』ガイドの「顧客マスター情報の入力」を参照してください。

- 複数の通貨を使用して請求書を処理する場合は「多通貨」。チェックリストを参照してください。『多通貨処理』ガイドの「一般会計の多通貨の設定」を参照してください。
 - ビジネスユニット・マスター(F0006)内の各作業(ビジネスユニット)のマスター情報。『一般会計』ガイドの「ビジネスユニットの設定」を参照してください。
- 請求する作業オーダーまたは作業(ビジネスユニット)には顧客番号が割り当てられていることを確認します。
 - 勘定科目表ですべての請求勘定科目を定義します。『一般会計』ガイドの「勘定科目表の作成および更新」を参照してください。
 - 請求固定情報が設定されているかどうかを確認します。『サービス請求』ガイドの「請求固定情報の設定」を参照してください。
 - 規則は請求料金/割増テーブル(F48096)で定義します。『サービス請求』ガイドの「請求料金/割増規則の定義」を参照してください。
 - この規則は、元帳クラス/留保金情報テーブル(F48128)で定義します。『サービス請求』ガイドの「元帳クラスと留保金規則の定義」を参照してください。
 - 税額決定基準情報テーブル(F48127)でこの規則を定義します。『サービス請求』ガイドの「税額決定規則の定義」を参照してください。

処理オプション: ワークテーブルの生成(R48120)

デフォルト・タブ

給与計算設備レコードの所属ビジネスユニットの取得元を指定します。処理オプションを空白にして資産マスターを指定して資産 ID がない場合は、給与計算レコードのホーム・ビジネスユニットが選択されます。

1. 給与計算所属ビジネスユニット選択

1 = 給与計算マスター

空白 = 資産マスター

給与計算設備レコード用の所属ビジネスユニットの取得元を指定します。有効な値は次のとおりです。

1 給与計算マスター

空白 資産マスター(デフォルト)

処理タブ

一括、単価、および手数料両行の収益生成に使用する〈収益ワークテーブルの生成〉プログラム(R52120)のバージョンを指定します。

この処理オプションは契約請求にのみ適用されます。

1. 契約収益ワークテーブルの生成(R52120)のバージョン

契約の非タイム・アンド・マテリアル請求行の収益を生成するために実行する、〈契約収益ワークテーブルの生成〉プログラム(R52120)のバージョンを指定します。ブランクにした場合、非タイム・アンド・マテリアル請求行のワークテーブル収益取引は生成されません。

ワークテーブルの検討

ワークテーブルを生成したら、関連のワークテーブル取引を検討して、ソース取引から読み込まれた情報が正しいかどうかを検討できます。ソース取引とは、取引明細テーブル(F0911)に記録された取引のことです。ソース取引の処理に他の入力元のシステムからの情報が必要になることもあります。

請求明細ワークテーブル(F4812)の取引を検討する際は、次のような問題がないかどうか注意してください。

- 給与計算取引が間違った作業オーダーまたは作業に付け替えられている。
- 割増金額が正しくない(ワークテーブル取引の作成後に割増テーブルに変更があった場合)。
- 契約情報が正しくない(契約請求のみ)

〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)またはワークテーブルの再計算バッチ・プログラム(R481202)を実行する際に次のエラーのいずれかが検知されると、[保留コード]フィールドが E でワークテーブル取引が更新されます。

- 顧客がありません** 原因:ワークテーブルに割り当てられたビジネスユニットまたは作業オーダーについて、顧客番号が見つかりませんでした。
- 解決方法:次の処理のうち 1 つを実行します。
- 1) ビジネスユニットまたは作業オーダーに顧客番号を追加してください。B ワークテーブル取引を再計算してから顧客番号を再度適用してください。
- ビジネスユニットまたは作業オーダーを、顧客番号を持つものに変更します。ワークテーブル取引を再計算してから顧客番号を再度適用してください。
- 〈契約請求固定情報〉プログラム(P48091)の[顧客番号基準]オプションを変更し、ビジネスユニットや作業オーダーから正しい顧客番号を読み込むようにします。ワークテーブル取引を再計算してから顧客番号を再度適用してください。
- 顧客マスター情報がありません** 原因:ワークテーブル取引に割り当てた顧客番号が、顧客マスター(F0301)に設定されていません。
- 解決方法:顧客番号を顧客マスター(F0301)に追加してください。この変更を受け入れるには、ワークテーブル取引を再計算する必要があります。
- 作業オーダー番号が無効です** 原因:ワークテーブル取引に割り当てられた作業オーダー番号が、作業オーダー・マスター(F4801)にありません。
- 解決方法:作業オーダー・マスターに作業オーダー番号を入力するか、ワークテーブル取引に割り当てられた作業オーダーを変更してください。この変更を受け入れるには、ワークテーブル取引を再計算する必要があります。
- 作業オーダー番号が非請求対象です** 原因:ワークテーブル取引に割り当てられた作業オーダー番号が、非請求対象です。ユーザー定義コード・テーブル 00/SS の 2 つ目の記述を使用して、ワークテーブルが請求可能かどうか判断されます。作業オーダー状況の 2 つ目の記述の 2 文字目に X を設定し、作業オ

オーダーが非請求対象であることを指示します。

解決方法: 次の処理のうち 1 つを実行します。

1) 作業オーダー・マスターで作業オーダーの状況を変更してください。この変更を受け入れるには、ワークテーブル取引を再計算する必要があります。

ユーザー定義コード 00/SS の作業オーダー状況コードの 2 つ目の記述から値 X を削除します。この変更を受け入れるには、ワークテーブル取引を再計算する必要があります。作業オーダー・マスターが他の部署で使用中の可能性があるため、この変更の前にはシステム管理者に確認してください。

3) ワークテーブル取引に割り当てられた作業オーダー番号を変更してください。この変更を受け入れるには、ワークテーブル取引を再計算する必要があります。

補助元帳が非活動 中です

原因: ワークテーブル取引に割り当てられた作業オーダー番号が、非活動中です。作業オーダー・マスターの[補助元帳非活動]フィールド(WASBLI)の値を使って、このエラーが割り当てられます。ユーザー定義コード 00/SI の値を設定します。

解決方法: 作業オーダー・マスターで、ワークテーブル取引に割り当てられた作業オーダーの補助元帳非活動フィールドの値を変更するか、ワークテーブル取引に割り当てられた作業オーダー番号を変更してください。この変更を受け入れるには、ワークテーブル取引を再計算する必要があります。

上記のメッセージは、〈ワークテーブル生成〉レポート(R48120)に印刷されます。

多通貨環境の場合、国内通貨または外貨でワークテーブルを検討できます。

ワークテーブル取引を検討する際、次のフォームにアクセスできます。

- 間接費情報
- 追加料金取引の照会
- ソース伝票の情報
- 作業/金額の改訂
- 内部制御情報
- テーブル情報

ワークテーブル取引の検討

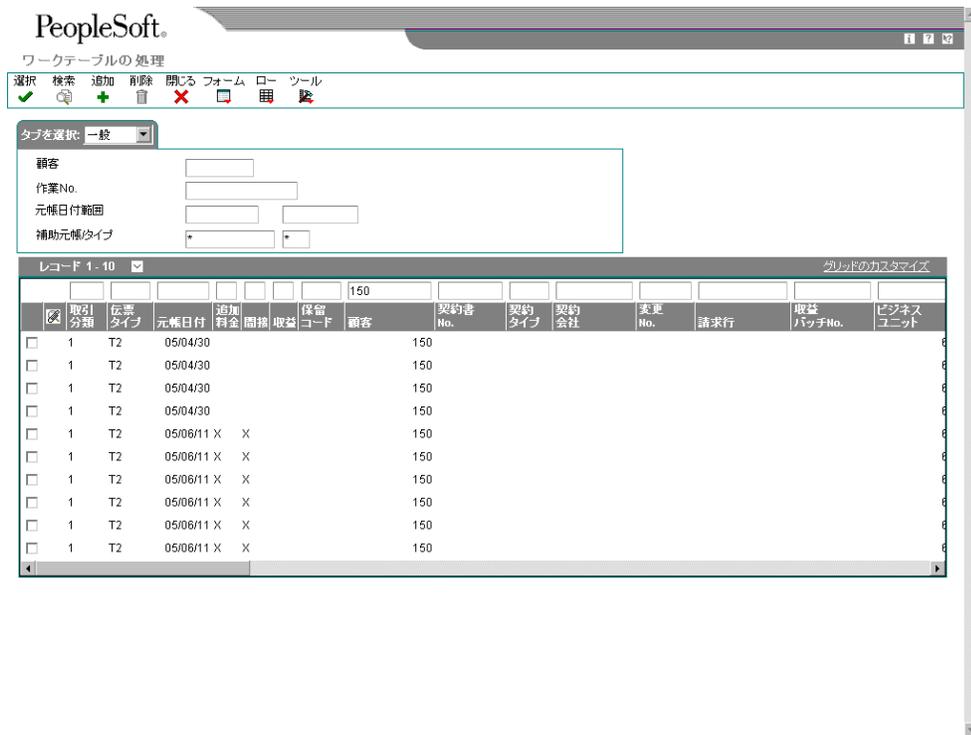
請求明細ワークテーブル(F4812)の取引を検討するには、まず検討する取引を検索します。特定のワークテーブル取引を検討して会計および請求情報を検証し、ワークテーブル取引が課税対象かどうかを判断できます。

▶ ワークテーブル取引を検討するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。



1. <ワークテーブルの処理>で、必要に応じて次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

一般タブ:

- 顧客
- 作業 No.
- 元帳日付範囲
- 補助元帳/タイプ

関係者タブ:

- 顧客
- 仕入先 No.

勘定科目タブ:

- 勘定科目 No.
- 補助元帳/タイプ
- 会社

契約タブ:

- 契約 No.

- 契約タイプ

注:

サービス請求の場合、[契約]タブのオプションはサービス管理の契約情報を参照します。

給与計算タブ:

- 従業員 No.
- 作業タイプ
- 職階

設備タブ:

- 使用設備
- 作業対象設備

内部タブ:

- 請求制御 ID
- 収益バッチ No.

2. 取引を検討します。
3. 契約請求の場合、次のフィールドを検討します。

- 取引分類
- 適格性コード
- 課税対象
- 契約書 No.
- 請求通貨

フィールド記述

記述	用語解説
顧客	請求書と売掛金取引の転記先住所番号

--- フォーム固有 ---

このフィールドに得意先の住所番号を入力して、得意先に関連した取引を検索してください。

作業 No.	会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。
	--- フォーム固有 --- 関連する取引を検索するビジネスユニットを入力してください。
元帳日付範囲	取引を転記する会計期間を識別する日付。会社の会計年度と現行期間に基づいて日付チェックが行われ、PBCO(過去期間)、PYEB(前年度以前)、PACO(未来期間)、WACO(次年度以降)などの警告/エラーが表示されます。
補助元帳/タイプ	総勘定元帳の勘定科目をさらに細かく分類して取引を記録するための補助区分コード。たとえば住所番号を入力して、従業員別に経費を把握することができます。このフィールドに入力する場合、補助元帳タイプも指定する必要があります。
	--- フォーム固有 --- 関連する取引を検索する作業オーダーを入力してください。
仕入先 No.	住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。
勘定科目 No.	会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。
	--- フォーム固有 --- 関連する取引を検索するビジネスユニットを入力してください。
契約 No.	当初伝票を識別する番号。得意先への請求書や仕入先からの請求書、受注オーダー、仮受金、仕訳など伝票にはさまざまな種類があります。
契約タイプ	伝票タイプを識別するユーザー定義コード(00/DT)。また、このコードは取引(トランザクション)のタイプも示します。伝票、請求書、領収書、およびタイム・カード用に伝票タイプ・コードを予約しており、これらのタイプ・コードにより転記プログラムの実行時に自動仕訳が作成されます。これらの仕訳は、当初入力の際には残高自動計算は行われません。事前定義されている次の伝票タイプは、変更しないでください。
	<ul style="list-style-type: none"> P 買掛金伝票 R 売掛金伝票 T 給与計算伝票 I 在庫伝票 O 購買伝票 J 一般会計/共有請求伝票 S 受注伝票
従業員 No.	住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。

作業タイプ	組織内の職務を定義するユーザー定義コード(07/G)。給与と福利厚生情報を職務タイプと関連付け、情報をその職務タイプと連結する従業員に適用できます。
職階	特定の職務タイプ内での特定の水準を指定するユーザー定義コード(07/GS)。このコードは、賃金テーブルにある職務別賃率を決定するために職務タイプと共に使用されます。
使用設備	従業員が職務を実行していた設備の ID 番号。特定の設備に関連付けられたトランザクションを検索するための設備番号を入力してください。このフィールドのデフォルト値として取引明細(F0911)または時間入力履歴(F0618)の値が使用されます。
作業対象設備	従業員が保有し、補修をしたものの、使用したことはない備品に対する ID 番号。例えば、ある従業員は、社のダンプカーのエンジンオイル交換だけをする場合があります。こうした場合、労務費を直接この備品に充てるのにこのフィールドを使ってください。
請求制御 ID	得意先情報の請求に対する詳細トランザクションを識別する固有の番号。自動採番機能(システム 48、インデックス 2)によって番号が割り当てられ、請求処理を使ってトランザクションをトラッキングするために監査証跡が作成されます。原料レコードは、請求トランザクションと同じ請求制御 ID を持っています。 --- フォーム固有 --- 表示する請求トランザクションの請求制御 ID を入力してください。
取引分類	請求取引を分類するコード。有効なコードは次のとおりです。 ブランク 活動中の請求明細ワークテーブル(F4812)へのアドホック入力 A 契約収益-非 T&M レコード C サービス契約 (カスタマー・サービス管理システム) D サービス・オーダー(カスタマー・サービス管理システム) E 保証請求(カスタマー・サービス管理システム) F コール(カスタマー・サービス管理システム) 1 労務入力 2 間接非入力 3 設備入力 4 J.D. Edwards により予約されています 5 購買/買掛管理入力 6 仕訳入力 7 手入力 8 システム生成の制御レコード 9 J.D. Edwards により予約されています
適格性コード	単一取引レベルでの取引の処理方法を指定するコード。有効な値は次のとおりです。 0 = 請求および収益に使用可能 1 = 請求にのみ使用可能 2 = 収益にのみ使用可能 3 = 請求不可 4 = 原価にのみ使用可能 5 = 買掛金にのみ使用可能 勘定科目マスター(F0901)の[請求可能(Y/N)]フィールドとシステム固定情報で設定した[仕訳生成制御]フィールドの値に基づいて、ワークテーブル取引に適格性コードが割り当てられます。たとえば、[請求可能(Y/N)]フィールドが Y の勘定科目を使ったレコードが請求システムで処理され、[仕訳生成制御]フィールドが請求のみに設定されている場合、この取引の適格性コードは 1 になります。これは、取引が請求のみに使用できることを意味します。
課税対象	その品目自体が売上税の対象となるかどうかを示すコード

契約 No. 当初伝票を識別する番号。得意先への請求書や仕入先からの請求書、受注オーダー、仮受金、仕訳など伝票にはさまざまな種類があります。

請求通貨 請求通貨コード。顧客の通貨コードが使用されます。

ワークテーブル取引の改訂の検討

ワークテーブル取引の処理中に作成する改訂取引について、前回の取引のコピーが自動的に保存されます。この監査証跡を検討して、すべての変更内容を確認できます。ワークテーブル取引の改訂履歴が、最近の改訂に始まり当初のワークテーブル取引まで表示されます。

▶ ワークテーブル取引の改訂を検討するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、見出域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてワークテーブル取引を検索します。
2. グリッドの取引をハイライトして[ロー]メニューから[取引照会]を選択します。

PeopleSoft. ワークテーブル履歴の照会

選択 検索 閉じる ロー ツール

請求制御ID: 15398 請求書No.: 128
元帳日付: 05/06/15 請求書タイプ: T2

グリッドのカスタマイズ									
	C	親順序 No.	順序 No.	2次順序 No.	調整理由	請求書金額	外貨請求書金額	更新日付	ユーザーID
			1	1	No Adjustment	658.26	1,019.49	02/04/25	GA5763200

3. 〈ワークテーブル履歴の照会〉で、取引の改訂履歴を検討します。

取引合計の検討

取引の合計金額を検討できます。次の処理ができるよう、取引合計を検討します。

- 請求書および費用合計に関する予測を立てる
- ワークテーブルに保存された請求書情報、および顧客用に印刷する請求書情報が正確かどうかをチェックする。

取引合計に不一致があった場合、請求処理を続ける前に必要な改訂を入れる必要があります。

▶ 取引合計を検討するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、見出域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてワークテーブル取引を検索します。

注:

合計を正確に印刷するには、QBE を使用してワークテーブル取引を検索しないようにしてください。

2. [フォーム]メニューから[合計]を選択してレポートを投入します。
3. 〈レポート出力先〉で、適切なオプションを選んで[OK]をクリックします。
4. レポートの次の国内通貨および外貨の金額を検討します。
 - 収益
 - 請求書
 - 費用適格性コードの設定に基づいて金額が印刷されます。

間接費の取引の検討

間接労務費とは、雇用の結果発生する費用を定義します。間接労務費には、次のいずれかが含まれます。

- 会社負担の給与税
- 保険
- 年金などの追加給付
- 工具などの労務関連の直接原価

請求固定情報を使用して、ワークテーブルの間接費取引を処理するかどうかを制御します。給与計算の仕訳を作成する際に間接費取引が計算されます。

間接労務費取引にワークテーブル取引が関連付けられている場合、〈ワークテーブルの処理〉フォームの[B]カラム(間接労務費)に X が表示されます。

▶ 間接費取引を検討するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、見出域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてワークテーブル取引を検索します。
2. 次のフィールドを検討して間接労務費を持つ取引を識別します。

- 間接費

このフィールドに X があると、間接労務費が取引に関連付けられていることを示します。

3. 間接労務費を持つグリッドの取引をハイライトして[ロー]メニューから[間接労務費情報]を選択します。

<input type="checkbox"/>	追加 料金	連格性 コード	PDBA コード	税 タイプ	備考	基本 通貨	原価 金額	原価 (含追加)	請求書 金額	請求書 (含追加)
<input checked="" type="checkbox"/>		0		E	FICA Paid	USD	77.50	77.50	92.52	
<input type="checkbox"/>		0		H	SUI Paid	USD	9.16	9.16	10.93	
<input type="checkbox"/>		0		Q	Medicare Paid	USD	18.13	18.13	21.64	
<input type="checkbox"/>		0		Z	Medicare Paid	USD				
<input type="checkbox"/>		0	1005		HealthCo	USD	45.00	45.00	53.72	
<input type="checkbox"/>		0	7705		DentalCo	USD	8.64	8.64	10.32	

4. 〈間接費情報〉で、次のフィールドのデータを検証します。

- 従業員 No.
- トランザクション No.
- PDBA コード

- 税タイプ
(税タイプ)
- 備考

参照

- 『Time Accounting(時間会計)』ガイドの「Entering Timecards for Employees(従業員のタイムカードの入力)」

フィールド記述

記述	用語解説
間接費	ワークファイル取引に対して間接費が存在するかどうかを示すフラグ。有効な値は次のとおりです。 ブランク 間接費なし X 間接費あり
従業員 No.	住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。
トランザクション No.	給与計算取引に対して割り当てられる固有の番号。このフィールドは、実際間接費の記録処理で作成された実際間接費の監査レコードと給与計算取引を関連付けるために使用されます。
PDBA コード	支払、控除、給付、または見越しのタイプを定義するコード。支払タイプには 1 から 999、控除と給付には 1000 から 9999 までの番号が付いています。
税タイプ	このワークテーブル取引に関連付けられている給与税のタイプを示すユーザー定義コード(07/TT)
備考	備考、名称、摘要(仕訳の場合)を示すフィールド。

追加料金取引の検討

追加料金とは、割増しの 1 種です。追加料金は、ソース取引の金額を基に計算されます。たとえば、借入金利息の請求分を追加料金として作成できます。

追加料金は、ワークテーブル取引に対する割増金額としてだけでなく、請求書金額に基づいて利息金を請求する際にも使用できます。複合追加料金を使用して既存追加料金に基いて割増金額を適用します。

ワークテーブル取引に追加料金仕訳が関連付けられている場合、〈ワークテーブルの処理〉フォームの [C] カラム (追加料金) に X が表示されます。

▶ 追加料金取引を検討するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、見出し域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてワークテーブル取引を検索します。

2. 次のフィールドにより追加料金を持つ取引を識別します。

- 追加料金

このフィールドに X があると、追加料金が取引に関連付けられていることを示します。

3. 追加料金のあるグリッドの取引をハイライトして[ロー]メニューから[追加料金照会]を選択します。

PeopleSoft
追加料金取引照会

キャンセル ツール

■ 外貨 ベース原価 1,250.00

追加料金連結 3032 ベース数量 40.00

原価テーブル LABOR ベース課税請求額 2,800.00

請求書テーブル LABOR ベース請求額合計 2,800.00

グリッドのカスタマイズ

追加料金コード	備考	基本通貨	原価金額	請求書金額	請求通貨	外貨原価金額	外貨請求書
<input checked="" type="radio"/> COM	Cost of Money	USD	25.00	56.00	USD		
<input type="radio"/> FRG	Fringe	USD	550.00	1,232.00	USD		
<input type="radio"/> OVH	Overhead	USD	1,440.00	3,225.60	USD		

金額

4. 〈追加料金取引照会〉で、次のフィールドの情報を検証します。

- 追加料金連結
- 原価テーブル
- 請求書テーブル
- ベース原価

- ベース数量
- ベース課税請求額
- 追加料金コード
- 原価金額
- 請求書金額

フィールド記述

記述	用語解説
追加料金	ワークファイル取引に対して追加料金が存在するかどうかを示すフラグ。有効な値は次のとおりです。 ブランク 追加料金なし X 追加料金あり
追加料金連結	追加料金レコードを基本作業ファイル・レコードと結び付けるコードです。
原価テーブル	請求料金／割増料金テーブルへの入力(WORLD では原価プラス割増料金テーブルへの入力)に使用する追加料金テーブルを識別するコード。追加料金テーブルにより、追加料金とその計算規則が識別されます。これらの追加料金は、間接費として当初原価に組み込まれます。追加料金テーブルは〈追加料金テーブルの定義〉フォームで設定します。
請求書テーブル	この請求料金／割増テーブルの入力に使用する追加料金テーブルを指定するコード。追加料金テーブルにより、追加料金とその計算規則が識別されます。この追加料金は請求書の割増し分に追加されて請求されます。追加料金テーブルは〈追加料金テーブル〉プログラム(P4860)で設定します。
ベース原価	関連する勘定科目番号の勘定残高に追加される金額を示す数字。貸方の金額は金額の前か後にマイナスの符号をつけて入力します。
ベース数量	計量単位により識別される物の数量。たとえば、バレル、箱、立方ヤード、ガロン、時間など。
ベース課税請求額	請求金額のうちで課税対象になる部分。
追加料金コード	追加料金コードは、請求明細取引レベルで勘定される仮の間接労務費を識別します。
原価金額	関連する勘定科目番号の勘定残高に追加される金額を示す数字。貸方の金額は金額の前か後にマイナスの符号をつけて入力します。
請求書金額	請求明細取引の請求金額。

ワークテーブル合計レポートの検討

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブル合計レポート〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブル合計レポート〉を選択します。

〈ワークテーブル合計レポート〉プログラム(R48TW)を使用して、国内外のワークテーブル取引の収益、請求書、費用合計を印刷します。レポートには、基準額の合計や追加料金を含む合計額が一覧表示されます。

次のいずれかの方法で〈ワークテーブル合計レポート〉を実行できます。

- メニューから〈ワークテーブル合計レポート〉を選択して、バッチ・プログラムとして実行する。
- 〈ワークテーブルの処理〉フォームで、[フォーム]メニューから[合計]を選択します。
- 〈明細履歴の処理〉フォームで、[フォーム]メニューから[合計レポート]を選択します。

〈ワークテーブル合計レポート〉には、請求明細ワークテーブル(F4812)から情報が取り込まれます。

ワークテーブル取引例外レポートの検討

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブル取引例外レポート〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブル取引例外レポート〉を選択します。

〈ワークテーブル取引例外レポート〉プログラム(R48S412)では、実行中のレポート・バージョンのデータ選択基準を満たすワークテーブル取引のすべてが一覧表示されます。このレポートを使用して、保留取引、割増情報のない取引、または顧客情報のない取引など請求処理を進める前に検討するワークテーブル取引を識別できます。このレポートには、取引ごとの次の情報が一覧表示されます。

- 顧客番号
- 顧客名
- 勘定科目 No.
- 補助元帳
- 補助元帳タイプ
- 適格性コード
- 原価金額
- 請求書金額
- 収益金額
- 保留コード
- リリース日付
- 請求 ID

〈ワークテーブル取引例外レポート〉の情報は、請求明細ワークテーブル(F4812)から情報が取り込まれます。

ワークテーブル取引の検討

請求明細ワークテーブル(F4812)の取引は、請求処理の基準となります。処理を続ける前に、必要な追加や変更をワークテーブル取引に加えてください。ワークテーブル取引に加えた変更は、サービス請求ワークテーブルのデータにのみ影響します。変更は取引明細(F0911)のソース取引には影響しません。

注: サービス請求の場合

ワークテーブルのサービス管理の取引は、変更または削除できません。サービス管理の取引の処理は売掛管理システムで、調整はサービス管理で行なうようにしてください。

ワークテーブルのレコードには次のような変更が行えます。

- 請求書に印刷するテキストを追加する。
- ワークテーブルから省略された元帳取引を、〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)を再度実行せずに追加する。
- 勘定科目コードや作業オーダー番号などを修正する。
- 取引をまず取引明細テーブル(F0911)に入力せずに直接ワークテーブルに追加する。たとえば、買掛管理システムで処理していない経費精算書の取引を追加できます。
- アクティブなワークテーブルから請求ワークテーブル履歴(F4812H)にワークテーブル取引を移す。こうすると、取引は請求書に含まれません。

変更したワークテーブル取引は、テーブル F4812 に保存されます。変更前の取引は、履歴テーブル F4812H に保存されます。

既存の取引明細レコードのワークテーブルへの追加

〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)を実行しなくても、取引明細(F0911)からの取引を請求明細ワークテーブル(F4812)に追加できます。たとえば、ワークテーブル生成プログラムに含めなかった会計取引を処理できます。また、〈ワークテーブルの生成〉プログラムを実行した後に取引明細に追加した会計取引を処理することも可能です。

ワークテーブルに取引を追加する際は、ワークテーブル生成プログラムが選択した取引についてのみ実行されます。取引明細テーブルが更新されて、取引が処理済みになります。請求対象の取引が給与計算システムで入力された場合、従業員トランザクション履歴(F0618)か従業員トランザクション詳細(F06116)が更新されます。また、請求テーブルから読み込まれた割増し、税、サービス請求の元帳クラスの情報も適用されます。

▶ 既存の取引明細レコードをワークテーブルに追加するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、見出域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてワークテーブル取引を検索します。
2. [フォーム]メニューから[元帳取引選択]を選択します。

勘定科目No.	元帳日付	摘要	金額	通貨コード	伝票No.	伝票タイプ	補助元帳	補助タイプ	補助元帳名
<input type="checkbox"/> 6100.1341	05/04/30	Payroll Labor Distribution	54.00	USD		11	T2		
<input type="checkbox"/> 6100.1341	05/06/25	Payroll Labor Distribution	4,073.67	USD		98	T2	00065023	W
<input type="checkbox"/> 6100.1341	05/07/09	Payroll Labor Distribution	3,971.40	USD		92	T2	00065042	W
<input type="checkbox"/> 6100.1342	05/07/09	Payroll Labor Distribution	196.88	USD		92	T2	00065042	W
<input type="checkbox"/> 6100.8115	05/06/30	Payroll Labor Distribution	514.00	USD		5	T2	00065023	W
<input type="checkbox"/> 6100.8115	05/06/30	Payroll Labor Distribution	173.08	USD		5	T2	00065040	W
<input type="checkbox"/> 6100.8116	05/04/30	Payroll Labor Distribution	301.88	USD		7	T2	00065017	W
<input type="checkbox"/> 6100.8116	05/06/30	Payroll Labor Distribution	153.75	USD		5	T2	00065023	W
<input type="checkbox"/> 6100.8116	05/06/30	Payroll Labor Distribution	97.36	USD		5	T2	00065040	W
<input type="checkbox"/> 6100.8455	05/05/31	Digger Incorporated	300.00	USD		3106	PV	00065017	W

3. 〈会計取引の選択〉で、必要に応じて次のフィールドに値を入力して取引を絞り込みます。

- 勘定科目 No.
- 開始元帳日付
- 終了元帳日付
- 補助元帳/タイプ

〈ワークテーブルの処理〉フォームでデータを入力した場合、これらのフィールドには自動的にデータが読み込まれます。

4. 給与計算設備レコードで使用する所属ビジネスユニットを指定するには、資産マスター(デフォルト)オプションまたは給与計算オプションを選びます。
5. ワークテーブルに追加する取引を選び、[ロー]メニューから[ワークテーブル取引の選択]を選択します。
6. [閉じる]をクリックして〈ワークテーブルの処理〉に戻ります。
7. 見出域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてワークテーブル取引を検索します。

フィールド記述

記述	用語解説
勘定科目 No.	会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。
開始元帳日付	取引を転記する会計期間を決定する日付。会社を設定した期間パターンで会計期間を定義してください。取引入力時に入力したこの元帳日付は、会社を設定された期間パターンと比較して正しい期間が取り込まれます。同時に日付の検証も行われます。
終了元帳日付	取引を転記する会計期間を決定する日付。会社を設定した期間パターンで会計期間を定義してください。取引入力時に入力したこの元帳日付は、会社を設定された期間パターンと比較して正しい期間が取り込まれます。同時に日付の検証も行われます。
補助元帳/タイプ	総勘定元帳の勘定科目をさらに細かく分類して取引を記録するための補助区分コード。たとえば住所番号を入力して、従業員別に経費を把握することができます。このフィールドを入力する場合、補助元帳タイプも指定する必要があります。

ワークテーブル取引の割増しの変更

ワークテーブル取引の割増しは、間接費および利益の勘定科目についての費用増加分です。割増規則は請求料金/割増テーブル(F48096)で定義します。〈ワークテーブルの生成〉プログラムを実行すると、割増規則を使用して割増しがワークテーブル取引に適用されます。割増情報はワークテーブルの生成後にも変更できます。

請求料金/割増テーブルを変更したら、改訂した割増情報をワークテーブル取引に適用するか、最初に請求料金/割増テーブルで定義した割増規則を再度適用できます。

〈ワークテーブルの改訂〉プログラム(P4812)を使用して割増しを変更することに加え、[取引]を選んで変更する[割増しオプションの再適用]および[調整理由]フィールドも変更できます。〈ワークテーブルの処理〉フォームで特定の取引に対して、[ロー]メニューから[再計算オプション]を選択します。

▶ ワークテーブル取引の割増しを変更するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、見出域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてワークテーブル取引を検索します。
2. ワークテーブル取引を選んで[選択]をクリックします。

PeopleSoft

作業/金額の改訂

OK キャンセル フォーム ツール

元帳日付 05/04/30 計算プレビュー

適格性コード 再計算オプション

外貨 再計算調整理由

請求書金額 取益額 作業/額表 契約 補定 通貨

原価情報		請求書金額	
数量/単位	10.00 HIR	課税金額	859.38
単価	31.2500	税額	32.66
原価	312.50	請求書合計	892.04

割増し情報		税金割引情報	
請求書の一時変更し	<input type="checkbox"/>	税(Y/N)	Y
請求書割増し%	175.000	税額/税目	CO S
割増し金額		割引%/金額	

3. <作業/金額の改訂>で、ワークテーブル取引の割増しおよび税情報のソースを検討するには、[フォーム]メニューから[テーブル情報]を選択します。

PeopleSoft

テーブル情報

キャンセル フォーム ツール

テーブル比較基準日 05/04/30 キータイプ記述 テーブル・キー値 通貨コード

割増しテーブル				
請求割増しテーブル	5	Customer	150	USD
取益割増しテーブル	6	Job or Business Unit	6100	USD
追加料金割増しテーブル				

元帳クラスおよび税決定基準テーブル				
元帳クラス・テーブル	1	Work Order	00065010	
税決定基準テーブル	2	Work Order Class	PER	

4. <テーブル情報>で、データを検討して[キャンセル]をクリックし、<作業/金額の改訂>フォームに戻ります。

5. 〈作業/金額の改訂〉で、請求金額の割増しを変更するには[請求書金額]タブをクリックし、必要に応じて次のフィールドに値を入力します。
 - 請求書の一時変更レート/上限
 - 請求書割増し%
 - 割増し金額
6. 収益の割増しを変更するには[収益額]タブをクリックし、必要に応じて次のフィールドに値を入力します。
 - 収益の一時変更レート/上限
 - 請求書割増し%
 - 割増し金額
7. [計算プレビュー]をクリックします。
割増しが計算されて変更が表示されます。
8. 次のフィールドに値を入力します。
 - 再計算オプション
 - 再計算調整理由
9. [OK]をクリックします。

注意:

〈作業/金額の改訂〉で割増情報を変更して、[OK]をクリックする前に[再計算オプション]フィールドに3を入力しなかった場合、請求料金/割増テーブル(F48096)からデフォルトの割増情報が読み込まれます。これを防ぐには、[再計算オプション]フィールドに“3”を入力します。

フィールド記述

記述

用語解説

請求書の一時変更レート/ 上限

製図工、技師、コンサルタントの手数料など、専門的なサービスの請求に反映させる請求書額の割増率。この割増率は、従業員の給与には影響しません。割増し率は、一時変更レートまたは最大レートとして使用できます。請求割増合計に対する一時変更レートの計算は次のとおりです。

$$(\text{一時変更レート} \times \text{数量}) \times (1 + \text{割増率}) + \text{割増金額}$$

最大率または上限率を指定した場合、一時変更レートと原価取引のレートが比較されます。両レートのうち低い方のレートが一時変更レートとして使用されます。最大/上限単位レートは、〈請求料金/割増テーブル〉プログラム(P48096)で設定します。サービス請求/契約請求システムでは、収益金額と請求書金額とを異なるレートで割り増すことができます。この機能は請求システム固定情報テーブル(F48091)の[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションにより制御されます。請求割増率を指定するには生成タイプ1、収益割増率を指定するには生成タイプ2を使用します。

請求固定情報で請求書と収益の金額が異なるように設定されている時のみ請求/収益割増率を指定する場合は、生成タイプ1を使用してください。

請求書割増し%

製図工、技師、コンサルタントの手数料など、専門的なサービスの請求に反映させる収益金額の割増計算に使用するパーセントを指定する数値。パーセントは数字の部分だけをそのまま入力します。たとえば50.275%は"50.275"と入力します。この割増し率は、従業員の給与計算には影響しません。割増し率は〈請求料金/割増しテーブルの改訂〉フォームで設定します。収益の割増料金テーブルを指定するには、生成タイプを1に指定します。

サービス請求/契約請求システムでは、収益金額と請求書金額とを異なるレートで割り増すことができます。この機能はシステム固定情報の[収益/請求の金額が異なることを許可する]オプションにより制御されます。収益/請求割増金額のテーブルを指定するには、〈請求料金/割増しの改訂〉フォームの生成タイプを2に指定します。

割増し金額

製図工、技師、コンサルタントの手数料など、専門的なサービスの請求に反映させる請求書額の割増計算に使用する金額。この金額は、従業員の給与には影響しません。この金額は〈請求料金/割増テーブル〉プログラム(P48096)で定義します。請求割増金額のテーブルを指定するには、生成タイプを1に指定します。サービス請求/契約請求システムでは、収益金額と請求書金額とを異なる料手で割り増すことができます。この機能は請求システム固定情報テーブル(F48091)の[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションにより制御されます。収益/請求割増金額のテーブルを指定するには、生成タイプを2に指定します。

収益の一時変更レート/ 上限

製図工、技師、コンサルタントの手数料など、専門的なサービスの請求に反映させる収益金額の割増率。この割増率は、従業員の給与には影響しません。割増し率は、一時変更レートまたは最大レートとして使用できます。収益割増合計に対する一時変更レートの計算は次のとおりです。

$$(\text{一時変更レート} \times \text{数量}) \times (1 + \text{割増率}) + \text{割増金額}$$

最大率または上限率を指定した場合、一時変更レートと原価取引のレートが比較されます。両レートのうち低い方のレートが一時変更レートとして使用されます。最大/上限単位レートは、〈請求料金/割増テーブル〉プログラム(P48096)で設定します。サービス請求/契約請求システムでは、収益金額と請求書金額とを異なるレートで割り増すことができます。この機能は請求システム固定情報テーブル(F48091)の[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションにより制御されます。収益割増率を指定するには生成タイプ2、請求割増率を指定するには生成タイプ1を使用します。

請求固定情報で請求書と収益の金額が異なるように設定されている時のみ請求/収益割増率を指定する場合は、生成タイプ1を使用してください。

請求書割増し%

製図工、技師、コンサルタントの手数料など、専門的なサービスの請求に反映させる収益金額の割増計算に使用するパーセントを指定する数値。パーセントは数字の部分だけをそのまま入力します。たとえば 50.275%は“50.275”と入力します。この割増し率は、従業員の給与計算には影響しません。割増し率は〈請求料金/割増しテーブルの改訂〉フォームで設定します。収益の割増料金テーブルを指定するには、生成タイプを 1 に指定します。

サービス請求/契約請求システムでは、収益金額と請求書金額とを異なるレートで割り増すことができます。この機能はシステム固定情報の[収益/請求の金額が異なることを許可する]オプションにより制御されます。収益/請求割増金額のテーブルを指定するには、〈請求料金/割増しの改訂〉フォームの生成タイプを 2 に指定します。

割増し金額

収益金額の割増計算に使用する金額で、製図、エンジニアまたはコンサルタント料などの専門技能サービスの請求に反映されます。この金額は従業員の給与には反映されません。生成タイプ 1 を使用することにより、この金額は原価割増しテーブルで収益/請求書の割増金額として設定されます。生成タイプ 1 を使用することにより、この金額は原価割増しテーブルで収益/請求書の割増し金額として設定されます。

サービス請求/契約請求では、原価割増しテーブルで生成タイプ 2 を使用することにより、請求書金額と異なるレートで収益額を割り増すことができます。この機能は、固定情報の[収益/請求の不一致許可]フラグによって制御されます。

再計算オプション

取引の再適用方法を指定するコード。指定した一時変更や割増しテーブルで定義した情報を使用して変更や再計算を行う場合に、取引の再適用を実行します。有効な値は次のとおりです。

1 = 請求料金/割増しテーブル(F48096)の請求割増し率を再適用する。収益金額は変わりません。

2 = 請求料金/割増しテーブル(F48096)の収益割増し率を再適用する。請求金額は変わりません。

3 = 〈金額/数量情報〉ウィンドウまたは〈請求料金/割増しの改訂〉フォームで入力されたレートまたは金額を使用する。請求料金/割増しテーブル(F48096)の収益割増し金額は適用しないでください。

ブランク = 請求料金/割増しテーブル(F48096)を使用して請求書割増し率と収益割増し率を再適用する。

注:システム固定情報の[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションで、請求書金額と収益金額が同じになるように指定されている場合は、コードの 1 と 2 は使用できません。

調整理由

請求ワークファイル(F4812)で単一またはグループの請求明細取引の改訂理由を指定するのに使用するユーザー定義コード(48/AR)。監査目的で請求明細取引の実績を更新するのに、この理由が使用されます。

アドホック・ワークテーブル取引の入力

会計処理のサイクルの中で原価情報を入力しない場合、〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)を実行してもその取引は使用できません。会計処理中に処理されない原価については、必要に応じてワークテーブルに取引を手作業で追加できます。ワークテーブルに手入力する取引を、「アドホック取引」と呼びます。

たとえば、会計部門で毎月 15 日に経費精算書を処理するとします。監督者の経費に毎月 5 日までにワークテーブルに含まなければならない請求費用があります。この場合、費用をアドホック取引としてワークテーブルに入力します。取引明細テーブル(F0911)になく、通常の会計処理サイクルに依存しない費用の情報がアドホック取引として作成されます。アドホック取引をワークテーブルに入力したら、費用への割増しや備考の入力をして請求処理を完了することができます。

アドホック取引をワークテーブルに入力する際には、次の条件があります。

- 取引の作成理由は入力できません。
- 取引の裏付けとなるソース伝票はありません。
- 取引明細とワークテーブルの費用の詳細情報に不一致があります。

注意:

アドホック取引を入力して、関連のソース取引を通常の会計および請求サイクルによって処理すると、ワークテーブルに重複した取引が作成されます。これを防ぐには、重複するワークテーブル取引の適格性コードを手作業により「非請求対象」に変更し、ワークテーブルから取引を除去する必要があります。

重複するワークテーブル取引を除去しないと、〈ワークテーブルの処理〉フォームでその取引が引き続き表示されます。適格性コードが請求対象に変更されると、誤って二重請求する恐れがあります。

▶ アドホック・ワークテーブル取引を入力するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈ワークテーブル入力〉で、次のフィールドに情報を入力します。
 - 元帳日付
 - 勘定科目コード
3. 次の任意フィールドに新規の取引に関する情報を入力します。
 - 補助元帳/タイプ
 - 適格性コード
 - 通貨コード
 - 再計算オプション
4. 次のフィールドに該当金額を入力します。
 - 数量
 - 原価金額
 - 割引 %

注:

サービス請求固定情報フォームの仕訳制御のオプション設定に応じて、請求書や収益のフィールドが表示されます。

5. 該当する場合は、次のフィールドに該当する請求金額を入力します。
 - 請求書一時変更レート/上限
 - 請求書割増し%
 - 調整後金額
 - 課税対象額
 - 請求額合計
6. 該当する場合は、次のフィールドに該当する収益金額を入力します。
 - 収益一時変更レート/上限
 - 収益割増し%
 - 収益割増し金額
 - 収益金額
7. 必要に応じて、アドホック・ワークテーブル取引に関する詳細情報を次のフィールドに入力します。
 - 所属ビジネスユニット
 - 職務タイプ
 - 従業員/仕入先
 - 職階
 - 説明
 - 備考
8. [OK]をクリックします。

参照

- 取引状況の請求不可への変更については、『サービス請求』ガイドの「ワークテーブル取引のワークテーブル履歴テーブルへの移動」
- <サービス請求固定情報>フォームの仕訳の作成制御の設定については、『サービス請求』ガイドの「請求固定情報の設定」

フィールド記述

記述	用語解説
元帳日付	取引を転記する会計期間を識別する日付。会社の会計年度と現行期間に基づいて日付チェックが行われ、PBCO(過去期間)、PYEB(前年度以前)、PACO(未来期間)、WACO(次年度以降)などの警告/エラーが表示されます。
勘定科目コード	総勘定元帳の勘定科目を識別する値。勘定科目コードの入力に次のいずれかのフォーマットを使用できます。 <ul style="list-style-type: none">標準勘定科目コード(ビジネスユニット、主科目、補助科目または自由形式)。第3総勘定元帳番号(最大25桁)。勘定科目ID8桁のID。スピードコード(AAI項目SPにつける2文字のコード)。勘定科目の代わりにこのコードを入力できます。 1桁目に入力する識別記号により、使用する勘定科目コードの形式を指定します。この識別記号は、一般会計固定情報プログラムで定義します。
補助元帳/タイプ	総勘定元帳の勘定科目をさらに細かく分類して取引を記録するための補助区分コード。たとえば住所番号を入力して、従業員別に経費を把握することができます。このフィールドに入力する場合、補助元帳タイプも指定する必要があります。
適格性コード	単一取引レベルでの取引の処理方法を指定するコード。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">0 = 請求および収益に使用可能1 = 請求にのみ使用可能2 = 収益にのみ使用可能3 = 請求不可4 = 原価にのみ使用可能5 = 買掛金にのみ使用可能 勘定科目マスター(F0901)の[請求可能(Y/N)]フィールドとシステム固定情報で設定した[仕訳生成制御]フィールドの値に基づいて、ワークテーブル取引に適格性コードが割り当てられます。たとえば、[請求可能(Y/N)]フィールドがYの勘定科目を使ったレコードが請求システムで処理され、[仕訳生成制御]フィールドが請求のみに設定されている場合、この取引の適格性コードは1になります。これは、取引が請求のみに使用できることを意味します。
通貨コード	基本通貨コード。ビジネスユニットが属する会社の通貨コードが使用されます。
再計算オプション	取引の再適用方法を指定するコード。指定した一時変更や割増しテーブルで定義した情報を使用して変更や再計算を行う場合に、取引の再適用を実行します。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none">1 = 請求料金/割増しテーブル(F48096)の請求割増し率を再適用する。収益金額は変わりません。2 = 請求料金/割増しテーブル(F48096)の収益割増し率を再適用する。請求金額は変わりません。3 = <金額/数量情報>ウィンドウまたは<請求料金/割増しの改訂>フォームで入力されたレートまたは金額を使用する。請求料金/割増しテーブル(F48096)の収益割増し金額は適用しないでください。 blank = 請求料金/割増しテーブル(F48096)を使用して請求書割増し率と収益割増し率を再適用する。 注:システム固定情報の[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションで、請求書金額と収益金額が同じになるように指定されている場合は、コードの1と2は使用できません。

数量	計量単位により識別される物の数量。たとえば、バレル、箱、立方ヤード、ガロン、時間など。
原価金額	関連する勘定科目番号の勘定残高に追加される金額を示す数字。貸方の金額は金額の前か後にマイナスの符号をつけて入力します。
割引 %	割引期日前の入金に対する請求書総額から割り引く割引率。2%割引の場合は、“.02”というように小数点以下で入力します。
請求書一時変更レート/上限	<p>製図工、技師、コンサルタントの手数料など、専門的なサービスの請求に反映させる請求書額の割増率。この割増率は、従業員の給与には影響しません。割増し率は、一時変更レートまたは最大レートとして使用できます。請求割増合計に対する一時変更レートの計算は次のとおりです。</p> $(\text{一時変更レート} \times \text{数量}) \times (1 + \text{割増率}) + \text{割増金額}$ <p>最大率または上限率を指定した場合、一時変更レートと原価取引のレートが比較されます。両レートのうち低い方のレートが一時変更レートとして使用されます。最大/上限単位レートは、〈請求料金/割増テーブル〉プログラム (P48096) で設定します。</p> <p>サービス請求/契約請求システムでは、収益金額と請求書金額とを異なるレートで割り増すことができます。この機能は請求システム固定情報テーブル (F48091) の [請求書/収益の金額が異なることを許可する] オプションにより制御されます。請求割増率を指定するには生成タイプ 1、収益割増率を指定するには生成タイプ 2 を使用します。</p> <p>請求固定情報で請求書と収益の金額が異なるように設定されている時のみ請求/収益割増率を指定する場合は、生成タイプ 1 を使用してください。</p>
請求書割増し%	<p>製図工、技師、コンサルタントの手数料など、専門的なサービスの請求に反映させる収益金額の割増計算に使用するパーセントを指定する数値。パーセントは数字の部分だけをそのまま入力します。たとえば 50.275% は “50.275” と入力します。この割増し率は、従業員の給与計算には影響しません。割増し率は〈請求料金/割増しテーブルの改訂〉フォームで設定します。収益の割増料金テーブルを指定するには、生成タイプを 1 に指定します。</p> <p>サービス請求/契約請求システムでは、収益金額と請求書金額とを異なるレートで割り増すことができます。この機能はシステム固定情報の [収益/請求の金額が異なることを許可する] オプションにより制御されます。収益/請求割増金額のテーブルを指定するには、〈請求料金/割増しの改訂〉フォームの生成タイプを 2 に指定します。</p>
調整後金額	<p>製図工、技師、コンサルタントの手数料など、専門的なサービスの請求に反映させる請求書額の割増計算に使用する金額。この金額は、従業員の給与には影響しません。この金額は〈請求料金/割増テーブル〉プログラム (P48096) で定義します。請求割増金額のテーブルを指定するには、生成タイプを 1 に指定します。</p> <p>サービス請求/契約請求システムでは、収益金額と請求書金額とを異なる料金で割り増すことができます。この機能は請求システム固定情報テーブル (F48091) の [請求書/収益の金額が異なることを許可する] オプションにより制御されます。収益/請求割増金額のテーブルを指定するには、生成タイプを 2 に指定します。</p>
課税対象額	請求金額のうちで課税対象になる部分。
請求額合計	請求明細取引の請求金額。

収益一時変更レート/上限	<p>製図工、技師、コンサルタントの手数料など、専門的なサービスの請求に反映させる収益金額の割増率。この割増率は、従業員の給与には影響しません。割増し率は、一時変更レートまたは最大レートとして使用できます。収益割増合計に対する一時変更レートの計算は次のとおりです。 $(\text{一時変更レート} \times \text{数量}) \times (1 + \text{割増率}) + \text{割増金額}$ 最大率または上限率を指定した場合、一時変更レートと原価取引のレートが比較されます。両レートのうち低い方のレートが一時変更レートとして使用されます。最大/上限単位レートは、〈請求料金/割増テーブル〉プログラム(P48096)で設定します。 サービス請求/契約請求システムでは、収益金額と請求書金額とを異なるレートで割り増すことができます。この機能は請求システム固定情報テーブル(F48091)の[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションにより制御されます。収益割増率を指定するには生成タイプ 2、請求割増率を指定するには生成タイプ 1 を使用します。 請求固定情報で請求書と収益の金額が異なるように設定されている時のみ請求/収益割増率を指定する場合は、生成タイプ 1 を使用してください。</p>
収益割増し%	<p>収益用の割増し計算に使用する割増し率で、専門技能サービス(製図、エンジニアまたはコンサルタント料など)の請求額に反映されます。この割増し率は、従業員の給与計算には影響しません。この割増し率は、請求料金/割増しテーブル(WorldSoftware では原価割増しテーブル)で、生成タイプ 1(収益/請求書の割増しレート・テーブル)として設定します。入力するパーセント値は整数で入力してください。たとえば 50.275%は"50.275"と入力します。</p>
収益割増し金額	<p>収益金額の割増計算に使用する金額で、製図、エンジニアまたはコンサルタント料などの専門技能サービスの請求に反映されます。この金額は従業員の給与には反映されません。生成タイプ 1 を使用することにより、この金額は原価割増しテーブルで収益/請求書の割増金額として設定されます。生成タイプ 1 を使用することにより、この金額は原価割増しテーブルで収益/請求書の割増し金額として設定されます。 サービス請求/契約請求では、原価割増しテーブルで生成タイプ 2 を使用することにより、請求書金額と異なるレートで収益額を割り増すことができます。この機能は、固定情報の[収益/請求の不一致許可]フラグによって制御されます。</p>
収益金額	請求明細取引の収益額
所属ビジネスユニット	従業員が通常属するビジネスユニットの番号
職務タイプ	組織内の職務を定義するユーザー定義コード(07/G)。給与と福利厚生情報を職務タイプと関連付け、情報をその職務タイプと連結する従業員に適用できます。
従業員/仕入先	住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。
職階	特定の職務タイプ内での特定の水準を指定するユーザー定義コード(07/GS)。このコードは、賃金テーブルにある職務別賃率を決定するために職務タイプと共に使用されます。
説明	記述、備考、説明、名称、または住所。
備考	備考、名称、摘要(仕訳の場合)を示すフィールド。

保留状況の割当て

ワークテーブル取引を処理する準備ができていない場合、取引を保留にできます。取引を無期限に保留するか、リリース日付を指定することもできます。ワークテーブル取引を保留にすると、その取引は請求明細ワークテーブル(F4812)に残りますが、リリース日付が来るまでは処理されません。リリース日付はシステム日付と比較され、いつ通常の請求処理に取引を含めるかが決まります。リリース日付はワークテーブル取引の監査証跡の一部として保存されます。

▶ 保留状況を割り当てるには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、見出域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてワークテーブル取引を検索します。
2. ワークテーブル取引を選んで[選択]をクリックします。

3. 〈作業/金額の改訂〉の[補足]タブで、次のフィールドにリリース日付などの値を入力して[OK]をクリックします。
 - 保留コード/リリース日付

注:

関連の間接労務費取引や追加料金取引を持つワークテーブル取引に保留状況を割り当てると、関連するすべての取引に保留コードが割り当てられます。

フィールド記述

記述	用語解説
保留コード/リリース日付	<p>請求明細取引に適用する保留状況コードのタイプを識別するコード。有効なアルファベット値は、次のとおりです。</p> <p>ブランク 保留中でない。</p> <p>A 請求、収益計上、および費用振替について保留中。</p> <p>B 請求および収益計上について保留中。費用振替はできません。</p> <p>I 請求について保留中。収益計上および費用振替は可能です。</p> <p>R 収益計上について保留中。この値は、システム固定情報の仕訳生成制御フラグが、収益のみを処理するように設定されている場合にのみ使用できます。</p> <p>有効な数値コードは、次のとおりです。</p> <p>ブランク = 保留中でない</p> <p>1 = 請求、収益計上、および費用振替について保留中。</p> <p>2 = 請求および収益計上について保留中。費用振替は可能です。</p> <p>3 = 請求について保留中。収益計上および費用振替は可能です。</p> <p>4 = 収益計上について保留中。この値は、システム固定情報の仕訳生成制御フラグが、収益のみを処理するように設定されている場合にのみ使用できます。</p>

ワークテーブル取引の分割

ワークテーブルを生成した後で、ワークテーブル取引を2つに分割できます。取引は特定の通貨金額や単価、パーセント別に分割することができます。

取引を分割すると、取引の1つを請求処理に回し、もう一方を処理しない場合などに便利です。たとえば、従業員の超過勤務に対して通常の時給の2倍の金額を支払うとします。通常の時給でこの従業員の労働時間に対して給与を計算する場合、ワークテーブル取引を2等分に分割することができます。片方を請求対象として、もう1つを非請求対象とします。

分割の基準として、数量と金額のどちらを使用するかを選択できます。また、分割計算をする際に、金額またはパーセンテージのどちらかを指定することも可能です。

関連する間接費を含む給与計算取引、および間接費取引は分割できません。

ワークテーブルの取引を分割すると、次の処理が実行されます。

- 2つの新しい取引が表示されます。新しい取引の合計金額および合計数量は、分割前の値と同じです。
- 分割前のワークテーブル取引のコピーが、監査用に請求ワークテーブル履歴(F4812H)に移動されます。

- 関連するすべてのワークテーブル取引に順序番号が割り当てられます。請求制御 ID(BCI)は分割後のワークテーブル取引と同じです。このワークテーブル取引の内部制御情報の順序番号と請求制御 ID を検討することができます。
- 関連する追加料金のワークテーブル取引が分割されます。

保留コードを持つワークテーブル取引を分割すると、分割後の新しい取引にも同じ保留コードとリリース日付が割り当てられます。

参照

- 保留コードについては、『サービス請求』ガイドの「保留状況の割当て」
- 関連するワークテーブルの取引すべてに順序番号を割り当てる方法については、『サービス請求』ガイドの「順序番号の割当て」

▶ ワークテーブル取引を分割するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、見出し域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてワークテーブル取引を検索します。
2. 特定のワークテーブル取引について[ロー]メニューから[分割]を選択します。

3. 〈ワークテーブル分割基準〉で、次のいずれかのオプションをクリックします。

- 数量

- 原価金額
 - 請求書の課税額
 - 収益金額
4. 対応するオプションをクリックして、次のフィールドのいずれかに値を入力します。
- 分割%
 - 分割金額
5. [計算プレビュー/分割実行]をクリックして、分割計算の結果を検討します。
[キャンセル]をクリックして〈ワークテーブル分割基準〉に戻り、必要な分割結果が得られるまでこれを繰り返します。

PeopleSoft
ワークテーブル分割金額

OK キャンセル ツール

■ 外貨 USD

	分割レコード1	分割レコード2
数量/単価	10.00 62.5000	10.00 62.5000
原価	625.00	625.00
請求割増し料金		
請求割増し%/金額	10.0000	10.0000
課税請求額	687.50	687.50
請求税額	50.19	50.19
請求金額	737.69	737.69
割増%/金額	0.01000 6.88	0.01000 6.88
収益割増し料金		
収益割増し%/金額	10.0000	10.0000
収益金額	687.50	687.50

6. 〈ワークテーブル分割基準〉で、希望する結果が得られたら[OK]をクリックします。
ワークテーブル取引は、[OK]をクリックするまで実際に分割されません。

フィールド記述

記述	用語解説
分割%	WorldSoftware では、入力する値が金額またはパーセントのどちらかを示します。有効な値は次のとおりです。 0 = 金額 1 = パーセント OneWorld では、分割レコード 1 の金額またはパーセントを指定します。金額またはパーセントのどちらかを入力してください。
分割金額	WorldSoftware では、入力する値が金額またはパーセントのどちらかを示します。有効な値は次のとおりです。 0 = 金額 1 = パーセント OneWorld では、分割レコード 1 の金額またはパーセントを指定します。金額またはパーセントのどちらかを入力してください。

ワークテーブル取引の再計算

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈上級技術操作〉メニュー(G4831)から〈ワークテーブルの再計算〉を選択します。

〈上級技術操作〉メニュー(G5231)から〈ワークテーブルの再計算〉を選択します。

〈ワークテーブルの再計算〉プログラム(R481202)を使用して、改訂内容をワークテーブル取引に適用します。次のいずれかの方法で〈ワークテーブルの再計算〉プログラムを実行できます。

- 〈上級/技術的操作〉メニューからバッチ・プログラムを選択
- [取引]を選択〈ワークテーブルの処理〉フォームで、[ロー]メニューから[再計算]を選択
- 〈ワークテーブルの改訂〉プログラム(P4812)を使用してワークテーブル情報を改訂この場合は、自動的に〈ワークテーブルの再計算〉プログラムが実行されます。

処理オプション: ワークテーブルの再計算(R481202)

再計算タブ

請求書の金額と収益金額を再適用するかどうか、および調整理由コードを指定します。

1. 再計算する金額

1 = 請求書金額のみ

2 = 収益金額のみ

3 = どちらの金額も再計算しない

ブランク = 両方の金額を再計算する

指定した一時変更や割増しテーブルで定義した情報を使用して変更や再適用を行う場合に、取引の再計算を実行するためのオプション。有効な値は次のとおりです。

-
- 1 請求料金/割増しテーブル(F48096)の請求割増し率を再適用する。収益金額は変わりません。
 - 2 請求料金/割増しテーブル(F48096)の収益割増し率を再適用する。請求金額は変わりません。
 - 3 〈請求料金/割増しテーブルの改訂〉フォームで設定した割増し率/金額を使用する。請求料金/割増しテーブル(F48096)の請求/収益割増し率は適用しないでください。

ブランク 請求料金/割増しテーブル(F48096)を使用して、請求書割増し率と収益割増し率を再適用する。

注: システム固定情報の[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションで、請求書金額と収益金額が同じになるように指定されている場合は、オプションの 1 と 2 は使用できません。

2. 調整理由コード

サービス請求明細ワークテーブル(F4812)のレコードに割り当てる調整理由コードを指定します。有効な値は、UDC(48/AR)に定義されています。

印刷タブ

レポートを印刷するかどうかを指定します。

1. レポートの印刷

1 = 印刷しない
ブランク = 印刷する

結果を印刷するかどうかを選択します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = する
1 = しない

ワークテーブル取引のワークテーブル履歴テーブルへの移動

請求の必要がない取引は活動中の請求明細ワークテーブルから移動できます。ワークテーブルから取引を移動するには、取引の状況が非請求対象である必要があります。適格性コードを 3 に更新すると、ワークテーブル取引が非請求対象になります。

取引をワークテーブル履歴に移動すると、次の処理が実行されます。

- 監査用に取引を請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)にコピーする。
- 請求明細ワークテーブル(F4812)から取引を除去する。

請求ワークテーブル履歴(F4812H)に移動した取引は、〈ワークテーブルの改訂〉プログラム(P4812)には表示されません。請求ワークテーブル履歴(F4812H)に移動した取引を検討するには、〈ワークテーブル履歴の照会〉プログラム(P4812H)を使用します。〈ワークテーブル履歴の照会〉プログラム(P4812H)を使って、ワークテーブル取引を再度有効にすることもできます。

注:

当初の取引は取引明細(F0911)からは削除されません。

参照

- 履歴に移動したワークテーブル取引の再び有効にする方法については、『サービス請求』ガイドの「ワークテーブル履歴の処理」

▶ 取引をワークテーブル履歴に移動するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの改訂〉を選択します。

1. 〈ワークテーブルの処理〉で、見出域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてワークテーブル取引を検索します。
2. ワークテーブル取引を選んで[選択]をクリックします。
3. 〈作業/金額の改訂〉で、次のフィールドを 3(請求不可)にします。

- 適格性コード

4. 〈ワークテーブルの処理〉で、[検索]をクリックします。
5. ワークテーブル取引を選んで[削除]をクリックします。

この操作により、ワークテーブル取引は請求明細ワークテーブル(F4812)から請求ワークテーブル履歴(F4812H)に移動されます。

フィールド記述

記述	用語解説
適格性コード	単一取引レベルでの取引の処理方法を指定するコード。有効な値は次のとおりです。 0 = 請求および収益に使用可能 1 = 請求にのみ使用可能 2 = 収益にのみ使用可能 3 = 請求不可 4 = 原価にのみ使用可能 5 = 買掛金にのみ使用可能 勘定科目マスター(F0901)の[請求可能(Y/N)]フィールドとシステム固定情報で設定した[仕訳生成制御]フィールドの値に基づいて、ワークテーブル取引に適格性コードが割り当てられます。たとえば、[請求可能(Y/N)]フィールドが Y の勘定科目を使ったレコードが請求システムで処理され、[仕訳生成制御]フィールドが請求のみに設定されている場合、この取引の適格性コードは 1 になります。これは、取引が請求のみに使用できることを意味します。

ワークテーブル取引の印刷

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブルの印刷〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブルの印刷〉を選択します。

〈ワークテーブルの改訂〉プログラム(P4812)を使用してワークテーブル取引をオンラインで検討できます。選択した取引だけをレポートとして出力することもできます。このレポートは次のような目的で使用されます。

- 未請求取引すべてを一覧表示するレポートのような例外レポートを作成する。
- 取引明細テーブル(F0911)の明細情報と比較する。

取引明細テーブルの明細情報とワークテーブル取引を比較するには、〈取引明細照会〉プログラム(P09200)を使用して取引明細テーブルをオンラインで検討するか、または〈総勘定元帳(主科目別)〉レポート(R09421)でレポートを印刷します。

相違がある場合は、請求明細ワークテーブル(F4812)を変更してから、請求作業を続けます。

このワークテーブル印刷レポートには、次の情報が含まれています。

- 元帳日付
- 費用
- 数量
- レート
- 請求金額
- 勘定科目 No.
- 補助元帳
- 契約
- 職務タイプ
- PDBA コード
- 従業員/仕入先
- 設備
- 仕訳バッチ
- 請求書バッチ
- 請求書
- 支払項目

処理オプション: ワークテーブルの印刷(R48405)

印刷オプション・タブ

レポートに印刷する明細情報の行数を指定します。

1. 明細行の印刷

0 = 全て印刷する(デフォルト)

1 = 1行印刷する

請求されていない取引に関するレポートに表示する情報量を指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 取引あたり 5 行の情報を印刷する

1 取引あたり 1 行の情報を印刷する

ワークテーブル履歴の処理

ワークテーブル取引の処理中に作成する改訂取引について、前回の取引のコピーが自動的に保存されます。この監査証跡を検討して、すべての変更内容を確認できます。

ワークテーブル履歴を検討する際に、適切な取引を再度有効にすることができます。取引を再度有効にすると、その取引は履歴テーブルから活動中のワークテーブルに移動されます。たとえば、取引を間違っただけで履歴に移動した場合、その取引はワークテーブルに戻すことができます。ワークテーブルに取引を戻した後、適格性コードを変更してから請求書にその取引を含めることができます。

ワークテーブル取引を再度有効にできるかどうかは、請求制御 ID その他の要素により決まります。

次の取引は、再度有効にすることはできません。

- 請求済み取引
- 無効にした取引
- 修正中に履歴にコピーした取引

履歴からの取引の移動

以前に請求不可にした取引を、ワークテーブル取引履歴から請求明細ワークテーブルに戻すことができます。取引は履歴テーブルから請求明細ワークテーブルに戻すと、再度有効になります。取引を再度アクティブ化すると、次の処理が実行されます。

- 取引およびそれに関連付けられた税額およびテキストを処理可能にする。
- 履歴取引を再有効化済みにする。
- 履歴取引を請求ワークテーブル履歴(F4812H)から請求明細ワークテーブル(F4812)にコピーする。

▶ 履歴から取引を移動するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈日次処理〉メニュー(G48S11)から〈ワークテーブル履歴の照会〉を選択します。

〈ワークテーブルの処理〉メニュー(G5211)から〈ワークテーブル履歴の照会〉を選択します。

	元帳日付	追加	削除	開換	収益	顧客	契約No.	契約タイプ	契約会社	変更No.	請求行	収益バッチNo.	ビジネスユニット	主科目
<input type="checkbox"/>	05/06/11 X				150									6100 1341
<input type="checkbox"/>	05/06/11 X				150									6100 1341
<input type="checkbox"/>	05/06/11 X				150									6100 1341
<input type="checkbox"/>	05/06/11 X				150									6100 1341
<input type="checkbox"/>	05/06/11 X				150									6100 1341
<input type="checkbox"/>	05/07/09 X				150									6100 1341
<input type="checkbox"/>	05/07/09 X				150									6100 1341
<input type="checkbox"/>	05/07/09 X				150									6100 1341
<input type="checkbox"/>	05/07/09 X				150									6100 1341
<input type="checkbox"/>	05/07/09 X				150									6100 1341

1. 〈明細履歴の処理〉フォームで、次のフィールドに条件を入力して[検索]をクリックします。

一般タブ:

- 顧客
- 作業 No.
- 元帳日付の範囲
- 補助元帳タイプ

関係者タブ:

- 顧客
- 仕入先 No.

勘定科目タブ:

- 勘定科目 No.
- 補助元帳タイプ

契約タブ:

- 契約 No.
- 契約タイプ

注:

サービス請求の場合、[契約]タブのオプションはサービス管理の契約情報を参照します。

給与計算タブ:

- 従業員 No.
- 職務タイプ
- 職階

設備タブ:

- 使用設備
- 作業対象設備

内部タブ:

- 請求制御 ID

表示タブ:

- 再有効化レコードのみ
- 最終レコードのみ表示

請求済み取引の最終履歴レコードだけが表示されます。

2. 取引を選んで[ロー]メニューから[再アクティベート]を選択します。

取引を再度有効にすると、次に[検索]をクリックしたときには、その取引は表示されません。

注:

再度有効にした取引は、請求明細ワークテーブルでは「請求不可」になっています。この取引を請求処理するには、その適格性コードを個別に変更する必要があります。

処理オプション: ワークテーブル履歴の照会(P4812H)

表示タブ

表示する明細履歴レコードを指定します。

1. 表示するレコード

- 1 = すべての履歴レコード(デフォルト)
- 2 = 再開できるレコードのみ

表示する明細履歴レコードを指定します。有効な値は次のとおりです。

- 1 すべての明細履歴レコードを表示する
 - 2 再度有効にできるレコードだけを表示する
-

請求ワークテーブル履歴の除去

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈上級技術操作〉メニュー(G4831)から〈ワークテーブル履歴の除去〉を選択します。

〈上級技術操作〉メニュー(G5231)から〈ワークテーブル履歴の除去〉を選択します。

〈ワークテーブル履歴の除去〉プログラム(R48S999)を実行すると、請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)から非活動中のレコードが除去されます。非活動中のレコードとは請求明細ワークテーブル(F4812)に関連付けられたレコードがないレコードを指します。関連付けられた活動中レコードとは、F4812H と F4812 に同じ元帳日付と制御 ID を持つレコードを指します。

F4812H テーブルを除去することにより、空きディスク容量が増加し、サービス請求および契約請求の処理が効率化されるので、F4812H テーブルを定期的に除去するようにしてください。

注:

J.D. Edwards では、F4812H テーブルの除去はピーク時以外に実行することをお勧めします。

実行時には、選択したレコードの除去、選択したレコードのレポート印刷、またはその両方を選択できます。レポートには、選択したレコード情報と共に、除去されるレコード数が表示されます。実際にレコードを除去する前に、選択したレコードをレポートに出力できます。

さらに、F4812H から除去するレコードを除去後の請求ワークテーブル履歴保存テーブル(F4812HS)に移動するかどうか、また移動前にこのテーブルをクリアするかどうかを指定できます。

〈ワークテーブル履歴の除去〉プログラムで、除去済みレコードの一覧のレポートが作成されます。

処理オプション:ワークテーブル履歴の除去(R48S999)

デフォルト・タブ

レコード除去、レポート印刷、バックアップ保存を行うかどうかを指定します。

1. 除去とレポート印刷

ブランク = レポート印刷のみ

- 1 = レコード 除去とレポート印刷
- 2 = 除去のみ

請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)からレコードを除去するか、また除去されたレコードを印刷するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 除去しないで、レポートを印刷する

- 1 除去して、レポートを印刷する
- 2 除去するが、レポートは印刷しない

次の処理オプションは、処理オプション 1 で 1 または 2 を指定した場合にのみ適用されます。

2. 除去したレコードを保存テーブルに保存する

ブランク = 保存する

- 1 = 既存のレコードをクリアしてから保存する
- 2 = 保存しない

F4812H テーブルから除去したレコードを請求ワークテーブル除去履歴保存テーブル(F4812HS)に保存するか、また同テーブルにある既存の履歴レコードを消去するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク = 保存テーブルに書き込む。既存のレコードは消去しない(デフォルト)。

- 1 = 保存テーブルに書き込む。既存のレコードは消去する。
 - 2 = 保存テーブルに書き込まない。
-

請求書の処理

請求明細ワークテーブル(F4812)のワークテーブル取引は、最初に作成される時点ではすべて一般的な取引です。請求書の作成に必要な主要情報が含まれていますが、特定の請求書番号には割り当てられていません。

請求書の生成は、請求書の作成に必要な情報の入ったワークテーブル取引が作成された後に行います。

サービス請求システムでは、請求書を自動的に、または手作業で作成できます。〈請求書の処理〉メニューから〈請求書の生成〉プログラム(R48121)を実行すると、請求書が自動的に作成されます。請求書を手作業で作成する場合は、〈バッチ処理〉フォーム(W48221B)の[フォーム]メニューから[バッチの作成]を選択し、〈請求書の処理〉フォーム(W48222B)の[フォーム]メニューから[請求書の作成]を選択します。

〈請求書の処理〉メニューから〈請求書の生成〉プログラムを実行すると、テーブル(F4812)から選択したワークテーブル取引が集計され、請求書集計ワークテーブル(F4822)に保存されます。ワークテーブル取引を請求書集計ワークテーブル(F4822)に集計する方法は、定義された順序/集計規則により制御されます。〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)の実行時に、請求書集計ワークテーブルのレコードを基に売掛金元帳(F03B11)に取引が作成されます。

請求書バッチを手作業で作成し、バッチ内で請求書を作成し、既存のワークテーブル取引をマーキングするか、アドホック・ワークテーブル取引を請求書に直接追加して、支払項目を管理できます。

注:

請求書を手作業で作成する場合は、支払項目のレベル区切りに設定した順序/集計規則は適用されません。順序/集計の方法は、支払項目を作成する際に手作業で設定します。請求書バッチを手作業で作成する場合、〈請求書の生成〉プログラムまたは〈売掛金仕訳の作成〉プログラムを自動的に実行することはできません。これらのプログラムは、〈バッチの検討〉プログラム(P48221)から呼び出す必要があります。

手作業でも自動でも請求書を作成したら、サービス請求システムですべての請求書バッチを検討できます。

注:

ここでいう請求書とは、テーブル(F4812)内のワークテーブル取引から生成された請求書情報と、請求書集計ワークテーブル(F4822)に集計された請求書情報を指します。また、コンテキストによっては、顧客に送付する印刷した請求書のことを意味します。請求書は、定義された請求書レイアウトに基づいて印刷されます。

契約請求システムでは、次の4つのレベルで請求書情報を保守できます。

タスクレベル	可能な処理
バッチ	<ul style="list-style-type: none">• バッチの自動作成または手動作成• バッチ状況または現行活動のリセットによるバッチの改訂• バッチ見出しとそれに関連するすべての請求書情報の削除によるバッチ見出しの削除
請求書	<ul style="list-style-type: none">• 請求書の自動作成• 手作業による既存のバッチへの請求書の追加• バッチからの請求書の削除
支払項目	<ul style="list-style-type: none">• 請求書支払項目の自動作成• 手作業による請求書への支払項目の追加• 請求書からの支払項目の削除• 請求書の既存支払項目の改訂
ワークテーブル取引	<ul style="list-style-type: none">• 支払項目に関するワークテーブル取引の自動集計• 支払項目に関するアドホック・ワークテーブル取引の作成• 支払項目に関する既存ワークテーブル取引のマージ• 支払項目からのワークテーブル取引の削除

たとえば、請求書バッチに200件の請求書があり、プロジェクト管理者がその中の請求書金額に間違いがあることに気づいたとします。この問題を解決するために、〈バッチの処理〉フォームから順に請求書バッチ、間違いのある請求書、変更を必要とする支払項目を選択し、その支払項目の問題となっているワークテーブル取引を削除できます。請求書には新しい金額が反映され、問題となっていたワークテーブル取引は請求明細ワークテーブル(F4812)に残るため、後日それを訂正および新規請求書を作成できます。

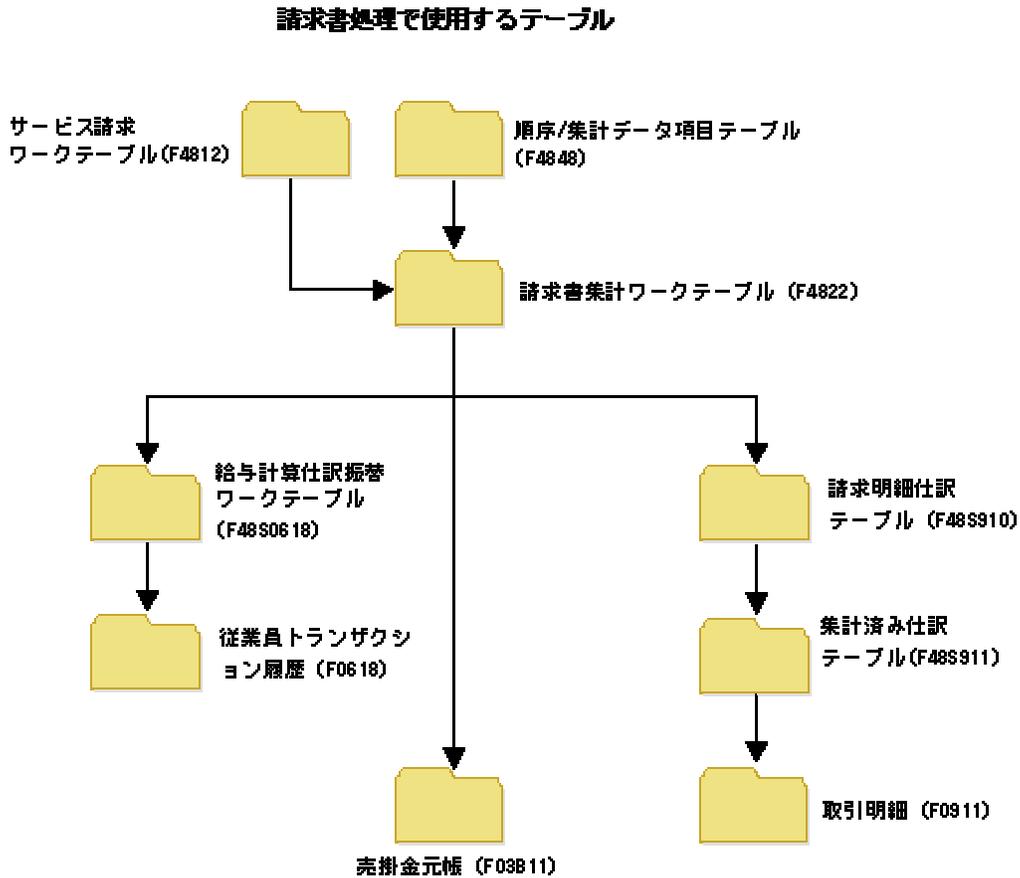
標準的なサービス請求の請求書生成処理は、次のステップで構成されています。

- 請求書の生成
- テスト請求書の印刷
- 請求書情報の保守
- テスト仕訳の生成
- 最終的な仕訳の作成
- 請求書の転記
- 最終請求書の印刷

請求書仕訳を最終モードで作成した後、その仕訳を検討、承認、転記することにより全体的な請求処理を完了できます。顧客宛の請求書を印刷するには、〈請求書の印刷〉プログラム(R48506)を使用できます。

請求処理用の売掛金元帳と総勘定元帳のレコードを作成すると、請求処理を完了したワークテーブル取引は請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)に移動されます。

次の図は、請求書の処理に関係する主要なテーブル間の関係を示します。



順序/集計規則

請求明細ワークテーブル(F4812)の取引から請求書バッチを生成すると、顧客ごとに新しい請求書が作成されます。請求書上に表示する取引の順序と集計方法を定義する必要があります。このために、順序/集計キーを定義します。

順序/集計キーは、請求書バッチの区切りと各請求項目の区切りを示します。区切りは次のレベルで定義する必要があります。

請求書レベル(I) 請求書レベルで変更を定義した順序/集計キーが変わると、固有の ID を持つ新しい請求書が作成されます。

支払項目レベル(P) 支払項目レベルで順序/集計キーが変わると、請求書内に新しい請求明細行が作成されます。新しい請求明細行には、固有の支払項目番号が割り当てられます。

順序/集計キーは次の用途で使用されます。

- 請求書番号の割当て

- 請求書/支払項目別の合計
- 売掛金仕訳作成時に売掛金元帳(F03B11)で表示される取引方法の制御
- ワークテーブル取引の請求書情報の更新

たとえば、請求書レベルの順序/集計キーとして作業(ビジネスユニット)、支払項目レベルの順序/集計キーとして作業オーダー(補助元帳)番号を設定します。請求書の生成時に、順序/集計キーを使って次の処理が行われます。

- 作業(ビジネスユニット)が変わる時点で新しい請求書番号を作成する
- 同じ作業(ビジネスユニット)の作業オーダー(補助元帳)番号が変わる時点で新しい支払項目番号を作成する

請求書 1 件に対して顧客番号は 1 件です。顧客番号が変わった場合は、順序/集計キーの設定に関係なく、新しい請求書番号が作成されます。

請求書生成のバージョンとモード

〈請求書の生成〉プログラム(R48121)の適切なバージョンを選択して、請求書を作成および印刷し、会計仕訳を作成する必要があります。処理に基づいて次のいずれかのバージョンを選択します。

請求書の生成 - 仕訳作成なし このバージョンを使用するのは、テスト請求書のみを作成する場合です。この時点では売掛管理システムの仕訳と総勘定元帳レコードは作成されません。

請求書の生成 - テスト・モードによる仕訳 このバージョンを使用するのは、請求書を作成し、売掛管理システムと元帳用にテスト・モードで仕訳を作成する場合です。

請求書の生成 - 最終モードによる仕訳 このバージョンを使用するのは、請求書を作成し、売掛管理システムと元帳用に最終モードで仕訳を作成する場合です。

仕訳をテスト・モードで実行し、会計処理のミスがなく請求書が正確かどうかを確認します。仕訳を最終モードで実行するのは、仕訳や請求書の検討を必要としない場合です。

請求書の生成時には、〈仕訳照合レジスタ〉プログラム(R48300)により、請求システムの売掛金仕訳および振替仕訳が検証/更新されます。〈仕訳照合レジスタ〉プログラム(R48300)のバージョンは、〈仕訳の自動作成〉プログラム(R48131)の処理オプションで指定します。

〈請求書の生成〉プログラム(R48121)または〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)の実行時には、〈仕訳編集レジスタ〉プログラムの処理オプションで指定した請求書入力マスター・ビジネス関数と仕訳入力マスター・ビジネス関数の各バージョンが使用されます。〈仕訳照合レジスタ〉プログラムの処理オプションを空白にした場合、マスター・ビジネス関数のバージョン ZJDE0001 が使用されます。

請求書入力マスター・ビジネス関数と仕訳入力マスター・ビジネス関数の処理オプションを表示するには、〈システム・アドミニストレーション・ツール〉メニュー(GH9011)から〈対話型バージョン〉を選択して、次の対話型アプリケーションを検討します。

- 請求書入力 MBF 処理オプション(P03B0011)
- 仕訳入力 MBF 処理オプション(P0900049)

注:

最終モードでプログラムを実行時にエラーが検出された場合は、会計仕訳で売掛金および一般会計は更新されません。

仕訳の振替

請求固定情報の仕訳振替の制御と〈ワークテーブルの改訂〉プログラム(P4812)の処理オプションで仕訳の振替を許可しておく、ワークテーブル取引の勘定科目を変更できます。

請求システムの仕訳振替により、当初の費用勘定を別の勘定科目に振り替えると同時に、取引明細テーブル(F0911)に訂正仕訳を自動的に作成できます。

請求固定情報で[仕訳振替の制御]を有効にすると、仕訳の作成時にテーブル(F0911)に訂正仕訳が作成されます。

たとえば、従業員が同じ支払期間に2つの異なる作業オーダーについて時間を請求する場合があります。従業員が支払期間中の時間数を入力する時に、誤った情報を入力したとします。会計部門が給与計算取引を処理後、その金額を検討した際に、データの入力ミスに気づいたとします。

この場合、請求明細ワークテーブル(F4812)内のワークテーブル取引の作業オーダー番号を変更すれば、エラーを修正できます。仕訳振替を有効にしておく、〈仕訳の自動作成〉プログラム(R48131)の実行時に、収益および原価計算用のテスト仕訳と共に訂正仕訳が作成されます。テーブル(F0911)には、当初勘定科目の逆仕訳と新しい勘定科目の調整仕訳が作成されます。

訂正仕訳は、伝票タイプ(AJ)により識別できます。また、請求固定情報でPDBAコード一時変更を使用しない限り、標準支払を表す101など、ワークテーブル取引と同じ支払タイプ(PDBAコード)が振替仕訳に使用されます。

給与計算システムからのワークテーブル取引を修正した場合は、〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)または〈仕訳の作成〉プログラム(R48198)の実行時にテーブル(F0911)に調整仕訳が作成されるだけでなく、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)にも調整仕訳が作成されます。これらの予備的な訂正仕訳は、〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)または〈仕訳の作成〉プログラム(R48198)が完了するまで、給与計算仕訳振替ワークテーブル(F48S0618)に保存されます。

関連する総勘定元帳バッチの処理

請求書バッチを処理する時に、原価の再配賦と振替仕訳をサポートする総勘定元帳仕訳が必要になる場合は、関連する総勘定元帳バッチが作成されます。この関連元帳バッチは請求書バッチに割り当てられ、請求書仕訳に関連する元帳仕訳が保存されます。

〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行すると、請求書仕訳がF0911テーブルおよび売掛金元帳(F03B11)に書き込まれる際に、関連する元帳バッチが取引明細テーブル(F0911)に書き込まれます。

注:

請求書を無効にしても、関連する元帳バッチの仕訳は無効になりません。

請求書処理の伝票タイプ

請求書処理を完了すると、システムで次のような元帳仕訳を作成できます。仕訳の出所は、次の伝票タイプで識別できます。

RI - 請求書	請求書生成時に割り当てられる伝票タイプ。これはハードコードではありません。異なる伝票タイプを指定できます。
RM - クレジット・メモ	クレジット・メモの作成時に割り当てられる伝票タイプ。
EU - サービス請求収益	関連する元帳仕訳の処理の際に作成される仕訳入力で、請求書情報に関連する収益の配賦や費用の振替に使用されます。
AJ - サービス請求の調整	以前に処理済みの仕訳に対する調整仕訳。収益認識を使用する場合にのみ使用します。関連元帳仕訳の処理時に作成されます。
BA - 請求調整	一般会計システムからの振替仕訳。関連元帳仕訳の処理時に作成されます。
T2 - 給与計算の労務費配賦	給与計算システムの労務費からの振替仕訳。関連元帳仕訳の処理時に作成されます。
T4 - 労務費請求配賦	労務費請求からの振替仕訳。関連元帳仕訳の処理時に作成されます。
T5 - 設備費配賦	給与計算システムの設備請求からの振替仕訳。関連元帳仕訳の処理時に作成されます。

留保金

留保金とは、請求額に占める作業完了後に支払われる金額の割合です。たとえば、顧客への請求書の10%を留保金とすることができます。留保金は、作業が完了し、顧客がその支払を承認したときにリリースされます。

請求書金額に対する留保金の金額またはパーセントを入力すると、支払項目の留保金額が更新されます。顧客による承認後に、留保金をリリースする必要があります。

各請求書の留保金の金額またはパーセントは、〈サービス請求書の入力〉フォーム(W4822B)で変更できます。たとえば、留保金規則を変更した場合は、変更以前に生成した請求書の留保金を変更する必要があります。

請求書の自動生成

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈請求書の生成〉を選択します。

〈請求書の生成〉プログラム(R48121)を実行すると、選択した取引が請求明細ワークテーブル(F4812)から集計され、請求書集計ワークテーブル(F4822)に保存されます。ワークテーブル取引を請求書集計ワークテーブル(F4822)に集計する方法は、定義された順序/集計規則により制御されます。〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)の実行時に、請求書集計ワークテーブルのレコードを基に売掛金元帳(F03B11)に取引が作成されます。

〈請求書の生成〉プログラムの実行時には、次の処理が実行されます。

- サービス請求バッチ見出しテーブル(F48011)に制御レコードを作成する。[処理状況]フィールドを1(請求書の生成中)に設定する。
- 処理オプションとデータ選択基準を使用して、テーブル F4812 の取引を選択および集計して、テーブル F4822 に保存する。該当取引が請求書に含まれることを示すように、ワークテーブル取引の請求書情報(バッチ番号、請求書番号、支払項目、伝票タイプ、請求書日付)を更新する。
- 順序集計データ項目テーブル(F4848)に設定した請求書および支払項目を集計する規則を使用する。
- 相手科目/留保金情報(F48128)に設定した請求書の留保金計算規則を使用する(適用時のみ)。
- テスト仕訳を作成するか、またはバージョンが〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)の処理オプションで指定されている場合は、最終仕訳を作成する。
- 〈請求書の生成〉プログラムの完了時に、テーブル(F48011)のバッチ内の金額と伝票数を更新する。バッチ見出しの[現行活動]フィールドは、このバッチに対してさらに処理を実行できるように0にリセットされます。

注:

〈請求書の生成〉プログラムから自動的に〈売掛金仕訳の作成〉プログラムを実行するバージョンを指定してエラーが検出されない場合は、この処理は行なわれません。処理されない代わりに、テーブル F48011 のレコードが削除されます。

- 作成された請求書の一覧が表示されるレポートを作成する。

請求書の生成時には、請求書番号が割り当てられ、活動中のワークテーブル取引が集計され、支払項目が作成されます。支払項目とは、ワークテーブル取引が集計された請求行です。請求書の支払項目が、請求書の請求合計になります。テーブル F4822 に支払項目情報が保存されます。

ワークテーブル取引が複数の請求書に割り当てられるのを防ぐために、現行の請求書情報はサービス請求ワークテーブル(F4821)に保存されます。

請求書は、〈請求書の生成〉プログラム(R48121)を実行して自動作成することも、手作業で作成することもできます。〈請求書の生成〉プログラム(R48121)を実行すると、次の処理が行われます。

- 請求書バッチを削除する。
- 請求書に顧客番号と請求書番号を割り当てる。

- ワークテーブル取引を集計し、請求書の支払項目を作成する。
- 元帳日付、元帳クラス、留保金パーセントなどの売掛金情報を請求書に割り当てる。
- ワークテーブル取引の請求書情報を更新する。
- 請求書を印刷する(任意)。

請求書を自動作成する際、各取引の次のフィールドが更新されます。

- 支払条件 - 元帳クラス
- 留保金パーセント - 留保金の相手科目

これらのフィールドに入力される値は、請求書バッチに定義した順序/集計キー、および元帳クラス/留保金情報テーブル(F48128)に設定した元帳クラスに基づいて決まります。たとえば、請求書レベルの集計フィールドに作業オーダー(補助元帳)を指定した場合、元帳クラスおよび留保金テーブルの改訂フォーム(W48128C)の[キー・タイプ]に作業オーダー(補助元帳)または作業オーダー・クラスの規則を定義することにより正しい元帳クラス規則を特定できます。

参照

- 請求書生成時の請求書の印刷については、『サービス請求』ガイドの「請求書の自動印刷」

はじめる前に

- ワークテーブル取引を生成します。『サービス請求』ガイドの「ワークテーブルの生成」を参照してください。
- 請求書情報の順序と集計を定義します。『サービス請求』ガイドの「順序/集計規則の定義」を参照してください。
- 元帳クラスと留保金規則を定義します。『サービス請求』ガイドの「元帳クラスと留保金規則の定義」を参照してください。
- 請求書の生成中に請求書を印刷する場合は、バージョンを修正します。『サービス請求』ガイドの「請求書フォーマットの設定」を参照してください。

処理オプション: 請求書の生成(R48121)

デフォルト・タブ

請求書の作成に使用するデフォルトの伝票タイプ、元帳日付、請求書日付を指定します。

1. 伝票タイプ

ブランク = 請求固定情報の伝票タイプを使用

請求書の作成に使用するデフォルトの伝票タイプを定義します。

デフォルトとして使用する伝票タイプを入力するか、〈ユーザー定義コード〉フォームから必要な伝票タイプを選択します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク 請求固定情報のデフォルト伝票タイプ(00/DI)を使用

2. 元帳日付

blank = システム日付を使用

請求書を作成する元帳日付を入力します。この日付は、請求書の作成時に割り当てられ、請求書を総勘定元帳ファイルに転記する時に使用されます。blankにすると、システム日付が使用されます。この日付は、会社固定情報の現行会計期間と照合されます。

3. 請求書日付

blank = システム日付を使用

請求書を作成する請求書日付を入力します。

この日付は、請求書作成時に割り当てられます。blankにするとシステム日付が使用されます。この日付は、元帳日付に対して照合されます。請求書日付が元帳日付より大きいと警告メッセージが表示されます。

選択タブ

請求書の作成用に選択する請求期間の開始日付と終了日付を指定します。

1. 請求開始日

blank = 請求開始日なし

請求書の作成に使用する請求開始日付を入力します。

この日付をもとに請求明細取引が選択されます。この日付をblankにすると、テーブルの基準日付が、請求の終了日付より前の請求明細取引がすべて選択されます。

2. 請求期間終了日

blank = システム日付を使用

請求書作成用の請求終了日付を入力します。この日付をもとに請求明細取引が選択されます。この日付をblankにすると、テーブルの基準日付がシステム日付と同じかそれ以降になっている請求明細取引がすべて選択されます。

処理タブ

請求書/支払項目の構造キーを指定します。このキーは、仕訳の生成時およびレベル区切りと順序の識別に使用されます。

1. 請求書/支払項目構造キー (必須)

請求書/支払項目の構造キーを入力します。このキーは、請求明細取引に請求/支払項目を割り当てる時のレベル区切りと順序の識別に使用する必要があります。

2. 請求書仕訳の生成バージョン (R48131)

仕訳をテストモードで作成するかどうかを指定します。実行する請求書仕訳の作成(R48131)のバージョンを入力してください。

空白の場合は、請求書仕訳の作成は実行されません。

注:このフィールドにバージョンを入力した場合、〈売掛金仕訳の作成〉用に入力したバージョンは無視されます。

3. 売掛仕訳の作成バージョン (R48199)

仕訳を最終モードで作成するかどうかを指定します。実行する売掛金仕訳の作成(R48199)のバージョンを入力してください。空白の場合は、売掛金仕訳の作成は実行されません。

注:〈請求書仕訳の作成〉プログラム用のバージョンを入力した場合、このフィールドに入力されたバージョンは無視されます。

印刷タブ

〈請求書の印刷〉プログラム(R48504)のバージョンを指定します。

1. 請求書印刷バージョン (R48504)

請求書の印刷を制御します。〈請求書の印刷〉プログラム(R48504)のバージョンを指定します。空白にすると、請求書の作成時には請求書は印刷されません。

通貨タブ

請求書に使用する為替レート日付を指定します。

1. 為替レート基準日

1 = 請求書日付 (デフォルト)

2 = 元帳日付

請求書作成に使用する為替レートの日付を指定します。有効な値は次のとおりです。

- 1 請求書日付を使用する(デフォルト)
 - 2 元帳日付を使用する
-

請求書バッチの処理

バッチとはシステムで1単位として処理され、貸借が調整される取引のグループです。バッチ情報は、サービス請求バッチ見出しテーブル(F48011)に保存されます。

〈バッチの検討〉プログラム(P48221)を使用して取引バッチを選択し、請求処理の準備を行います。たとえば、プロジェクト管理者による検討用に請求書を印刷すると、〈バッチの検討〉処理を使用して請求書に訂正を加えることができます。

テーブル F48011 の[現在の処理状況]フィールドで特定のバッチの処理が制御されます。[現在の処理状況]フィールドは、バッチの処理時に更新されます。たとえば、バッチを選択して〈仕訳照合レジスタ〉プログラム(R48300)を実行するとします。[現在の処理状況]フィールドは3(仕訳の生成中)に更新されます。[現在の処理状況]フィールドが3(仕訳生成中)のときは、他のユーザーはその取引にアクセスできません。〈仕訳照合レジスタ〉プログラムが完了するとこの値は0(処理可能)に更新されます。この時点で、バッチを次の処理に進めることができます。

次の場合には、現行活動を手作業でリセットする必要があります。

- バッチ処理が正常に完了しなかった場合。この場合は、[処理状況]はリセットされません。
- バッチを処理対象として選択した後で、〈レポート出力先〉フォームでバッチ処理を取り消した場合。

バッチの処理状況を改訂する必要がある場合もあります。たとえば、この操作が必要になるのは、〈請求書生成〉プログラム(R48121)が停電のために正常終了しなかった場合などです。この場合、[処理状況]フィールドの値が処理中になり、バッチにアクセスできなくなるため、次の処理を進められなくなります。

参照

- バッチ見出しレコードの[処理状況]をリセットする方法については、『サービス請求』ガイドの「請求書バッチ見出し情報の改訂」

請求書情報の検討

請求書の生成時に、請求書取引のバッチが作成されます。次の情報で請求明細ワークテーブル(F4812)の取引も更新されます。

- バッチ番号
- 請求書番号
- 支払項目番号

- 請求書日付

請求書情報は、次のレベルで検討できます。

- バッチ状況記述や現行活動などのバッチ情報
- 選択したバッチの請求書
- 選択した請求書の支払項目
- 間接費や追加料金など、選択した支払項目に関する個々のワークテーブル取引

さまざまなレベルで請求書を検討して、必要に応じて情報を改訂できます。たとえば、請求金額を減らしたり、請求書に取引を追加できます。

▶ 請求書情報を検討するには

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチ検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、次のフィールドに値を入力し、[生成タイプ]オプションを選択し、[検索]ボタンをクリックします。

- バッチ No./タイプ

バッチはバッチ番号の昇順で表示されます。

	バッチタイプ	作成タイプ	バッチNo.	バッチ日付	合計金額	合計伝票数	処理状況	バッチ状況記述	仕訳バッチNo.	仕訳金額
<input checked="" type="checkbox"/>	3	1	5455	00/03/23	24,965.72	2	0	Batch Chg'd-Rerun Jmls		
<input type="checkbox"/>	3	1	5960	02/04/02			1	Inv Gen. W/O Errors		

2. 特定バッチにある請求書を検討するには、そのバッチを選択して[選択]をクリックします。

選択
 検索
 削除
 閉じる
 フォーム
 ロー
 ツール

バッチ No. 新しいバッチNo.

バッチ日付

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	請求 No.	伝票 タイプ	顧客 顧客 名	元帳日付	総合計	基本 通貨	外貨	請求 通貨
<input type="checkbox"/>	3044	RI	150 Property Management Comp	05/06/30	4,748.84	USD		USD
<input type="checkbox"/>	3045	RI	150 Property Management Comp	05/06/30	20,216.88	USD		USD
<input type="checkbox"/>	Σ		合計		24,965.72			

3. 〈請求書の処理〉で、次のフィールドを検討します。

- 請求 No.
- 元帳日付
- 総合計

4. 個々の請求書の明細を検討するには、その請求書を選択して[選択]をクリックします。

PeopleSoft.
サービス請求書の入力

OK 検索 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

バッチ No.	5455	会社	00050	USD
顧客	150	Property Management Company	<input type="checkbox"/> 外貨	
請求書 No.	3044	RI	課税額	
請求書日付	05/06/30		税額	
元帳日付	05/06/30		非課税額	4,748.84
代替受取人	150		留保額	
請求書フォーマットバージョン			請求金額合計	4,748.84
伝票会社	00050		請求書為替レート	

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 支払項目	総額	課税対象額	税額	非課税金額	留保%	留保金額	割引可能額	税率/税減
<input checked="" type="checkbox"/>	001	4,748.84			4,748.84				
<input type="checkbox"/>									

5. 〈サービス請求書の入力〉で、次のフィールドを検討します。
 - 支払項目
 - 総額
 - 課税対象額
 - 税額
 - 非課税金額
6. 支払項目に対応するワークテーブル取引を検討するには、その支払項目を選択し、[ロー]メニューから[請求明細]を選択します。

処理状況	<p>現在アクティブである処理サイクルステップを識別します。このフィールドはサービス請求/契約請求システム全体を通じてバッチメンバの整合性を維持します。バッチ改訂フォームでは、選択したバッチが特定機能に適しているかどうかをチェックするのにこのフィールドを使用しています。有効な値は次のとおりです。</p> <p>0 = 使用可能 1 = 生成中 2 = メンテナンス処理中 3 = 仕訳作成処理中 4 = バッチ削除処理中 5 = 請求書印刷処理中 6 = バッチ転記 7 = 選択処理中 * = すべてのバッチを表示する (WorldSoftware のみ)</p> <p>--- フォーム固有 --- このフォームに 2 つの [現行活動] フィールドがあります。 ○ 見出しフィールド- 請求サイクルの特定ステップにあるバッチを表示します。 ○ 詳細フィールド- 表示する個々のバッチ用請求サイクルの現行ステップを識別します。</p>
請求 No.	ワークファイルの取引に割り当てられた請求書番号。
元帳日付	取引を転記する会計期間を識別する日付。会社の会計年度と現行期間に基づいて日付チェックが行われ、PBCO (過去期間)、PYEB (前年度以前)、PACO (未来期間)、WACO (次年度以降) などの警告/エラーが表示されます。
総合計	<p>この支払項目に対して請求される金額。該当する消費税なども含まれます。</p> <p>--- フォーム固有 --- 請求書の現行請求合計。このフォームの合計行に表示される金額は、このバッチに含まれるすべての請求書の合計額です。</p>
支払項目	請求書の支払項目を識別する番号。支払項目番号は自動的に割り当てられます。請求書に複数の支払項目がある場合、番号は自動採番されます。
課税対象額	課税対象金額
税額	納税先へ支払うべき消費税、付加価値税などの合計税額。
非課税金額	課税対象とならない金額を入力します。製品が免税対象または税率 0% のために、課税対象とならない取引の金額です。

処理オプション: バッチの検討(P48221)

デフォルト・タブ

デフォルト表示するバッチ・タイプと生成タイプを指定します。

1. 請求書処理のバッチ・タイプ

blank = 契約請求に 4 を使用

3 = サービス請求

注: 契約請求では、バッチ・タイプは常に 3 です。

請求バッチがサービス請求システムまたは契約請求システムのいずれのものを指定します。
有効な値は次のとおりです。

- 3 サービス請求
- 4 契約請求

契約請求の収益処理のバッチ・タイプは常に 3 です。

2. 作成タイプ

blank = 請求書処理に 1 を使用

2 = 収益処理

3 = 伝票処理

<バッチの処理>フォームのフォーム・エグジットから新しくバッチを作成する際に割り当てるデフォルトの生成タイプを指定します。生成タイプは、そのバッチに含まれる伝票タイプを制御します。
有効な値はユーザー定義コード 48/GT)に定義されています。

blank = 請求書処理

バージョン・タブ

<バッチの検討>プログラムから実行する各プログラムのバージョンを指定します。

1. 請求書印刷 - R48504 (XJDE0001)

<請求書印刷>プログラムで使用するバージョンを指定します。blankにした場合、XJDE0001 が使用されます。

2. 仕訳作成 - R48131 (XJDE0001)

<仕訳生成>プログラムのバージョンを指定します。blankにした場合、XJDE0001 が使用されます。

3. 仕訳編集レジスタ - R48300 (XJDE0001)

<仕訳編集レジスタ>プログラムのバージョンを指定します。blankにした場合、XJDE0001 が使用されます。

4. 売掛仕訳の作成 - R48199 (XJDE0001)

<売掛金仕訳の生成>のバージョンを指定します。blankにした場合、XJDE0001 が使用されます。

5. 振替仕訳の作成 - R48198 (XJDE0001)

〈元帳仕訳の生成〉に使用するバージョンを指定します。ブランクにした場合、XJDE0001 が使用されます。

6. 買掛仕訳の作成 - R48197 (XJDE0001)

〈買掛金仕訳の作成〉のバージョンを指定します。ブランクにした場合、XJDE0001 が使用されます。

処理タブ

削除した請求書の情報を削除済み請求書監査テーブル(F48229)に保存するかどうかを指定します。

1. 請求書の削除 - 監査証跡オプション

ブランク = 更新なし

1 = 更新なし

削除した請求書の情報を、削除済み請求書監査証跡テーブル(F48229)に保存するかどうかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 保存しない

1 = 保存する

請求書バッチ見出し情報の改訂

請求書バッチのバッチ状況や現行活動を改訂するには、請求書バッチの見出し情報を改訂します。たとえば、この操作が必要になるのは、〈請求書生成〉プログラム(R48121)が停電のために正常終了しなかった場合などです。この場合、[処理状況]フィールドの値が処理中になり、バッチにアクセスできなくなるため、次の処理を進められなくなります。処理状況が 0 であれば、請求書バッチにアクセスして処理を進めることができます。

▶ 請求書バッチ見出し情報を改訂するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチ検討〉を選択します。

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてバッチを検索します。

2. 個々の請求書バッチ見出しを検討するには、検討または改訂するバッチを選択し、[ロー]メニューから[バッチ見出し]を選択します。
3. 〈バッチ見出しの改訂〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - バッチ状況
 - 現在の処理状況

フィールド記述

記述	用語解説
バッチ状況	<p>サービス請求システム/契約請求システムでの制御機能。さまざまな作業を実行する前に次の値が検証されて、適切な順序で処理が行われることようにします。有効なコード値は次のとおりです。</p> <p>blank = 請求書はまだ作成されていません。</p> <p>0 = 契約請求での調整入力</p> <p>1 = 請求書がエラーなしで作成されました。</p> <p>2 = 請求書が作成されましたが、エラーが発生しました。</p> <p>3 = 収益仕訳がエラーなしで作成されました。</p> <p>4 = 収益仕訳が作成されましたが、エラーが発生しました。</p> <p>5 = 請求書仕訳がエラーなしで作成されました。</p> <p>6 = 請求書仕訳が作成されましたが、エラーが発生しました。</p> <p>7 = バッチが変更されました。仕訳を再度転記してください。</p> <p>8 = 活動中の収益バッチが見つかりました。</p> <p>バッチ状況の記述はユーザー定義コード(48/BS)を参照してください。</p>
現在の処理状況	<p>現在アクティブである処理サイクルステップを識別します。このフィールドはサービス請求/契約請求システム全体を通じてバッチメンバの整合性を維持します。バッチ改訂フォームでは、選択したバッチが特定機能に適しているかどうかをチェックするのにこのフィールドを使用しています。有効な値は次のとおりです。</p> <p>0 = 使用可能</p> <p>1 = 生成中</p> <p>2 = メンテナンス処理中</p> <p>3 = 仕訳作成処理中</p> <p>4 = バッチ削除処理中</p> <p>5 = 請求書印刷処理中</p> <p>6 = バッチ転記</p> <p>7 = 選択処理中</p> <p>* = すべてのバッチを表示する (WorldSoftware のみ)</p>

請求書情報の削除

請求書情報の検討後に、情報を削除することが必要になる場合があります。請求書の情報は、バッチ、請求書、支払項目、またはワークテーブル取引の4つのレベルで削除できます。たとえば、請求書の生成中に間違った伝票タイプを割り当てた場合は、請求書バッチ全体を削除する必要があります。

請求書バッチを削除すると、次の処理が実行されます。

- サービス請求バッチ見出しテーブル(F48011)の制御レコードを削除する。
- 請求書集計ワークテーブル(F4822)から請求書バッチの取引を削除する。
- 請求明細ワークテーブル(F4812)の取引から請求書バッチの請求書情報を削除する。

- 請求書仕訳が作成されている場合は、この請求書バッチに関するレコードを請求明細仕訳ワークテーブル(F48S910)と集計仕訳ワークテーブル(F48S911)から削除する。

請求書バッチから請求書を削除すると、次の処理が実行されます。

- テーブル F48011 に保存されているバッチ総額から、請求書の総額分が差し引かれる。
- テーブル F4822 から請求書の取引が削除される。
- テーブル F4812 の取引から請求書の請求情報が削除される。
- 請求書仕訳が作成されている場合は、テーブル F48011 のレコードのバッチ状況を再設定する。このバッチ状況により、請求書仕訳が再実行されます。
- バッチ内の最後の請求書を削除すると、F48011 のレコードが削除される。

請求書から請求書支払項目を削除すると、次の処理が実行されます。

- F48011 のレコードに保存されているバッチ合計金額から、請求書の支払項目の総額分を差し引く。
- 支払項目の F4822 取引を削除する。
- F4812 の取引から支払項目の請求書情報を削除する。
- 請求書仕訳が作成された場合は、F48011 のレコードのバッチ状況が再設定される。このバッチ状況により、請求書仕訳が再実行されます。
- 請求書の最後の支払項目が削除された場合は、請求書を削除する。

参照

- 請求書金額の増額については『サービス請求』ガイドの「請求書への取引の追加」

請求書の支払項目からのワークテーブル取引の削除

請求書の支払項目に添付されているワークテーブル取引を削除すると、次の処理が実行されます。

- サービス請求バッチ見出しテーブル(F48011)のレコードに保存されているバッチ合計額から請求明細ワークテーブル(F4812)の取引総額分が差し引かれる。
- 請求書集計取引テーブル(F4822)の取引に保存されている支払項目の請求書金額から、テーブル(F4812)上の取引の合計額分を差し引く。
- テーブル(F4812)の取引から請求書情報を削除する。
- 請求書仕訳が作成されている場合は、F48011 のレコードのバッチ状況が再設定される。このバッチ状況により、請求書仕訳が再実行されます。
- 支払項目に対するテーブル F4812 の取引すべてを削除しても、その支払項目は削除されない。

▶ 請求書の支払項目からワークテーブル取引を削除するには

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチ検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. バッチを選んで[選択]をクリックします。

3. 〈請求書の処理〉で、請求書レコードを選んで[選択]をクリックします。
4. 支払項目に対応するワークテーブル取引を削除するには、〈サービス請求書の入力〉で支払項目を選び、[ロー]メニューから[請求明細]を選択します。
5. 〈請求書明細の改訂〉で、削除するワークテーブル取引を選び、[ロー]メニューから[請求書から削除]を選択します。

請求書の新しい請求書バッチへの移動

バッチ内で特定の請求書が承認されない場合があります。バッチ内のすべての請求書が承認されるまで待つのは、請求書バッチの処理を遅らせることになります。承認された請求書だけを転記するために、未承認の請求書を現在のバッチから新しいバッチに移動することができます。

請求書を新しいバッチに移動すると、サービス請求バッチ見出しテーブル(F48011)に新しいバッチ・レコードが作成され、金額、伝票数、当初バッチの状況、新しいバッチの状況が更新されます。

▶ 請求書を新しい請求書バッチへ移動するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチ検討〉を選択します。

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドのいずれかに値を入力して[検索]をクリックし、移動する請求書が含まれている請求書バッチを検索します。
2. バッチ・レコードを選んで[選択]をクリックします。

PeopleSoft.

請求書の処理

選択 検索 削除 開く フォーム ロー ツール

バッチ No. 5455 新しいバッチ No.

バッチ日付 00/03/23

請求 No.	伝票タイプ	顧客	顧客名称	元帳日付	総合計	基本通貨	外貨
<input type="checkbox"/> 3044	RI	150	Property Management Comp	05/06/30	4,748.84	USD	
<input type="checkbox"/> 3045	RI	150	Property Management Comp	05/06/30	20,216.88	USD	
<input type="checkbox"/> Σ			合計		24,965.72		

3. 〈請求書の処理〉で、移動する請求書が含まれているバッチを選んで、[ロー]メニューから [請求書の移動] を選択します。

請求 No.	伝票タイプ	顧客	顧客名称	元帳日付	総合計	基本通貨	外貨	請求通貨
<input type="checkbox"/>	3044 RI		150 Property Management Comp	05/06/30	4,748.84	USD		USD
<input type="checkbox"/>	3045 RI		150 Property Management Comp	05/06/30	20,216.88	USD		USD
<input type="checkbox"/>	Σ		合計		24,965.72			

移動された請求書はバッチから消え、残った請求書だけがバッチ内に表示されます。見出し域の [新しいバッチ No.] フィールドには、移動した請求書が含まれている新しいバッチ番号が表示されます。

請求書情報の手動作成

請求書は、〈請求書の生成〉プログラム(R48121)を実行せずに、手作業で生成できます。請求書を手作業で生成すると、次のことができます。

- 新しいバッチを作成する。
- バッチに含める請求書を作成する。
- サービス請求明細ワークテーブル(F4812)のワークテーブル取引をバッチ内の請求書に追加する。

たとえば、既存のバッチに、既に検討と改訂を完了した請求書が含まれているとします。バッチ全体を削除して再生成しなくても、バッチに別の請求書を手作業で追加できます。

注:

請求書を手作業で作成する場合は、支払項目のレベル区切りに設定した順序/集計規則は適用されません。順序/集計の方法は、支払項目を作成する際に手作業で設定します。請求書バッチを手作業で作成する場合、〈請求書仕訳の生成〉プログラムまたは〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を自動的に実行することはできません。これらのプログラムは、〈バッチの検討〉プログラム(P48221)から呼び出す必要があります。

▶ 請求書バッチを手動作成するには

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチ検討〉を選択します。

〈バッチの処理〉で、[フォーム]メニューから[バッチ作成]を選択します。

これにより、空の請求書バッチが作成されます。

▶ バッチに新しい請求書を作成するには

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチ検討〉を選択します。

1. 特定バッチから請求書を手作業で作成するには、〈バッチの処理〉でそのバッチを検索し、選んで[選択]をクリックします。
2. 〈請求書の処理〉で、[フォーム]メニューから[請求書の作成]を選択します。
3. 〈請求書の作成〉で、次のフィールドに情報を入力します。

- 顧客
 - 伝票会社
4. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。
 - 請求開始日
 - 請求終了日
 - 元帳日付
 - 請求書日付
 - 伝票タイプ°
 - 為替レート基準日

5. [OK]をクリックします。

新しい請求書が〈請求書の処理〉フォームに表示されます。総額はまだ表示されていません。ここで、サービス請求明細ワークテーブルの取引を請求書に追加したり、留保金をリリースしたりできます。

請求書へのワークテーブル取引の追加

請求書集計ワークテーブル(F4822)には、会計処理サイクル中に入力したすべての請求可能金額が含まれていない場合があります。この問題に対処するには、次の操作が必要です。

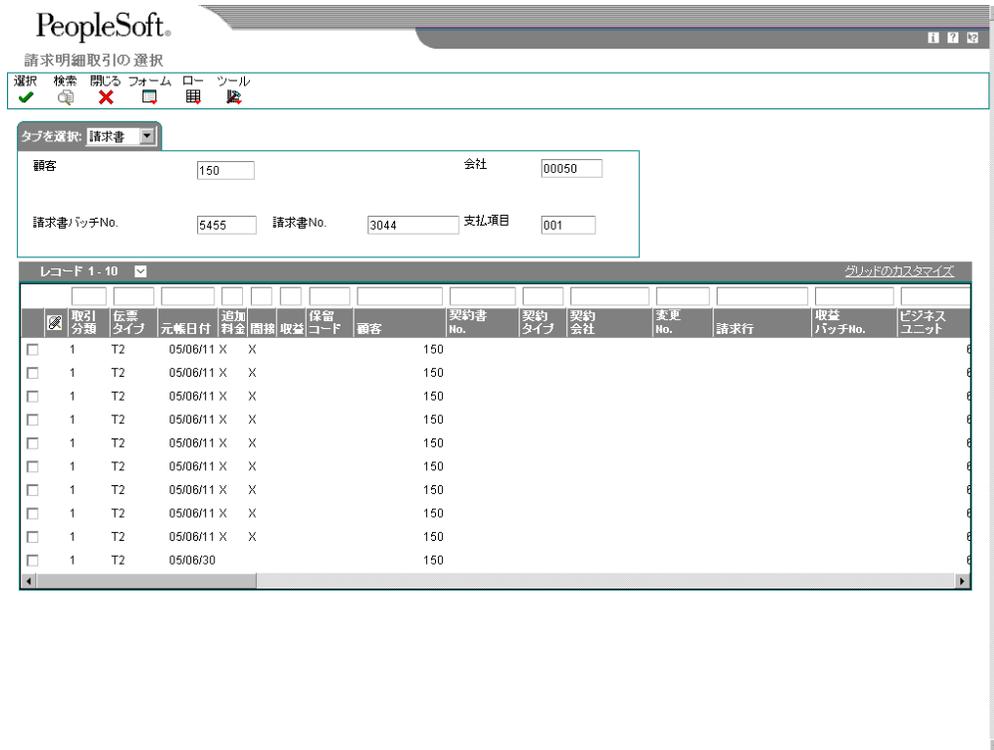
- 請求明細ワークテーブル(F4812)から現在、請求書バッチに含まれていない取引を検討する。
- テーブル F4812 に属する取引を手作業で追加する。
- 必要な場合は、取引明細テーブル(F0911)にあり、テーブル F4812 にない原価を手作業で追加する。
- 請求書に個別の変更がある場合は、手作業で追加します。

ワークテーブル取引は、新しい請求書、請求書内の既存の支払項目、または新しい支払項目に追加できます。

▶ **請求明細ワークテーブル(F4812)から取引を追加するには**

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチ検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. 特定バッチにある請求書を検討するには、そのバッチを選択して[選択]をクリックします。
3. 〈請求書の処理〉で、改訂する請求書を選択して[選択]をクリックします。
4. 〈サービス請求書の入力〉で、ワークテーブル取引を添付する支払項目を選び、[ロー]メニューから[ワークテーブル選択]を選択します。



5. 〈請求明細取引の選択〉で、ワークテーブル取引を選択します(複数可)。
6. [ロー]メニューから[請求書のマージ/更新]を選択します。
ワークテーブル取引情報が請求書支払項目にマージされます。

注意:

課税対象取引と非課税取引を同一の請求書支払項目にマージすることはできません。複数のワークテーブル取引を1つの請求書支払項目にマージする場合、それらの税目コードおよび税域は同じである必要があります。さらに Vertex 税情報を使用する場合は、地理コード、製品カテゴリ・コード、取引タイプも同じである必要があります。

注:

[税域]フィールドはブランク(非課税取引)にすることもできます。

7. [閉じる]をクリックして〈サービス請求書の入力〉に戻ります。
8. 請求書の支払項目にマージしたワークテーブル取引を検討するには、該当する請求書支払項目を選択し、[ロー]メニューから[請求明細]を選択します。

▶ 既存の元帳取引を追加するには

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチ検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. 特定バッチにある請求書を検討するには、そのバッチを選択して[選択]をクリックします。
3. 〈請求書の処理〉で、改訂する請求書を選択して[選択]をクリックします。
4. 〈サービス請求書入力〉で、ワークテーブル取引を追加する支払項目を選び、[ロー]メニューから[ワークテーブル選択]を選択します。
5. 〈請求取引の選択〉で、[フォーム]メニューから[元帳取引選択]を選択します。

PeopleSoft.
会計取引の選択

検索 閉じる ロー ツール

取引の選択

勘定科目 No. 6100 1341 開始元帳日付 05/06/11
補助元帳タイプ 終了元帳日付 05/06/30

給与計算設備レコード用所属ビジネスユニット

品目マスター(デフォルト) 給与計算

勘定科目 No.	元帳日付	摘要	金額	通貨コード	伝票 No.	伝票タイプ	補助元帳	補助タイプ	補助元帳名
<input type="checkbox"/> 6100.1341	05/06/25	Payroll Labor Distribution	4,073.67	USD		98 T2	00065023	W	

6. <会計取引の選択>で取引明細リストに表示されるレコード数を限定するには、次のうち必要なフィールドに情報を入力し、[検索]をクリックします。
 - 勘定科目 No.
 - 開始元帳日付
 - 終了元帳日付
 - 補助元帳/タイプ
7. 給与計算設備のワークテーブル取引で使用する所属ビジネスユニットを更新する方法を指定するには、資産マスター(デフォルト)オプションまたは給与計算オプションを選びます。
8. 取引を選び、[ロー]メニューから[ワークテーブル取引の選択]を選択します。
これにより、元帳取引に対応する取引レコードがサービス請求明細ワークテーブル(F4812)が作成されます。
9. <総勘定元帳取引の選択>で、[閉じる]をクリックして請求明細取引セクションに戻ります。
10. 作成したワークテーブル取引の詳細情報を検討する場合は、該当するワークテーブル取引を選んで[選択]をクリックします。
11. <請求取引の選択>で、[検索]をクリックしてワークテーブル取引を選択します(複数可)。
12. [ロー]メニューから[請求書のマージ/更新]を選択します。
ワークテーブル取引情報が請求書支払項目にマージされます。

注意:

課税対象取引と非課税取引を同一の請求書支払項目にマージすることはできません。複数のワークテーブル取引を1つの請求書支払項目にマージする場合、それらの税目コードおよび税域は同じである必要があります。さらに Vertex 税情報を使用する場合は、地理コード、製品カテゴリコード、取引タイプも同じである必要があります。

注:

[税域]フィールドはブランク(非課税取引)にすることもできます。

13. [閉じる]をクリックして〈サービス請求書の入力〉に戻ります。
14. 請求書の支払項目にマージしたワークテーブル取引を検討するには、該当する請求書支払項目を選択し、[ロー]メニューから[請求明細]を選択します。

▶ 請求書にアドホック・ワークテーブル取引を追加するには

必要に応じて請求書に取引を追加できます。たとえば、取引明細テーブル(F0911)に表示されないサービスについて、請求書にワークテーブル取引を追加する場合があります。

注意:

ワークテーブルにワークテーブル取引を直接追加した上で、さらに通常の会計サイクルを通じて元の請求可能ソース取引を処理後、〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)を実行すると、重複したワークテーブル取引が作成されてしまいます。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチ検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. 特定バッチにある請求書を検討するには、そのバッチを選択して[選択]をクリックします。
3. 〈請求書の処理〉で、改訂する請求書を選択して[選択]をクリックします。
4. 〈サービス請求書の入力〉で、ワークテーブル取引を追加する支払項目を選び、[ロー]メニューから[請求明細]を選択します。
5. 〈請求書明細の改訂〉で、[追加]をクリックします。
6. 〈ワークテーブル入力〉で、次のフィールドに情報を入力します。
 - 元帳日付
 - 勘定科目コード
7. 次の任意フィールドに新しいワークテーブル取引に関する情報を入力します。
 - 補助元帳/タイプ
 - 適格性コード

- 通貨コード
 - 再計算オプション
8. 次のフィールドに該当金額を入力します。
- 数量
 - 原価金額
 - 割引 %

注:

〈サービス請求固定情報〉フォーム(W48091A)の仕訳制御のオプション設定に応じて、請求書や収益のフィールドが表示されます。

9. 該当する場合は、次のフィールドに該当する請求金額を入力します。
- 請求書一時変更レート/上限
 - 請求書割増し%
 - 調整後金額
 - 課税対象額
 - 請求額合計
10. 該当する場合は、次のフィールドに該当する収益金額を入力します。
- 収益一時変更レート/上限
 - 収益割増し%
 - 収益割増し金額
 - 収益金額
11. 必要に応じて、アドホック・ワークテーブル取引に関する詳細情報を次のフィールドに入力します。
- 所属ビジネスユニット
 - 職務タイプ
 - 従業員/仕入先
 - 職階
 - 説明

- 備考
12. [OK]をクリックします。
[OK]をクリックすると、ワークテーブル取引が作成され請求書の支払項目にマージされます。
 13. <請求書明細の改訂>で、[閉じる]をクリックします。
 14. <サービス請求書の入力>で請求書の支払項目にマージしたワークテーブル取引を検討するには、該当する請求書支払項目を選択し、[ロー]メニューから[請求明細]を選択します。

参照

- <サービス請求固定情報>フォームの仕訳の作成制御の設定については、『サービス請求』ガイドの「請求固定情報の設定」

クレジット・メモの作成

顧客に超過請求しており、その訂正内容を顧客勘定科目に反映させる必要がある場合は、クレジット・メモを作成します。通常、クレジット・メモには伝票タイプ RM が割り当てられます。クレジット・メモを手作業で作成する手順は、請求書を手作業で作成する手順と同じです。

取引明細テーブル(F0911)のマイナス金額の取引が処理された場合は、クレジット・メモが自動作成されます。

クレジットを既存のバッチまたは新規バッチ見出しに追加できます。また、クレジット・メモには、既存のワークテーブル取引を追加したり、アドホック・ワークテーブル取引を入力できます。顧客勘定残高を訂正するために、ワークテーブル取引に負の金額を指定することが必要になる場合があります。

▶ クレジット・メモを作成するには

<請求書の処理>メニュー(G48S21)から<バッチ検討>を選択します。

1. <バッチの処理>で、見出し域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. バッチ中にクレジット・メモを作成するには、そのバッチを選んで[選択]をクリックします。
3. <請求書の処理>で、[フォーム]メニューから[請求書の作成]を選択します。
4. <請求書の作成>で、次のフィールドに情報を入力します。

- 顧客
- 伝票会社
- 伝票タイプ

注:

伝票タイプには“RM”を入力します。この値により、この取引が売掛金元帳でクレジット・メモとして識別されます。

5. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。

- 請求開始日
 - 請求終了日
 - 元帳日付
 - 請求書日付
 - 為替レート基準日
6. [OK]をクリックします。

新しいクレジット・メモが〈請求書の処理〉フォームに表示されます。総額はまだ表示されていません。次に、このバッチに既存のワークテーブル取引やアドホック・ワークテーブル取引を追加できます。これらマイナス金額を持つワークテーブル取引も、通常の請求処理と同様に処理できます。

参照

- ワークテーブルとアドホック取引については、『サービス請求』ガイドの「請求書へのワークテーブル取引の追加」

予備的な請求書仕訳の作成

仕訳を作成して請求処理を完了します。このステップでは、まず〈仕訳の自動作成〉プログラム(R48131)を実行して、予備的な請求書仕訳を作成します。予備的な仕訳の作成時には、〈仕訳照合レジスタ〉レポート(R48300)が印刷されます。このレポートを慎重に検討し、取引明細テーブル(F0911)内に貸借不一致のレコードを作成するような請求書仕訳を作成していないことを確認します。

選択された請求書バッチに対してテスト用請求書仕訳が作成され、次に仕訳が集計されます。〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)実行の際には、集計された仕訳が使用されてテーブル F0911 に請求書仕訳の取引が作成されます。

集計仕訳は、売掛管理システムと一般会計システムの機能サーバーを使用して検証されます。集計済み仕訳ワークテーブル(F48S911)には、仕訳の貸借を一致させるために一時的に請求書集計済み取引が追加されます。

注意:

〈仕訳の作成〉プログラムは、バッチ・プログラムです。請求書バッチは 1 単位として処理されます。エラーが検出されると、請求書バッチはエラー状況に設定されます。エラー条件を修正した上で、〈仕訳の作成〉プログラムを再実行する必要があります。〈仕訳の作成〉プログラムは、すべてのエラーが修正されるまで必要な回数だけ実行できます。

請求書の仕訳を作成すると、次の処理が実行されます。

- サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)を更新する。[処理状況]フィールドを 3(仕訳の生成中)に設定する。
- この請求書バッチに関するレコード(前回作成した収益仕訳を含む)をサービス請求明細仕訳テーブル(F48S910)とサービス請求集計仕訳テーブル(F48S910)から削除する。この作業

により、バッチを削除せずに必要な回数だけ〈仕訳の作成〉プログラムを繰り返し実行できます。

- 請求書バッチ番号を使用してデータを選択する。請求 AAI を使って請求明細ワークテーブル(F4812)のワークテーブル取引が処理され、テーブル F48S910 に明細仕訳が作成されます。
- テーブル F48S910 の仕訳を集計しテーブル F48S911 に保存する。これらの仕訳が使用され〈売掛金仕訳の作成〉プログラム実行時にテーブル F0911 に仕訳が作成されます。
- 請求書集計ワークテーブル F4822 の請求書情報を基にテーブル(F48S911)を更新する。これらの仕訳は一時的なものであり、編集および〈仕訳編集レジスタ〉の貸借一致レポート印刷までの間のみ、テーブル R48S911 に残っています。〈売掛金仕訳の作成〉プログラムの実行時に、テーブル F4822 の仕訳を基に売掛金元帳(F03B11)に仕訳が作成されます。
- 総勘定元帳バッチを作成し、請求書仕訳に関連する収益または費用の再配賦仕訳を保存する。
- 売掛管理および一般会計システムのマスター・ビジネス関数の対話型バージョンを使用して、集計済み仕訳ワークテーブルに保存されている会計仕訳を検証する。
- このバッチから作成された仕訳の検討用に、〈仕訳照合レジスタ〉レポート(R48300)が印刷する。

注:

テスト請求書と最終請求書で別の請求書番号を割り当てている場合、予備的な請求書仕訳にはテスト請求書の伝票タイプと請求書番号が書き込まれます。テスト請求書の伝票タイプと請求書番号は、〈仕訳編集レジスタ〉レポートに表示されます。

- テーブル F48S911 からの仮の請求書仕訳を削除する。
- テーブル F48011 の[仕訳金額]と[仕訳伝票数]を更新する。さらに、バッチ状況が更新するとともに、このバッチに対して次の処理を行えるように、[処理状況]が 0(ゼロ)に設定されます。
- 処理中に発生するエラーを一覧表示するレポートを印刷する。

参照

- 請求 AAI を使用してワークテーブル取引が処理され明細仕訳が作成される方法については、『サービス請求』ガイドの「請求 AAI の処理」
- 収益認識中の仕訳の作成方法については、『サービス請求』ガイドの「予備的な総勘定元帳仕訳の生成」

▶ 予備的な請求書仕訳を作成するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチ検討〉を選択します。

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてバッチを検索します。

2. 特定バッチから予備的な請求書仕訳を作成するには、バッチを選択し、[ロー]メニューから[仕訳の生成]を選択します。

請求システム固定情報で〈日付の一時変更〉フォームが自動的に表示されるように設定してある場合は、請求書と請求書仕訳に割り当てる元帳日付と請求書日付を入力します。

3. [OK]をクリックします。

処理オプション:仕訳の自動作成(R48131)

デフォルト・タブ

仕訳の摘要の取込み元を指定します。

1. 仕訳摘要

blank = 勘定科目マスター摘要

1 = AAI テーブル記述

2 = 補助元帳の値記述

仕訳入力に使用する記述を指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 勘定科目マスターの記述を使用する

1 AAI(自動仕訳)テーブルの記述を使用する

2 補助元帳の値に関連する記述を使用する

バージョン・タブ

〈仕訳の自動作成〉プログラム(R48131)から実行する各プログラムのバージョンを指定します。

1. 仕訳編集レジスタ (R48300)

blank = XJDE0001

仕訳帳バッチ処理に使用する〈仕訳照合レジスタ〉のバージョンを指定します。blankにすると、バージョン XJDE0001 が使用されます。

2. 仕訳作成バージョン (R48132)

blank = XJDE0001

仕訳帳バッチ処理に使用する〈収益仕訳の作成〉のバージョンを指定します。blankにすると、バージョン XJDE0001 が使用されます。

一時変更日付の改訂

請求書は、最終的な仕訳の作成とは関係なく生成できます。請求書の生成時に、請求書日付と元帳日付を割り当てます。元帳日付や請求書日付は、最終仕訳の作成前であれば変更できます。

この機能を使用するのは、請求書の生成時に割り当てた当初日付と最終仕訳の作成日の関係で、売掛金元帳に正しい年齢調べ情報が表示されない場合です。

注:

請求書バッチでのみ一時変更日付を改訂できます。収益バッチではできません。

〈仕訳の作成〉プログラム(R48131)の実行時の〈日付の一時変更〉フォームの表示については、〈サービス請求固定情報〉で指定します。次のいずれかになるように固定情報を設定できます。

- 常にウィンドウを表示する
 - [日付の一時変更]を選択した場合にのみウィンドウを表示する
 - ウィンドウを表示しない
- [日付の一時変更]には、常に現在のシステム日付が表示されます。

▶ 日付を一時変更するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチ検討〉を選択します。

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチ検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. バッチ内の請求書に割り当てた請求書日付または元帳日付を変更するには、バッチを選択して、[ロー]メニューから[日付一時変更]を選択します。
3. 次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 請求書/伝票日付の一時変更
 - 元帳日付の一時変更

予備的な請求書仕訳の検討

予備的な売掛金仕訳および総勘定元帳仕訳を作成した後は、バッチ状況を検討することにより各仕訳が正常に作成されたかどうかを確認します。最終的な売掛金仕訳と総勘定元帳仕訳を作成する前に、〈仕訳照合レジスタ〉レポート(R48300)を検討することにより、仕訳情報を確認できます。このレポートには、集計仕訳が元帳日付別、伝票タイプ別、伝票番号別、ビジネスユニット別、主科目別、補助科目別、および補助元帳別に一覧表示されます。

また、予備的な総勘定元帳仕訳を作成した後も、〈仕訳照合レジスタ〉プログラム(R48300)を実行することにより、このレポートを再度印刷できます。

レポートにエラーが見つかった場合も、バッチの削除と請求書の再生成が必要になるとは限りません。エラーを修正して、〈仕訳の生成〉プログラム(R48131)を再度実行できます。一般的なエラーは、次のとおりです。

- 元帳日付が間違っているか、入力した勘定科目が未登録である。
- 請求 AAI で定義した規則に関連する主キー/副キー、または勘定科目が間違っている。

▶ 予備的な請求書仕訳を検討するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチ検討〉を選択します。

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. 特定バッチにある特定請求書の〈仕訳編集レジスタ〉を印刷するには、該当するバッチを選択し、[ロー]メニューから[仕訳照合レジスタ]を選択します。

処理オプション: 仕訳編集レジスタ(F48300)

バージョン・タブ

マスター・ビジネス関数(MBF)のバージョンを指定します。

1. 売掛管理マスタービジネス関数 (P03B0011)

売掛管理システムで使用する売掛管理マスタービジネス関数のバージョンを指定します。空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

2. 一般会計マスタービジネス関数(P0900049)

総勘定元帳システムで使用する元帳マスタービジネス関数のバージョンを指定します。空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

3. 買掛管理マスタービジネス関数(P0400047)

買掛管理システムで使用する買掛管理マスタービジネス関数のバージョンを指定します。空白にすると、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

最終請求書仕訳の作成

〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行し、サービス請求システムからの請求書情報を売掛管理システムおよび一般会計システムに転送することにより最終的な請求書仕訳が作成されます。請求システムは、請求書集計ワークテーブル(F4822)を基に顧客元帳テーブル(F03B11)を、集計済み仕訳ワークテーブル(F48S911)を基に取引明細テーブル(F0911)をそれぞれ更新します。請求システムは、売掛管理システムと一般会計システムの機能サーバーを使用して、すべての会計情報を検証します。

注意

1. 〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)はバッチ・プログラムです。請求書バッチは1単位として処理されます。エラーが検出されると、売掛管理および一般会計システムで請求書は作成されず、請求システムでは請求書バッチにエラー状況が設定されます。エラーを修正し、〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を再実行する必要があります。エラーによっては、〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を再実行する前に、〈仕訳の自動作成〉プログラム(R48131)の再実行が必要な場合もあります。〈売掛金仕訳の作成〉プログラムは、すべてのエラーが修正されるまで何回でも実行できます。エラーがなくなった時点で、請求書情報が売掛管理システムと一般会計システムに作成されます。

2. 〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行すると、請求書仕訳が売掛管理システムと一般会計システムに書き込まれます。次に、〈請求書の転記〉プログラム(R09801)を実行します。これにより、請求書取引は転記され、相手科目に仕訳が作成され、転記済みコードとバッチ状況が更新されます。取引を自動的に転記するには、〈売掛金仕訳の作成〉プログラムの処理オプションで、〈請求書の転記〉プログラムのバージョンを指定します。また、手作業による転記もできます。

〈請求書の転記〉プログラムのバージョンおよび〈売掛金仕訳の入力〉プログラムの処理オプションの各バッチ・タイプのバッチ状況を指定して、請求書バッチ、元帳バッチ、またはその両方を転記できます。

〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)の実行時にバッチにエラーが検出されたり、予備的な請求書仕訳が作成されていない場合は、〈仕訳の自動作成〉プログラムが実行されます。

エラーが検出されない場合は、次の処理が実行されます。

- 請求システムで割り当てられたバッチ番号をバッチ制御テーブル(F0011)に書き込む。バッチの通貨金額と伝票数も、テーブル F0011 の新規レコードに渡されます。
- テーブル F48S911 の仕訳を使用して、テーブル F0911 の取引を書込む。
- テーブル F4822 の仕訳を使用して、テーブル F03B11 の取引を書込む。

注:

予備および最終の請求書番号を使用している場合は、最終の伝票タイプと最終の請求書番号がテーブル F0911 および F03B11 の請求書と仕訳に割り当てられます。

-
- 契約請求システムを使用している場合は、契約収益集計ワークテーブル(F5280W)のレコードを基に契約収益集計テーブル(F5280)を更新する。
 - この請求書バッチの請求明細ワークテーブル(F4812)の取引を使用して、請求ワークテーブル履歴(F4812H)にレコードを書込む。

- テーブル F4812 からこの請求書バッチの取引を削除する。
- テーブル F4822 を更新する。請求書が売掛管理システムへ転送されたことが示されます。
- 請求固定情報で[請求書集計アクセス・テーブルの作成]をオンにしている場合は、請求書集計アクセス・テーブル(F48520)に請求書情報を書込む。
- 請求固定情報で[仕訳振替の制御]オプションがオンで、請求書仕訳の生成時に給与計算振替仕訳が検出された場合、給与仕訳再分類ワークテーブル(F48S0618)を使用して、取引を従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)にき込む。

注:

〈売掛金仕訳の作成〉プログラムは、多通貨時間会計に対応しています。

- 請求明細仕訳テーブル(F48S910)の仕訳を使用して、総勘定元帳リンク・テーブル(F48S912)にレコードを書込む。
- テーブル F48S910 でこの請求書バッチの取引を削除する。
- この請求書バッチの取引を集計済み仕訳ワークテーブル(F48S911)から削除する。
- テーブル F48S0618 でこの請求書バッチの取引を削除する。
- この請求書バッチの収益集計情報を契約収益集計ワークテーブル(F5280W)から削除する(契約請求の場合のみ)。
- この請求書バッチをサービス請求バッチ制御テーブル(F48011)から削除する。
エラーが検出された場合、バッチ制御テーブル(F0011)のレコードが削除され、テーブル F48011 のバッチ見出しレコードの[バッチ状況]がエラーを示す値になります。
- 見出しのみを含むレポートを作成する。レポートにエラーは印刷されません。明細情報は〈仕訳照合レジスタ〉レポート(R48300)または〈ワーク・センター〉を参照します。

参照

- 〈仕訳の作成〉プログラム (R48131)については、『サービス請求』ガイドの「予備的な請求書仕訳の作成」

▶ 最終的な請求書仕訳を作成するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチ検討〉を選択します。

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. 特定バッチから最終的な請求書仕訳を作成するには、バッチを選択し、[ロー]メニューから[A/Rの生成]を選択します。

請求システム固定情報で〈日付の一時変更〉フォームが自動的に表示されるように設定してある場合は、請求書と請求書仕訳に割り当てる元帳日付と請求書日付を入力します。

3. [OK]をクリックします。

処理オプション: 売掛金仕訳の作成(R48199)

デフォルト・タブ

留保金レコードの支払状況と支払期日を指定します。

1. 留保金支払状況

ブランク = 留保金保持は 'H' を使用

留保金レコードに割り当てる支払状況コードを指定します。有効な値は、ユーザー定義コード(00/PS)に定義されています。

ブランク = H(留保金の保留)を割り当てる

2. 留保金期日

ブランク = 世紀年の末日を使用

留保金レコードの支払期日を割り当てます。

ブランク = 現世紀の最終日付を基準に支払期日を計算するリース日付の西暦(上2桁)は、データ項目の世紀年(DCYR)を基準に計算されます。

バージョン・タブ

〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)から実行する各プログラムのバージョンを指定します。

1. 請求書仕訳作成バージョン (R483131)

ブランク = XJDE0001

仕訳バッチの処理に使用する〈仕訳の生成〉プログラム(R48131)のバージョンを指定します。

ブランク = XJDE0001

2. 受取手形バッチ(R03B671)のバージョン

ブランク = XJDE0007

前受金処理に使用する未収金バッチ受取手形の作成(R03B671)のバージョンを指定します。

ブランク = XJDE0007

3. 仕訳編集レジスタ(R48300)のバージョン

ブランク = XJDE001

〈仕訳照合レジスタ〉プログラム(R48300)のバージョンを指定します。ブランクにすると、XJDE0001 が使用されます。

4. 元帳自動転記のバージョン - 請求パッチ (R09801)

ブランク = 自動転記なし

請求書パッチの自動転記に使用する〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)のバージョンを指定します。ブランクにした場合、請求書パッチの自動転記は行われません。〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)をあとから実行することにより転記できます。

5. 自動実行する〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)のバージョン

ブランク = 自動実行しない

元帳パッチの自動転記に使用する〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)のバージョンを指定します。ブランクにした場合、元帳パッチの自動転記は行われません。〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)をあとから実行することにより転記できます。

バッチ承認タブ

〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)の実行時に請求書バッチを自動承認するかどうかを指定します。自動承認にすると、売掛管理システムおよび一般会計システム固定情報の[管理者承認必須]オプションの設定は無視されます。

1. 請求書バッチに割り当てるバッチ状況

ブランク = 買掛管理固定情報デフォルト

1 = 承認済み

このバッチ処理により生成される請求書バッチに適用するバッチ状況を指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 売掛管理固定情報で指定したバッチ状況

1 承認済み

2. 元帳バッチ承認

ブランク = 一般会計固定情報のデフォルト

1 = 承認済み

このプログラムにより生成されたすべてのバッチに割り当てるバッチ状況を指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 一般会計固定情報で指定した状況コード

1 = 承認済み

請求書バッチと関連する元帳バッチの転記

最終請求書仕訳を作成した後に、最終請求書仕訳を検討、承認し、取引明細テーブル(F0911)に転記して、請求処理全体を完了します。

転記処理中に次の処理が実行されます。

- 転記するレコードの選択
- 情報の検証とエラーの処理
- 相手科目の自動作成
- 取引の転記
- 転記済みコードとバッチ状況の更新

請求書バッチを転記すると、売掛金勘定の相手科目が自動的に作成されます。通常は、借方に売掛金勘定、貸方に収益勘定が記録されます。

最終請求書仕訳の作成時に関連する総勘定元帳バッチが作成されている場合は、この元帳バッチも転記する必要があります。

関連する仕訳バッチを転記すると、自動的に相手科目が作成され、テーブル F0911 のレコードが更新され転記されたことを示します。

〈請求書仕訳の検討〉プログラム(P0011)および〈請求書の転記〉プログラム(R09801)を使用して、請求書の仕訳を検討し転記します。これらは、一般会計システムで使用するのと同じプログラムです。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈請求書の転記〉を選択するか〈請求書の処理〉メニューから〈請求書仕訳の検討〉を選んで〈バッチの処理〉フォーム[ロー]メニューから[バッチ別転記]を選んで転記プログラムを実行できます。

選択する方法は、使用する転記方法によって異なります。〈請求書の転記〉をメニューから実行する場合は、次のことができます。

- すべての承認済みバッチをまとめて転記する。
- 手作業のデータ選択による転記

〈請求書仕訳の検討〉プログラムから転記する場合は、次のことができます。

- 自動データ選択を使って転記する
- 自動データ選択とサブシステムを使って転記する

これらの処理は、〈請求書仕訳の検討〉プログラムからのみ実行可能です。

参照

- 『売掛管理』ガイドの「転記処理」
- 仕訳の転記については『一般会計』ガイドの「仕訳の処理」

請求書の印刷

顧客宛の請求書を印刷するには、〈請求書の印刷〉プログラム(R48504)を使用します。このプログラムを使用して、テストまたは最終請求書を印刷します。どちらの請求書の場合も、印刷するタイミングによってテスト状況または最終状況が確定されます。〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行する前に印刷した請求書は、テスト請求書と見なされます。〈売掛金仕訳の作成〉プログラム実行後に印刷した請求書は、最終請求書と見なされます。

テスト請求書を印刷すると、プロジェクト管理者または会計管理者は、顧客宛に郵送する前に請求書情報が正確かどうかを確認できます。このテスト請求書情報は、請求明細ワークテーブル(F4812)から取り込まれます。エラーが検出された場合は、請求書を訂正できます。通常、請求書バッチ全体を削除する必要はありません。

提供した商品やサービスに関する最終請求書を印刷し、顧客に送付します。最終請求書の印刷時には、請求ワークテーブル履歴(F4812H)から請求書情報が取り込まれます。この処理は、必要に応じて請求書を再印刷するときにも使用できます。

売掛金仕訳を作成して元帳に請求書バッチを転記した後で最終の請求書を印刷することをお勧めします。売掛管理情報が処理された後に請求書を印刷すると、請求書に表示される情報は売掛金元帳の請求書情報と確実に一致します。

注意:

売掛金仕訳を作成して転記する前に最終請求書を印刷してしまうと、それを顧客に送付した後で請求書レコードを変更してしまうおそれがあります。

顧客宛での請求書を印刷する方法には、次の2つがあります。

自動 顧客への請求書の生成時に印刷します。この方法を使用すると、〈請求書の生成〉プログラム(R48S121)の実行時にバッチ内の請求書が印刷されます。

手動 請求書を生成後に印刷できます。この方法は、次の手順で行います。

- 既存バッチからの請求書の印刷
- 改訂済みの請求書を含むバッチの再印刷
- 過去のワークテーブル取引で請求処理を完了している請求書の印刷

請求書の自動印刷

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈請求書の生成〉を選択します。

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈請求書の生成〉を選択します。

請求書を生成時に印刷できます。たとえば、プロジェクト管理者が検討できるように、テスト請求書を印刷できます。バッチ内のすべての請求書が、処理オプションで指定した〈請求書の印刷〉プログラム(R48504)のバージョンを使って印刷されます。

はじめる前に

- ワークテーブル取引を生成します。『サービス請求』ガイドの「ワークテーブルの生成」を参照してください。
- 元帳クラスと留保金規則を定義します。『サービス請求』ガイドの「元帳クラスと留保金規則の定義」を参照してください。
- 請求書情報の順序/集計キーを定義します。『サービス請求』ガイドの「順序/集計規則の定義」を参照してください。
- ワークテーブル生成中に請求書を印刷する場合は、使用するバージョンを定義します。『サービス請求』ガイドの「請求書印刷バージョン相互参照テーブルの設定」を参照してください。
- 〈請求書の生成〉プログラム(R48121)の処理オプションで実行する〈請求書の印刷〉プログラム(R48504)のバージョンを指定します。『サービス請求』ガイドの「請求書の生成(R48121)の処理オプション」を参照してください。

請求書の手動印刷

請求書バッチの生成後に、請求書を印刷できます。次の方法を使用して、請求書印刷に使用する請求書バージョンを制御できます。

- 〈請求書の印刷〉プログラム(R48504)の処理オプション
- 〈サービス請求書の入力〉フォームの[請求書フォーマット・バージョン]フィールド
- 請求書印刷バージョン相互参照テーブル(F48S58)の[キー・タイプ]フィールドと[テーブル・キー]フィールド

〈請求書の印刷〉プログラムでは、[請求書フォーマット名]処理オプションまたは次の3つの処理オプションのすべてに値を入力します。

- 請求書バージョン UBE
- 請求書バージョン
- 請求書ワークテーブル明細選択

この処理オプションの指定に基づいて、テーブル F48S58 からフォーマットとフォーマット・コードが読み込まれます。

処理オプションに何も指定しなかった場合は、〈サービス請求書の入力〉フォームの[請求書フォーマット・バージョン]フィールドの値に基づいてテーブル F48S58 からフォーマットとフォーマット・コードが読み込まれます。

処理オプションを指定せず、〈サービス請求書の入力〉フォームの[請求書フォーマット・バージョン]フィールドが空白の場合、〈請求書印刷バージョン相互参照〉プログラム(P48S58)で指定したキー・タイプとテーブル・キーが使用されます。請求書集計ワークテーブル(F4822)のフィールドの次の階層が使用されて、バージョンが検索されます。

- 作業オーダー番号
- 作業オーダー・クラス

- 契約番号
- 親契約番号
- 顧客
- 作業またはビジネスユニット
- 職務分類
- 会社番号

バッチ全体ではなく、選択した請求書を印刷できます。そのためには、印刷処理中に指定する〈請求書の印刷〉プログラムのバージョンのデータ選択を使用します。たとえば、印刷内容の選択対象をビジネスユニットまたは請求書番号に限定できます。

次の例は、〈請求書の印刷-スマート・フィールド〉プログラム(R48507)のバージョン XJDE0002 で印刷された請求書です。

Remit To: 2200 West 14th Street Denver, CO 80237	Invoice Number 3045	Customer Number 150
	Invoice Date 6/30/2005	Purchase Order No.
Terms Net 30 Days	Work Order Number 00065041	
Due Date 7/30/2005	Ship To: 10000 East Gateway Blvd. Denver, CO 80207	Invoice To: 10000 East Gateway Blvd. Denver, CO 80207
Inquires To: (303) 56-6050		

Explanation -Remark-	Product Model	Item Number	Unit Price	Units	Tax Amount	Taxable Amount
Regular			31.25	40.00	0.00	2800.00
Cost of Money			31.25	0.00	0.00	96.00
Fringe			31.25	0.00	0.00	1232.00
Overhead			31.25	0.00	0.00	3225.60
Overtime 1.5			46.88	2.00	0.00	140.00
Cost of Money			46.88	0.00	0.00	2.90
Fringe			46.88	0.00	0.00	61.60
Overhead			46.88	0.00	0.00	161.28
Regular			15.00	40.00	0.00	4800.00
Cost of Money			15.00	0.00	0.00	96.00
Fringe			15.00	0.00	0.00	2112.00
Overhead			15.00	0.00	0.00	5520.60

Total Taxable Amount	20216.88
Total Component Amount	49907.52
Less Prepayment Amount	0.00
Total Tax Amount	0.00
Total Invoice Amount	70124.40

To assure proper credit, please return this portion with remittance in enclosed envelope

Invoice Number	Purchase Order Number	Customer Number	Due Date	Total Invoice Amount
3045		150	7/30/2005	70124.40

Remit To:
2200 West 14th Street

はじめる前に

- ワークテーブル取引を生成します。『サービス請求』ガイドの「ワークテーブルの生成」を参照してください。
- 請求書バージョンを定義します。『サービス請求』ガイドの「請求書印刷バージョン相互参照テーブルの設定」を参照してください。

▶ 請求書印刷バージョンを一時変更するには

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチ検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. 特定バッチにある請求書を検討するには、そのバッチを選択して[選択]をクリックします。
3. 〈請求書の処理〉で、改訂する請求書を選択して[選択]をクリックします。
4. 〈サービス請求書の入力〉で、次のフィールドに請求書印刷バージョンを入力します。
 - 請求書フォーマット・バージョン
5. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
請求書フォーマット・バージョン	請求書のフォーマットを識別するための判断するコード。 --- フォーム固有 --- 請求書またはバッチに対して、以前定義した他の請求書レイアウトを一時変更するのに使用する請求書レイアウトを識別するコードです。

▶ 請求書バッチを印刷するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチ検討〉を選択します。

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. 特定バッチの請求書を印刷するには、該当するバッチを選び、[ロー]メニューから[請求書印刷]を選択します。

処理オプション: 請求書の印刷(R48504)

選択タブ

請求書を最終形式で印刷するか下書き形式で印刷するかを指定します。

-
1. 請求書のフォーマットタイプ (必須)

請求書バージョン UBE および請求書バージョンを取得するときに使用する請求書のフォーマットタイプを指定します。

印刷タブ

使用する請求書印刷プログラムとバージョンを指定します。請求書フォーマット名を指定することもできます。

注:

請求書バージョン UBE、請求書バージョン、および請求書ワークテーブル明細選択の 3 つの処理オプションは、それぞれ組み合わせて使用されます。これらの処理オプションのいずれかに値を入力した場合は、他の処理オプションにも入力する必要があります。その他の方法として、[請求書フォーマット名]処理オプションのみに値を入力することもできます。

1. 請求書印刷プログラム

請求書印刷の相互参照テーブル(P4858)で設定された請求書印刷バージョンの代わりに使用する請求書印刷プログラムを指定します。

R48506 = 請求書印刷プログラム

R48507 = 請求書印刷プログラム(スマート・フィールド付き)

注:ここで請求書印刷プログラムを指定した場合、請求書印刷バージョンも指定する必要があります。

2. 請求書印刷バージョン

請求書印刷の相互参照テーブル(P4858)で設定された請求書バージョンの代わりに使用するよう
に上で指定した請求書印刷プログラムのバージョンを指定します。このフィールドは、処理オプションで請求書印刷プログラムを指定した場合のみ指定します。

3. 請求書ワークファイル明細フォーマット選択

請求書印刷時に、どのワークテーブルまたはワークテーブル履歴レコードを個々の行項目として処理するかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank 基本/間接費/追加料金レコード

- 1 基本レコードのみ
- 2 基本/間接費レコードのみ
- 3 基本/追加料金レコードのみ

またはフォーマット名を指定します。

4. 請求書フォーマット名

請求書印刷バージョン相互参照テーブル(F48S58)で設定するか契約マスター(F5201)から取り込んだ請求書フォーマット名を一時変更します。

通貨タブ

請求書に印刷する金額の通貨を指定します。

1. 通貨

請求書に金額を印刷する時の使用通貨を制御します。有効な値は次のとおりです。

blank 請求書に使用されている通貨で印刷する

0 国内通貨で印刷する

1 外貨で印刷する

注: この値は、[金額の取込み(Retrieve Amounts)]スマート・フィールドを使用して印刷する金額にのみ反映されます。

請求書履歴の処理

請求処理用の売掛金元帳と総勘定元帳のレコードを作成すると、請求処理を完了したワークテーブル取引は請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)に移動されます。最終請求書を処理し、これらの取引にアクセスできます。

最終請求書を処理するときに、必要に応じて請求書を検討できます。テーブル F4812 の取引を使用して請求書を再印刷できます。また、最終請求書を無効にすることも可能です。最終請求書を無効にすると、その請求書に含まれていた請求取引は、未請求状況になっているアクティブな請求明細ワークテーブル(F4812)に戻されます。その後、これらの未請求取引を再処理するか、未請求状況に変更できます。

取引の請求履歴の検討

請求書履歴にアクセスすると、最初に請求書番号が表示されます。これが特に役立つのは、特定の顧客に関する請求情報の検討を必要とする場合です。また、関連請求書が無効になっていない場合は、取引の請求詳細履歴も検討できます。

▶ 取引の請求履歴を検討するには

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈請求書実績の照会〉を選択します。

1. 請求書を検索するには、〈請求書履歴照会〉で次の1つまたは複数のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 補助元帳
 - 勘定科目コード
 - 顧客 No.
 - バッチ No.
 - 請求書 No.
2. 請求書レコードを選んで[選択]をクリックします。

注:

〈請求書履歴照会〉フォームの[留保金リリース]フィールドがRまたは0の請求書には金額および請求明細履歴はありません。

3. 〈明細履歴の処理〉で情報を検討します。

履歴からの請求書の印刷

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈請求書の印刷〉を選択します。

〈請求書の処理〉メニュー(G5221)から〈請求書の印刷〉を選択します。

請求処理が完了したワークテーブル取引は、請求ワークテーブル履歴(F4812H)に移動されます。〈請求書の印刷〉レポート(R48504)を実行すると、この履歴レコードを基に請求書を再印刷できます。たとえば、郵送中に請求書が紛失したが既に請求処理を完了している場合は、履歴から請求書を印刷できます。

注意:

印刷済み請求書のコピーは保存されません。請求書に関連付けられたバージョンを変更すると、次に印刷した請求書は以前に印刷した請求書とは異なる体裁になります。

参照

- 特定の顧客の請求情報の検討については、『サービス請求』ガイドの「取引の請求履歴の検討」

最終請求書の無効化

最終の請求書仕訳を作成後に、請求書を無効にできます。請求書を無効にすると、その請求書に含まれていたワークテーブル取引は未請求としてサービス請求明細ワークテーブル(F4812)に戻されます。その後、これらの取引を再処理するか、未請求状況に変更できます。

注意:

転記済みの請求書に未転記入金を引き当てた場合は、転記済み請求書を無効にする前に入金を無効にするか、逆仕訳する必要があります。転記済みの請求書に転記済み入金を引き当てた場合は、転記済み請求書を無効にする前に、入金を無効にして総勘定元帳に転記する必要があります。

請求書を無効にすると、次の処理が実行されます。

- 顧客元帳(F03B11)に返金レコードを作成する。
- 取引明細テーブル(F0911)に返金レコードを作成する。
- バッチ制御テーブル(F0011)のバッチ見出しレコードを更新する。
- 請求書集計ワークテーブル(F4822)の無効にした請求書情報を更新する。
- 請求書ワークテーブル履歴(F4821H)の無効にした請求書情報を更新する。
- テーブル F4812H の無効にしたワークテーブルの取引をテーブル F4812 にコピーして次の処理に進みます。

注:

契約請求システムでは、請求システム固定情報の[仕訳作成の制御]オプションとして[調整ありの請求書/収益]が選択されている場合は、タイム・アンド・マテリアル収益レコードと非タイム・アンド・マテリアル収益レコードがともにテーブル F4812 にコピーされます。

- サービス請求システムでは、請求書の保留された留保金額がリセットされます。
-

注意:

サービス請求システムで請求書を作成した場合は、サービス請求システムでその無効処理を行う必要があります。売掛管理システムで請求書を無効にしても、サービス請求システムのテーブルは更新されません。

未転記請求書を無効にすると、売掛金レコードと元帳レコードが削除され、売掛金取引と元帳取引、および請求書番号の監査証跡は作成されません。

転記済みの請求書を無効にすると、調整用の売掛金仕訳と振替仕訳が作成され、当初仕訳が逆仕訳されます。また、総勘定元帳バッチの状況は P(保留中)または A(承認済み)に変更されます。これらの調整仕訳のバッチ番号は〈請求書を無効にする〉フォームに表示されるので、そのバッチ番号を基にこれらの調整仕訳を転記する必要があります。

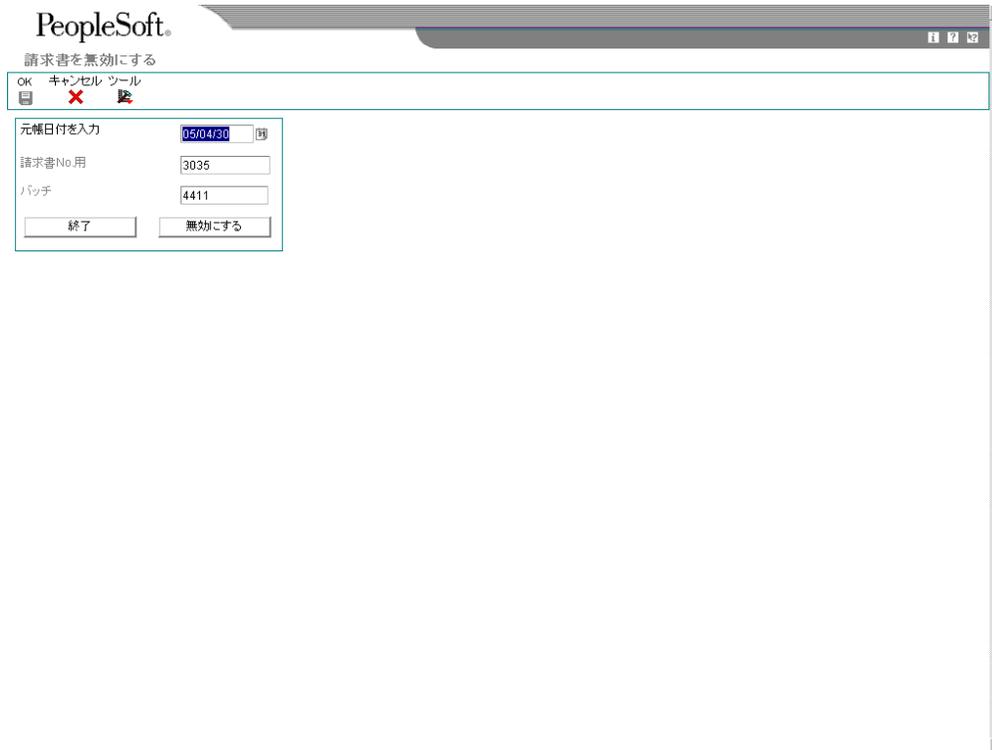
参照

- バッチ見出しの削除については、『一般会計』ガイドの「バッチ管理」

▶ 最終請求書(留保金なし)を無効にするには

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈請求書実績の照会〉を選択します。

1. 〈請求書履歴照会〉で、見出し域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックして請求書を検索します。
2. 無効にする請求書を選び、[ロー]メニューから[無効にする]を選択します。



3. 〈請求書を無効にする〉で、必要に応じて次のフィールドに情報を入力します。

- 元帳日付を入力

4. [無効にする]ボタンをクリックします。

〈請求書履歴照会〉フォームで、請求書の[無効]フィールドにVが設定されます。

▶ 最終請求書(留保金リリース済み)を無効にするには

留保金をリリース済みの最終請求書を無効にするには、留保金をリリースするために作成した留保金リリース請求書も無効にする必要があります。

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈請求書実績の照会〉を選択します。

1. 〈請求書履歴照会〉で、見出し域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックして請求書を検索します。
2. 無効にする最終請求書(留保金リリース済み)を選択して、[ロー]メニューから[無効にする]を選択します。
3. 〈請求書を無効にする〉で、必要に応じて次のフィールドに情報を入力します。
 - 元帳日付を入力
4. [無効にする]ボタンをクリックします。

〈請求書履歴照会〉で、請求書レコード(留保金あり)の[無効]フィールドにVが設定されます。

5. 無効にする留保金リリース請求書を選択して、[ロー]メニューから[無効にする]を選択します。

〈請求書履歴照会〉フォームで、留保金リリース請求書の[留保金リリース]フィールドにRが表示されます。

6. 〈請求書を無効にする〉フォームで、必要に応じて次のフィールドに情報を入力します。

- 元帳日付を入力

7. [無効にする]ボタンをクリックします。

〈請求書履歴照会〉フォームで、留保金リリース請求書の[無効]フィールドにVが設定されます。

注:

〈請求書履歴照会〉フォームの[留保金リリース]フィールドがRまたは0の請求書には金額および請求明細履歴はありません。

複数の請求書の留保金をリリースする1つの留保金リリース請求書を作成し、複数のうち1つの請求書を無効にした場合も、留保金リリース請求書を無効にする必要があります。この後で、無効にしていない請求書の留保金を再度リリースします。

留保金の処理

留保金とは、請求額に占める作業完了後に支払われる金額の割合です。たとえば、顧客への請求書の10%を留保金とすることができます。留保金のリリースは、作業が完了し、顧客への請求が保留にされていた金額の支払を顧客が承認したときに行います。

元帳クラス/留保金情報テーブル(F48128)に留保金の計算方法と仕訳規則を定義します。この情報は〈請求書の生成〉プログラム(R48121)の実行時に使用されます。計算結果および仕訳情報は〈サービス請求書の入力〉フォームで検討/改訂できます。

留保金の再計算

請求書金額に対する留保金の金額またはパーセントを入力すると、支払項目の留保金額が更新されます。次のような理由で、留保金を再計算する場合があります。

- 請求書ごとに留保金の金額/パーセントを変更した。
- 請求書にレコードを追加した。
- 留保金のある請求書を生成後に留保金規則を変更した。

留保金の計算規則は元帳クラス/留保金情報テーブル(F48128)に設定します。この規則は請求書生成中に留保金額を計算し、その相手科目を割り当てるのに使用されます。

▶ 留保金を再計算するには

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチ検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. 特定バッチにある請求書の情報を検討するには、そのバッチを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈請求書の処理〉で、請求書レコードを選んで[選択]をクリックします。

PeopleSoft.
サービス請求書の入力

OK 検索 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

バッチ No. 5455 会社 00050 USD
顧客 150 Property Management Company 外貨
請求書 No. 3044 RI 課税額
請求書日付 05/06/30 税額
元帳日付 05/06/30 非課税額 4,748.84
代替受取人 150 留保額
請求書フォーマットバージョン 請求金額合計 4,748.84
伝票会社 00050 請求書為替レート

グリッドのカスタマイズ

	支払項目	総額	課税対象額	税額	非課税金額	留保%	留保金額	割引可能額	税率/税減
<input checked="" type="checkbox"/>	001	4,748.84			4,748.84				
<input type="checkbox"/>									

4. 留保金を改訂するには、〈サービス請求書の入力〉フォームで、グリッドの次のフィールドのいずれかに値を入力します。
 - 留保%
 - 留保額
5. 留保金仕訳の相手科目を変更するには、次のフィールドを入力します。
 - 留保金元帳クラス

注:

[留保金元帳クラス]フィールドを指定しなかった場合は、売掛金勘定の AAI(自動仕訳)が使用されます。

6. [OK]をクリックします。

留保金のリリース

留保金のリリースは、作業が完了し、顧客への請求が保留にされていた金額の支払を顧客が承認したときに行います。留保金をリリースするには、請求を保留にしていた金額の支払項目を作成します。留保金支払項目は、既存の請求書に追加することも、新しい請求書として作成することもできます。留保金リリース請求書には、顧客への請求を保留にしていた金額がマイナスで表示されます。留保金の一部をリリースすることはできません。

J.D. Edwards では、請求書と留保金リリース請求書を 1 対 1 で対応させることをお勧めします。複数の請求書の留保金をリリースする 1 つの留保金リリース請求書を作成し、複数のうち 1 つの請求書とその留保金を無効にする場合、複数の請求書すべての留保金リリース請求書は無効にし、その後で残りの請求書の留保金を再度リリースする必要があります。

留保金リリース請求書を含む請求書バッチを生成した場合、バッチの合計額は請求書合計から留保金リリース金額がマイナスされた金額になります。

▶ 留保金をリリースするには

〈請求書の処理〉メニュー(G48S21)から〈バッチ検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、[フォーム]メニューから[バッチ作成]を選択します。
2. 新しく作成したバッチを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈請求書の処理〉で、[フォーム]メニューから[請求書の作成]を選択します。
4. 〈請求書の作成〉で、次のフィールドに情報を入力します。

- 顧客
- 伝票会社
- 請求開始日
- 請求終了日
- 元帳日付
- 請求書日付

5. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。

- 伝票タイプ°
- 為替レート基準日

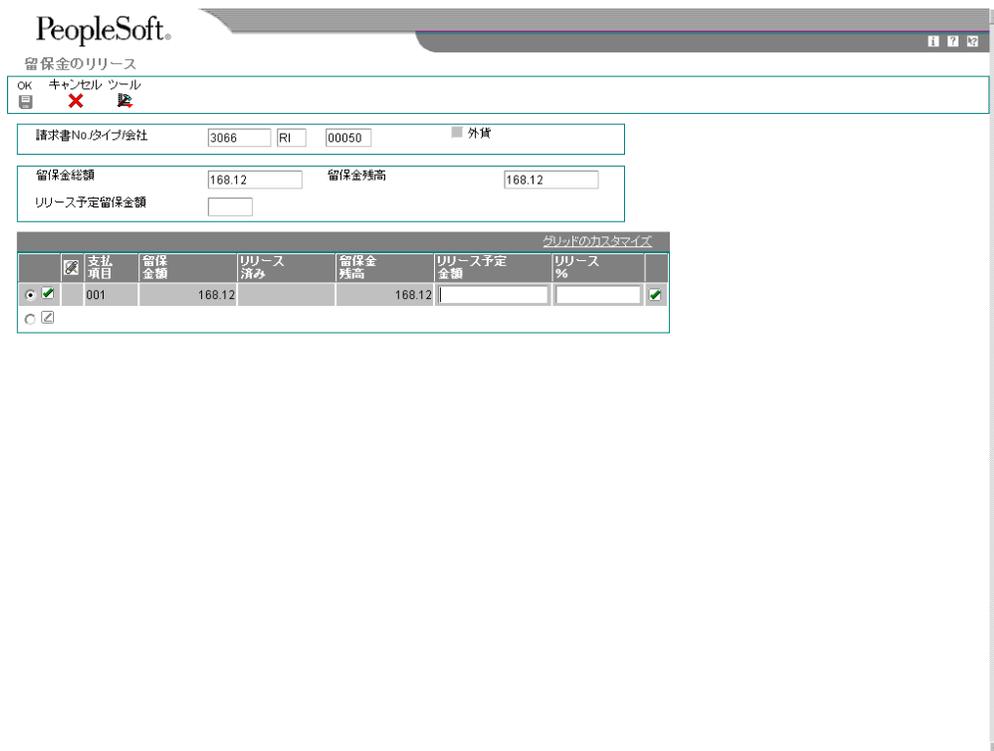
6. [OK]をクリックします。

新しい請求書が〈サービス請求書の入力〉フォームに表示されます。この時点では、総額はまだ表示されません。ここで、留保金リリース情報を入力します。

7. 〈請求書の処理〉で、新しい請求書を選んで、[ロー]メニューから[留保金のリリース]を選択します。



8. <請求書履歴照会>で、留保金をリリースする請求書を選んで、[ロー]メニューから[留保金のリリース]を選択します。



9. 〈留保金のリリース〉で、請求書全体の留保金のうちリリースするパーセントを見出し域の次のフィールドを入力します。

- リリース予定留保金額

10. 特定の支払項目の留保金をリリースするには、グリッドの次のフィールドに入力します。

- リリース予定金額
- リリース%

11. [OK]をクリックします。

〈請求書履歴照会〉フォームでは、請求書レコードの[留保金リリース]フィールドに I が表示されます。

参照

- 留保金のある請求書を無効にすることについては『サービス請求』ガイドの「最終請求書を無効にする」

収益認識

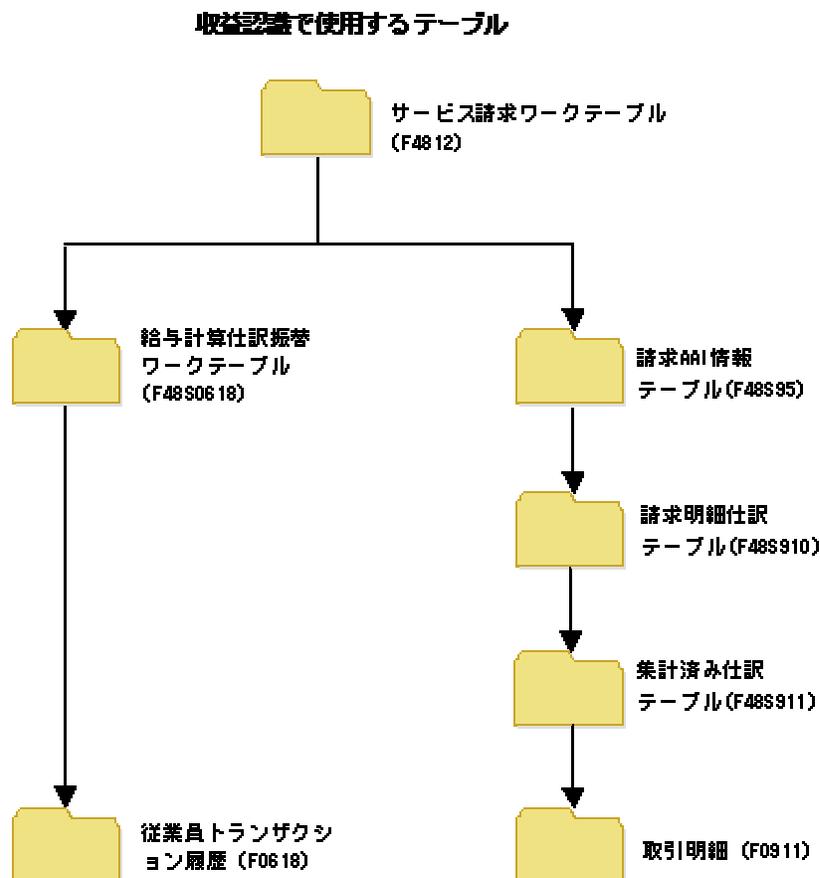
収益認識は、現金に限らず商品やサービスのやりとりにおいて、収益を資産の流入として定義する会計基準です。収益は、事前にではなく発生時点で認識する必要があります。収益認識を使用して、請求書を生成せずに収入に関する元帳仕訳を作成します。

通常は、次の状況で収益認識を使用します。

- 作業が完了し、収益が発生したが、まだ顧客に請求する必要がない。
- 会社の現在の財務状況を正しく示すために、発生した収益を損益計算書と貸借対照表に反映させる必要がある。
- 内部費用を再配賦する必要がある。

当期収益(実際または見越し)を計算するには、仕訳を作成する必要があります。収益の認識後は、これらの仕訳金額は損益計算書と貸借対照表に反映されます。認識した収益金額は、会社の特定の部門の損益見通しを立てるのに使用できます。

次の図は、収益認識に関係する主要なテーブル間の関係を示します。



収益認識の理解

収益認識を実行すると、取引明細テーブル(F0911)に収益、費用、マージンの仕訳が作成されます。〈請求固定情報〉プログラム(P48091)で、[仕訳振替の制御]オプションを有効にしてある場合は、訂正仕訳も作成されます。

請求システムでは、それぞれの会計業務の条件に最適なモードを選択できるように、多様な仕訳処理が用意されています。仕訳の作成モードは、〈サービス請求固定情報〉プログラムの[仕訳記録制御]タブの[仕訳作成の制御]オプションで指定します。次のモードがあります。

- 請求処理のみ** 収益を請求処理から切り離して認識する必要がない場合に使用します。
- 最終の請求書仕訳のテーブル F0911 への書込み時に、実際の収益が貸方計上され、〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)を使用してそれらを転記します。
- 収益処理のみ** 同じ組織の部門間でのみ請求処理を行い、売掛金元帳テーブル(F03B11)の顧客の売掛金レコードを更新する必要がない場合に使用します。
- 最終の元帳仕訳がテーブル F03B11 に記録され、それを〈仕訳の転記〉プログラムで転記する時点で、収益実績と部門間相殺勘定が貸方に記録されます。
- 収益を伴う請求** 収益を請求処理から切り離して認識できるようにする場合に選択します。
- 最終の元帳仕訳がテーブル F03B11 に記録され、それを〈仕訳の転記〉プログラムで転記する時点で、収益実績が貸方に、見越売掛金(未請求の売掛金)が借方に記録されます。
- 最終の請求仕訳がテーブル F03B11 に記録され、それを〈仕訳の転記〉プログラムで転記する時点で、見越売掛金が貸方に、売掛金勘定が借方に記録されます。
- 収益調整を伴う請求** 見越収益を請求処理から切り離して認識する場合、または請求書金額と切り離れた収益割増しを行い、割増し後の収益と見越収益の差額を請求処理の最後にクリアする場合に使用します。
- 最終の元帳仕訳がテーブル F03B11 に記録され、それを〈仕訳の転記〉プログラムで転記する時点で、見越(未請求)収益勘定が貸方に、見越売掛金(未請求の売掛金)が借方に記録されます。
- 最終の請求仕訳がテーブル F03B11 に記録され、それを〈仕訳の転記〉プログラムで転記する時点で、収益実績勘定が貸方に、見越収益勘定が借方に記録されます。

仕訳の自動作成のバージョンとモードの選択

〈仕訳の自動作成〉プログラム(R48132)を実行すると、元帳予備仕訳が作成されます。〈仕訳の生成〉プログラムの処理オプションで〈仕訳の作成〉プログラム(R48198)のバージョンを指定すると、取引明細テーブル(F0911)で最終の仕訳も作成されます。この処理オプションを空白にした場合は、テーブル F0911 で最終仕訳は作成されません。

テーブル F0911 で仕訳が作成されないため、〈仕訳の作成〉プログラムのバージョンを指定せずに〈仕訳の生成〉プログラムを実行すると、テスト・モードでの実行とみなされます。反対に、〈仕訳の作成〉プログラムのバージョンを指定して〈仕訳の生成〉プログラムを実行すると、最終モードでの実行とみなされます。

テーブル F0911 に最終仕訳を書込む前に会計上のエラーを検討するには、〈仕訳の生成〉プログラムをテスト・モードで実行します。検討を必要としない場合は、最終モードで実行します。

注:

最終モードでプログラム実行中にエラーが検出されると、エラーのバッチ状況が設定され、テーブル F0911 に最終の仕訳は作成されません。

仕訳の自動作成での対話型バージョンの使用

〈仕訳の自動作成〉プログラム(R48132)から、〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)が実行されます。〈仕訳編集レジスタ〉プログラムは、請求システムの仕訳の検証/更新を行います。実行する〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)のバージョンは、〈仕訳の自動作成〉プログラム(R48131)の処理オプションで指定します。

〈仕訳の作成〉プログラムで仕訳を処理する際、〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)の処理オプションで指定したマスター・ビジネス関数(MBF)のバージョンが使用されます。〈仕訳照合レジスタ〉プログラムの処理オプションを空白にした場合、マスター・ビジネス関数のバージョン ZJDE0001 が使用されます。

仕訳入力マスター・ビジネス関数の処理オプションを検討するには、〈システム・アドミニストレーション・ツール〉メニュー(GH9011)から〈対話型バージョン〉を選択して、対話型アプリケーションの〈仕訳入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P0900049)を検討します。

仕訳の種類

請求システムでは次の 2 種類のタイプの仕訳が処理されます。

- 準備仕訳は、次のテーブルに保存された検討用の仕訳です。
 - 請求明細仕訳テーブル(F48S910)
 - 集計済み仕訳テーブル(F48S911)
 - 給与計算仕訳振替ワークテーブル(F48S0618)
- 最終仕訳とは、請求システムにより取引明細テーブル(F0911)に保存された仕訳です。〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)を実行して、仕訳を転記する必要があります。

収益認識の伝票タイプ

収益認識を完了すると、次のような仕訳が作成されます。伝票タイプから、仕訳の作成元がわかります。

EU - サービス請求収益	〈仕訳の生成〉プログラム(R48132)の実行の際に作成される仕訳。
AJ - サービス請求の調整	以前に処理済みの仕訳に対して〈仕訳の生成〉プログラムを実行する際に作成される調整仕訳。
BA - 請求調整	一般会計システムから入力したソース取引の振替仕訳。
T2 - 給与計算の労務費配賦	給与計算システムでの労務費レコード変更により発生した振替仕訳。

T4 - 労務費請求配賦 労務費請求レコード変更により発生した振替仕訳。

T5 - 設備費配賦 給与計算システムの設備請求からの振替仕訳。

仕訳の振替

請求固定情報の仕訳振替の制御と〈ワークテーブルの改訂〉プログラム(P4812)の処理オプションで仕訳の振替を許可しておく、ワークテーブル取引の勘定科目を変更できます。

請求システムの仕訳振替機能を使うと、当初の費用勘定を別の勘定科目に変更した時に、取引明細テーブル(F0911)にその訂正仕訳を自動作成できます。

請求固定情報で[仕訳振替の制御]を有効にすると、仕訳の作成時にテーブル(F0911)に訂正仕訳が作成されます。

たとえば、従業員が同じ支払期間に2つの異なる作業オーダーについて時間を請求する場合があります。従業員が支払期間中の時間数を入力する時に、誤った情報を入力したとします。会計部門が給与計算取引を処理した後、金額を検討して従業員のデータ入力ミスに気づいたとします。

この場合、請求明細ワークテーブル(F4812)内のワークテーブル取引の作業オーダー番号を変更すれば、エラーを修正できます。仕訳振替を有効にしておく、〈仕訳の自動作成〉プログラム(R48132)の実行時に、収益および原価計算用のテスト仕訳と共に訂正仕訳が作成されます。テーブル(F0911)には、当初勘定科目の逆仕訳と新しい勘定科目の調整仕訳が作成されます。

訂正仕訳は、伝票タイプ(AJ)により識別できます。また、請求固定情報でPDBAコード一時変更を使用しない限り、標準支払を表す101など、ワークテーブル取引と同じ支払タイプ(PDBAコード)が振替仕訳に使用されます。

給与計算システムからのワークテーブル取引を修正する場合は、取引明細に調整仕訳が作成されるのみでなく、〈総勘定元帳仕訳の自動作成〉プログラム(R48198)の実行時に従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)にも調整仕訳が作成されます。これらの予備的な訂正仕訳は、〈仕訳の作成〉プログラム完了するまで、給与計算仕訳振替ワークテーブル(F48S0618)に保存されます。

関連する総勘定元帳バッチの処理

収益認識と請求処理は、別々に行うことも、まとめて行うこともできます。2つの処理をまとめて行う場合は、関連する元帳バッチが請求書バッチに割り当てられ、請求書仕訳に関連する総勘定元帳仕訳が請求書バッチに含まれます。

〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)を実行すると、関連する元帳バッチが取引明細テーブル(F0911)に、請求書仕訳が売掛金元帳(F03B11)および取引明細テーブル(F0911)に書き込まれます。

収益調整

収益認識/請求処理と同時に収益調整を行うことができます。収益調整は、認識収益と請求金額を一致させるために使用します。次のような状況では、認識収益と請求金額に違いがでる場合があります。

- 収益認識と請求処理を異なるタイミングで行った。
- 収益金額と請求金額を別々に割り増した。

収益認識と請求処理を異なるタイミングで行った場合の調整

収益認識と請求処理を異なるタイミングで行った場合、見越売掛金に差異が発生します。

たとえば、顧客が完成したプロジェクトを承認して検収した後ではじめて請求書を発行する予定だとします。プロジェクトは完成に3ヵ月必要で、収益は毎月認識するとします。プロジェクトの収益認識(毎月)と請求処理(完成後)のタイミングが異なるため、見越売掛金の残高に差異が発生します。

3ヵ月後にプロジェクト費用を請求する際、次のようになります。

- 実際売掛金勘定と収益勘定の残高はそれぞれ等しくなる。
- 見越(未請求)売掛金の残高はゼロになる。

収益認識と請求処理を異なるタイミングで行った結果発生する差異は最終的にはなくなり、見越売掛金はゼロになります。

収益金額と請求金額を別々に割り増した場合の調整

収益金額と請求金額に同じ割増規則を適用した場合、認識収益と請求金額は同じになるのが普通です。ただし、収益と請求の金額を別々に割り増した場合、これらの間の差額は常に存在し続ける可能性があります。

収益金額と請求金額を別々に割り増すが、これらの間の差異をなくしたい場合は、収益調整を使用することにより次のことが達成できます。

- 認識収益と請求金額が等しくなる。
- 見越売掛金勘定と見越収益勘定の残高がゼロになる。

たとえば、レンタル機器のレンタル料の値上げを要求するとします。新しいレンタル料は1時間あたり75.00ドルでも、割引が確定するまでは顧客には1時間あたり70.00ドル請求します。

2時間の設備レンタルの場合、請求額は140.00ドルになります。収益認識を新しいレンタル料で行うと、収益額は150.00ドルになります。収益調整を行わないと、見越(未請求)売掛金に10.00ドルの差異が発生します。

収益調整を行わない場合、次の仕訳が作成されます。

収益認識 (借)見越売掛金 150.00ドル、(貸)見越収益 150ドル

請求 (借)実際売掛金 140.00ドル、(貸)見越収益 140ドル

収益調整を使用すると、認識収益額と実際収益額がトラッキング、逆仕訳、および調整されます。上の例に対しては、貸方/借方にそれぞれ次の仕訳が作成されます。

収益認識 (借)見越売掛金 140.00ドル、(貸)見越収益 140ドル

収益調整 (借)見越収益 140.00ドル、(貸)見越売掛金 140ドル

(借)見越売掛金 150.00ドル、(貸)実際収益 150ドル

請求 (借)実際売掛金 150.00ドル、(貸)見越収益 140ドル

収益の逆仕訳

場合によっては、収益を逆仕訳する必要があります。たとえば、費用のみとして処理すべきところを、収益として認識してしまった場合です。

請求固定情報の[仕訳作成の制御]オプションで[調整なしの請求書/収益]が選択しており、取引の適格性コードが0(請求/収益用に使用可能)の場合、当初の収益仕訳を逆仕訳できます。

当初収益仕訳を逆仕訳するには、次の処理を行います。

1. 〈ワークテーブルの改訂〉プログラム(P4812)を実行し、取引の適格性コードを0(請求/収益用に使用可能)から4(原価のみに使用可能)に変更する。
2. 〈仕訳の自動作成〉プログラム(R48132)をテスト・モードまたは最終モードで実行し、上で変更したワークテーブル取引を含む新しい収益バッチを作成する。

この取引から以前に作成された仕訳を逆仕訳する伝票タイプAJ(サービス請求の調整)の伝票が作成されます。作成された仕訳は、〈仕訳編集レジスタ〉レポート(R48300)で確認できます。

例: 収益仕訳の逆仕訳

次に当初仕訳と調整仕訳を示します。

当初仕訳(伝票タイプ EU)

EU	収益	2,222.00-
EU	未請求売掛金	2,222.00
EU	処理中	2,222.00-
EU	売上原価	2,222.00

ワークテーブルの適格性コード変更(伝票タイプ AJ)後に作成される逆仕訳

AJ	収益	2,222.00
AJ	未請求売掛金	2,222.00-
AJ	処理中	2,222.00
AJ	売上原価	2,222.00-
EU	処理中	2,222.00-
EU	売上原価	2,222.00

注意:

最初に〈仕訳の生成〉プログラム(R48132)を実行した際に、原価 AAI4841(処理中 - 貸方)および 4842(売上原価 - 借方)が設定されるときに前述の仕訳が作成されます。ワークテーブル取引が最初に元帳に処理された後で原価 AAI が設定される場合は、当初の EU タイプが 4841 と 4842 勘定に存在していなくても AJ タイプが 4841/4842 勘定に作成されます。

予備的な総勘定元帳仕訳の生成

〈収益認識〉メニュー(G48S22)から〈仕訳の自動作成〉を選択します。

〈仕訳の生成〉プログラム(R48132)を実行すると、次の処理が行われます。

- データ選択と処理オプションの指定に基づいてワークテーブル取引を選択する。
- 請求固定情報で[仕訳振替の制御]オプションが選択されている場合は、福利厚生/見越明細テーブル(F0619)の当初取引および請求明細ワークテーブル(F4812)と請求ワークテーブル履歴(F4812H)の情報を使用して、給与計算仕訳再分類ワークテーブル(F48S0618)に振替仕訳を作成する。

注:

〈仕訳の自動作成〉プログラム(R48132)は、多通貨時間会計に対応しています。

- 請求 AAI を使って会計規則を読み込み、選択されたワークテーブル取引を処理する。
- 請求 AAI の会計規則を適用して、請求明細仕訳ワークテーブル(F48S910)に明細仕訳を作成する。
- テーブル F48S910 に保存された仕訳を集計し、集計済み仕訳ワークテーブル(F48S911)に集計済みレコードを保存する。
- 〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)を実行し、請求集計仕訳テーブル(F48S911)の集計仕訳を編集する。
- 処理中に発生するエラーを一覧表示するレポートを作成する。

注:

準備仕訳バッチを削除して、〈仕訳の生成〉プログラムを再実行できます。

参照

- [仕訳振替の制御]オプションについては、『サービス請求』ガイドの「請求固定情報の設定」

はじめる前に

- 請求 AAI を定義します。『サービス請求』ガイドの「請求 AAI の処理」を参照してください。

- 〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)の処理オプションで一般会計マスター・ビジネス関連のバージョンを指定します。『サービス請求』ガイドの「仕訳の自動作成での対話型バージョンの使用」を参照してください。

処理オプション: 仕訳の自動作成(R48132)

デフォルト・タブ

作成される収益仕訳に割り当てる元帳日付と摘要を指定します。

1. 元帳日付

blank = 元取引の元帳日付を使用

生成する収益仕訳の元帳日付を指定します。この日付は収益仕訳の生成時に割り当てられ、転記時に使用されます。blankにした場合、ソース取引の元帳日付が使用されます。この日付は、会社固定情報の現行会計期間と照合されます。

2. 仕訳記述

blank = 勘定科目マスターの記述を使用

1 = 請求 AAI テーブルの記述を使用

2 = 補助元帳値に関連付けられた記述を使用

仕訳に割り当てる摘要を指定します。有効な値は次のとおりです。

blank = 勘定科目マスター(F0901)の記述

1 = AAI テーブルの記述

2 = 補助元帳の値に関連付けられた記述

選択タブ

収益の準備仕訳を作成する請求明細レコードを選択する締切り日付を指定します。

1. 締切り日付

blank = システム日付

収益仕訳を生成する元になる請求明細取引を選択する際の締切り日付を指定します。収益仕訳を生成する際、テーブル基準日がここで指定した締切り以前の請求明細が選択されます。blankにした場合は、システム日付が使用されます。

バージョン・タブ

実行する〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)のバージョンを指定します。

1. 仕訳照合レジスタ(R48300)のバージョン

ブランク = XJDE0001

仕訳照合レジスタ(R48300)のバージョンを指定します。ブランクにした場合、XJDE0001 が使用されます。

処理タブ

仕訳を生成するかどうかを指定します。

仕訳作成バージョン (R48198)

最終モードで仕訳を生成するかどうかを指定します。〈仕訳の作成〉プログラム(R48198) のバージョンを指定します。ブランクにした場合、〈仕訳の作成〉プログラムは実行されません。

総勘定元帳バッチの処理

請求システムのバッチは、すべて〈バッチの検討〉プログラム(P48221)で処理します。取引を含むバッチを選択して、次の処理に進みます。バッチ処理のデフォルト・バージョンは処理オプションで指定できます。

注:

バッチを削除しても、バッチ番号の監査証跡は記録されません。バッチ番号は基本環境(システム00)の自動採番により割り当てられます。

請求システムのバッチ処理を適切に進めるために、バッチ見出しレコードの[処理状況]フィールドは、バッチの処理時に更新されます。たとえば、バッチを選択して〈仕訳照合レジスタ〉プログラム(R48300)を実行すると、[処理状況]フィールドはバッチが処理中であることを示す値に更新されます。その結果、〈仕訳照合レジスタ〉プログラム(R48300)が完了するまで、他のユーザーはこのバッチにアクセスできなくなります。処理の完了後には現行活動が0にリセットされ、バッチに対して次の処理が行えるようになります。

次の場合には、現行活動の設定を手作業でリセットする必要があります。

- バッチ処理が正常に完了しなかった場合。この場合は、[処理状況]はリセットされません。
- バッチを処理対象として選択した後で、〈レポート出力先〉フォームでバッチ処理を取り消した。

〈バッチの処理〉フォームの[ロー]メニューから〈バッチ見出しの改訂〉フォームにアクセスしてバッチの現行活動を改訂できます。たとえば、この操作が必要になるのは、〈仕訳の生成〉プログラム

(R48132)が停電のために正常終了しなかった場合などです。この場合、[処理状況]フィールドの値が処理中になり、バッチにアクセスできなくなるため、次の処理を進められなくなります。

参照

- バッチ見出しレコードの[処理状況]をリセットする方法については、『サービス請求』ガイドの「請求書バッチ見出し情報の改訂」

総勘定元帳準備仕訳の検討

〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)を実行すると、集計テスト仕訳を検証に使用できるレポートが印刷されます。このレポートにより、仕訳の確認も行えます。〈従業員ワークセンター〉プログラム(P012501)を使用して、レポートに表示されるエラー・メッセージを検討します。

▶ 総勘定元帳準備仕訳を検討するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈収益計上〉メニュー(G48S22)から〈バッチの検討〉を選択します。

〈収益計上〉メニュー(G5222)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. 特定のバッチのために〈仕訳編集レジスタ〉レポート(R48300)を実行するには、[ロー]メニューから[仕訳編集レジスタ]を選択します。

参照

- 『サービス請求』ガイドの「仕訳編集レジスタ(R48300)の処理オプション」

予備的な総勘定元帳仕訳の改訂

バッチ内の予備的な仕訳は、数が多くて複雑なため改訂が許可されていません。ただし、エラーを修正し、バッチのエラー状況をリセットすることはできます。エラーになったバッチの修正方法は、検出されたエラーの種類によります。

予備的な仕訳のバッチを作成すると、その予備的な仕訳がチェックされます。ここで検出されるエラーには次の2種類があります。

- 一般会計システムのセットアップ・エラー
- 請求システムのセットアップ・エラー

一般会計システムのセットアップ・エラー

一般会計システムのセットアップ・エラーは、一般会計システムのセットアップ情報が正しくない場合に発生します。通常、テスト仕訳を削除せずにエラーを修正できます。一般会計システムのセットアップ情報を修正してから、〈仕訳照合レジスタ〉レポート(R48300)を再実行します。テスト用仕訳が再度編集され、エラーがなければバッチ状況がエラー無しに更新されます。これは、最終的な仕訳を作成する準備が整ったことを意味します。

請求システムのセットアップ・エラー

請求システムのセットアップ・エラーは、請求システムのセットアップ情報が正しくない場合に発生します。請求システムのセットアップ・エラーを修正するには、予備的な仕訳バッチを削除し、請求システムのセットアップ情報を訂正する必要があります。訂正後は、予備的な仕訳を作成するために、〈仕訳の生成〉プログラム(R48132)を再度実行する必要があります。

注:

〈仕訳の生成〉プログラム(R48132)は、実行するたびに新しいバッチ番号を割り当てます。エラーがなければ、バッチ状況はエラー無しを示し、最終の仕訳の処理を進められます。

総勘定元帳最終仕訳の作成

取引明細テーブル(F0911)に最終仕訳を作成することにより請求システムでの収益認識が完了します。最終仕訳の作成は、〈仕訳の作成〉プログラム(R48198)により行います。最終の元帳仕訳を作成後に、〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)を使用してこれらの仕訳を転記する必要があります。最終的な仕訳を作成した後でそれらを自動的に転記するには、〈総勘定元帳仕訳の作成〉プログラム(R48198)の処理オプションで、実行する〈仕訳の転記〉プログラムのバージョンを指定しておきます。このプログラムは、後から手作業で実行することもできます。

最終の元帳仕訳を作成すると、次の処理が実行されます。

- サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)の情報を基に、一般会計システムのバッチ制御テーブル(F0011)にバッチ見出しレコードを作成する。
- 請求集計仕訳ワークテーブル(F48S911)の仕訳をテーブル F0911 に書き込む(最終仕訳)。
- 請求明細仕訳ワークテーブル(F48S910)のレコードを総勘定元帳リンク・テーブル(F48S912)に書き込む。
- ワークテーブル取引の仕訳状況を「仕訳作成済み」に更新する。
- 取引レコードの適格性コードが 0(収益/費用にのみ使用可能)または 4(費用にのみ使用可能)の場合は、サービス請求ワークテーブル(F4812)から請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)に移動する。
- サービス請求固定情報で[仕訳振替の制御]オプションがオンで、請求書仕訳の生成時に給与計算振替仕訳が検出された場合、給与仕訳再分類ワークテーブル(F48S0618)を使用して、取引を従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)に書き込む。

注:

〈仕訳の作成〉プログラム(R48198)は、多通貨時間会計に対応しています。

- テーブル F48S910、テーブル F48S911、およびテーブル F48S0618 の取引を削除する。
- テーブル F48011 のバッチ見出しレコードを削除する。
- 見出しのみを含むレポートを作成する。レポートにエラーは印刷されません。明細情報は〈仕訳照合レジスタ〉レポート(R48300)または〈従業員ワーク・センター〉プログラム(P012501)を参照する。

▶ 総勘定元帳最終仕訳を作成するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈収益計上〉メニュー(G48S22)から〈バッチの検討〉を選択します。

〈収益計上〉メニュー(G5222)から〈バッチの検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. 特定バッチの総勘定元帳最終仕訳を作成するには、バッチを選択し、[ロー]メニューから[仕訳の作成]を選択します。

処理オプション:仕訳の作成(R48198)

バージョン・タブ

〈仕訳の作成〉プログラム(R48198)から実行する各プログラムのバージョンを指定します。

1. 仕訳編集レジスタ(R48300)のバージョン

blank = XJDE0001

仕訳帳処理に使用する〈仕訳照合レジスタ〉プログラム(R48300)のバージョンを指定します。blankにすると、バージョン XJDE0001 が使用されます。

2. 仕訳の転記プログラム (R09801)のバージョン

blank = 自動転記なし

元帳バッチの自動転記に使用する〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)のバージョンを指定します。blankにした場合、元帳バッチの自動転記は行われません。標準の〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)をあとから実行することにより転記できます。

バッチ承認タブ

〈仕訳の作成〉プログラム(R48198)の実行時に総勘定元帳バッチを自動承認するかどうかを指定します。自動承認にすると、一般会計システム固定情報の[管理者承認必須]オプションの設定は無視されます。

1. バッチ承認

1 = バッチを承認に設定

このバッチ処理により生成される元帳バッチに適用するバッチ状況を指定します。有効な値は次のとおりです。

総勘定元帳バッチの転記

次のいずれかを選択します。

〈収益認識〉メニュー(G48S22)から〈仕訳の転記〉を選択します。

〈収益認識〉メニュー(G5222)から〈仕訳の転記〉を選択します。

総勘定元帳最終仕訳を作成した後に、最終仕訳を検討および承認し、取引明細テーブル(F0911)に転記して、収益認識の処理を完了します。

仕訳バッチの転記時に、テーブル F0911 に相手科目レコードが自動的に作成され、取引明細レコードが転記済みとして更新されます。

仕訳の検討および転記に使用するプログラムは、一般会計システムで使用するものと同じです。

〈仕訳の転記〉プログラム(R09801)を実行するために次の方法のいずれかを選択できます。

- 〈収益認識〉メニューから〈仕訳の転記〉を選択する。
- 〈収益認識〉メニューから〈仕訳の検討〉を選択して、次に〈バッチの処理〉フォームの[ロー]メニューから[バッチ別の転記]を選びます。この方法では、転記前にバッチを検討できます。

使用する転記方法によって手順は異なります。〈仕訳の転記〉メニューから転記する場合は、次の処理が行なえます。

- すべての承認済みバッチをまとめて転記する。
- 手作業のデータ選択による転記

〈仕訳の検討〉プログラムから転記する場合、次の処理を実行することができます。

- 自動データ選択を使って転記する
- 自動データ選択とサブシステムを使って転記する

これらの処理は、〈仕訳の検討〉プログラムからのみ実行可能です。

参照

- 仕訳の検討と転記については『一般会計』ガイドの「基本仕訳の処理」

サービス請求の伝票処理

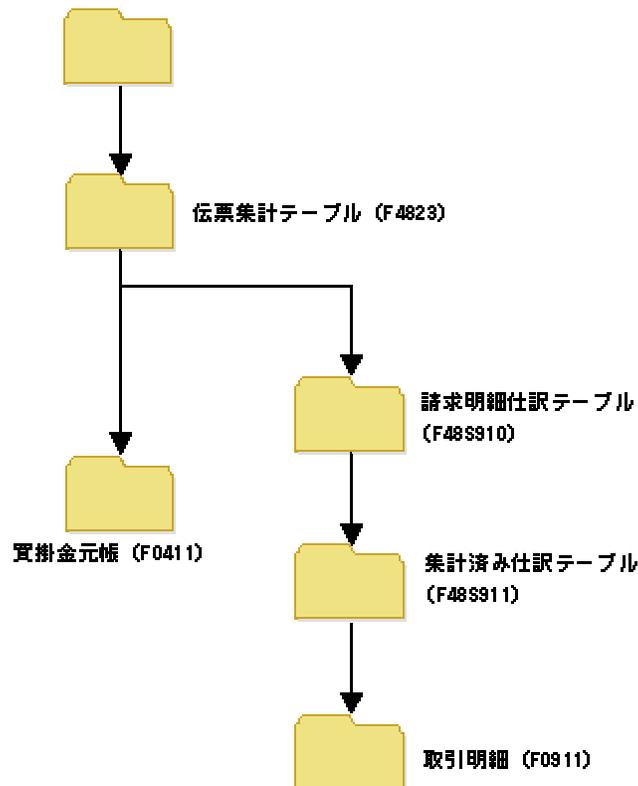
請求明細ワークテーブル(F4812)のワークテーブル取引は、最初にサービス管理システムで作成される時点ではすべて同じ一般的な取引です。伝票の作成に必要な主要情報が含まれていますが、伝票バッチとして区分するための伝票番号は割り当てられていません。

サービス請求システムでは、サービス管理システム用の伝票を自動または手作業で作成できます。〈伝票の処理 - S&WM のみ〉メニューから〈伝票の生成〉プログラム(R48122)を実行すると、伝票が自動的に作成されます。

サービス管理システムで伝票の作成に必要な情報を含むワークテーブル取引を作成した後は、伝票の生成ステップに進みます。

次の図は、伝票の処理に関する主要なテーブル間の関係を示します。

伝票処理に使用されるテーブル



サービス請求システムでの標準的な伝票作成は、次の手順で行います。

- 伝票の生成
- 伝票仕訳の作成
- 最終的な伝票仕訳の作成
- 伝票の転記

伝票の自動生成

〈伝票の処理(S&WMのみ)〉メニュー(G48S23)から〈伝票の生成〉を選択します。

〈伝票の処理 - S&WMのみ〉メニューから〈伝票の生成〉プログラム(R48122)を実行すると、請求明細ワークテーブル(F4812)から選択した取引が自動的に集計され、伝票集計テーブル(F4823)に書き込まれます。〈買掛金仕訳の作成〉プログラム(R48197)を実行する際に伝票集計テーブルの仕訳が使用され買掛金元帳(F0411)に取引が作成されます。

〈伝票の生成〉プログラムの実行時には、次の処理が実行されます。

- サービス請求バッチ見出しテーブル(F48011)に制御レコードを作成する。[現在の処理状況]フィールドが1に設定され、伝票の生成が処理中であることを示します。
- 処理オプションとデータ選択基準を使用して、テーブル F4812 の取引を選択および集計して、テーブル F4823 に保存します。ワークテーブル取引の伝票情報(バッチ番号、伝票番号、支払項目、伝票タイプ、伝票日付)を更新して、この取引が既に伝票に含まれていることを示す。
- 〈伝票の生成〉プログラム(R48122)の完了時に、サービス請求バッチ見出しテーブル(F48011)の見出しレコードのバッチ金額と伝票数を更新する。バッチの[現行の処理状況]フィールドが0に再設定され、このバッチのための追加処理が可能になります。
- 作成された伝票の一覧が表示されるレポートを作成する。

伝票仕訳の作成時の対話型バージョンの使用

〈仕訳の自動作成〉プログラム(R48131)から、〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)が実行されます。〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)は、請求システム内で仕訳のチェック/更新を行います。実行する〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)のバージョンは、〈仕訳の自動作成〉プログラム(R48131)の処理オプションで指定します。

〈仕訳の生成〉プログラムを実行して会計レコードを処理する際、〈仕訳編集レジスタ〉プログラムの処理オプションで指定した伝票入力および仕訳入力のマスター・ビジネス関数(MBF)のバージョンが使用されます。〈仕訳照合レジスタ〉プログラムの処理オプションをブランクにした場合、マスター・ビジネス関数のバージョン ZJDE0001 が使用されます。

伝票入力マスター・ビジネス関数と仕訳入力マスター・ビジネス関数の処理オプションを表示するには、〈システム・アドミニストレーション・ツール〉メニュー(GH9011)から〈対話型バージョン〉を選択して、次の対話型アプリケーションを検討します。

- 伝票入力 MBF 処理オプション(P0400047)
- 仕訳入力 MBF 処理オプション(P0900049)

はじめる前に

- 請求固定情報を定義します。『サービス請求』ガイドの「請求固定情報の設定」を参照してください。
- サービス管理システムでワークテーブル取引を生成します。『サービス請求』ガイドの「伝票ワークテーブルの生成」を参照してください。

処理オプション:伝票の生成(R48122)

処理タブ

データ選択および処理に使用する日付および会社を指定します。

1. 支払開始日付(必須)

デフォルトの支払開始日付を指定します。この日付はデータ選択で使用されるため、入力は必須です。

2. 支払終了日付(必須)

デフォルトの支払終了日付を指定します。この日付はデータ選択で使用されるため、入力は必須です。

3. 元帳日付

このアプリケーションで使用する元帳日付を指定します。

4. 伝票日付

このアプリケーションで使用する伝票日付を入力します。

5. 会社

このアプリケーションで使用する会社番号を指定します。

通貨タブ

使用する為替レートの日付を指定します。

1. 為替レート基準日(通貨処理のみ)

使用する為替レートの日付を指定します。この処理オプションは、通貨取引にのみ使用されます。有効な値は次のとおりです。

1 = 請求書日付

2 = 伝票の元帳日付

伝票バッチの処理

請求システムのバッチは、すべて〈バッチの検討〉プログラム(P48221)で処理します。バッチとはシステムで1単位として処理され、貸借が調整される取引のグループです。〈伝票の処理〉メニューから〈伝票の生成〉を選択すると、伝票バッチが作成されます。バッチ見出し情報は、請求バッチ見出しテーブル(F48011)に保存されます。

取引を含むバッチを選択して、次の処理に進めます。たとえば、プロジェクト管理者の検討用に伝票を印刷する場合に、バッチを検討して訂正できます。

バッチの処理は、バッチ見出しレコードの[処理状況]フィールドの値を使用して制御されます。[処理状況]フィールドは、バッチの処理中に更新されます。たとえば、バッチを選択して〈仕訳照合レジスタ〉プログラム(R48300)を実行すると、[処理状況]フィールドはバッチが処理中であることを示す値に更新されます。その結果、〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)が完了するまで、他のユーザーはこのバッチにアクセスできなくなります。処理の完了後には現行活動が0にリセットされ、バッチに対して次の処理が行えるようになります。

次の場合には、現行活動の設定を手作業でリセットする必要があります。

- バッチ処理が正常に完了しなかった場合。この場合、[処理状況]はリセットされません。
- バッチを処理対象として選択した後で、〈レポート出力先〉フォームでバッチ処理を取り消した。

〈バッチの処理〉フォームの[ロー]メニューから〈バッチ見出しの改訂〉フォームにアクセスしてバッチの現行活動を改訂できます。たとえば、この操作が必要になるのは、〈仕訳の生成〉プログラム(R48132)が停電のために正常終了しなかった場合などです。この場合、[処理状況]フィールドの値が処理中になり、バッチにアクセスできなくなるため、次の処理を進められなくなります。

注:

バッチを削除すると、基本環境(システム 00)の〈自動採番の改訂〉プログラム(P0002)から取り込まれるバッチ番号の監査証跡は保存されません。

伝票情報の検討

〈伝票の生成〉プログラム(R48122)を実行すると、伝票バッチが作成されます。また、ワークテーブル取引が次の情報で更新されます。

- バッチ番号
- 伝票番号
- 支払項目番号
- 伝票日付

伝票情報は、次のレベルで検討できます。

- バッチ状況記述や現行活動などのバッチ情報
- 選択したバッチの伝票
- 選択した伝票の支払項目
- 選択した支払項目のワークテーブル取引

▶ 伝票を検討するには

〈伝票の処理 - S&WM のみ〉メニュー(G48S23)から〈バッチ検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. 特定バッチにある伝票を検討するには、そのバッチを選んで[選択]をクリックします。

PeopleSoft.

伝票の処理

選択 検索 削除 閉じる フォーム ロー ツール

バッチ No. 5970

バッチ日付 02/04/02

グリッドのカスタマイズ

伝票 No.	顧客 No.	顧客名称	元帳日付	総額	基本通貨	外貨金額	当初通貨
<input type="checkbox"/>	3149	4347 S&J Contracting	05/06/30	51.90	USD		USD
<input type="checkbox"/>		Total		51.90			

3. 〈伝票の処理〉で、次のフィールドを検討します。

- 伝票 No.
- 顧客 No.
- 元帳日付
- 総額

4. 個々の伝票の明細を検討するには、その伝票を選んで[選択]をクリックします。

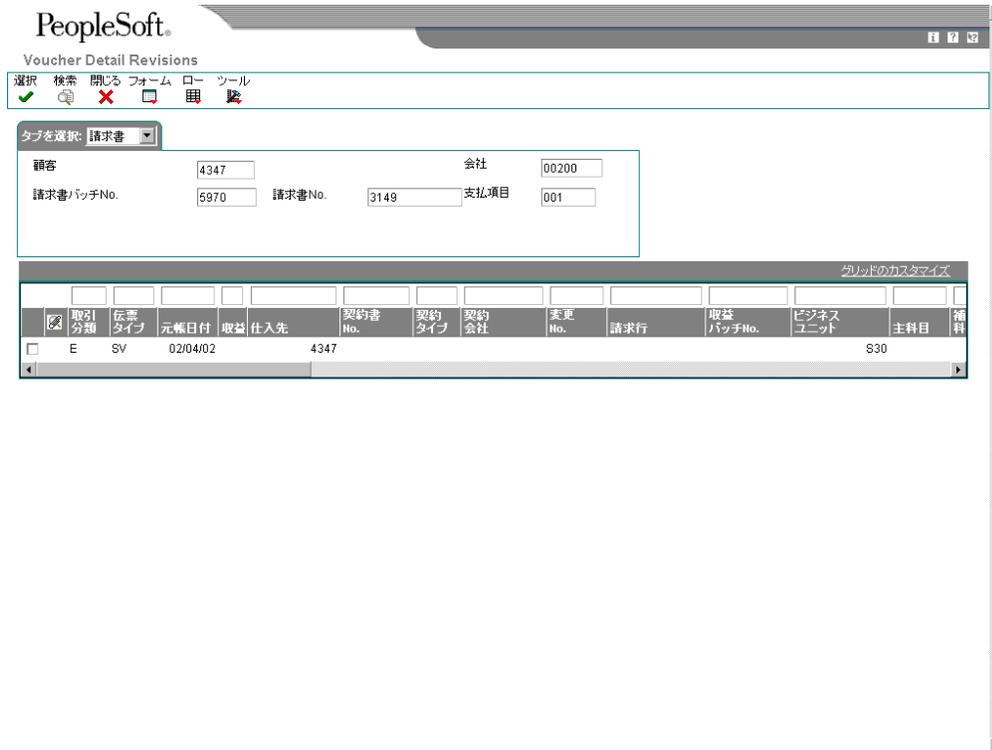
PeopleSoft.
サービス請求伝票の改訂

OK 検索 削除 キャンセル ロー ツール
閉 開 戻

バッチ No.	5970	会社	00200	USD
仕入先	4347	S&J Contracting	<input type="checkbox"/> 外貨	
伝票 NO.	3149	PV		
伝票日付	05/07/11	課税対象額	50.00	
元帳日付	05/06/30	税額	1.90	
代替受取人	4347	非課税金額		
伝票為替レート		合計伝票金額	51.90	

クリッドのカスタマイズ										
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	支払項目	総額	課税対象額	税額	税率/税域	税目コード	支払期日	支払条件	元帳クラス
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	001	51.90	50.00	1.90	CO	S	05/08/10		<input checked="" type="checkbox"/>

5. 〈サービス請求伝票の改訂〉で、次のフィールドを検討します。
- 支払項目
 - 総額
 - 課税対象額
 - 税額
 - 非課税金額
6. 支払項目に対応するワークテーブル取引を検討するには、その支払項目を選んで、[ロー]メニューから[請求明細]を選択します。



7. 〈Voucher Detail Revisions(伝票明細の改訂)〉で、ワークテーブル取引を検討します。

関連タスク

<p>伝票バッチのバッチ状況または現在の処理状況の改訂</p>	<p>生成プログラムが通電不良のため正常に完了しなかった場合は、バッチ状況または伝票バッチの現在の処理状況を改訂しなければならない場合があります。この場合、[処理状況]が生成中のままなので、そのバッチにアクセスできず、これ以上処理を進められません。[処理状況]の値を0(ゼロ)にすることにより、この伝票バッチにアクセスして処理を進めることができるようになります。</p> <p>バッチ状況または伝票バッチの現在の状況を改訂するには、〈バッチの処理〉で[ロー]メニューから[バッチ見出し]を選び、〈バッチ見出しの改訂〉フォームで[バッチ状況]および[現在の状況]フィールドに値を入力します。</p>
--	--

伝票情報の削除

伝票情報の検討時に、その減額や削除が必要になる場合があります。伝票の情報は、バッチ、伝票、支払項目、またはワークテーブル取引の4つのレベルで削除できます。たとえば、伝票の生成中に間違った伝票タイプが割り当てられた場合は、伝票バッチ全体を削除する必要があります。また、特定の伝票の支払項目からワークテーブル取引を削除する場合もあります。

伝票のバッチを削除すると、次の処理が実行されます。

- サービス請求バッチ見出しテーブル(F48011)の制御レコードを削除する。
- 買掛伝票バッチの取引を伝票集計テーブル(F4823)から削除する。
- 買掛伝票バッチの買掛伝票情報を請求明細ワークテーブル(F4812)から削除する。

- 買掛伝票バッチから予備的な仕訳が作成されている場合は、それらを請求明細仕訳ワークテーブル(F48S910)および集計済み仕訳ワークテーブル(F48S911)から削除する。

伝票のバッチを削除すると、次の処理が実行されます。

- F48011 レコードのバッチ合計金額から、伝票の総額を差し引く。
- テーブル F4823 から伝票の取引を削除する。
- テーブル F4812 の取引から伝票の伝票情報を削除する。
- 買掛金仕訳が作成されている場合は、バッチ見出しの[処理状況]をリセットする。このバッチ状況により、伝票仕訳が再実行されます。
- 買掛伝票バッチ内の最後の伝票レコードが削除された場合は、買掛伝票バッチそのものも削除する。

伝票から支払項目を削除すると、次の処理が実行されます。

- バッチ制御レコードのバッチ合計金額から、伝票支払項目の金額を差し引く。
- F4823 のその支払項目の取引を削除する。
- テーブル F4812 の取引からその支払項目の伝票情報を削除する。
- 伝票仕訳が作成されている場合は、バッチ見出しの[処理状況]をリセットする。このバッチ状況により、伝票仕訳が再実行されます。

伝票の支払項目からのワークテーブル取引の削除

伝票の支払項目に添付されているワークテーブル取引を削除すると、次の処理が行われます。

- バッチ見出しレコードに保存されているバッチ合計金額から、削除されたワークテーブル取引の金額を差し引く。
- 伝票集計テーブル(F4823)に保存されているその支払項目の伝票金額からワークテーブル取引の金額を差し引く。
- 請求明細ワークテーブル(F4812)の取引から伝票情報を削除する。
- 伝票仕訳が作成されている場合は、バッチ見出しの[処理状況]をリセットする。このバッチ状況により、伝票仕訳が再実行されます。

▶ 伝票の支払項目からワークテーブル取引を削除するには

〈伝票の処理 - S&WM のみ〉メニュー(G48S23)から〈バッチ検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. バッチを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈伝票の処理〉で、伝票を選んで[選択]をクリックします。
4. 支払項目に対応するワークテーブル取引を削除するには、〈サービス請求伝票の改訂〉で支払項目を選び、[ロー]メニューから[請求明細]を選択します。
5. 〈Voucher Detail Revisions(伝票明細の改訂)〉で、削除するワークテーブル取引を選び、[ロー]メニューから[伝票から削除]を選択します。

予備的な伝票仕訳の自動作成

請求システムでの買掛伝票処理の最終ステップは仕訳の作成です。このステップでは、まず〈仕訳の自動作成〉プログラム(R48131)を実行して、予備的な伝票仕訳を作成します。予備的な仕訳の作成時には、〈仕訳編集レジスタ〉レポート(R48300)が印刷されます。このレポートを慎重に検討し、取引明細テーブル(F0911)内に貸借不一致のレコードを作成するような最終の伝票仕訳を作成していないことを確認します。

選択した買掛伝票バッチから予備的な伝票仕訳が作成されます。ワークテーブル取引は、〈サービス契約ワークテーブルの生成〉プログラム(R1732)実行時に割り当てられる会計情報を使用して請求明細仕訳ワークテーブル(F48S910)に明細仕訳を作成します。次に、この明細仕訳が集計され、集計済み仕訳ワークテーブル(F48S911)に保存されます。〈買掛金仕訳の作成〉プログラム(R48197)実行の際には、集計された仕訳を使用してテーブル F0911 に伝票仕訳の取引が作成されます。

集計仕訳は、買掛管理(A/P)および一般会計(G/L)機能サーバーを使用して編集されます。集計済み仕訳ワークテーブル(F48S911)には、仕訳の貸借を一致させるために一時的に伝票集計済み取引が追加されます。

注:

〈サービス契約ワークテーブルの生成〉プログラムにより伝票処理用に作成されたワークテーブル取引は、会計規則を決めるのに請求 AAI は使用しません。会計規則は、〈サービス契約ワークテーブルの生成〉プログラム内で割り当てられます。

〈仕訳の作成〉プログラム(R48131)は、バッチ・プログラムです。買掛伝票バッチは 1 単位として処理されます。エラーが検出されると、伝票バッチはエラー状況に設定されます。エラー条件を修正した上で、〈仕訳の作成〉プログラムを再実行する必要があります。〈仕訳の作成〉プログラムは、エラーがなくなるまで何度でも実行できます。

〈仕訳の生成〉プログラムを実行すると、次の処理が実行されます。

- [現在の処理状況]フィールドを〈仕訳の自動作成〉が進行中であることを示す 3 に設定してバッチを更新する。
- テーブル F48S910 および F48S911 の伝票バッチのレコードを削除する。この作業により、バッチを削除せずに必要な回数だけ〈仕訳の作成〉プログラムを繰り返し実行できます。
- 伝票バッチ番号を使用してデータを選択する。〈サービス契約ワークテーブルの生成〉実行中に取引に割り当てられた会計情報を使用してテーブル F48S910 に明細仕訳が作成されます。
- テーブル F48S910 の取引を集計して、集計済み仕訳をテーブル F48S911 に記録する。〈売掛金仕訳の作成〉プログラム実行時に、その仕訳を使用してテーブル F0911 に仕訳が作成されます。
- 伝票集計テーブル(F4823)の情報でテーブル F48S911 が更新される。これらの仕訳は一時的なものであり、編集および〈仕訳編集レジスタ〉の貸借一致レポート印刷までの間のみ、テーブル R48S911 に残っています。〈買掛金仕訳の作成〉プログラムを実行する際にテーブル F4823 の仕訳が使用され買掛金元帳テーブル(F0411)に仕訳を作成する。
- テーブル F48S911 に保存された会計仕訳を、伝票入力 MBF 処理オプション(P0400047)および仕訳入力 MBF 処理オプション(P0900049)の対話型バージョンを使用して編集する。

- このバッチから作成された仕訳の検討用に、〈仕訳照合レジスタ〉レポート(R48300)を印刷する。
- テーブル F48S911 からの仮の伝票仕訳を削除する。
- バッチ見出しレコードの[仕訳金額]と[仕訳伝票数]を更新する。バッチ状況を更新して、現在の処理状況を 0 に設定し、バッチの追加処理ができるようにする。

▶ **予備的な伝票仕訳を自動作成するには**

〈伝票の処理 - S&WM のみ〉メニュー(G48S23)から〈バッチ検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉でバッチを検索します。
2. 特定バッチから予備的な仕訳を作成するには、バッチを選んで、[ロー]メニューから[仕訳の作成]を選択します。

予備的な伝票仕訳の検討

予備的な買掛金仕訳および総勘定元帳仕訳を作成した後は、バッチ状況を検討することにより各仕訳が正常に作成されたかどうかを確認します。最終的な買掛金仕訳と総勘定元帳仕訳を作成する前に、〈仕訳照合レジスタ〉レポート(R48300)を検討することにより、仕訳情報を確認できます。このレポートには、集計仕訳が元帳日付別、伝票タイプ別、伝票番号別、ビジネスユニット別、主科目別、補助科目別、および補助元帳別に一覧表示されます。

また、予備的な伝票仕訳を作成した後でも、〈仕訳編集レジスタ〉レポート(R48300)を実行することにより、このレポートを再度印刷できます。

エラーが検出されても、通常はバッチを削除してやり直す必要はありません。エラーを修正して、〈仕訳の生成〉プログラム(R48131)を再度実行できます。一般的なエラーには次のようなものがあります。

- 元帳日付が間違っているか、入力した勘定科目が未登録である。
- AAI で設定した勘定科目が未登録である。

▶ **予備的な伝票仕訳を検討するには**

〈伝票の処理 - S&WM のみ〉メニュー(G48S23)から〈バッチ検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出し域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. 特定の買掛伝票バッチの伝票情報を〈仕訳編集レジスタ〉レポート(R48300)に印刷するには、該当するバッチを選択し、[ロー]メニューから[仕訳編集レジスタ]を選択します。

参照

- 『サービス請求』ガイドの「仕訳編集レジスタ(R48300)の処理オプション」

最終的な伝票仕訳の作成

〈買掛金仕訳の作成〉プログラム(R48197)を実行すると、最終的な伝票仕訳が作成され、サービス請求システムの伝票情報が買掛管理システムおよび一般会計システムに転記されます。伝票集計テーブル(F4823)のレコードが買掛金元帳テーブル(F0411)に書き込まれ、集計済み仕訳ワークテーブル(F48S911)の仕訳が取引明細テーブル(F0911)に書き込まれます。すべての会計情報は、買掛管理(A/P)機能サーバーおよび一般会計(G/L)機能サーバーを使用して、検証されます。

〈買掛金仕訳の作成〉プログラムは、バッチ・プログラムです。買掛伝票バッチは1単位として処理されます。エラーが検出されると、買掛管理および一般会計システムに伝票は転送されず、伝票バッチにエラー状況が設定されます。エラーを修正し、〈買掛金仕訳の作成〉プログラムを再実行する必要があります。〈買掛金仕訳の作成〉プログラムは、すべてのエラーが修正され伝票情報が買掛管理システムと一般会計システムに転送されるまで何回でも実行できます。

注:

〈買掛金仕訳の作成〉プログラムは、伝票情報を買掛管理システムおよび一般会計システムに転送します。次に、〈伝票の転記〉プログラム(R09801)を実行します。これにより、取引は転記され、相手科目に仕訳が作成され、転記済みコードとバッチ状況が更新されます。

〈買掛金仕訳の作成〉プログラムの実行時にバッチにエラーが検出されたり、予備的な仕訳が作成されていない場合は、〈仕訳の自動作成〉プログラム(R48131)が呼び出されます。

エラーがない場合は、次の処理が実行されます。

- バッチ制御レコードをバッチ制御テーブル(F0011)を作成し、サービス請求システムで割り当てられたバッチ番号を割り当てる。バッチの合計金額と伝票数も、このバッチ・レコードに渡されます。
- テーブル F48S911 の仕訳を使用して、テーブル F0911 の取引を書き込みます。
- テーブル F4823 のレコードを使用して、テーブル F0411 に取引を書き込みます。
- テーブル F4812 の伝票バッチの取引で請求ワークテーブル履歴(F4812H)を更新する。
- テーブル F4812 から伝票バッチの取引を削除する。
- テーブル F4823 を更新して伝票が買掛管理システムへ転送されたことを示す。
- この買掛伝票バッチの明細レコードを請求明細仕訳ワークテーブル(F48S910)から削除する。
- テーブル F48S911 から伝票バッチのレコードを削除する。
- 買掛伝票バッチをサービス請求バッチ制御テーブル(F48011)から削除する。
- 見出しのみを含むレポートを作成する。

エラーがある場合は、次の処理が実行されます。

- テーブル F0011 からバッチを削除して、テーブル F48011 のレコードのエラー状況を設定する。
- その他のサービス請求テーブルは変更しない。
- 見出しのみを含むレポートを作成する。レポートにエラーは印刷されません。エラーの明細情報は〈仕訳照合レジスタ〉レポート(R48300)または〈従業員ワーク・センター〉プログラム(P012501)を参照する。

▶ 最終的な伝票仕訳を作成するには

〈伝票の処理 - S&WM のみ〉メニュー(G48S23)から〈バッチ検討〉を選択します。

1. 〈バッチの処理〉で、見出域のフィールドのいずれかに値を入力して、次に[検索]をクリックしてバッチを検索します。
2. 特定バッチの最終的な伝票仕訳を作成するには、バッチをハイライトして、[ロー]メニューから[仕訳の作成]を選択します。

処理オプション: 買掛金仕訳の作成(R48197)

バージョン・タブ

投入する〈仕訳の生成〉プログラム(R48131)と〈仕訳編集レジスタ〉プログラム(R48300)のバージョンを指定します。

1. 仕訳の生成(R48131)のバージョン

blank = XJDE0001

投入する仕訳作成レポートのバージョンを指定します。

2. 仕訳編集レジスタ(R48300)のバージョン

blank = XJDE0001

〈仕訳照合レジスタ〉プログラム(R48300)のバージョンを指定します。blankにすると、XJDE0001 が使用されます。

買掛伝票バッチの転記

〈伝票の処理(S&WM のみ)〉メニュー(G48S23)から〈伝票の転記〉を選択します。

最終伝票仕訳を作成した後に、最終伝票仕訳を検討、承認し、取引明細テーブル(F0911)に転記して、請求処理全体を完了します。

伝票のバッチを転記すると、次の処理が実行されます。

- 転記するレコードを選択する
- 情報の検証とエラーを処理する
- 元帳に買掛勘定の相手科目の仕訳を作成する。
- 取引を転記する。
- 転記済みコードとバッチ状況の更新

仕訳の検討および転記に使用するプログラムは、一般会計システムで使用するものと同じです。

次のどちらかの方法で伝票を転記できます。

- 〈伝票の転記〉を選択して〈伝票の処理 - S&WM のみ〉メニューから直接転記を始めます。
- 〈伝票の処理 - S&WM のみ〉メニューから〈伝票の検討〉を選択して、次に〈バッチの処理〉フォームの[ロー]メニューから[バッチ別の転記]を選びます。この方法では、転記前にバッチを検討できます。

使用する転記方法によって手順は異なります。〈伝票の転記〉プログラムから転記する場合は、次のことができます。

- すべての承認済みバッチをまとめて転記する。
- 手作業のデータ選択による転記

〈伝票仕訳の検討〉プログラムから転記する場合、次の処理を実行することができます。

- 自動データ選択を使って転記する
- 自動データ選択とサブシステムを使って転記する

これらの処理は、〈伝票仕訳の検討〉プログラムからのみ実行可能です。

参照

- 伝票の検討および転記については、『買掛管理』ガイドの「転記処理」

システム・セットアップ

請求システムを使用する前に、請求処理に関する固定情報と規則を定義する必要があります。システム固定情報で定義した情報と規則により、次の情報を設定します。

- ソース取引を請求 AAI、割増規則、税額決定規則により処理する際の日付(サービス/税日付、元帳日付、その他の有効日付)の扱い
- 請求 AAI による仕訳作成
- J.D. Edwards 給与計算および時間会計システムで入力された請求対象取引の処理

機能セットアップ

サービス請求システムには次のセットアップ機能があります。

請求固定情報

次のグローバル処理を制御します。

- 請求費用
- 顧客情報
- 日付
- 請求書
- 仕訳
- デフォルトの割増し

割増規則

間接費と利益を計上するために費用に追加する金額の計算を定義します。

請求 AAI

請求、収益認識、および再配賦のために仕訳取引の処理に使用する会計規則を定義します。

追加料金規則

金額と数量に基づいて計算する追加割増しを定義します。割増規則および請求 AAI は、追加割増しの定義にも使用されます。

元帳クラスおよび留保金規則

次の情報を識別する

- 売掛金情報の転記時に相手科目の仕訳を作成する勘定科目。
- 作業完了時まで請求を保留する請求書金額の一定パーセント。

税額決定規則

次の項目を定義します。

- 課税対象となるソース取引
- 税率または税域

AAI(自動仕訳)

会計情報と総勘定元帳の関係を定義します。

ユーザー定義コード

追加料金コードや調整理由など、システム用のカスタムコードを定義します。

請求システム固定情報の設定

請求システム固定情報には、ソース取引およびそれから作成する請求を会社としてどう処理するかを定義します。固定情報により、次の情報の処理方法が制御されます。

- 請求費用
- 顧客情報
- 日付
- 請求書
- 仕訳入力
- デフォルトの割増率
- 多通貨取引
- テスト請求書および最終請求書の番号付け
- 非 T&M 取引(契約請求のみ)の収益認識

設定した固定情報は、後から変更しないようにする必要があります。固定情報は、請求システム固定情報テーブル(F48091)に保存されます。

収益金額と請求金額を別々に割り増した場合の注意点

収益金額と請求金額を別々に割り増した場合、請求システム固定情報の[仕訳記録制御]タブの[仕訳作成の制御]オプションで[調整なしの請求書/収益]と[調整ありの請求書/収益]のどちらを選択するかによって、見越売掛金勘定と未収収益勘定の残高が異なってきます。

〈サービス請求固定情報〉フォームの[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションでは、ワークテーブル取引に対して計算された割増額が請求額と収益額に対する規則と同じ規則を使用する必要があるかどうかを指定します。[請求書/収益が異なることを許可する]オプションがオフで、[仕訳記録制御]タブの[仕訳作成の制御]で[調整なしの請求書/収益]が選択されている場合、見越売掛金勘定と実際の売掛金勘定の金額には常に差異が生じます。請求書金額と収益金額はいつも異なります。

[請求書/収益が異なることを許可する]オプションがオンで、[仕訳記録制御]タブの[仕訳作成の制御]オプションで[調整ありの請求書/収益]が選択されている場合、見越売掛金勘定と未収収益勘定の金額は調整されます。ただし、請求書金額と収益金額は同じである必要はありません。

次に請求システム固定情報の設定値と収益認識金額の関係を示します。

システム固定情報		収益認識の結果		
仕訳作成の制御	[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプション	収益金額	請求書金額	見越売掛金
調整なしの請求書/収益	オフ	等しい	等しい	差異なし
調整なしの請求書/収益	オン	異なる	異なる	差異
調整ありの請求書/収益	オフ	等しい	等しい	差異なし
調整ありの請求書/収益	オン	異なる	異なる	差異なし

注:

[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションがオフの場合は、請求書金額は常に収益額と同じです。[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションがオンの場合には、請求書金額と収益額は異なる場合があります。

はじめる前に

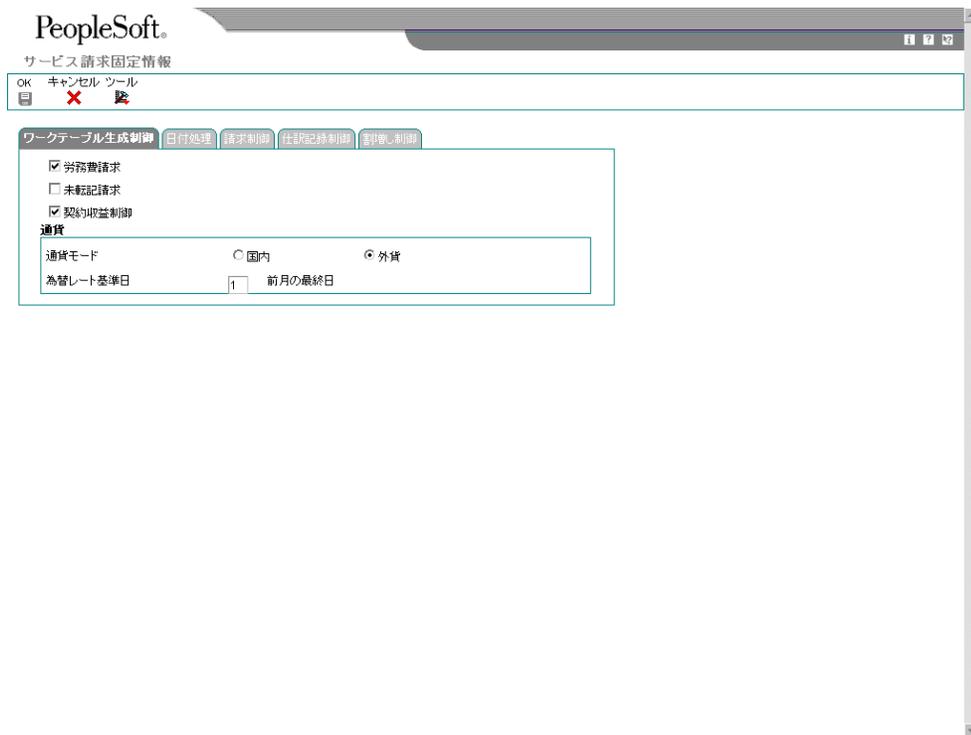
- 請求書のデフォルト伝票タイプが、ユーザー定義コード(00/DT)と(00/DI)に設定されていることを確認します。

▶ 請求システム固定情報を設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈システム・セットアップ〉メニュー(G48S40)から〈請求固定情報〉を選択します。

〈システム・セットアップ〉メニュー(G5240)から〈契約請求固定情報〉を選択します。



1. 〈サービス請求固定情報〉で、[ワークテーブル生成制御]タブを選択して次のオプションのいずれかをクリックします。
 - 労務費請求
 - 未転記請求

2. 非タイム・アンド・マテリアル請求行を収益認識する場合は、次のオプションをクリックします。
 - 契約収益制御
この指定は、契約請求システムにのみ適用されます。
3. 通貨モードを指定します。
4. 次のフィールドに値を入力します。
 - 為替レート基準日
5. [日付処理]タブで次の基準として使用する日付を指定します。
 - 有効基準日
 - 作業の有効基準日
 - サービス/税の基準日
6. [請求制御]タブで次の基準として使用する日付を指定します。
 - 顧客 No.基準
 - 請求書日付の一時変更
7. 請求書集計アクセス・テーブル(F48520)を作成して管理する場合は、[請求書集計アクセス・テーブルの作成]をオンにします。
8. テスト請求書と最終請求書で異なる請求書番号を使用する場合は、[請求書番号制御]オプションをオンにして、次のフィールドに値を入力します。
 - デフォルト請求書タイプ
9. [仕訳記録制御]タブで[仕訳作成の制御]オプションを指定します。
10. 仕訳振替を有効にするには、[仕訳振替の制御]オプションをオンにします。
11. 上限(NTE)処理を有効にするには、[最高限度(NTE)制御]オプションを有効にします(契約請求システムでのみ有効)。
12. 次のフィールドに値を入力します。
 - PDBA コード一時変更
13. [割増し制御]タブで、次のフィールドに情報を入力します。
 - デフォルト割増しパーセント

注:

割増しは、タイム・アンド・マテリアル取引にのみ使用します。

14. 請求書金額と収益金額をそれぞれ別に割増しする場合は、次のオプションを選択します。
 - 請求書/収益の金額が異なることを許可する
15. [OK]をクリックします。

参照

- 請求番号制御オプションについては、『サービス請求』ガイドの「テスト/最終請求書番号の設定」を参照してください。

フィールド記述

記述	用語解説
労務費請求	<p>間接労務費は、会社が従業員を雇用する際に負担する費用(たとえば、会社が支払う税金、保険、追加給付)です。これには、小規模の工具、消耗品、および直接労務費として配賦または評価されるその他の間接経費も含まれません。</p> <p>サービス請求システムおよび契約請求システムでワークテーブルを生成する際に間接労務費を含めるかどうかは、請求間接労務費固定情報で制御します。間接労務費を含める場合には、次の事に注意してください。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 請求対象の給与計算取引に関連するすべての間接労務費が処理されます。・ 間接労務費勘定科目は請求用の勘定科目である必要があります。 <p>有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">0 = 間接労務費を含める1 = 間接労務費を含めない
未転記請求	<p>サービス請求と契約請求用のワークファイルの作成時に取引明細テーブルの未転記の請求対象取引を含めるかどうかを指定するコード。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none">0 = 取引明細テーブルの転記済みの請求対象取引のみを処理する。1 = 取引明細テーブルの未転記と転記済みの両方の請求取引を処理する。 <p>注:未転記の請求対象取引は、変更または削除される可能性がありますので、通常はワークファイルの作成時には未転記取引を含めないようにしてください。ただし、原価入力と請求書の入力をほぼ同時に行う場合は、未転記取引も含めてワークファイルを作成したほうが便利な場合があります。</p>
契約収益制御	<p>請求処理の前にタイム・アンド・マテリアル契約請求行以外の行に対して、収益認識のために請求明細取引を作成するかどうかを指定するオプション。非T&M契約請求行の収益を認識するための請求明細取引を作成する場合は、このオプションをオンにします。</p> <p>注:タイム・アンド・マテリアル契約請求行以外の行に対して請求明細取引を作成する場合、次の処理が実行されます。</p> <ul style="list-style-type: none">○ ワークテーブル生成時に一括請求行と単価請求行の収益金額が生成される○ 収益の作成時に手数料請求行に対する収益金額が生成される

為替レート基準日

為替レートを取り込む日付を指定する固定情報です。

有効な値は次のとおりです。

- 1 = 前月の最終日付を使用する。
この日付は会社の期間パターンを基準にして決められます。
- 2 = 請求原価(ソース)取引の日付を使用する。
この日付は、請求固定情報の有効日付基準と作業有効日基準の値に基づいて決められます。
- 3 = システム日付を使用する。
(高インフレ経済で操業している場合のみ使用してください)

注: サービス請求モジュールでは、請求明細取引を作成するワークファイル生成時の為替レートと、請求書生成時の為替レートの2通りの為替レートを使用できます。この指定は、ワークテーブル生成に関係します。この値は、請求書の作成時に一時変更できます。

有効基準日

テーブルの有効日付を比較する際に、請求可能ソース取引の元帳日付を使用するか、サービス/税日付を使用するかを指定するコード。有効な値は次のとおりです。

- 1 元帳日付
- 2 サービス/税日付

注: サービス請求システムおよび契約請求システムでは、請求処理の際、請求料金/割増しテーブル(F48096)と勘定科目決定基準テーブル(F48126)が使用されます。この日付範囲によって、テーブル情報の有効期間を制御することができます。

作業の有効基準日

テーブルの有効日付を比較する基準として使用する日付を指定するコード。日付は給与計算システムで発生する請求可能ソース取引の日付である必要があります。有効な値は次のとおりです。

- 1 元帳日付
- 2 サービス/税日付
- 3 作業日
- 4 支払期間終了日
請求処理を給与計算システムと連動させない場合、このコードは無視されます。

注: サービス請求システムおよび契約請求システムでは、請求処理の際、請求料金/割増しテーブル(F48096)と勘定科目決定基準テーブル(F48126)が使用されます。この日付範囲によって、テーブル情報の有効期間を制御することができます。

サービス/税の基準日

サービス/税日付として元帳日付を使用するか、売掛取引の請求書日付を使用するかを指定する固定情報。有効なコードは次のとおりです。

- 0 = 元帳日付
 - 1 = 請求書日付
-

顧客 No.基準

取引に対して請求を行うためには、すべてのワークファイル取引に取引先番号が含まれている必要があります。それぞれの作業または作業オーダーの顧客番号を指定する必要があります。

サービス請求システムの場合、請求明細取引に対して、どの顧客番号を検索するかを指定する定数です。有効な値は次のとおりです。

0 作業マスター(F0006)の所有者住所番号。

1 作業オーダーマスター(F4801)の顧客番号。ブランクにした場合、作業マスターから所有者住所番号が検索されます。

このフィールドを"0"に設定して作業の顧客番号を指定しなかった場合、顧客番号なしの請求書が作成されます。〈単一ビジネスユニット〉フォームにある住所録番号は顧客番号ではありません。

請求書日付の一時変更

請求仕訳生成および買掛管理／総勘定元帳プログラムを使用して、請求書日付、元帳日付を一時変更できるかどうかを決定する固定情報。有効な値は、次のとおりです。

0 = 日付一時変更ウィンドウにアクセスできません。

1 = 日付一時変更ウィンドウはオプションです。

2 = 日付一時変更ウィンドウは自動的に表示されます。

--- フォーム固有 ---

〈請求書仕訳の生成〉および〈売掛仕訳および振替仕訳の作成〉プログラムを使用する際に、請求書日付および元帳日付を一時変更できるかどうかを指定する固定情報。有効な値は次のとおりです。

0 = 日付の一時変更ウィンドウにアクセス不可にする

1 = 日付の一時変更ウィンドウにアクセス可能にする

2 = システムが日付一時変更ウィンドウを自動的に表示する

請求書集計アクセス・テーブルの作成

〈請求書集計アクセス〉テーブル(F48520)が作成され、保守管理されるかどうかを決定する固定情報。このテーブルには、元帳日付、従業員／仕入先、費用勘定科目番号、および契約所有者支払項目別に集計された累計請求金額が含まれます。このテーブルを保守管理する場合、十分なディスクスペースが必要です。集計された請求情報は、サービス／契約請求の請求書に請求額累計を表示するなど、さまざまな報告目的に使うことができます。有効な値は次のとおりです。

ブランク ファイルの作成および保守管理を行う。

1 ファイルの作成および保守管理を行わない。

請求累計額所有者支払項目別に請求書集計テーブル(F4822)に保管されません。請求書集計アクセステーブル(F4822)には、請求書集計テーブル(F4822)よりも詳細な請求類型額が保管されます。

--- フォーム固有 ---

システムが請求書集計アクセス・テーブル(F48520)を作成して使用するかどうかを指定する固定情報。

このテーブルには元帳日付、従業員／仕入先、原価勘定番号および契約所有者の支払項目別に集計された累積請求金額が含まれます。このテーブルを使用する場合は、さらにディスク容量が余分に必要です。集計請求情報は、レポートにサービス/契約の請求書上に請求日までの累計金額を表示する場合などに使用できます。

有効な値は次のとおりです。

ブランク = 使用しない

1 = 使用する

請求書番号制御

下書きと最終という2つの伝票タイプおよびそれに対応する請求書番号を使用するかどうかを指定するオプション。これは、スキップのない連番で請求書番号を使用する規則のある国に対応するものです。請求書番号を連番にする場合、少なくとも2つの伝票タイプを使用する必要があります。この場合、まず伝票タイプ「下書き」で伝票を作成し、最終的な売掛金仕訳または元帳仕訳を作成する段階で伝票タイプ「最終」の仕訳を作成します。有効な値は次のとおりです。

- 0 「下書き」および「最終」の請求書に対して、同じ請求書タイプと番号を使用する
- 1 「下書き」および「最終」の請求書に対して、異なる請求書タイプと番号を使用する

デフォルト請求書タイプ

請求書入力用のユーザー定義(00/DI)。請求書入力専用を設定する伝票タイプは、文字 R(売掛金)で始まる必要があります。デフォルト値は RI、RR または RM となります。買掛伝票、請求書、入荷確認書およびタイムカード入力用に伝票タイプが予約されています。

予約済み伝票タイプは次のとおりです。

- P - 買掛金伝票
- R - 売掛金伝票
- T - 給与計算伝票
- I - 在庫伝票
- O - オーダー処理伝票

注: 請求書入力用に伝票タイプ DI が使用されている場合は、ユーザー定義コードで伝票タイプ DT も設定する必要があります。

仕訳作成の制御

サービス請求および契約請求システムで仕訳生成を制御する固定情報。有効なコードは次のとおりです。

- 1 = 請求処理のみ
- 2 = 収益認識処理のみ
- 3 = 収益調整を必要としない収益認識および請求書処理
- 4 = 収益調整を必要とする収益認識および請求書処理

次の機能も使用可能です。

- ・ 請求明細取引の適格性コード(ELGC)の初期値
- ・ 勘定科目決定基準テーブル画面で情報を入力した時のテーブルタイプ(TBTY)の編集

仕訳振替の制御

仕訳の生成する際に仕訳を振り替えるかどうかを指定する固定情報。有効な値は次のとおりです。

- 0 = 仕訳を振り替えない
- 1 = 仕訳を振り替える

注: サービス請求/契約請求では、〈仕訳振替〉を使用すると、当初仕訳を別の勘定科目に振り替え、自動的に取引明細(F0911)に修正仕訳が作成できます。たとえば、給与計算で入力された請求料金仕訳を修正する場合、給与計算トランザクション履歴(F0618)に調整仕訳が作成されます。

最高限度(NTE)制御

契約請求で上限(NTE)処理を行うかどうかを指定するオプション。上限(NTE)処理を行う場合はこのオプションをオンにしてください。

PDBA コード一時変更

当初の給与取引の支払タイプを一時変更するコード。このコードは、仕訳振替時に給与履歴調整取引を作成するのに使用されます。

注: 支払タイプの番号は 1 から 999 までです。

デフォルト割増しパーセント	収益用の割増し計算に使用する割増し率で、専門技能サービス(製図、エンジニアまたはコンサルタント料など)の請求額に反映されます。この割増し率は、従業員の給与計算には影響しません。この割増し率は、請求料金/割増しテーブル(WorldSoftwareでは原価割増しテーブル)で、生成タイプ1(収益/請求書の割増しレート・テーブル)として設定します。入力するパーセント値は整数で入力してください。たとえば50.275%は"50.275"と入力します。
請求書/収益の金額が異なることを許可する	請求明細取引の収益額と請求額を別々に割増しできるかどうかを指定するオプション。このオプションを選択すると、請求額と収益額の相互に影響を与えずに操作して処理できます。このオプションを選択しない場合は、請求取引明細の収益額と請求額が常に同額となります。
--- フォーム固有 ---	
請求明細取引の収益額と請求額を別々に割増しできるかどうかを指定する固定情報です。有効な値は次のとおりです。	
0 = 請求明細取引上の収益額と請求額を常に等しくする	
1 = 請求額と収益額をお互いに関係なく処理および変更できるようにする	

請求料金/割増規則の定義

ワークテーブル取引を生成または改訂する前に、請求料金/割増テーブル(F48906)で割増規則を設定する必要があります。請求レートとは、顧客に提供した商品/サービスの請求料金の計算時に、作業数量を掛けて使用する単位あたり請求金額です。割増しとは、顧客への請求書料金の算出のために実績費用に上乗せする金額で、費用の一定パーセントまたは固定金額により指定します。

割増金額は、ワークテーブル取引を生成/改訂したときに、請求システムのセットアップ時に定義した割増規則に基づいて計算されます。

割増規則を定義するには、主キーとマイナー・キーの値を指定します。これらの値の組合せにより、個々のソース取引に適用される請求料金/割増規則が決まります。

ワークテーブル取引を生成/改訂すると、次のように割増計算が行われます。

- 請求料金/割増規則にアクセスする。
- ソース取引の主キーに対応する規則を選択する。
- マイナー・キーに基づいてソース取引の選択範囲を限定し、検索を続行する。
- 該当する割増計算規則に基づいて、個々の取引の割増金額が計算されます。
- ワークテーブル取引に割増金額を記録する。

割増情報は、請求料金/割増テーブル(F48096)に保存されます。

ワークテーブル取引を生成/改訂すると、割増規則のキー値が取引の同じ値と照合されます。見つかったうち最も限定的な規則を使用して、ワークテーブル取引の割増金額が計算されます。

通常は、請求システムで処理するワークテーブル取引のほとんどに該当する汎用的な割増規則を定義します。さらに、例外的なワークテーブル取引用に割増規則を追加定義することもできます。たとえば、個々の顧客または作業オーダーに適用する代替割増レートを規定した割増規則を定義できます。

ソース取引の割増しが不要な場合は、原価で処理されます。ソース取引を割増ししないで請求明細ワークテーブル(F4812)に書き込むには、請求料金と割増規則に次の情報を含める必要があります。

- 取引に関連する勘定科目を含む勘定科目範囲
- 割増計算用のブランクのフィールド

これらの情報を設定しない場合、請求システム固定情報で設定したデフォルト割増規則またはデフォルト割増率を使用してソース取引に割増しが適用されます。

請求料金/割増規則で設定されているキーの値に該当しない取引には、デフォルトの請求料金/割増規則を使用して割増金額が計算されます。次の2種類のデフォルト請求料金/割増規則を定義できます。

- 主キー
- マイナー・キー

主キーのデフォルト割増規則の場合は、キー・タイプとして9、テーブル・キーとして“*ALL”を指定します。マイナー・キー・デフォルト割増規則は、勘定科目範囲をブランクにして、割増計算を指定します。

マイナー・キーの割増計算を指定しなければ、取引は原価のまま処理されます。取引の主キー値またはマイナー・キー値が定義した割増規則のいずれとも一致しなければ、〈サービス請求固定情報〉プログラム(P48091)で定義したデフォルトの割増率が使用されます。

請求料金/割増規則の有効日付は、規則の設定時に指定した日付になります。有効日付は変更できません。ただし、既存の請求料金/割増規則をコピーして、それに新しい有効日付を設定することができます。

〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)および〈ワークテーブルの再計算〉プログラム(R481202)を実行して割増情報をワークテーブル取引に適用する際に請求料金と割増しテーブルが呼び出されます。

参照

- 割増規則のキー値とワークテーブル取引のキー値の一致については、『サービス請求』ガイドの「請求料金/割増規則の検索」

請求料金と割増テーブルの主キー

定義する請求料金/割増テーブルごとに、主キーを指定する必要があります。主キーには次の情報が含まれます。

生成タイプ

生成タイプにより、請求金額、収益金額、または追加料金の計算に割増規則を適用するかどうかを指定します。請求システム固定情報の設定内容によっては、金額ごとに異なる割増し規則を適用できます。

請求料金と割増テーブルの生成タイプ

請求レート/割増しテーブル(F48096)の生成タイプを使用して、ワークテーブル取引に対する割増しの適用方法を制御します。生成タイプは次のとおりです。

生成タイプ 1	請求書金額、収益金額、および追加料金請求金額と収益金額を同時に計算する場合は、請求レート/割増しテーブルを生成タイプ 1 として設定します。
生成タイプ 2	収益金額および追加料金収益金額と請求金額とを別に計算する必要がある場合は、請求料金/割増しテーブルを生成タイプ 2 として設定します。割増規則は、請求金額には生成タイプ 1 を、収益金額には生成タイプ 2 を使用して設定します。生成タイプ 2 の割増テーブルが見つからなければ、生成タイプ 1 で見つかった計算を使用して収益金額が計算されます。生成タイプ 2 の請求料金と割増テーブルを無効にするには、〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションを 1 に設定します。
生成タイプ 3	追加料金。追加料金を作成する場合は、請求レート/割増しテーブルを生成タイプ 3 として設定します。
生成タイプ P	振替請求レート多通貨時間会計を処理する場合は、請求レート/割増しテーブルを生成タイプ P として設定します。

キー・タイプ

割増テーブルの主キー値のタイプを定義します。ハードコードされている 9 個の値が使用されます。

テーブル・キー

キー・タイプに基づいて、主キー値の詳細を定義します。

キー・タイプとテーブル・キー

次のキー・タイプをテーブル・キーと組み合わせて、割増テーブルを定義します。

- 1 作業オーダー
- 2 作業オーダー・クラス(作業オーダー・マスターのカテゴリ・コード 07)
- 3 契約番号
- 4 親契約番号
- 5 顧客番号
- 6 ビジネスユニット番号
- 7 ビジネスユニット・クラス(ビジネスユニット・マスター(F0006)のカテゴリ・コード 11)
- 8 会社番号
- 9 デフォルト

たとえば、割増規則を作業オーダー別に定義する必要がある場合は、キー・タイプを 1 にして、テーブル・キーに作業オーダー番号を指定します。3 つの作業オーダーにそれぞれ異なる割増規則を使用する場合は、3 つの割増規則を設定する必要があります。

通貨コード

請求料金/割増テーブルで設定する割増金額の小数点以下表示桁数を制御します。

有効日付

割増規則が有効になる日付を指定します。ワークテーブル取引のテーブル基準日付と請求料金と割増しテーブルが検索される日付が比較されます。

検索時の通貨コードの使用方法

請求料金と割増しテーブルの通貨コードは、そのテーブルの割増規則を構成する請求料金と割増し額の通貨を認識します。

ワークテーブル取引ごとに、国内通貨、外貨、および通貨モードが保存されます。国内通貨は会社の通貨を表し、外貨は顧客の通貨を表します。通貨モードは、適切な請求料金/割増テーブルへのアクセスに使用される通貨を示します。

たとえば、国内通貨が米ドル(USD)、外貨が仏フラン(FRF)で通貨モードがFのワークテーブル取引は、仏フラン(FRF)用に設定された請求料金/割増テーブルを検索します。すべての割増しは仏フランで計算され、米ドル金額は為替レートを適用して計算されます。

次のテーブルは、割増しが適用される前のワークテーブル取引を示します。

ビジネスユニット(USD)	国内通貨	外貨	通貨モード	為替レート	国内通貨建て原価	数量	外貨建て原価	国内通貨建て請求書	外貨建て請求書
501	USD	FRF	F	5.68	50.00	10	284.00	0.00	0.00

次のテーブルは、請求料金と割増しテーブルを示します。

ビジネスユニット(USD)	通貨コード	料金一時変更	割増率	割増金額
501	FRF	284.00	10	142.00

次のテーブルは、割増しが適用された後のワークテーブル取引を示します。

ビジネスユニット(USD)	国内通貨	外貨	通貨モード	為替レート	国内通貨建て原価	数量	外貨建て原価	国内通貨建て請求書	外貨建て請求書
501	USD	FRF	F	5.68	50.00	10	284.00	575.00	3266.00

請求料金と割増テーブルの補助キー

請求料金/割増テーブル(F48096)に定義する割増規則ごとに、補助キーを指定する必要があります。補助キーには、次の情報が含まれます。

勘定科目範囲

割増規則を適用する主科目と補助科目の範囲を指定します。この割増規則を使用するには、ワークテーブル取引の主科目と補助科目が指定の範囲に含まれている必要があります。[補助科目]フィールドをブランクにした場合は、すべての補助科目が勘定科目範囲に含まれます。

給与計算情報

割増規則を適用する給与計算情報を指定します。この割増規則を使用するには、ワークテーブル取引の給与計算情報が一致している必要があります。給与計算情報には、職務タイプ、職階、原価プール、所属ビジネスユニット、従業員、支払タイプが含まれます。

設備情報

割増規則を適用する設備情報を指定します。この割増規則を使用するには、ワークテーブル取引の設備情報が一致している必要があります。設備情報には、設備番号、料金グループ、料金コードが含まれます。

給与計算情報または設備情報のどちらかを指定できます。給与計算情報と設備情報の両方を同時に指定することはできません。

割増計算

マイナー・キーには、3つの割増計算を関連付けることができます。ワークテーブル取引に割増しを適用するために、マイナー・キーを使用して次の計算が行われます。

料金一時変更による計算

料金一時変更ワークテーブル取引からの数量が掛けられ、請求書/収益金額が計算されます。この計算は、数量が0の時には実行されません。

割増率の計算

このパーセンテージにワークテーブル取引からの原価金額を掛けて請求書/収益金額が計算されます。

割増金額の計算

この金額をワークテーブル取引からの原価金額に加算して、請求書/収益金額が計算されます。

複合割増し

複合割増しが発生するのは、単一の補助キーに対して複数の割増計算を定義している場合です。

たとえば、数量10のワークテーブル取引に、次の割増計算を伴う補助キーを使用できます。

- 単位あたり50ドルの料金一時変更
- 割増率10%
- 割増金額25ドル

複合割増しは次のように計算されます。

- 数量10 × 50ドル = 500ドル
- (500ドル × 10パーセント) + 500ドル = 550ドル
- 550ドル + 25ドル = 575ドル

これと同じ複合割増規則を数量0、原価200ドルのワークテーブル取引に適用すると、次のようになります。

- 数量が0のため、レート計算は実行されません。

- $(200 \text{ ドル} \times 10\%) + 200 \text{ ドル} = 220 \text{ ドル}$
- $220 \text{ ドル} + 25 \text{ ドル} = 245 \text{ ドル}$

追加料金情報

追加料金情報は、ワークテーブル取引に対する追加割増しとして処理されます。システム・セットアップの一部として、追加料金テーブル内で追加料金規則を定義します。その後、追加料金テーブルを請求料金/割増テーブル(F48096)の割増規則に割り当てます。

追加料金テーブルで定義した追加料金規則ごとに、別個の追加料金ワークテーブル取引が作成されます。

はじめる前に

- 次の請求固定情報を確認してください。
 - [請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションこのオプションにより、請求書金額と収益金額を別の割増規則を適用できるかどうかが決まります。
 - 通貨モードこのオプションでは、請求料金/割増テーブルの検索に、ワークテーブル取引の国内通貨と外貨のどちらを使用するかを制御します。
 - 有効日付基準このオプションにより、請求料金/割増テーブル(F48096)の検索に使用する、給与計算の請求対象費用以外の取引を検索する際に使用する日付が決まります。
 - [作業有効日基準]このオプションにより、請求料金/割増テーブル(F48096)の検索に使用する、給与計算基準の請求対象費用の取引の日付が決まります。

『サービス請求』ガイドの「請求固定情報の設定」を参照してください。

- 割増規則の定義に使用する主および補助キー値を確定します。キーの値は、請求料金/割増テーブル(F48096)のレコードを追加/更新する際にチェックされます。
- ワークテーブル取引に適用する請求レートと割増計算を定義します。
- 追加料金ワークテーブル取引の計算に使用する追加料金規則を指定します。『サービス請求』ガイドの「追加料金規則の定義」を参照してください。

▶ 請求料金/割増規則を定義するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈請求料金/割増しテーブル〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈請求料金/割増しテーブル〉を選択します。

1. 〈請求料金/割増しテーブルの処理〉で[追加]をクリックします。

PeopleSoft

請求レート/割増しの改訂

OK 検索 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

作成タイプ P Recharge Rate 開始日付 05/01/01
 キータイプ 6 Job or Business Unit 終了日付 05/12/31
 テーブルキー 77 Canadian Company
 通貨コード CAD Canadian Dollar

グリッドのカスタマイズ

	開始主科目	終了主科目	開始補助科目	終了補助科目	割増料金一時変更	上限あり	割増しパーセント	割増し金額	業務タイプ	曜誌	原価プール	所属ビジネスユニット
<input checked="" type="checkbox"/>	1341	1341			250.00		100.000	350.00				

2. <請求レート/割増しの改訂>で請求料金/割増テーブルの主キーを識別するには、次のフィールドに情報を入力します。

- 作成タイプ
- キータイプ
- テーブルキー
- 通貨コード
- 開始日付
- 終了日付

3. 割増規則を適用する勘定科目範囲は、次のフィールドに指定します。

- 開始主科目
- 終了主科目
- 開始補助科目
- 終了補助科目

勘定科目範囲を空白にすると、主キー範囲内のすべての勘定科目に割増規則が適用されます。

4. 割増規則の割増計算を定義するには、次のフィールドに情報を入力します。

- 割増料金一時変更
 - 上限あり
 - 割増しパーセント
 - 割増し金額
5. 給与計算取引の割増規則を定義するには、次のいずれかのフィールドに情報を入力します。
- 職務タイプ
 - 職階
 - 原価プール
 - 所属ビジネスユニット
 - 従業員 No.
 - 支払タイプ
6. 特定設備の割増規則を定義するには、次のいずれかのフィールドに情報を入力します。
- 設備 No.
 - 料金コード
 - 料金グループ
- 給与計算情報と設備情報の両方を同時に指定することはできません。
7. この割増規則に追加料金の計算を関連付けるには、次のフィールドに情報を入力します。
- 追加料金テーブル
 - 請求/収益料金表
8. 必要に応じて次のフィールドに情報を入力して、関連ソース取引からの記述を一時変更します。
- 一時変更記述
9. [OK]をクリックします。

▶ 請求料金/割増規則をコピーするには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈請求料金/割増しテーブル〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈請求料金/割増しテーブル〉を選択します。

1. 〈請求料金/割増しの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- キー・タイプ
- テーブル・キー

2. コピーする割増規則を選択して[コピー]をクリックします。

選択した割増規則のコピーが表示されます。

	開始 主科目	終了 主科目	開始 補助科目	終了 補助科目	割増料金 一時変更	上限 あり	割増し パーセント	割増し 金額	増徴 タイプ	増徴 率	原価 プール	所属 ビジネスユニット
<input checked="" type="checkbox"/>	1341	1341			250.00		100.00%	350.00				

3. 〈請求レート/割増しの改訂〉で、次のフィールドに新しい有効日付を入力します。

- 開始日付
- 終了日付

4. 必要に応じて、次のフィールドの情報を変更します。

- キー・タイプ
- テーブル・キー
- 通貨コード

5. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
作成タイプ	<p>請求書金額、収益金額、および追加料金に適用されるバッチ・タイプと割増し規則を決めるコード。バッチ・タイプは、バッチの作成時に割り当てられます。請求固定情報の指定によって、各金額に適用される割増し規則が決まります。有効な値は次のとおりです。</p> <p>1 割増し規則を請求書金額、収益金額、および追加料金に適用する。請求固定情報で、請求書と収益の金額を常に一致させるように指定した場合、割増し規則は、収益金額、請求書金額、および追加料金のすべてに適用されます。請求固定情報で、請求書と収益の金額が異なることを許可した場合でも、割増し規則は、タイプ2規則が存在しない場合、収益金額、請求書金額、および追加料金のすべてに適用されます。</p> <p>2 割増し規則を収益金額と追加料金に適用する。請求固定情報で、請求書と収益の金額が異なることを許可した場合、割増し規則は、収益金額と追加料金だけに適用されます。</p> <p>3 割増し規則を追加料金だけに適用する。この規則は請求固定情報の設定に依存しません。</p>

キー・タイプ

〈サービス請求〉および〈契約請求〉システムのどのテーブル、またはユーザー定義コードから元取引およびワークファイル取引を検索および編集するかをテーブルキーと組み合わせて決めるコード。有効な値、および各値に関連するテーブルまたはユーザー定義コードは、次のとおりです。

- 1 作業オーダー番号 - 作業オーダーマスター(F4801)
- 2 作業オーダークラス - ユーザー定義コード(00/W7)
- 3 契約番号 - 契約マスター(F5201)
- 4 親契約番号 - 契約マスター(F5201)
- 5 顧客 - 住所録マスター(F0101)
- 6 作業/ビジネスユニット - ビジネスユニットマスター(F0006)
- 7 作業クラス - ユーザー定義コード(00/11)
- 8 会社 - 会社固定情報(F0010)
- 9 デフォルト

キータイプを選択する際は、次のガイドラインに従ってください。

- ・契約番号(3)または親契約番号(4)のキータイプは、税決定テーブル、元帳クラスおよび留保テーブルには使用できません。
- ・会社(8)のキータイプは、元帳クラスおよび留保テーブルには使用できません。
- ・デフォルト(9)のキータイプは、勘定科目決定テーブルおよび請求料金/割増しテーブル(World では原価割増しテーブル)にのみ使用できます。

--- フォーム固有 ---

システムが、サービス請求システムおよび契約請求システムのさまざまなテーブルのソースと請求明細取引を検索および照合するためにテーブルキーと一緒に使用するコード。有効なキータイプコードおよび関連テーブルは次のとおりです。

- 1 作業オーダー番号 - 作業オーダーマスター(F4801)
- 2 作業オーダークラス - ユーザー定義コード(00/W7)
- 5 得意先 - 住所録マスター(F0101)
- 6 作業またはビジネスユニット - ビジネスユニットマスター(F0006)
- 7 作業クラス - ユーザー定義コード(00/11)
- 8 会社 - 会社固定情報(F0010)
- 9 デフォルト

キータイプを選択する場合、次のガイドラインを使用してください。

- ・契約番号 (3)または親契約番号(4)のキータイプは、税決定基準テーブルおよび元帳相殺&留保テーブルには使用できません。
- ・会社(8)のキータイプは元帳相殺&留保テーブルには使用できません。
- ・デフォルトのキータイプ(9)は、勘定決定基準テーブルおよび請求料金/割増しテーブル(World では原価割増しテーブル)にのみ使用できます。

テーブル・キー

サービス請求システムと契約請求システムで、ワークテーブル取引を検索し、各種のテーブルと対照して検証するために、キー・タイプと組み合わせて使用される値。[キー・タイプ]フィールドに入力する値によって、[テーブル・キー]フィールドの有効値が確定されます。たとえば、作業オーダー番号のキー・タイプ(1)を指定した場合は、[テーブル・キー]フィールドに作業オーダー・マスター(F4801)からの有効な作業オーダー番号を入力する必要があります。また、指定したキー・タイプによって、検索ボタンの使用時に[テーブル・キー]フィールドからアクセスできる検索ウィンドウが制御されます。たとえば、[キー・タイプ]フィールドで1を選択すると、[テーブル・キー]フィールドの検索ボタンを使用して、[作業オーダーの検索]ウィンドウにアクセスできます。[キー・タイプ]フィールドで2を指定した場合は、作業オーダー・クラスの[ユーザー定義コード]ウィンドウにアクセスします。

--- フォーム固有 ---

各トランザクションワークファイルに適用可能な請求料金/割増料金テーブルを検索するために、[テーブルキー]フィールドとキータイプが組合せて使用されます。

通貨コード

基本通貨コード。ビジネスユニットが属する会社の通貨コードが使用されます。

開始日付	<p>住所、品目、取引、テーブルなどが有効になる日付。このフィールドの意味はプログラムによって異なります。たとえば、次のような日付として使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住所の変更が有効になる日付 ・賃貸契約が有効になる日付 ・価格が有効になる日付 ・為替レートが有効になる日付 ・税率が有効になる日付
終了日付	<p>項目、取引、テーブルが非活動となる日付、または取引を表示する最終日付。このフィールドはシステム全体で使用されます。賃貸有効日付、価格または原価有効日付、通貨有効日付、税率有効日付などとして使用できます。</p>
開始主科目	<p>勘定科目コードの中で、原価コード(労務費、材料費、設備費など)をサブカテゴリに分類する部分。原価コードは、たとえば労務費を通常時間、割増し時間、間接費に分類するのに使用します。</p> <p>注: 任意勘定科目コードを使用して主科目コードを6桁にした場合は、6桁すべてを使用することをお勧めします。たとえば、“000456”と入力するのと“456”と入力するのでは、後者の場合、スペースが3つ追加されるので結果が異なります。</p>
終了主科目	<p>勘定科目の範囲で終了主科目を示します。</p>
開始補助科目	<p>主科目の下の科目区分。補助科目は、取引レコードを主科目の下でさらに細分化します。</p>
終了補助科目	<p>勘定科目範囲の最後の補助科目を示します。これを使って配賦基準が決定されます。この範囲内にある勘定科目の転記済み金額のみ含まれます。</p>
割増料金一時変更	<p>製図工、技師、コンサルタントの手数料など、専門的なサービスの請求に反映させる収益金額の割増率。この割増率は、従業員の給与には影響しません。割増率は、一時変更レートまたは最大レートとして使用できます。収益割増合計に対する一時変更レートの計算は次のとおりです。</p> $(\text{一時変更レート} \times \text{数量}) \times (1 + \text{割増率}) + \text{割増金額}$ <p>最大率または上限率を指定した場合、一時変更レートと原価取引のレートが比較されます。両レートのうち低い方のレートが一時変更レートとして使用されます。最大/上限単位レートは、〈請求料金/割増テーブル〉プログラム (P48096)で設定します。サービス請求/契約請求システムでは、収益金額と請求書金額とを異なるレートで割り増すことができます。この機能は請求システム固定情報テーブル(F48091)の[請求書/収益の金額が異なることを許可する]オプションにより制御されます。収益割増率を指定するには生成タイプ 2、請求割増率を指定するには生成タイプ 1を使用します。</p> <p>請求固定情報で請求書と収益の金額が異なるように設定されている時のみ請求/収益割増率を指定する場合は、生成タイプ 1を使用してください。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>割増率を入力して、既存のレートを一時変更します。たとえば、標準コンサルティング料を通常の時給よりも高く設定する場合は、このフィールドにコンサルティング料を入力します。[上限あり]フィールドに関連付けてこのフィールドを使用する際は、レートの一時変更機能を使用して、入力するレートの上限を示すこともできます。</p>

上限あり	<p>関連金額が、一時変更比率またはキャップ比率のどちらなのかを示すフラグ。有効な値は次の通りです。</p> <p>Blank 一時変更比率。</p> <p>1 キャップ比率。原価比率がキャップ比率より低い場合は原価比率を使用し、原価比率がキャップ比率より高い場合はキャップ比率を使用します。</p>
割増しパーセント	<p>収益用の割増し計算に使用する割増し率で、専門技能サービス(製図、エンジニアまたはコンサルタント料など)の請求額に反映されます。この割増し率は、従業員の給与計算には影響しません。この割増し率は、請求料金/割増しテーブル(WorldSoftware では原価割増しテーブル)で、生成タイプ 1(収益/請求書の割増しレート・テーブル)として設定します。入力するパーセント値は整数で入力してください。たとえば 50.275%は"50.275"と入力します。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>このフィールドには、収益認識額の割増率を入力します。サービス請求システムで、発生タイプ 2 の請求レート/割増しテーブル(World では原価加算割増しテーブル)を設定し、収益認識の際に使用された額とは異なる単一の原価取引に対する請求額を入力し、管理することができます。発生タイプ 2 のテーブルでは、このフィールドで、テーブルに入力された収益認識額に指定割増しレートを適用することができます。</p>
割増し金額	<p>関連する勘定科目番号の勘定残高に追加される金額を示す数字。貸方の金額は金額の前か後にマイナスの符号をつけて入力します。</p>
職務タイプ	<p>組織内の職務を定義するユーザー定義コード(07/G)。給与と福利厚生情報を職務タイプと関連付け、情報をその職務タイプと連結する従業員に適用できます。</p>
職階	<p>特定の職務タイプ内での特定の水準を指定するユーザー定義コード(07/GS)。このコードは、賃金テーブルにある職務別賃率を決定するために職務タイプと共に使用されます。</p>
原価プール	<p>ビジネスユニット・マスターファイル(F0006)に関連するカテゴリコード 12。これは、自由形式勘定科目のマッピングおよびレポートに選択した情報を印刷するのに、使用するユーザー定義コード(システム 00、タイプ 12)です。</p>
所属ビジネスユニット	<p>従業員が通常属するビジネスユニットの番号</p>
従業員 No.	<p>住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。</p>
支払タイプ	<p>支払、控除、給付、または見越しのタイプを定義するコード。支払タイプには 1 から 999、控除と給付には 1000 から 9999 までの番号が付いています。</p>
設備 No.	<p>固定資産を識別する 8 桁の番号。</p>

<p>料金コード</p>	<p>DY(日次)、MO(月次)、WK(週次)などの請求料金を示すユーザー定義コード(00/RC)。1つの設備に対して複数の請求料金を設定することができます。このフィールドがブランクの場合、次の順序で有効な請求料金が検索されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 勘定科目マスター(F0901)。このテーブルには最も詳しい料金情報が含まれます。1つの作業に対して複数の料金を適用することができます。たとえば、異なる作業条件に対してそれぞれ料金を設定できます。 ビジネスユニット・マスター(F0006)。このテーブルの料金情報は、勘定科目マスターほど詳しくはありません。このテーブルに基づく場合、1つの作業に1つの料金のみ設定できます。 賃貸規則(F1302) - このテーブルには一番簡略な情報が含まれています。このテーブルの設定時に指定した検索基準に従って検索されます。 <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>このコードによって各設備項目に対して複数の請求料金を適用することができます。たとえば、同じ車両に対してメンテナンス費用とガソリン代の割増し料金を別に設定することができます。</p>
<p>料金グループ</p>	<p>類似する品目を請求用にグループ化するユーザー定義コード(12/CO)。設備管理システムを導入して設備請求を使用する場合は、このカテゴリ・コードを料金のグループ化以外の目的では使用しないでください。</p>
<p>追加料金テーブル</p>	<p>請求料金/割増料金テーブルへの入力(WORLDでは原価プラス割増料金テーブルへの入力)に使用する追加料金テーブルを識別するコード。追加料金テーブルにより、追加料金とその計算規則が識別されます。これらの追加料金は、間接費として当初原価に組み込まれます。追加料金テーブルは〈追加料金テーブルの定義〉フォームで設定します。</p>
<p>請求/収益料金表</p>	<p>請求料金/割増料金テーブルへの入力(WORLDでは原価プラス割増料金テーブルへの入力)に使用される追加料金請求/収益テーブルを識別するコード。追加料金テーブルにより、追加料金とその計算規則が識別されます。これらの追加料金は、請求/収益の割増しに追加されて、請求/収益として認識されます。</p> <p>追加料金テーブルにもつデータ内容(請求額、収益、またはその両方)は、請求料金/割増料金テーブルの生成タイプと請求固定情報のそれぞれの請求フラグの組み合わせによって決まります。追加料金テーブルは〈追加料金テーブルの定義〉フォームで設定します。</p>
<p>一時変更記述</p>	<p>備考、名称、摘要(仕訳の場合)を示すフィールド。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>請求明細取引に適用する記述、摘要、説明、名称または住所。</p>

処理オプション: 請求料金/割増テーブル(P48096)

セキュリティ・タブ

各キー・タイプ(1~9)へのアクセスを可能にするかどうかを指定します。各テーブル生成タイプへのアクセスを可能にするかどうかを指定します。

1. キータイプ 1(作業オーダー番号)

ブランク = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

作業オーダー番号のキータイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

空白 許可する

1 許可しない

2. キータイプ 2(作業オーダークラス)

空白 = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

作業オーダークラスのキータイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

空白 許可する

1 許可しない

3. キータイプ 3(契約番号)

空白 = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

契約番号のキータイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

空白 許可する

1 許可しない

4. キータイプ 4(親契約番号)

空白 = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

親契約番号のキータイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

空白 許可する

1 許可しない

5. キータイプ 5(顧客番号)

ブランク = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

得意先番号のキータイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 許可する

1 許可しない

6. キータイプ 6(作業/ビジネスユニット)

ブランク = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

作業/ビジネスユニットのキータイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 許可する

1 許可しない

7. キータイプ 7(作業クラス)

ブランク = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

作業クラスのキータイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 許可する

1 許可しない

8. キータイプ 8(会社)

ブランク = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

会社番号のキータイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 許可する

1 許可しない

9. キータイプ 9(割増しテーブル用デフォルト)

ブランク = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

デフォルト割増しテーブルのキータイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 許可する

1 許可しない

10. テーブル生成タイプ 1(請求書、収益および追加料金割増し)

ブランク = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

請求書、収益、および追加料金割増しテーブルの生成タイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 許可する

1 許可しない

11. テーブル生成タイプ 2(収益、割増し一時変更)

ブランク = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

収益割増し一時変更テーブルの生成タイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク 許可する

1 許可しない

12. テーブル生成タイプ 3(追加料金割増し一時変更)

ブランク = アクセスを許可する

1 = アクセスを許可しない

追加料金割増し一時変更テーブルの生成タイプへのアクセスを、ユーザーに許可するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

請求料金/割増テーブル失効日の印刷

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈請求料金/割増しテーブル失効日〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈請求料金/割増しテーブル失効有効日〉を選択します。

〈請求料金/割増テーブル失効日〉レポート(R48S496)では、レポートの処理オプションで指定した日付範囲内の終了日付のすべての請求料金と割増テーブルの一覧が作成されます。このレポートには、失効日テーブルごとの次の情報が一覧表示されます。

- 生成タイプ
- キー・タイプ
- テーブル・キー
- 通貨コード
- 開始日付
- 終了日付

〈請求料金/割増テーブル失効日〉レポートには、請求料金/割増テーブル(F48096)から情報が取り込まれます。

処理オプション:請求料金/割増テーブル失効日 (R48S496)

選択タブ

請求料金/割増テーブルの有効期限が切れる期間を指定します。

1. 有効終了日の範囲開始

blank = 指定なし

請求レート/割増しテーブル(F48096)の有効期限が切れる期間の開始日を指定します。

2. 有効終了日の範囲終了

blank = システム日付

請求レート/割増しテーブル(F48096)の有効期限が切れる期間の終了日を指定します。

追加料金規則の定義

追加料金は、金額と数量に基づいて計算されるタイプの割増しです。たとえば、労務費の請求には、借入費用を一部相殺するための追加料金が含まれる場合があります。追加料金規則は、割増規則と連動します。追加料金を自動計算するには、追加料金規則を設定し、それを割増規則に関連付ける必要があります。その他の方法として、追加料金取引を作成し、その取引に直接、追加料金規則を適用することもできます。

費用の合計時には、追加料金取引を作成するために定義した追加料金規則を使用して、追加料金金額が計算されます。追加料金取引は、常に親ワークテーブル取引に関連付けられています。どちらの取引タイプにも同じ請求制御 ID 番号と追加料金リンク番号が割り当てられ、この番号によって各追加料金計算が関連ワークテーブル取引に関連付けられます。

追加料金規則の定義には、次の情報を使用します。

- 追加料金計算規則を識別するコード
- 有効日付の範囲
- 金額、単位レートまたはその両方に基づく1つまたは複数の計算規則

複合追加料金

複数の追加料金計算規則を参照することにより、複合追加料金を定義できます。たとえば、2%の追加料金を40%の追加料金と参照できます。原価1000の追加料金金額は、次のように計算されます。

- $100,000 \text{ 円} \times 2\% = 2,000 \text{ 円}$
- $100,000 \text{ 円} \times 40\% = 40,000 \text{ 円}$
- $40,000 \text{ 円} \times 2\% = 800 \text{ 円}$

総原価と追加料金金額の合計は、次のように計算されます。

- $1000 + 20 + 400 + 8 = 1428$

単位数基準の追加料金計算規則は、参照先として組み込むことはできますが、参照元としては使用できません。

例:総額に基づいて計算される追加料金

追加料金総請求金額は、基準レコードの総請求金額に基づいて計算されます。

原価金額	100.00
追加料金レート	10.00%
税率/税域	3.8%

	請求書課税額(ITXA)	請求書税(ITAM)	請求済み金額合計(ITOL)
基準レコード	100.00	3.80	103.80
追加料金	10.00	.38	10.38
追加料金のある請求金額			114.18

例: 正味額に基づいて計算される追加料金

追加料金総請求金額は、基準レコードの課税対象の請求書金額に基づいて計算されます。

原価金額	100.00
追加料金レート	10.00%
税率/税域	3.8%

	請求書課税額(ITXA)	請求書税(ITAM)	請求済み金額合計(ITOL)
基準レコード	100.00	3.80	103.80
追加料金	9.63	.37	10.00
追加料金のある請求金額			113.80

参照

- 追加料金とワークテーブル取引については、『サービス請求』ガイドの「追加料金取引の検討」
- 割増規則ありの追加料金規則の関連付けについては、『サービス請求』ガイドの「既存の追加料金規則の割増規則への追加」

はじめる前に

- 〈追加料金テーブルの改訂〉フォームで、個々の追加料金計算規則の識別に使用するコードを指定して、追加料金コード(ユーザー定義コード・テーブル 48/CM)を設定します。『サービス請求』ガイドの「ユーザー定義コードの理解」を参照してください。

▶ 追加料金計算規則を設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈追加料金テーブル〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈追加料金テーブル〉を選択します。

1. 〈追加料金テーブルの処理〉で[追加]をクリックします。

PeopleSoft

追加料金テーブルの改訂

OK 削除 キャンセル ロー ツール

追加料金テーブル: G&ADDDONS 開始日付: 05/01/01

記述: G&A with Additional Burden 終了日付: 06/12/31

通貨コード: USD U.S. Dollar

クレジットのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	相互参照	追加料金コード	記述	基本料金	追加料金レート	順序 No.	<input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		COM	金利	1	15.00000		<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		FEE	料金	1	20.00000		
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		FRG	付加	U	0.07		
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X	G&A	総務管理	1	10.00000		
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>							

2. 〈追加料金テーブルの改訂〉で、次のフィールドに情報を入力し、特定の追加料金計算規則を識別します。

- 追加料金テーブル
- 記述
- 通貨コード
- 開始日付
- 終了日付

3. 追加料金計算規則を定義するには、次のフィールドに情報を入力します。

- 追加料金コード
- 基本料金
- 追加料金レート

4. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述

追加料金テーブル

用語解説

追加料金テーブルで、請求明細取引レベルに付属する一時的な間接労務費を設定できます。追加料金は、基本請求明細取引の原価、請求金額(税金込み)、および/または収益金額を基に計算できます。たとえば、原価金額に基づく追加料金は、追加の間接経費を組織から発生した原価に適用できます。請求金額に基づく追加料金は、追加の請求料金を請求用の割増金額適用できます。原価加算割増テーブルの折返し域で、この計算に対する金額の基本を制御します。原価テーブルフィールドに追加料金テーブルの名称を入力すると、すべての計算は原価金額に基づいて実行されます。同様に、請求/収益テーブルフィールド(INV/REV TBL)に追加料金テーブルの名称を入力すると、すべての計算は、請求および/または収益金額に基づいて実行されます。ただし、この場合、原価加算割増テーブルでの生成タイプ、システム固定情報で設定されている仕訳生成制御フラグによって影響されます。

記述

ユーザー定義名称または備考。

通貨コード

基本通貨コード。ビジネスユニットが属する会社の通貨コードが使用されます。

基本料金

追加料金の計算基準として、基本請求詳細取引の数量と金額のどちらを使用するかを指定するコード。有効な値は次のとおりです。

1 総額基準

[追加料金レート]フィールドの数値はパーセンテージとして処理されます。追加料金金額は、追加料金レートのパーセンテージに基本請求詳細取引からの原価、合計請求金額または収益金額を乗算して計算されます。

2 数量基準

[追加料金レート]フィールドの数値は一律金額として処理されます。追加料金の額は、[追加料金レート]の一律金額に基本請求詳細取引からの数量を乗算して計算されます。

3 純額基準

[追加料金レート]フィールドの数値はパーセンテージとして処理されます。追加料金の額は、追加料金レートのパーセンテージに基本請求詳細取引からの原価、課税対象請求金額または収益金額を乗算して計算されます。

追加料金レート

個別追加料金レコード生成時に適用されるレート。このフィールドは、パーセントまたは均一金額のいずれかで、「追加料金レート基本」(UORC)フィールドの入力値によって決まります。

追加料金レート基準が単位数に基づく場合、追加料金レートは基本請求明細取引からの単位数を掛けた均一金額です。

追加料金レート基準が金額に基づく場合、追加料金レートは基本請求明細取引からの原価、請求書額、収益額を掛けたパーセントです。

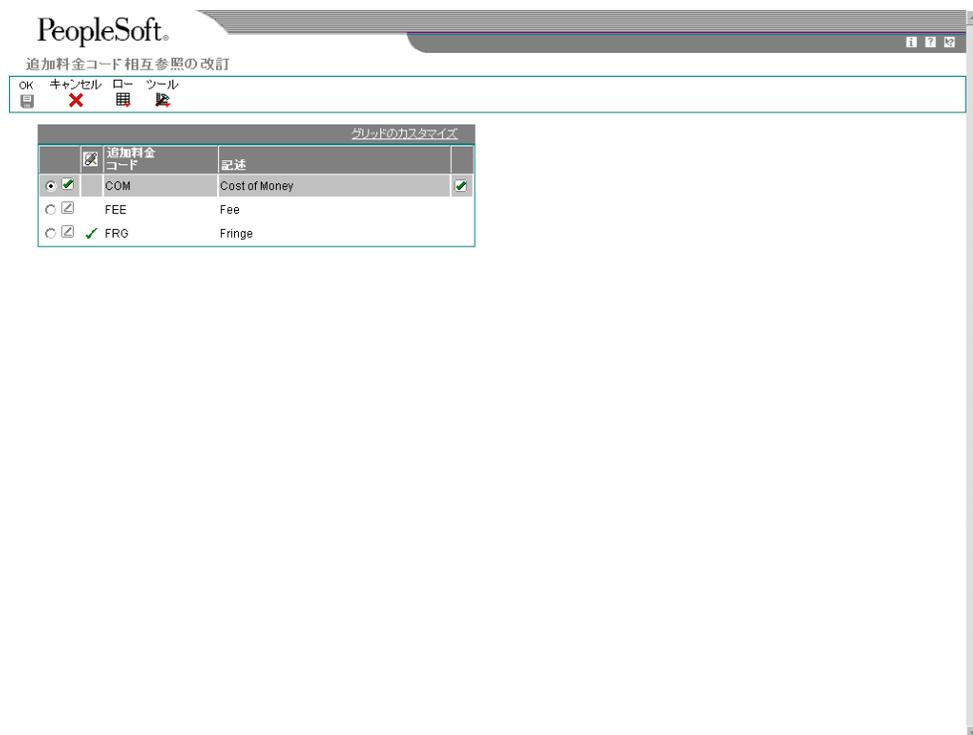
▶ 複合追加料金を設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈追加料金テーブル〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈追加料金テーブル〉を選択します。

1. 〈追加料金テーブルの処理〉で追加料金規則を検索するには、[検索]をクリックします。
2. 特定の追加料金計算規則を選んで、[選択]をクリックします。
3. 〈追加料金テーブルの改訂〉で、追加料金をハイライトして[ロー]メニューから[相互参照]を選択します。



4. 〈追加料金コード相互参照の改訂〉で、相互参照に組み込む個々の追加料金計算規則を選び、[ロー]メニューから[相互参照の追加]を選択します。

相互参照情報に組み込めるのは、既に定義してある追加料金計算規則のみです。

相互参照情報を含む追加料金の計算規則は、〈追加料金テーブルの改訂〉フォームの[相互参照]フィールドに X が表示されます。

追加料金テーブル一覧の印刷

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈追加料金テーブル一覧〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈追加料金テーブル一覧〉を選択します。

〈追加料金テーブル一覧〉レポート(R4860)では、データ選択の基準に見合う各追加料金テーブルの有効日付と通貨コードが一覧表示されます。レポートには、選択済み追加料金テーブルの各追加料金の次の情報も一覧表示されます。

- 追加料金コード
- 追加料金記述
- 追加料金レート
- 料金基準
- 追加料金相互参照

レポートで表示される情報は、〈追加料金テーブルの改定〉フォームの情報と同じです。

追加料金テーブルの一覧レポートは、次のテーブルから情報を取り込みます。

- 追加料金テーブル・マスター(F4860)
- 追加料金明細テーブル(F4861)
- 追加料金相互参照(F4862)

追加料金テーブル		2.5% FEE	G & A 2.5% Fee		
有効開始日付	05/01/01	有効終了日付	06/12/01		
通貨コード	USD				
追加料金 2->1	追加料金 記述	追加料金 1->1	1->1 基準	追加料金 相互参照	
	000	開帳費	2.50	1	
追加料金テーブル		G&A0000S	G&A with Additional Burden		
有効開始日付	05/01/01	有効終了日付	06/12/01		
通貨コード	USD				
追加料金 2->1	追加料金 記述	追加料金 1->1	1->1 基準	追加料金 相互参照	
	000	金利	15.00	1	
	FEE	料金	20.00	1	
	FIG	付加	.07	0	
	G&A	総務管理	10.00	1	FIG
追加料金テーブル		LABOR	Labor Markup Component		
有効開始日付	05/01/01	有効終了日付	06/12/01		
通貨コード	USD				
追加料金 2->1	追加料金 記述	追加料金 1->1	1->1 基準	追加料金 相互参照	
	000	金利	2.00	1	
	FIG	付加	44.00	1	
	000	開帳費	30.00	1	FIG
追加料金テーブル		0000M	0000M		
有効開始日付	05/01/01	有効終了日付	06/12/01		
通貨コード	USD				
追加料金 2->1	追加料金 記述	追加料金 1->1	1->1 基準	追加料金 相互参照	
	0000M	開帳費追加料金	50.00	1	
追加料金テーブル		0000	Overhead & Markup		

既存の追加料金規則の割増規則への追加

追加料金情報は、ソース取引の金額に対する割増しとして処理されます。システム・セットアップの一部として、追加料金規則を定義します。それから追加料金規則を請求料金/割増テーブルの規則に割り当てます。

原価金額と割増金額について別々のワークテーブル取引を作成する場合は、割増規則に追加料金規則を割り当てることができます。

追加料金は次のように計算されます。

生成タイプ	追加料金テーブル	追加料金の計算基準
1(請求書)	費用	費用金額
2(収益)	費用	費用金額生成タイプ1と2に原価テーブル情報がある場合、生成タイプ2の情報が使用されます。
1(請求書)	請求書/収益	請求書金額
2(収益)	請求書/収益	収益金額。
3(追加料金)	費用または請求書/収益	生成タイプ1と2のどちらのテーブルにも追加料金情報がなかった場合に、すべての追加料金情報のデフォルトのテーブルとなります。

はじめる前に

- 追加料金規則を定義します。『サービス請求』ガイドの「追加料金規則の定義」を参照してください。

▶ 追加料金規則を既存の割増規則に追加するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈請求料金/割増しテーブル〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈請求料金/割増しテーブル〉を選択します。

1. 〈請求料金/割増しテーブルの処理〉で、次のどちらかのフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - キー・タイプ
 - テーブル・キー
2. 追加料金規則を追加する割増規則をハイライトして[選択]をクリックします。
3. 〈請求レート/割増しの改訂〉で、次のフィールドに値を入力して追加料金規則を追加します。
 - 追加料金テーブル
 - 請求/収益料金表
4. [OK]をクリックします。

関連タスク

生成タイプ 1 または 2 の既存の割増規則に、追加料金規則を割り当てることができます。このためには、〈請求料金/割増しの改訂〉フォームで割増規則を検索します。このフォームでは、[原価追加料金テーブル]フィールド、[請求/収益追加料金テーブル]フィールド、またはその両方を使用して、1 行または複数行の追加料金規則を指定できます。

参照

- 請求料金/割増テーブル(F48096)の規則の設定については、『サービス請求』ガイドの「請求料金と割増規則の定義」を参照してください。

フィールド記述

記述	用語解説
追加料金テーブル	請求料金/割増料金テーブルへの入力(WORLD では原価プラス割増料金テーブルへの入力)に使用する追加料金テーブルを識別するコード。追加料金テーブルにより、追加料金とその計算規則が識別されます。これらの追加料金は、間接費として当初原価に組み込まれます。追加料金テーブルは〈追加料金テーブルの定義〉フォームで設定します。
請求/収益料金表	請求料金/割増料金テーブルへの入力(WORLD では原価プラス割増料金テーブルへの入力)に使用される追加料金請求/収益テーブルを識別するコード。追加料金テーブルにより、追加料金とその計算規則が識別されます。これらの追加料金は、請求/収益の割増しに追加されて、請求/収益として認識されます。追加料金テーブルにもつデータ内容(請求額、収益、またはその両方)は、請求料金/割増料金テーブルの生成タイプと請求固定情報のそれぞれの請求フラグの組み合わせによって決まります。追加料金テーブルは〈追加料金テーブルの定義〉フォームで設定します。

AAI の設定

サービス請求システムと売掛管理システムの連動処理で使用される規則を定義するために、RC(売掛金クラス)AAIを設定する必要があります。サービス請求システムでは、RC AAI(売掛金クラス勘定科目)を使用して、売掛金と留保金の仕訳用に借方側の勘定科目が確定されます。

AAI 情報は、AAI マスター(F0012)に保存されます。

AAI を変更する前に、詳細を理解しておく必要があります。

サービス請求システムでは、次の AAI を使用します。

RC	売掛金クラス勘定科目
RCxxxx	売掛金。xxxx は顧客マスターまたは元帳クラスおよび留保金テーブル(F48128)で設定した元帳クラスを表します。
RTxxxx	未払税。xxxx は顧客マスターまたは元帳クラスおよび留保金テーブル(F48128)で設定した元帳クラスを表します。
RCRETN	未収留保金

参照

- AAI の翻訳については『売掛管理』ガイドの「AAI の処理」
- 売掛金勘定とその他の売掛金 AAI については、『売掛管理』ガイドの「売掛管理システムの AAI」

順序/集計規則の定義

請求明細ワークテーブル(F4812)の取引から請求書バッチを生成すると、顧客ごとに新しい請求書が作成されます。請求書に表示する取引の順序と集計方法を指定できます。そのためには、まず順序/集計規則を定義します。

順序/集計規則は、請求書バッチの区切りと各請求項目の区切りを示します。区切りは次のレベルで定義できます。

Blank(ブランク)	レベル区切りを使用せずに取引がグループ化されます。
請求書レベル(I)	請求書レベルで順序/集計キーが変わると、固有の ID を持つ新しい請求書が作成されます。
支払項目レベル(P)	支払項目レベルで順序/集計キーが変わると、請求書内に新しい請求明細行が作成されず、新しい請求明細行には、固有の支払項目番号が割り当てられます。

順序/集計キーは次の用途で使用されます。

- 請求書番号の割当て
- 請求書/支払項目別の合計
- 売掛金仕訳および一般会計仕訳作成時に、売掛金元帳(F03B11)で表示される取引方法の制御
- ワークテーブル取引のキー情報(請求書や支払項目)の更新

たとえば、請求書レベルの順序/集計キーとしてビジネスユニット(作業)、支払項目レベルの順序/集計キーとして補助元帳(作業オーダー番号)を設定します。請求書の生成時に、順序/集計キーを使って次の処理が行われます。

- ビジネスユニットが変わる時点で新しい請求書番号を作成する
- 同一ビジネスユニットで補助元帳(作業オーダー番号)の値が変わる時点で新しい支払項目番号を作成する

請求書のバッチに対する所属ビジネスユニット番号別にワークテーブル取引をグループ化する場合があります。これを行なうためには、所属ビジネスユニット別に請求情報を順序づけて、[集計コード]フィールドはブランクにします。次に、補助元帳番号を使用してバッチ内の個々の請求書を順序付けて集計します。最後に主科目を使用して請求書内の支払項目を順序づけて集計します。

請求書 1 件に対して顧客番号は 1 件です。顧客番号が変わった場合は、順序/集計キーの設定に関係なく、新しい請求書番号が作成されます。

▶ 順序/集計キーを定義するには

〈システム・セットアップ〉メニュー(G48S40)から〈請求書順序/集計データ項目〉を選択します。

1. 〈請求書順序/集計テーブルの処理〉で、[追加]をクリックします。

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	区切りレベル	集計コード	順序/集計データ項目	データ項目記述	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1.00		MCU	CostCenter	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	2.00	I	SBL	Subledger	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	3.00	P	OBJ	ObjectAccount	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>					<input type="checkbox"/>

2. 〈請求書順序/集計テーブル〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 集計キー
- 記述

3. キーに含めるデータ項目の次のフィールドに値を入力します。

- 区切りレベル
- 集計コード
- 順序/集計データ項目

集計規則には、新しい請求書の作成を制御するデータ項目(集計コード I)と新しい請求書支払項目の作成を制御するデータ項目(集計コード P)をそれぞれ 1 つずつ含める必要があります。

請求明細情報の順序設定に使用するデータ項目は、いくつでも設定できます。[レベル区切り]フィールドで入力した番号により、バッチ内の請求書の請求情報をグループ化する方法が制御されます。

4. [OK]をクリックします。

元帳クラスと留保金規則の定義

ワークテーブル取引を生成/改訂する前に、元帳クラスと留保金規則を定義します。この情報は、元帳クラス/留保金情報テーブル(F48128)に保存されます。

サービス請求システムでは、テーブル F48128 は次の目的に機能します。

- 元帳クラスと支払条件の一時変更を定義します。
- 留保金情報
- 通貨モードの一時変更

元帳クラスおよび留保金情報テーブルの機能

請求書の生成時に、順序/集計キーとして設定したデータ項目(集計用データ項目)を使用して元帳クラス/留保金情報テーブル(F48128)の元帳クラス、留保金情報、および支払情報が検索されます。集計用データ項目とは、請求書を支払項目または請求書レベルで集計する際に使用するデータ項目を意味します。元帳クラス/留保金情報テーブル(F48128)に情報を設定しなかった場合は、顧客マスターの元帳クラスと支払条件が使用され、留保金は計算されません。

請求書を自動作成する際、各取引の次のフィールドに値が入力されます。

- 支払条件
- 元帳クラス
- 留保金のパーセンテージ
- 留保金元帳クラス
- 留保金税計算フラグ

これらのフィールドに入力される値は、請求書バッチに定義した順序/集計キー、および元帳クラス/留保金情報テーブル(F48128)に設定した元帳クラスに基づいて決まります。たとえば、請求書レベルの集計フィールドに補助元帳(作業オーダー)を指定した場合、これに適用する元帳クラス規則を、〈元帳クラスおよび留保金テーブルの改訂〉フォームで[キー・タイプ]を1(作業オーダー)または2(作業オーダー・クラス)として定義しておきます。

手作業で請求書を作成する場合は、順序/集計規則は使用しません。手作業で請求書を作成した場合は、キー・タイプを5(顧客)、テーブル・キーを特定の顧客番号で設定した元帳クラスだけが使用されます。

元帳クラス/留保金情報テーブル(F48128)は、複数のキー・タイプとテーブル・キーを使用して設定します。これらのキーを基に、元帳クラスと支払条件が請求取引と関連付けられます。

請求書は、常に顧客別に作成されます。順序/集計キーの集計用データ項目に顧客番号が設定されていない場合でも、キー・タイプを5(顧客)、テーブル・キーを特定の顧客番号で設定した元帳クラスが使用されます。

キー・タイプ/テーブル・キー

元帳クラス/留保金情報テーブル(F48128)にレコードを追加する場合は、次のキー・タイプをテーブル・キーと組み合わせて使用します。

- 1 作業オーダー
- 2 作業オーダー・クラス
- 5 顧客番号
- 6 ビジネスユニット番号
- 7 ビジネスユニット・クラス

たとえば、会計規則を作業オーダー別に定義する必要がある場合は、キー・タイプには 1 を指定し、テーブル・キーとして特定の作業オーダー番号を指定します。異なる会計規則を必要とする 3 つの作業オーダーがある場合は、3 つの異なる規則(キー・タイプには 1 を、テーブル・キーにそれぞれの作業オーダー番号を指定する)を設定する必要があります。

元帳クラス/留保金テーブルの主キー

元帳クラス/留保金規則には、必ず主キーを指定する必要があります。次の表では、この主キーのキー・タイプとテーブル・キーを説明しています。

キー・タイプ 元帳クラス/留保金情報テーブル(F48128)のレコードで主キーとして使用する番号の種類を指定します。ハードコードされた次の 5 個の値を使用できます。

テーブル・キー キー・タイプに対応した主キーの値を指定します。

元帳クラスと支払条件の一時変更

顧客マスター(F0301)の顧客に設定されている元帳クラスおよび支払条件を一時変更するには、次の情報を入力します。次の表では、元帳クラスと支払条件の一時変更を説明しています。

元帳クラス <売掛金仕訳>プログラム(R48199)の実行時に使用する売掛金科目を指定します。レコードが無い場合は、テーブル F0301 で顧客に定義された元帳クラスが使用されます。

支払条件 <売掛金仕訳の作成>プログラムの実行時に生成される請求書の支払条件を指定します。支払条件は、支払期日と割引率の決定に使用されます。レコードが無い場合は、テーブル F0301 で顧客に定義された支払条件が使用されます。

留保金情報

留保金とは、作業完了後に支払われる支払項目金額の請求額合計に占める割合です。〈売掛金仕訳の作成〉プログラム実行時に、留保金用の別レコードが作成されます。

留保金に関係するのは、〈元帳クラスおよび留保金テーブルの改訂〉フォームの次のフィールドです。

- | | |
|--------------------|---|
| 留保金のパーセンテージ | 作業完了まで請求を留保する金額の割合（パーセント）を指定します。ブランクの場合は、留保金は計算されません。 |
| 留保金元帳クラス | 留保金に対する〈売掛金仕訳の作成〉プログラム実行時に作成される相手科目の勘定科目を指定します。 |
| 留保金税計算フラグ | 留保金レコードを売掛管理システムと一般会計システムのどちらに保存するか、また税金の計算方法（繰延べの有無）を指定します。税額は、課税対象総額から計算する（繰延べなし）ことも、留保金額の税額を税額合計から差し引いて、留保金リリースまで繰り延べることもできます。 |

通貨モードの一時変更

通貨モードにより、請求システムでの金額の計算方法と保存方法が管理されます。他の固定情報と同様に、通貨モードは請求固定情報で設定するため、J.D. Edwards ではモードを設定した後で変更しないようお勧めします。

国内通貨モードは国内通貨から外貨への換算、外貨モードは外貨から国内通貨への換算を意味します。

元帳クラスおよび留保金テーブル(F48128)を使用して、請求固定情報の通貨コード設定を一時変更します。請求システム固定情報で通貨モードを外貨が設定されているが、特定の作業を国内通貨で管理する必要がある場合は、元帳クラス/留保金情報テーブル(F48128)でその作業を通貨モードを国内通貨として設定します。

はじめる前に

- 支払条件と売掛管理システム AAI を定義します。
- 留保金元帳クラスの AAI を定義します。
- 元帳クラス/留保金規則の主キーとして使用する値を決めます。

▶ 元帳クラスと留保金規則を定義するには

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から、〈元帳クラスおよび留保金テーブル〉を選択します。

1. 〈元帳クラスおよび留保金テーブルの処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft.

元帳クラスおよび留保金テーブルの改訂

OK キャンセル フォーム ツール

キー・タイプ	<input type="text" value="1"/>	Work order
テーブル・キー	<input type="text" value="65010"/>	Security - Perimeter Guards

支払条件	<input type="text"/>	Q
元帳クラス	<input type="text"/>	
留保%	<input type="text" value="3.00"/>	
留保金元帳クラス	<input type="text" value="RETN"/>	
留保金税計算	<input type="text"/>	
通貨モード	<input checked="" type="radio"/> 国内	<input type="radio"/> 外貨

2. 〈元帳クラスおよび留保金テーブルの改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - キー・タイプ
 - テーブル・キー
3. 住所録の顧客情報または顧客マスターの情報を一時変更するには、次のフィールドに値を入力します。
 - 支払条件
 - 元帳クラス
4. 次のフィールドに留保率を入力します。
 - 留保%
5. 次のフィールドに、〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)の実行時に留保金の相手科目として使用する勘定科目を指定します。
 - 留保金元帳クラス
6. 請求システム固定情報で設定した通貨モードを一時変更する場合には、次のオプションのいずれかを選択します。
 - 外貨
 - 国内

7. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
キー・タイプ	<p>〈サービス請求〉および〈契約請求〉システムのどのテーブル、またはユーザー定義コードから元取引およびワークファイル取引を検索および編集するかをテーブルキーと組み合わせるコード。有効な値、および各値に関連するテーブルまたはユーザー定義コードは、次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none">1 作業オーダー番号 - 作業オーダーマスター(F4801)2 作業オーダークラス - ユーザー定義コード(00/W7)3 契約番号 - 契約マスター(F5201)4 親契約番号 - 契約マスター(F5201)5 顧客 - 住所録マスター(F0101)6 作業/ビジネスユニット - ビジネスユニットマスター(F0006)7 作業クラス - ユーザー定義コード(00/11)8 会社 - 会社固定情報(F0010)9 デフォルト <p>キータイプを選択する際は、次のガイドラインに従ってください。</p> <ul style="list-style-type: none">・契約番号(3)または親契約番号(4)のキータイプは、税決定テーブル、元帳クラスおよび留保テーブルには使用できません。・会社(8)のキータイプは、元帳クラスおよび留保テーブルには使用できません。・デフォルト(9)のキータイプは、勘定科目決定テーブルおよび請求料金/割増しテーブル(World では原価割増しテーブル)にのみ使用できます。
テーブル・キー	<p>サービス請求システムと契約請求システムで、ワークテーブル取引を検索し、各種のテーブルと対照して検証するために、キー・タイプと組み合わせる値。[キー・タイプ]フィールドに入力する値によって、[テーブル・キー]フィールドの有効値が確定されます。たとえば、作業オーダー番号のキー・タイプ(1)を指定した場合は、[テーブル・キー]フィールドに作業オーダー・マスター(F4801)からの有効な作業オーダー番号を入力する必要があります。また、指定したキー・タイプによって、検索ボタンの使用時に[テーブル・キー]フィールドからアクセスできる検索ウィンドウが制御されます。たとえば、[キー・タイプ]フィールドで1を選択すると、[テーブル・キー]フィールドの検索ボタンを使用して、[作業オーダーの検索]ウィンドウにアクセスできます。[キー・タイプ]フィールドで2を指定した場合は、作業オーダー・クラスの[ユーザー定義コード]ウィンドウにアクセスします。</p>

支払条件

得意先または仕入先のデフォルトの支払条件を示すコード。支払条件により支払期日、割引額、割引期日が決まります。これらは請求書または伝票の入力時に自動的に割り当てられます。支払条件は「支払条件の改訂」プログラム(P0014)で定義します。もっとも頻繁に使用する支払条件にはブランクのコードを設定してください。たとえば次のとおりです。

ブランク

15 日以内支払

1

1/10、30 日以内支払(10 以内に支払った場合 1%割引)

2

2/10、30 日以内支払(10 以内に支払った場合 2%割引)

D

受領日支払

N

30 日以内支払

P

毎月 25 日

元帳クラス

請求書や伝票の転記時に計上する売掛金や買掛金を検索するために AAI 項目の RC(売掛金勘定)や PC(買掛金勘定)と組み合わせるコード。元帳クラスには最高 4 文字の英数字を割り当てることができます。各元帳クラスと対応する AAI を設定する必要があります。AAI が設定されていない場合、その元帳クラスは無視されます。

得意先や仕入先レコードの元帳クラスにデフォルト値を設定すると、取引入力時に変更しない限りこの値が使用されます。

注: 9999 は使用しないでください。これは、仕訳を作成しないようにする転記プログラムの予約コードです。

留保%

契約の留保率。たとえば 10.5%の場合、“10.5”と入力してください。

99.99 より大きい数字や 0 より小さい数字を入力することはできません。

留保金元帳クラス

留保金の相手科目を指定する AAI コード。たとえば、RETN または 1225 です。このコードを AAI(自動仕訳)で設定します。

注: 元帳クラスに 9999 は使用しないでください。これは、仕訳を作成しないように設定されているコードで、転記プログラムにより予約されています。

留保金税計算

留保金額を買掛管理システムと一般会計システムのどちらに保管するか、また税額の計算を留保金額を含む課税額合計に対して行うするか、請求された金額ごとに行うかを指定します。有効な値は次のとおりです。

Blank 留保金額は買掛管理システムに保管し、税額は課税額合計に対して計算する。

- 1 留保金額は買掛管理システムに保管し、留保金額の税額を税額合計から差し引く。留保金額の税額は、留保金がリリースされるまで繰り延べられます。
- 2 留保金額は一般会計システムに保管し、税額は課税額合計に対して計算する。
- 3 留保金額は一般会計システムに保管し、留保金額の税額を税額合計から差し引く。留保金額の税額は、留保金がリリースされるまで繰り延べられます。

国内

金額を国内通貨または外貨のどちらで表示するかを指示するチェックボックス。

外貨

金額を国内通貨または外貨のどちらで表示するかを指示するチェックボックス。

元帳クラス/留保金テーブル一覧の印刷

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から、〈元帳クラスおよび留保金テーブル一覧〉を選択します。

〈元帳クラスおよび留保金テーブル一覧〉レポート(R48128)では、データ選択基準に見合う元帳クラスおよび留保金規則のすべての一覧が作成されます。レポート上の情報は、〈元帳クラスおよび留保金テーブルの処理〉フォームの情報と同じです。

〈元帳クラスおよび留保金テーブル一覧〉レポートには、元帳クラスおよび留保金情報テーブル(F48128)から情報が取り込まれます。

税額決定規則の定義

税額決定規則により、ワークテーブル取引に適用する税情報を定義します。税額決定規則を設定しない場合は、作業マスター情報で指定した税情報が使用されます。税情報が作業マスター情報に設定されていない場合は、作業オーダー・マスターまたは顧客マスターの情報が使用されます。

税額決定規則を設定するには、次のキー情報を入力します。

- キー・タイプ/テーブル・キー
- 有効日付の範囲
- 主科目と補助科目の範囲

費用を集計したり、ワークテーブル取引を改訂したりするときに、規則で指定したキー情報に基づいて該当する税規則が適用されます。

はじめる前に

- 税率と税目コードを設定します。税率および税目コードの設定については『税リファレンス・ガイド』の「税情報の設定」を参照してください。

▶ 税額決定規則を定義するには

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈税決定テーブル〉を選択します。

1. 〈税額計算テーブルの処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft.
税額計算基準の改訂

OK 検索 削除 キャンセル ツール

キー・タイプ Work order

テーブル・キー Security Services

開始日付 終了日付

クランプのカスタマイズ

	開始主科目	終了主科目	開始補助科目	終了補助科目	税率/税域	税目コード	固有キーID	
<input checked="" type="checkbox"/>	1341	1343			CO	V	3	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	8121	8999			CO	V	2	
<input type="checkbox"/>								

2. 〈税額決定基準の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- キー・タイプ
- テーブル・キー
- 開始日付
- 終了日付

3. 規則を適用する勘定科目の範囲を次のフィールドで指定します。

- 開始主科目
- 終了主科目
- 開始補助科目
- 終了補助科目

4. 適用する税情報の範囲を次のフィールドで指定します。

- 税率/税域

注:

税率/域を指定するか、次の値のいずれかを指定できます。

- *CC - ビジネスユニットからの税率/域および税目コードを使用する。
 - *WO - 作業オーダーからの税率/域および税目コードを使用する。
-

- 税目コード

5. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
税率/税域	共通の税率と納税先をもつ地理的な地域を示すコード。入力したコードは税率/税域テーブル(F4008)にあるかどうかチェックされます。請求書や伝票の入力時に、この税率/税域と税目コード、税規則に基づいて税額および勘定科目の金額が自動的に計算されます。
税目コード	税計算のためにシステムが使用するアルゴリズムを制御するハードコードされたユーザー定義コード(00/EX)。この税目コードと税率/税域、税規則を組み合わせると税計算の方法が決まります。支払項目ごとに異なる税目コードを指定することができます。

税決定テーブル一覧の印刷

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈税決定テーブル一覧〉を選択します。

〈税決定テーブル一覧〉レポート(R48127)には、データ選択基準に見合う税決定規則の情報が含まれています。このレポートには、〈税決定の改訂〉フォームに表示される内容と同じ情報が含まれています。

税決定テーブル一覧には、税決定情報テーブル(F48127)から情報が取り込まれます。

Key Type 1 Work order
Table Key 65017 Security Services
Start Effective Date 1/1/2005 Ending Effective Date 12/31/2006

Object	Subsidiary	Tax	Tax	Tax
From	From	Rate/Area	Exp	Gross
Thru	Thru			
1341	1343	00	V	
8121	8999	00	V	

Key Type 2 Work order class
Table Key FER Perimeter Guard
Start Effective Date 1/1/2005 Ending Effective Date 12/31/2006

Object	Subsidiary	Tax	Tax	Tax
From	From	Rate/Area	Exp	Gross
Thru	Thru			
1341	1343	00	S	
4000	4200	00	S	
8121	8999	00	S	

請求 AAI の処理

テスト・モードまたは最終モードで会計仕訳を生成する前に、〈請求 AAI〉で会計規則を設定する必要があります。これらの請求 AAI(自動仕訳)により、日常的に使用する会計機能や勘定科目表、財務レポートを連結します。請求 AAI は、システムが仕訳で自動的に計上する勘定科目を決定する際に使用されます。たとえば、契約請求システムでは、提供した商品やサービスについて顧客に請求する際に、〈請求 AAI〉で取引の入力方法を指定します。

各請求 AAI は、ビジネスユニットや主科目の他に、必要な場合には補助科目や補助元帳と補助元帳タイプを含む特定の勘定科目に関連付けられています。

顧客への請求書で税を徴収する必要がある場合は、請求 AAI を使用して税額を適切な勘定科目に配賦します。

請求 AAI は請求 AAI 情報テーブル(F48S95)に保存されます。

請求 AAI の主キー

定義する請求 AAI テーブルごとに主キーを指定する必要があります。主キーには次の情報が含まれます。

請求 AAI 作成された仕訳項目のタイプに対応します。たとえば、AAI 4811(実績収益勘定)では、請求書や収益認識の処理で、収益を貸方に記帳する際の勘定科目を指定します。

キー・タイプ 請求 AAI 主キー値のタイプを定義します。次のハードコードされた値を使用できます。

- 作業オーダー
- 作業オーダー・クラス
- 契約番号
- 親契約番号
- 顧客
- 作業またはビジネスユニット
- 職務分類
- 会社
- デフォルト

テーブル・キー キー・タイプに基づいて主キー値を定義します。請求明細取引の情報が請求システムのテーブルに存在しているかを確認するために主キー値が使用されます。

有効日付 請求 AAI テーブルの有効期間を指定します。ワークテーブル取引のテーブル基準日付と請求 AAI が検索される日付が比較されます。

実際収益科目(4811) - 必須

収益勘定科目の AAI 番号 4811 は必須です。この AAI では、会計仕訳に割り当てられる実際収益勘定科目を定義します。

この AAI を使用して、収益を収益勘定科目の貸方に計上します。〈請求固定情報〉プログラム(P48091)で[仕訳生成の制御]オプションを 1(請求書のみ)または 4(調整ありの請求/収益認識)に設定すると、〈売掛金仕訳の作成〉プログラム(R48199)の実行中に、収益がこの勘定科目の貸方に計上されます。[仕訳生成の制御]オプションを 2(収益のみ)または 3(調整なしの請求書/収益)に設定すると、〈仕訳の作成〉プログラム(R48198)の実行中に、この勘定科目が貸方に計上されます。

未払税科目(4815)

未払税勘定科目の AAI 番号 4815 は任意です。この AAI では、会計仕訳に割り当てられる未払税勘定科目を定義します。ワークテーブル取引からの税額は、この勘定科目の貸方に計上されます。この AAI を設定しなければ、税額は AAI 4811(実績収益)用に設定した収益勘定科目の貸方に計上されます。

この AAI は、請求書仕訳の生成時に、収益に関係なく売上税または PST 税を配賦するために使用します。VAT 税や GST 税の配賦には、売掛金 AAI を使用します。この AAI には再配賦規則を使用できません。

課税対象売掛金科目(4822 および 4823)

課税対象売掛金科目の AAI 番号 4822 および 4823 は任意です。これらの AAI を使用して、ワークテーブル取引から課税対象請求額の仕訳が作成されます。

AAI4822 は、課税対象の売掛金勘定を定義して請求書仕訳作成時に貸方レコードを作成します。

AAI4823 は、課税対象の売掛金勘定を定義して請求書仕訳作成時に借方レコードを作成します。

請求書仕訳の作成時には、それぞれの勘定科目に借方/貸方計上されます。これらの請求 AAI は任意ですが、AAI 4822 を設定した場合には貸借を一致させるために AAI 4823 も設定する必要があります。

見越収益勘定科目(4831)

見越(未請求)収益勘定科目の AAI 番号 4831 が必須となるのは、〈請求固定情報〉プログラム(P48091)で仕訳作成の制御オプションを 4(調整ありの請求書/収益)に設定した場合です。それ以外の場合はこの AAI は使用しません。

収益認識時には、この AAI で指定した未収収益科目に認識収益額が貸方計上されます。その後、請求書の処理中に、収益金額がこの AAI で指定した未収収益科目の借方に、課税対象請求金額が請求 AAI 4811 で指定した実際収益科目の貸方に計上されます。この AAI には再配賦規則を使用できません。

見越売掛金科目(4832)

見越(未請求)売掛金科目の請求 AAI 番号 4832 が必須となるのは、〈請求固定情報〉プログラム(P48091)で仕訳作成の制御オプションを 2(収益のみ)、3(収益認識ありの請求書)、または 4(調整ありの請求書/収益認識)のいずれかに設定した場合です。それ以外の場合はこの AAI は使用しません。

この AAI を使用して、認識する収益金額が見越売掛金科目の借方に計上されます。仕訳作成の制御フラグを 3 または 4 に設定すると、請求書仕訳の生成中に収益金額がこの勘定科目の貸方に計上されます。この AAI には再配賦規則を使用できません。

未成工事支出金科目(4841)および売上原価科目(4842)

未成工事支出金(仕掛品)科目の AAI 4841 は、原価のみの取引(適格性コード 4)を処理する場合に必須です。それ以外の場合、この AAI は任意です。この請求 AAI では、相手科目として使用する未成工事支出金(仕掛品)科目を定義します。ワークテーブル取引からの原価金額は、この勘定科目の貸方に計上されます。仕掛勘定に項目を入力する場合は、貸借を一致させるために AAI 4842(売上原価)を設定する必要があります。この AAI を使用して、費用を仕掛勘定科目の貸方に計上します。

売上原価の勘定科目 AAI 4842 は、AAI 4841(仕掛勘定)の基本規則を設定した場合には必須となります。これは仕訳の貸借を一致させるためです。この AAI を使用して、原価を売上原価勘定科目の借方に計上します。

売上利益勘定科目(4871 および 4872)

売上利益勘定科目の AAI 4871 および 4872 は任意で設定します。これらの AAI を使用して、売上利益の会計仕訳を作成します。売上利益は、ワークテーブル取引の収益金額から原価金額を差し引くことで計算されます。

AAI4871 は、売上利益勘定科目を定義して、仕訳生成時に貸方レコードを作成します。AAI4872 は、売上利益勘定科目を定義して、仕訳生成時に借方レコードを作成します。

元帳仕訳を生成すると、これらの勘定科目の借方と貸方に計上されます。これらの AAI は任意ですが、AA 4871 を定義した場合は貸借を一致させるため AAI 4872 も設定してください。

請求書利益勘定科目(4873 および 4874)

請求書利益勘定科目の AAI 4873 および 4874 は任意で設定します。これらの AAI を使用して、請求書利益金額の会計仕訳を作成します。請求書利益金額は、ワークテーブル取引の請求合計から原価を差し引いて計算されます。

AAI4873 は、請求書利益勘定科目を定義して、請求書勘定仕訳生成時に貸方レコードを作成します。AAI4874 は、請求書利益勘定科目を定義して、請求書勘定仕訳生成時に借方レコードを作成します。

請求書仕訳の作成時には、それぞれの勘定科目に借方/貸方計上されます。これらの AAI は任意ですが、AA 4873 を定義した場合は貸借を一致させるため AAI 4874 も設定してください。

請求 AAI のキー・タイプとテーブル・キー

次のキー・タイプをテーブル・キーと組み合わせて、請求 AAI テーブルの詳細を定義します。

- 1 作業オーダー
- 2 作業オーダー・クラス
- 3 契約番号
- 4 親契約番号
- 5 顧客番号
- 6 ビジネスユニット番号
- 7 ビジネスユニット・クラス
- 8 会社番号
- 9 デフォルト

たとえば、会計規則を作業オーダー番号別に定義する必要がある場合は、キー・タイプには 1 を指定し、テーブル・キーとして特定の作業オーダー番号を指定します。異なる会計規則を必要とする 3 つの作業オーダーがある場合は、キー・タイプに 1 を指定し、テーブル・キーにそれぞれの作業オーダーを指定することにより、あわせて 3 つの異なる会計規則を設定する必要があります。

請求 AAI の主キー

定義する請求 AAI テーブルごとに、少なくとも 1 つは補助キーを指定する必要があります。補助キーには、必ず次の情報が含まれます。

勘定科目範囲

会計規則の割当てに使用する主科目と補助科目の範囲を指定します。この会計規則を使用するには、ワークテーブル取引の主科目と補助科目が指定の範囲に含まれている必要があります。主科目範囲を空白にした場合、この規則はすべての主科目に対して適格となります。補助科目範囲を空白にした場合、この規則はすべての補助科目に対して適格となります。

請求不可の勘定科目を選択して、請求システムが取引を再度処理しないようにします。

補助元帳および補助元帳タイプ

会計規則の割当てに使用する補助元帳と補助元帳タイプを指定します。この会計規則を使用するには、ワークテーブル取引の補助元帳および補助元帳タイプが、これらの入力と一致している必要があります。補助元帳と補助元帳タイプを空白にすると、この規則は補助元帳/補助元帳タイプの値に関係なく適用されます。補助元帳を入力する場合は、補助元帳タイプも入力する必要があります。逆に、補助元帳タイプを入力する場合は、補助元帳も入力する必要があります。

注:

この会計規則をキー・タイプ 1 に対して定義すると、テーブル・キー値として割り当てた作業オーダーは、デフォルトで補助元帳タイプ W の補助元帳に設定されます。

元帳クラス

会計規則の割当てに使用する元帳クラスを指定します。元帳クラスを空白にすると、すべての元帳クラスがこの規則に適格となります。ワークテーブル取引の元帳クラスが、この値と比較されます。ただし、請求 AAI 4815(未払税)の場合は、税率/税域テーブルで設定した納税先の元帳クラスと比較されます。

注:

元帳クラスは、サービス請求取引のみに使用されます。

追加料金コード

会計規則の割当てに使用する追加料金コードを識別します。このフィールドを空白にすると、この会計規則を基本ワークテーブル取引と追加料金ワークテーブル取引に使用できます。基本ワークテーブル取引用の設定とは異なる会計規則を追加料金ワークテーブル取引に割り当てるには、このフィールドを有効な追加料金コードで更新します。完全に一致する追加料金ワークテーブル取引が見つからない場合は、基準ワークテーブル取引に設定した会計規則が使用されます。

たとえば、基本ワークテーブル取引に OVH(間接費)、GA(一般および管理費)、FEE(手数料)の 3 つの追加料金ワークテーブル取引があって、会計規則に割り当てられた OVH 収益を、基本ワークテーブル取引やその他のワークテーブル取引とは異なるものにする場合、会計規則を 2 つ設定します。1 つは OVH 収益を処理するための会計規則で、[追加料金コード]フィールドを OVH に設定します。、もう 1 つは基本および GA、FEE のワークテーブル取引用で、追加料金コードは空白とします。

請求書および元帳仕訳生成用の AAI 処理

元帳仕訳の生成と請求書仕訳の生成では、AAI の処理内容が異なります。次の表は、〈請求固定情報〉プログラム(P48091)の仕訳生成の制御の設定と、ワークテーブル取引の適格性コードの割当てに関して、請求書と元帳の仕訳の生成におけるさまざまな AAI の処理例を示します。借方金額と貸方金額は、課税対象外ワークテーブル取引に保存された金額に基づく、各仕訳項目のサンプル金額を表します。

原価金額(WDAA)	750.00ドル
収益金額(WDBTOL)	1000.00ドル
課税対象金額(WDITXA)	1000.00ドル
税額(WDITAM)	0.00ドル
請求金額(WDITOL)	1000.00ドル

総勘定元帳仕訳の作成						
仕訳作成固定情報	適格性コード	AAI 番号	勘定科目	取り込まれる金額	任意/ 必須	仕訳金額
これらの項目は、請求書バッチに関連する元帳バッチとして処理されます。						
請求書のみ 調整なしの請求書/収益 調整ありの請求書/収益	1 = 請求書にのみ使用可能	4822	課税対象売掛金	WDITXA	任意	(貸)1,000.00
	1	4823	課税対象売掛金	WDITXA	任意	(借)1,000.00
	1	4841	仕掛	WDAA	任意	(貸)750.00
	1	4842	売上原価	WDAA	任意	(借)750.00
	1	4873	請求書利益	WDITOL - WDAA	任意	(貸)250.00
	1	4874	請求書利益	WDITOL - WDAA	任意	(借)250.00

総勘定元帳仕訳の作成						
仕訳作成固定情報	適格性コード	AAI 番号	勘定科目	取り込まれる金額	任意/ 必須	仕訳金額
収益のみ 調整なしの請求書/ 収益 調整ありの請求書/ 収益	2 = 収益にのみ使用可能	4811	実績収益	WDBTOL	必須	(貸)1,000.00
	2	4832	見越売掛金	WDBTOL	必須	(借)1,000.00
	2	4841	仕掛	WDAA	任意	(貸)750.00

	2	4842	売上原価	WDAA	任意	(借)750.00
	2	4871	利益	WDITOL - WDAA	任意	(貸)250.00
	2	4872	利益	WDITOL - WDAA	任意	(借)250.00
調整なしの請求書/ 収益	0 = 請求書/収益にのみ 使用可能	4811	実績収益	WDBTOL	必須	(貸)1,000.00
	0	4822	課税対象売掛金	WDITXA	任意	(貸)1,000.00
	0	4823	課税対象売掛金	WDITXA	任意	(借)1,000.00
	0	4832	見越売掛金	WDBTOL	必須	(借)1,000.00
	0	4841	仕掛	WDAA	任意	(貸)750.00
	0	4842	売上原価	WDAA	任意	(借)750.00
	0	4871	利益	WDITOL - WDAA	任意	(貸)250.00
	0	4872	利益	WDITOL - WDAA	任意	(借)250.00
	0	4873	請求書利益	WDITOL - WDAA	任意	(貸)250.00
	0	4874	請求書利益	WDITOL - WDAA	任意	(借)250.00

総勘定元帳仕訳の作成						
仕訳作成固定情報	適格性コード	AAI 番号	勘定科目	取り込まれる 金額	任意/必 須	仕訳金額
調整ありの請求書/ 収益	0 = 請求書/収益にのみ 使用可能	4822	課税対象売掛 金	WDITXA	任意	(貸) 1,000.00
	0	4823	課税対象売掛 金	WDITXA	任意	(借) 1,000.00
	0	4831	見越収益	WDBTOL	必須	(貸) 1,000.00
	0	4832	見越売掛金	WDBTOL	必須	(借) 1,000.00

	0	4841	仕掛	WDAA	任意	(貸)750.00
	0	4842	売上原価	WDAA	任意	(借)750.00
	0	4871	利益	WDITOL - WDAA	任意	(貸)250.00
	0	4872	利益	WDITOL - WDAA	任意	(借)250.00
	0	4873	請求書利益	WDITOL - WDAA	任意	(貸)250.00
	0	4874	請求書利益	WDITOL - WDAA	任意	(借)250.00

総勘定元帳仕訳の作成						
仕訳作成固定情報	適格性コード	AAI 番号	勘定科目	取り込まれる金額	任意/必須	仕訳金額
原価計算取引						
請求書のみ 収益のみ 調整なしの請求書/収益 調整ありの請求書/収益	4 = 原価にのみ使用可能	4841	仕掛	WDAA	任意	(貸) 750.00
	4	4842	売上原価	WDAA	任意	(借) 750.00
適格性コード 5(買掛金にのみ適用可能) - 現在は総勘定元帳仕訳の作成なし。						

請求書仕訳の生成						
仕訳作成固定情報	適格性コード	AAI 番号	勘定科目	取り込まれる金額	任意/必須	仕訳金額
収益のみ 請求書仕訳は作成されません。						

請求書のみ 調整なしの請求書/ 収益 調整ありの請求書/ 収益	1 = 請求書にのみ 使用可能	4811	実績収益	WDITOL	必須	(貸)1,000.00
	1	4815	税	WDITAM	任意	(貸)0.00
	1	RC + GLC	売掛金	W4THPD	必須	(借)1,000.00
調整なしの請求書/ 収益	0 = 請求書/収益 にのみ使用可能	4832	見越売掛金	WDITOL	必須	(貸)1,000.00
	0	4815	税	WDITAM	任意	(貸)0.00
	0	RC + GLC	売掛金	W4THPD	必須	(借)1,000.00
調整ありの請求書/ 収益	0 = 請求書/収益 にのみ使用可能	4831	見越収益	WDITOL	必須	(借)1,000.00
	0	4832	見越売掛金	WDITOL	必須	(貸)1,000.00
	0	RC + GLC	売掛金	W4THPD	必須	(借)1,000.00
	0	4811	実績収益	WDBTOL	必須	(貸)1,000.00
	0	4815	税	WDITAM	任意	(貸)0.00
	0	4831	見越収益	WDBTOL	必須	(貸)1,000.00
	0	4822	課税対象売 掛金	WDITXA	任意	(貸)1,000.00
	0	4823	課税対象売 掛金	WDITXA	任意	(借)1,000.00
	0	4873	請求書利益	WDITOL - WDAA	任意	(貸)250.00
	0	4874	請求書利益	WDITOL - WDAA	任意	(借)250.00
	0	4832	見越売掛金	WDBTOL	必須	(借)1,000.00

基本規則の定義

基本規則は、請求や原価計算、収益認識処理用の会計仕訳を作成する際に使用される勘定科目を指定します。基本規則を使用して、基本ワークテーブル取引と追加料金ワークテーブル取引の金額全体の会計仕訳が作成されます。基本規則の[パーセント基準]フィールドを 100%に設定する必要があります。

はじめる前に

- 請求固定情報の仕訳作成の制御オプションの設定を確認します。『サービス請求』ガイドの「請求固定情報の設定」を参照してください。
- 請求 AAI 規則の定義に使用する主/補助キー値を決めます。請求 AAI 規則を追加または更新する際に、これらの値が検証されます。『サービス請求』ガイドの「請求 AAI の処理」を参照してください。

▶ 基本規則を定義するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈請求 AAI〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈請求 AAI〉を選択します。

1. 〈AAI の処理〉で、AAI を選んで[選択]をクリックします。
2. 〈請求 AAI の処理〉フォームで、[追加]をクリックします。

PeopleSoft

AAI 基本規則の改訂

OK 検索 削除 キャンセル フォーム ロー ツール
開 閉 変

AAIテーブルNo. 4811 Actual Revenue - Credit
キータイプ 3 Contract number 有効開始日 05/01/01
テーブルキー 5350 Wet and Willy Wilderness Ride 有効終了日 06/12/31

グリッドのカスタマイズ

相互参照	開始主科目	終了主科目	開始補助科目	終了補助科目	補助元帳	補助元帳タイプ	元帳クラス	追加料金コード	結果ビジネスユニット	結果主科目	条件
<input checked="" type="checkbox"/>	8400	8499							*SRC	1380	

3. 〈AAI 基本規則の改訂〉で、次のフィールドに情報を入力します。

- キー・タイプ
 - テーブル・キー
 - 有効開始日
 - 有効終了日
4. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。
- 開始主科目
 - 終了主科目
 - 開始補助科目
 - 終了補助科目
 - 補助元帳
 - 補助元帳タイプ
 - 元帳クラス
 - 追加料金コード
5. 会計仕訳を作成する勘定科目を指定するには、次のフィールドに情報を入力します。
- 結果ビジネスユニット
ビジネスユニットを直接指定するか、次の値のいずれかを使用してください。
 - ブランク顧客マスター情報のデフォルト収益勘定科目からのビジネスユニット。
 - *SRC ソース取引のビジネスユニット。
 - *WO 顧客マスターの請求先ビジネスユニット
 - *HOME:ソース取引の所属ビジネスユニット。所属ビジネスユニットが存在しない場合は、元取引のビジネスユニットが使用されます。
 - *PROJ.作業マスター情報からのプロジェクト番号。
 - *CO ソース取引からの会社番号。
 - ホスト(host):ワークテーブル取引の所属ビジネスユニット。
 - *EHMCU.設備マスター情報からの担当ビジネスユニット。
 - 結果主科目
主科目を直接指定するか、次の方法のいずれかを使用してください。

ソース取引に関連する定義に、桁ワイルドカードとしてアスタリスク(*)を使用します。たとえば、ソース取引からの主科目が 3106 であるとします。この主科目を対象取引用に“4***”として定義すると、対象主科目は 4106 となります。

次のどちらかの値を使用します。

- ブランク顧客マスター情報のデフォルト収益勘定科目からの主科目。
- *SRC ソース取引からの主科目。
- 結果補助科目
補助科目を直接指定するか、次の値のいずれかを使用してください。
 - ブランク顧客マスター情報のデフォルト収益勘定科目からの補助科目。
 - *BLANK 対象取引の補助科目はブランクになります。
 - *SRC ワークテーブル取引の補助科目
 - *WO 作業オーダー・マスター情報からの原価コード(補助科目)。
- 結果補助元帳
補助元帳/補助元帳タイプを指定するか、次のいずれかの値を指定します。
 - *SRC ワークテーブル取引からの補助元帳と補助元帳タイプが使用されます。
 - *WO 作業オーダー番号と補助元帳タイプ W が使用されます。
 - *CUST 顧客の住所番号と補助元帳タイプ A が使用されます。
 - *CC ワークテーブル取引からのビジネスユニットと補助元帳タイプ C が使用されます。
 - *EMP ワークテーブル取引からの従業員/仕入先住所番号と補助元帳タイプ A が使用されます。
 - 納税先の住所番号と補助元帳タイプ A が使用されます。納税先は、ワークテーブル取引に割り当てられた税率/税域に関連付けられています。
- 結果補助元帳タイプ

注:

請求不可の勘定科目を指定して、請求システムが取引を再度処理しないようにします。

6. 会計仕訳の記述を追加するには、次のフィールドに情報を入力します。
 - 記述
7. 会計仕訳の従業員番号を更新するには、次のフィールドに情報を入力します。
 - 従業員制御フラグ
8. 会計仕訳の数量を更新するには、次のフィールドに情報を入力します。
 - 数量制御フラグ
9. 会計仕訳の設備を更新するには、次のフィールドに情報を入力します。

- 設備制御フラグ

10. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
キー・タイプ	<p>〈サービス請求〉および〈契約請求〉システムのどのテーブル、またはユーザー定義コードから元取引およびワークファイル取引を検索および編集するかをテーブルキーと組み合わせて決めるコード。有効な値、および各値に関連するテーブルまたはユーザー定義コードは、次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 作業オーダー番号 - 作業オーダーマスター(F4801) 2 作業オーダークラス - ユーザー定義コード(00/W7) 3 契約番号 - 契約マスター(F5201) 4 親契約番号 - 契約マスター(F5201) 5 顧客 - 住所録マスター(F0101) 6 作業/ビジネスユニット - ビジネスユニットマスター(F0006) 7 作業クラス - ユーザー定義コード(00/11) 8 会社 - 会社固定情報(F0010) 9 デフォルト <p>キータイプを選択する際は、次のガイドラインに従ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・契約番号(3)または親契約番号(4)のキータイプは、税決定テーブル、元帳クラスおよび留保テーブルには使用できません。 ・会社(8)のキータイプは、元帳クラスおよび留保テーブルには使用できません。 ・デフォルト(9)のキータイプは、勘定科目決定テーブルおよび請求料金/割増しテーブル(World では原価割増しテーブル)にのみ使用できます。
テーブル・キー	<p>サービス請求システムと契約請求システムで、ワークテーブル取引を検索し、各種のテーブルと対照して検証するために、キー・タイプと組み合わせて使用される値。[キー・タイプ]フィールドに入力する値によって、[テーブル・キー]フィールドの有効値が確定されます。たとえば、作業オーダー番号のキー・タイプ(1)を指定した場合は、[テーブル・キー]フィールドに作業オーダー・マスター(F4801)からの有効な作業オーダー番号を入力する必要があります。また、指定したキー・タイプによって、検索ボタンの使用時に[テーブル・キー]フィールドからアクセスできる検索ウィンドウが制御されます。たとえば、[キー・タイプ]フィールドで1を選択すると、[テーブル・キー]フィールドの検索ボタンを使用して、[作業オーダーの検索]ウィンドウにアクセスできます。[キー・タイプ]フィールドで2を指定した場合は、作業オーダー・クラスの[ユーザー定義コード]ウィンドウにアクセスします。</p>
有効開始日	<p>住所、品目、取引、テーブルなどが有効になる日付。このフィールドの意味はプログラムによって異なります。たとえば、次のような日付として使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住所の変更が有効になる日付 ・賃貸契約が有効になる日付 ・価格が有効になる日付 ・為替レートが有効になる日付 ・税率が有効になる日付
有効終了日	<p>項目、取引、テーブルが非活動となる日付、または取引を表示する最終日付。このフィールドはシステム全体で使用されます。賃貸有効日付、価格または原価有効日付、通貨有効日付、税率有効日付などとして使用できます。</p>

開始主科目	<p>勘定科目コードの中で、原価コード(労務費、材料費、設備費など)をサブカテゴリに分類する部分。原価コードは、たとえば労務費を通常時間、割増し時間、間接費に分類するのに使用します。</p> <p>注: 任意勘定科目コードを使用して主科目コードを6桁にした場合は、6桁すべてを使用することをお勧めします。たとえば、“000456”と入力するのと“456”と入力するのでは、後者の場合、スペースが3つ追加されるので結果が異なります。</p>
終了主科目	<p>勘定科目の範囲で終了主科目を示します。</p>
開始補助科目	<p>主科目の下の科目区分。補助科目は、取引レコードを主科目の下でさらに細分化します。</p>
終了補助科目	<p>勘定科目範囲の最後の補助科目を示します。これを使って配賦基準が決定されます。この範囲内にある勘定科目の転記済み金額のみ含まれます。</p>
補助元帳	<p>総勘定元帳の勘定科目をさらに細かく分類して取引を記録するための補助区分コード。たとえば住所番号を入力して、従業員別に経費を把握することができます。このフィールドに入力する場合、補助元帳タイプも指定する必要があります。</p>
補助元帳タイプ	<p>補助元帳フィールドと併用するユーザー定義コード(00/ST)で、補助元帳タイプと補助元帳編集を識別します。〈ユーザー定義コード〉フォームでは、記述の第2行目により補助元帳の編集方法が制御されます。ハードコード化されている値またはユーザー定義の値を指定できます。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> A 英数字フィールド。編集しない。 N 数値フィールド。右に揃え、ゼロで埋める。 C 英数字フィールド。右に揃え、ゼロで埋める。
元帳クラス	<p>請求書や伝票の転記時に計上する売掛金や買掛金を検索するためにAAI項目のRC(売掛金勘定)やPC(買掛金勘定)と組み合わせるコード。元帳クラスには最高4文字の英数字を割り当てることができます。各元帳クラスと対応するAAIを設定する必要があります。AAIが設定されていない場合、その元帳クラスは無視されます。</p> <p>得意先や仕入先レコードの元帳クラスにデフォルト値を設定すると、取引入力時に変更しない限りこの値が使用されます。</p> <p>注: 9999 は使用しないでください。これは、仕訳を作成しないようにする転記プログラム予約コードです。</p>
追加料金コード	<p>追加料金コードは、請求明細取引レベルで勘定される仮の間接労務費を識別します。</p>

結果ビジネスユニット

発生する取引を記録するビジネスユニット。ビジネスユニットを直接指定するか、次の値を使用してください。

ブランク - 得意先マスターのデフォルト収益勘定のビジネスユニットを使用する。

*SRC - 元取引のビジネスユニットを使用する。

*WO - 得意先マスターの請求先ビジネスユニットを使用する。

*HOME - 元取引の所属ビジネスユニットを使用する。所属ビジネスユニットが存在しない場合は、元取引のビジネスユニットが使用されます。

*PROJ - 作業マスターのプロジェクト番号を使用する。

*CO - 元取引の会社番号を使用する。

*HOST - ワークファイル取引の所属ビジネスユニットを使用する。

*EHMCU - 設備マスターの所属ビジネスユニットを使用する。

結果主科目

このフィールドは結果取引に使用される主勘定科目を確定します。次の方法の1つが使用できます。

- ・ 主勘定科目を指定。
- ・ ソース取引に関連する定義に、定位置ワイルドカード(*)を使用。
例えば、ソース取引からの主勘定科目は 3106 です。例えば、ソース取引からの主勘定科目は 3106 です。結果取引の主勘定科目を 4***と定義すると結果主勘定科目は 4106 となります。
- ・ 次の値の1つを使用。

ブランク - 得意先に対するマスター情報のデフォルト収益勘定からの主勘定科目。

*SRC - ソース取引からの主勘定科目を使用します。

結果補助科目

作成する取引の補助科目を決定します。補助科目を直接指定するか、次の値を使用してください。

ブランク - 得意先マスターのデフォルト収益勘定の補助科目を使用する

*BLANK - 作成する取引の補助科目をブランクにする

*SRC - ワークファイル取引の補助科目を使用する

*WO - 作業オーダーマスターの原価コード(補助科目)を使用する

結果補助元帳

取引の補助元帳および補助元帳タイプを示すコード。補助元帳/補助元帳タイプを指定するか、次のいずれかの値を指定します。

*SRC = ワークテーブル取引の補助元帳タイプと補助元帳の値

*WO = 補助元帳タイプは W、補助元帳の値は作業オーダー番号

*CUST = 補助元帳タイプは A、補助元帳の値は得意先の住所番号

*CC = 補助元帳タイプは C、補助元帳の値はワークテーブルのビジネスユニット

*EMP = 補助元帳タイプは A、補助元帳の値はワークテーブルの従業員/仕入先の住所番号

*AUTH = 補助元帳タイプは A、補助元帳の値は税務署の住所番号

納税先は、ワークテーブル取引に割り当てられた税率と関連付けられています。

結果補助元帳タイプ

[補助元帳]フィールドと合わせて補助元帳の種類とフィールド形式を指定するユーザー定義コード(00/ST)。〈ユーザー定義コード〉フォームの[記述 2]フィールドの値によってフィールド形式が決まります。ハードコードされているものとユーザーが定義できるものがあります。たとえば次のとおりです。

A = 英数字(検証しない)

N = 数字フィールド(右揃え、ゼロ埋め)

C = 英数字フィールド(右揃え、ブランク埋め)

記述

ユーザー定義名称または備考。

従業員制御フラグ

仕訳入力時の従業員番号の更新を制御するフラグです。

有効な値は次のとおりです。

ブランク 仕訳入力の際に従業員番号を更新しない

1 仕訳入力の際に従業員番号を更新する

数量制御フラグ

仕訳入力時に数量を記録するかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

ブランク 仕訳に数量を記録しない

1 仕訳に数量を記録する

設備制御フラグ

仕訳入力の際の設備番号更新を制御するフラグです。有効な値は次のとおりです。

ブランク 仕訳入力の際に設備番号を更新しない

1 仕訳入力の際の資産番号の更新に使用設備番号(EQCG)を使用する

2 仕訳入力の際の資産番号の更新に作業設備番号(EQWO)を使用する

処理オプション: 請求 AAI プログラム(P48S95)

デフォルト・タブ

フォームにアクセスしたときに最初に表示される AAI テーブルの番号を指定します。

1. AAI テーブル番号

[スキップ先]フィールドに自動入力する AAI テーブル番号を指定します。

セキュリティ・タブ

ユーザーがアクセスできるテーブルのキー・タイプを指定します。

1. キー・タイプ 1 - 作業オーダー

ブランク = 作業オーダー-AAI 基本規則へのアクセスを許可する

1 = 作業オーダー-AAI 基本規則へのアクセスを禁止する

作業オーダー番号別に設定された AAI 基本規則へのアクセスを禁止するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク AAI 基本規則へのアクセスを許可

1 AAI 基本規則へのアクセスを禁止

1. キー・タイプ 2 - 作業オーダー・クラス

ブランク = 作業オーダー-AAI 基本規則へのアクセスを許可する

1 = 作業オーダー-AAI 基本規則へのアクセスを禁止する

作業オーダークラス別に設定された AAI 基本規則へのアクセスを禁止するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク AAI 基本規則へのアクセスを許可

1 AAI 基本規則へのアクセスを禁止

1. キー・タイプ 3 - 契約番号

ブランク = 作業オーダー-AAI 基本規則へのアクセスを許可する

1 = 作業オーダー-AAI 基本規則へのアクセスを禁止する

契約番号別に設定された AAI 基本規則へのアクセスを禁止するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク AAI 基本規則へのアクセスを許可

1 AAI 基本規則へのアクセスを禁止

4. キー・タイプ 4 - 親契約番号

ブランク = 作業オーダー-AAI 基本規則へのアクセスを許可する

1 = 作業オーダー-AAI 基本規則へのアクセスを禁止する

親契約番号別に設定された AAI 基本規則へのアクセスを禁止するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク AAI 基本規則へのアクセスを許可

1 AAI 基本規則へのアクセスを禁止

5. キー・タイプ 5 - カスタマー番号

ブランク = 作業オーダー-AAI 基本規則へのアクセスを許可する

1 = 作業オーダー-AAI 基本規則へのアクセスを禁止する

得意先番号別に設定された AAI 基本規則へのアクセスを禁止するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク AAI 基本規則へのアクセスを許可

1 AAI 基本規則へのアクセスを禁止

6. キー・タイプ 6 - 作業番号

ブランク = 作業オーダー-AAI 基本規則へのアクセスを許可する

1 = 作業オーダー-AAI 基本規則へのアクセスを禁止する

ビジネスユニット(作業)番号別に設定された AAI 基本規則へのアクセスを禁止するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク AAI 基本規則へのアクセスを許可

1 AAI 基本規則へのアクセスを禁止

7. キー・タイプ 7 - 作業クラス

ブランク = 作業オーダー-AAI 基本規則へのアクセスを許可する

1 = 作業オーダー-AAI 基本規則へのアクセスを禁止する

ビジネスユニット(作業)クラス別に設定された AAI 基本規則へのアクセスを禁止するかどうかを

指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク AAI 基本規則へのアクセスを許可

1 AAI 基本規則へのアクセスを禁止

8. キー・タイプ 8 - 会社番号

ブランク = 作業オーダー-AAI 基本規則へのアクセスを許可する

1 = 作業オーダー-AAI 基本規則へのアクセスを禁止する

会社番号別に設定された AAI 基本規則へのアクセスを禁止するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク AAI 基本規則へのアクセスを許可

1 AAI 基本規則へのアクセスを禁止

9. キー・タイプ 9 - デフォルト

ブランク = 作業オーダー-AAI 基本規則へのアクセスを許可する

1 = 作業オーダー-AAI 基本規則へのアクセスを禁止する

デフォルト処理用に設定された AAI 基本規則へのアクセスを禁止するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク AAI 基本規則へのアクセスを許可

1 AAI 基本規則へのアクセスを禁止

再配賦規則の定義

再配賦規則は、勘定科目間で金額を振り替えるために使用します。再配賦規則は、貸借を一致させるための複数の勘定科目で構成されます。たとえば、最初の勘定科目の項目では、基本規則で設定した仕訳項目の減額を表すことができます。2 番目の項目では、新しい勘定科目の増額を表すことができます。再配賦規則のパーセント基準の合計値を 0(ゼロ)にしてください。貸方の再配賦規則にマイナスのパーセンテージを入力する必要はありません。

4831(見越収益)と 4832(見越売掛金)以外のどの AAI の基本規則についても再配賦規則を定義できます。これは、この 2 つの AAI では、〈サービス請求固定情報〉の[仕訳作成の制御]で設定した値に応じて、借方と貸方の両方に計上されるので、再配賦規則の借方/貸方フラグが誤解を招くためです。

J.D. Edwards では、収益または課税対象売掛金の配賦会計仕訳に再配賦規則を割り当てるには、AAI 4811(実際収益)または 4822(課税対象売掛金)を使用するようお勧めします。

▶ 再配賦規則を定義するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈請求 AAI〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈請求 AAI〉を選択します。

1. 〈AAI の処理〉で、AAI を選んで[選択]をクリックします。
2. 〈請求 AAI の処理〉で、AAI テーブルを選んで[選択]をクリックします。

PeopleSoft

AAI 基本規則の改訂

OK 検索 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

AAIテーブルNo. 4811 Actual Revenue - Credit

キータイプ 3 Contract number 有効開始日 05/01/01

テーブルキー 5350 Wet and Willy Wilderness Ride 有効終了日 06/12/31

	相互参照	開始主科目	終了主科目	開始補助科目	終了補助科目	補助元帳	補助タイプ	元帳クラス	追加料金コード	結果ビジネスユニット	結果主科目	注
<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	8400	8499							*SRC	1380	

3. 〈AAI 基本規則の改訂〉で、基本規則を選んで[ロー]メニューから[再配賦規則]を選択します。

注:

基本規則に再配賦がある場合は、〈AAI 基本規則の改訂〉フォームの[R]フィールドに X が表示されます。

PeopleSoft
AAI再配賦規則の改訂

OK 検索 削除 キャンセル ロー ツール

テーブル情報

AAIテーブルNo. 4811 Actual Revenue - Credit
キータイプ 3 Contract number 開始日 05/01/01
テーブル・キ 5350 Wet and Willy Wilderness Ride 終了日 06/12/31

基本規則情報

主科目範囲 8400 8499 補助科目範囲
補助元帳タイプ 元帳クラス 追加料金コード

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	元帳 タイプ	結果 ビジネスユニット	結果 主科目	結果 補助科目	結果 補助元帳	補助元帳 タイプ	記述	従業員 制御フラグ	数量 制御フラグ
<input checked="" type="checkbox"/>									

4. 〈AAI 再配賦規則の改訂〉で、会計仕訳を作成する勘定科目を指定するには、必要に応じて次のフィールドに情報を入力します。

- 元帳タイプ
- 結果ビジネスユニット
ビジネスユニットを直接指定するか、次の値のいずれかを使用してください。
 - ブランク顧客マスター情報のデフォルト収益勘定科目からのビジネスユニット。
 - *SRC ソース取引のビジネスユニット。
 - *WO 顧客マスターの請求先ビジネスユニット
 - *HOME.ソース取引の所属ビジネスユニット。所属ビジネスユニットが存在しない場合は、元取引のビジネスユニットが使用されます。
 - *PROJ.作業マスター情報からのプロジェクト番号。
 - *CO ソース取引からの会社番号。
 - ホスト(host): ワークテーブル取引の所属ビジネスユニット。
 - *EHMCU.設備マスター情報からの担当ビジネスユニット。
- 結果主科目
主科目を直接指定するか、次の方法のいずれかを使用してください。

ソース取引に関連する定義に、桁ワイルドカードとしてアスタリスク(*)を使用します。たとえば、ソース取引からの主科目が 3106 であるとした場合、この主科目を対象取引用に“4***”として定義すると、対象主科目は 4106 となります。

次のどちらかの値を使用します。

- ブランク顧客マスター情報のデフォルト収益勘定科目からの主科目。
 - *SRC ソース取引からの主科目。
- 結果補助科目
補助科目を直接指定するか、次の値のいずれかを使用してください。
 - ブランク顧客マスター情報のデフォルト収益勘定科目からの補助科目。
 - *BLANK 対象取引の補助科目はブランクになります。
 - *SRC ワークテーブル取引の補助科目
 - *WO 作業オーダー・マスター情報からの原価コード(補助科目)。
 - 結果補助元帳
補助元帳/補助元帳タイプを指定するか、次のいずれかの値を指定します。
 - *SRC ワークテーブル取引からの補助元帳と補助元帳タイプが使用されます。
 - *WO 作業オーダー番号と補助元帳タイプ W が使用されます。
 - *CUST 顧客の住所番号と補助元帳タイプ A が使用されます。
 - *CC ワークテーブル取引からのビジネスユニットと補助元帳タイプ C が使用されます。
 - *EMP ワークテーブル取引からの従業員/仕入先住所番号と補助元帳タイプ A が使用されます。
 - 納税先の住所番号と補助元帳タイプ A が使用されます。納税先は、ワークテーブル取引に割り当てられた税率/税域に関連付けられています。
 - 補助元帳タイプ
5. 会計仕訳の記述を追加するには、次のフィールドに情報を入力します。
- 記述
6. 会計仕訳の従業員番号を更新するには、次のフィールドに情報を入力します。
- 従業員制御フラグ
7. 会計仕訳の数量を更新するには、次のフィールドに情報を入力します。
- 数量制御フラグ
8. 会計仕訳の設備を更新するには、次のフィールドに情報を入力します。
- 設備制御フラグ
9. 会計仕訳に使用する金額の割合を指定するには、次のフィールドに情報を入力します。
- 組込パーセント

10. 借方と貸方のうち、どちらの会計仕訳を作成するかを指定するには、次のフィールドに情報を入力します。

- 貸方借方

11. [OK]をクリックします。

注:

再配賦規則の貸借を一致させるには、借方と貸方が必要です。貸方の再配賦規則の割合は、借方の再配賦規則の割合と一致させる必要があります。マイナスのパーセンテージを入力する必要はありません。会計仕訳の金額は、借方/貸方の割当てに基づいて計算されます。

フィールド記述

記述	用語解説
元帳タイプ	AA(実績金額)、BA(予算金額)AU(実績数量)などのレコードの属性(元帳タイプ)を示すユーザー定義コード(09/LT)。1つの取引に対して数量と金額、国内通貨と外貨など、元帳タイプ別に複数のレコードを持つことができるため、柔軟に取引を照会できます。
結果ビジネスユニット	発生する取引を記録するビジネスユニット。ビジネスユニットを直接指定するか、次の値を使用してください。 ブランク - 得意先マスターのデフォルト収益勘定のビジネスユニットを使用する。 *SRC - 元取引のビジネスユニットを使用する。 *WO - 得意先マスターの請求先ビジネスユニットを使用する。 *HOME - 元取引の所属ビジネスユニットを使用する。所属ビジネスユニットが存在しない場合は、元取引のビジネスユニットが使用されます。 *PROJ - 作業マスターのプロジェクト番号を使用する。 *CO - 元取引の会社番号を使用する。 *HOST - ワークファイル取引の所属ビジネスユニットを使用する。 *EHMCU - 設備マスターの所属ビジネスユニットを使用する。

結果主科目

このフィールドは結果取引に使用される主勘定科目を確定します。
次の方法の1つが使用できます。

- ・ 主勘定科目を指定。
- ・ ソース取引に関連する定義に、定位置ワイルドカード(*)を使用。
例えば、ソース取引からの主勘定科目は3106です。例えば、ソース取引からの主勘定科目は3106です。結果取引の主勘定科目を4***と定義すると結果主勘定科目は4106となります。
- ・ 次の値の1つを使用。

ブランク - 得意先に対するマスター情報のデフォルト収益勘定からの主勘定科目。

*SRC - ソース取引からの主勘定科目を使用します。

結果補助科目

作成する取引の補助科目を決定します。補助科目を直接指定するか、次の値を使用してください。

ブランク - 得意先マスターのデフォルト収益勘定の補助科目を使用する

*BLANK - 作成する取引の補助科目をブランクにする

*SRC - ワークファイル取引の補助科目を使用する

*WO - 作業オーダーマスターの原価コード(補助科目)を使用する

結果補助元帳

取引の補助元帳および補助元帳タイプを示すコード。補助元帳/補助元帳タイプを指定するか、次のいずれかの値を指定します。

*SRC = ワークテーブル取引の補助元帳タイプと補助元帳の値

*WO = 補助元帳タイプは W、補助元帳の値は作業オーダー番号

*CUST = 補助元帳タイプは A、補助元帳の値は得意先の住所番号

*CC = 補助元帳タイプは C、補助元帳の値はワークテーブルのビジネスユニット

*EMP = 補助元帳タイプは A、補助元帳の値はワークテーブルの従業員/仕入先の住所番号

*AUTH = 補助元帳タイプは A、補助元帳の値は税務署の住所番号

納税先は、ワークテーブル取引に割り当てられた税率と関連付けられています。

補助元帳タイプ

[補助元帳]フィールドと合わせて補助元帳の種類とフィールド形式を指定するユーザー定義コード(00/ST)。〈ユーザー定義コード〉フォームの[記述 2]フィールドの値によってフィールド形式が決まります。ハードコードされているものとユーザーが定義できるものがあります。たとえば次のとおりです。

A = 英数字(検証しない)

N = 数字フィールド(右揃え、ゼロ埋め)

C = 英数字フィールド(右揃え、ブランク埋め)

記述	ユーザ一定義名称または備考。
従業員制御フラグ	<p>仕訳入力時の従業員番号の更新を制御するフラグです。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <p> ブランク 仕訳入力の際に従業員番号を更新しない</p> <p> 1 仕訳入力の際に従業員番号を更新する</p>
数量制御フラグ	<p>仕訳入力時に数量を記録するかを指定します。</p> <p>有効な値は次のとおりです。</p> <p> ブランク 仕訳に数量を記録しない</p> <p> 1 仕訳に数量を記録する</p>
設備制御フラグ	<p>仕訳入力の際の設備番号更新を制御するフラグです。有効な値は次のとおりです。</p> <p> ブランク 仕訳入力の際に設備番号を更新しない</p> <p> 1 仕訳入力の際の資産番号の更新に使用設備番号(EQCG)を使用する</p> <p> 2 仕訳入力の際の資産番号の更新に作業設備番号(EQWO)を使用する</p>
組込パーセント	<p>仕訳入力時の基準額として使用するワークファイル取引金額のパーセントを指定します。</p> <p>パーセントは、小数点を使用した形で入力してください。 例えば、100%は"1.000"、45%は".4500"と入力します。</p> <p>基本規則の場合は、このフィールドが 100%である必要があります。 再配賦規則の場合は、パーセントの合計が 100%である必要があります。</p> <p>生成タイプ 2 の取引では、プラスの収益額の合計パーセントはマイナスの収益額の合計パーセントと等しくなる必要があります、プラスの原価額の合計パーセントはマイナスの原価額の合計パーセントと等しくなる必要があります。</p> <p>パーセントは小数点を使用した形で入力してください。 例えば、100%は"1.000"、45%は".4500"と入力します。</p>
貸方借方	仕訳を書き込むときに AAI テーブルの行に基づいて借方または貸方に 仕訳を書き込むかどうかを指示します。

参照

- AAI の翻訳については『売掛管理』ガイドの「AAI の処理」
- 売掛金勘定とその他の売掛金 AAI については、『売掛管理』ガイドの「売掛管理システムの AAI」

請求 AAI テーブル情報の検討

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈テーブル情報〉メニュー(G48S41)から〈請求 AAI テーブル情報〉を選択します。

〈テーブル情報〉メニュー(G5241)から〈勘定科目決定テーブル一覧〉を選択します。

〈請求 AAI テーブル情報〉レポート(R48S95)を使用して、サービス請求および契約請求システムに設定した請求 AAI のリストを検討します。このレポートには各請求 AAI について次の情報が含まれます。

- キー・タイプ
- テーブル・キー
- 有効日付
- 主科目
- 補助科目
- 補助元帳と補助元帳タイプ
- 元帳クラス
- 追加料金コード
- 結果勘定
- 結果勘定の記述
- 元帳タイプ
- 再配賦のパーセンテージ
- 設備/従業員/数量の制御
- 会計基準
- 貸方/借方

処理オプション: 請求 AAI テーブル情報(R48S95)

添付

添付を含める

ユーザー定義コードの理解

契約請求システムには、ユーザー定義コードしか入力できないフィールドが数多くあります。たとえば、請求書の作成時には、ユーザー定義コードを使用して請求書に伝票タイプを割り当てます。ユーザー定義コード・テーブルに定義されていない値は受け入れられません。

ビジネス要件を満たすように EnterpriseOne をカスタマイズするには、各プログラムのフィールドに有効なコードを定義します。

ユーザー定義コードは、特定のシステムおよびコード・タイプに基づくテーブルにあります。フィールドに関連するテーブル内で設定されていないコードを使用すると、エラーが表示されます。ユーザー定義コードを処理するには、単一の〈ユーザー定義コード〉フォームからアクセスできます。メニューから〈ユーザー定義コード〉フォームを選択した後は、[システム・コード]フィールドと[ユーザー定義コード]フィールドの値を変更し、他のユーザー定義コード・テーブルにアクセスします。

ユーザー定義コードを変更する前に、その細部まで理解しておく必要があります。

参照

- ユーザー定義コードについては、『基本操作』ガイドの「ユーザー定義コード」

追加料金コード(48/CM)

追加料金コードは、ワークテーブル取引の生成または改訂時に作成される追加料金のタイプを表します。次に例を示します。

COM	借入費用
DUES	時間単位の組合費
FEE	手数料
FRG	追加給付
OVH	間接費

調整理由(48/AR)

調整理由コードは、ワークテーブル取引の改訂理由を示します。次に例を示します。

DP	問題となっている項目
SP	ワークテーブル取引の分割
R	再アクティブ化

ビジネスユニット(作業)クラス(00/11)

ビジネスユニット・クラスは、ビジネスユニットをグループ化するためのカテゴリ・コードです。このカテゴリ・コードは、すべての J.D. Edwards システムで使用されます。契約請求システムでは、このユーザー定義コードを各種テーブルの設定時に主キーとして使用できます。

たとえば、このカテゴリ・コードを共有するすべてのビジネスユニットに割増し規則を適用する場合は、このユーザー定義コードを請求レート/割増しテーブル(F48096)内でテーブル・キーとして使用できます。次に例を示します。

112	南東
113	北東
114	北西
115	南西
116	北部中央

原価プール(00/12)

原価プールは、ビジネスユニットをグループ化するためのカテゴリ・コードです。このカテゴリ・コードは、すべての EnterpriseOne アプリケーションで使用されます。この種のユーザー定義コードを使用すると、割増情報の適用時に、労務費や設備費など、請求可能な活動をグループ化できます。

たとえば、このカテゴリ・コードを共有するすべての所属ビジネスユニットに割増し規則を適用する場合は、このユーザー定義コードを請求レート/割増しテーブル(F48096)内でマイナー・キーとして使用します。次に例を示します。

CA	カリフォルニア
MI	ミシガン
WV	ウェスト・ヴァージニア

作業オーダー・クラス(00/W7)

作業オーダー・クラスは、作業オーダーをグループ化するためのカテゴリ・コードです。このカテゴリ・コードは、すべての EnterpriseOne アプリケーションで使用されます。契約請求システムでは、このユーザー定義コードを各種テーブルの設定時に主キーとして使用できます。

たとえば、このカテゴリ・コードを共有するすべての作業オーダーに割増し規則を適用する場合は、このユーザー定義コードを請求レート/割増しテーブル(F48096)内で主キーとして使用します。次に例を示します。

PER	特別警備
SCR	選抜警備
SUP	監督者

テスト請求書および最終請求書の番号付け

国によっては請求書に連続した番号を付けなければならない場合もあります。契約請求システムで入力した請求書は売掛管理システムで作成される前であれば削除できます。削除すると、請求書番号が連続でなくなります。番号がとばないようにするには、サービス請求システムの設定によって、テスト用の伝票タイプと請求書番号を割り当てることができます。売掛管理システムで最終の請求書仕訳を作成すると、連続した最終の請求書番号が割り当てられます。

テストおよび最終の請求書番号付けを使用するには、テスト伝票タイプと最終伝票タイプを関連付ける必要があります。たとえば、テスト伝票タイプに DF、最終伝票タイプに RI をそれぞれ使用する場合、この 2 つの伝票タイプに関係を設定してください。この情報はテスト/最終請求書伝票テーブル (F48S001) で設定します。

また、この機能を使用するには、〈サービス請求固定情報〉プログラム(P48091)の[請求書番号制御]オプションをオンにしてください。

はじめる前に

- 会社別および会計年度別に自動採番を設定し、テスト用と最終用の各伝票タイプについて「次の番号」をセットアップしてください。詳しくは『一般会計』ガイドの「自動採番の設定」を参照してください。

▶ テスト請求書および最終請求書の番号付けを設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈システム・セットアップ〉メニュー(G48S40)から〈請求固定情報〉を選択します。

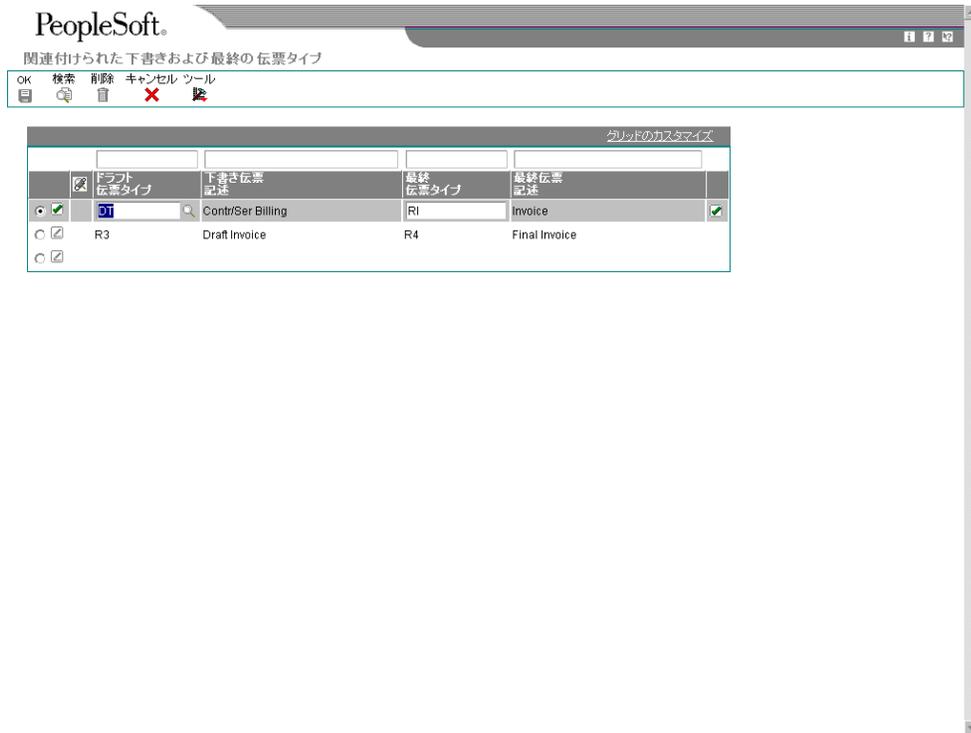
〈システム・セットアップ〉メニュー(G5240)から〈契約請求固定情報〉を選択します。

1. 〈サービス請求固定情報〉で、[請求制御]タブを選んで次のオプションを選択します。

- 請求書番号制御

The screenshot shows the 'Service Request Fixed Information' (サービス請求固定情報) screen in PeopleSoft. The 'Request Control' (請求制御) tab is active. Under the 'Request Number Control' (請求書番号制御) section, the checkbox is checked. The 'Associate Invoice Type' (関連付け伝票タイプ) button is highlighted in yellow. In the 'Draft Request Type' (ドラフト請求書タイプを自動入力する) section, 'RI' is selected and 'Invoice' is unselected.

2. 請求書番号制御ボタンにチェックを入れ、[伝票タイプの関連付け]ボタンをクリックします。



3. 〈関連付けられた下書きおよび最終の伝票タイプ〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - ドラフト伝票タイプ
 - 最終伝票タイプ
4. 〈サービス請求固定情報〉で、[OK]をクリックします。

請求書印刷バージョン相互参照テーブルの設定

請求書の印刷時には、〈請求書印刷バージョン相互参照〉プログラム(P48S58)で設定した情報を使用して、生成済み請求書バッチ内で各請求書の印刷に使用する請求書印刷バージョンを識別します。請求書印刷バージョンは、アプリケーション、〈請求書の印刷-スマート・フィールド〉プログラム(R48507)、そのアプリケーションのバージョン、および請求書タイプで構成されます。〈請求書印刷バージョン相互参照〉プログラムの情報の設定は、次の2つの方法のどちらを使っても行えます。

- 請求書印刷バージョンには、キー・タイプとテーブル・キーを組み合わせで割り当てることができます。割り当てた情報は、個々の請求書を構成する請求取引の値と突き合わせて検証されます。たとえば、特定の顧客向けに請求書印刷バージョンを設定するとします。このためには、顧客を示すキー・タイプとテーブル・キーを選択し、この組合せを請求書印刷バージョンに割り当てます。システムにより請求書を印刷する際に、この顧客に属するすべての請求書が検索され、指定した請求書印刷バージョンを使用して印刷されます。使用するテーブル・キーは、キー・タイプに対応している必要があります。同様に、顧客のキー・タイプを入力したら、テーブル・キーに有効な顧客番号を入力する必要があります。

請求書印刷バージョンの検索には、次の階層が使用されます。

- 作業オーダー番号
 - 作業オーダー・クラス
 - 契約番号
 - 親契約番号
 - 顧客
 - 作業またはビジネスユニット
 - 職務分類
 - 会社番号
- 請求書印刷バージョンに請求書フォーマット・コードを割り当てることができます。これらのコードを使用して、請求書集計ワークテーブル(F4822)や契約マスター(F5201 - 契約請求の場合のみ)に保存された請求書フォーマット・コードに基づいて、使用する請求書印刷バージョンが決まります。コード形式を作成すると、デフォルト値 9 がキー・タイプに、*ALL がテーブル・キー・フィールドに自動入力されます。たとえば、指定した請求書印刷バージョン XJDE0005、タイプ D に、請求書フォーマット・コード(FORMAT)を割り当てることができます。請求書の印刷時には、[請求書フォーマット・コード]フィールドが FORMAT に設定されている請求書のうち、選択されたすべての請求書が、XJDE0005、請求書タイプ D を使用して印刷されます。

請求書の印刷処理

請求書を印刷する際には、システムにより〈請求書の印刷〉プログラム(R48504)が実行されます。〈請求書印刷の選択〉により、印刷される各請求書に〈請求書の印刷-スマート・フィールド〉プログラム(R48507)のバージョンが呼び出されます。請求書印刷プログラムのデフォルトのバージョンを使用するか、カスタム・バージョンを作成できます。

契約請求システム内のさまざまなフォームから請求書を印刷できます。〈請求書処理〉メニュー(G48S21)から〈請求書印刷オプション〉を選んで直接請求書を印刷できます。また、〈バッチの検討〉プログラム(P48221)からも請求書を印刷できます。〈バッチの検討〉プログラムでは、〈バッチの処理〉フォームから請求書バッチ全体を印刷するか、〈請求書の処理〉フォームで特定の請求書を印刷できます。

使用する請求書印刷バージョンの確定方法

請求書に使用するレポートとバージョンを確定するために、〈請求書の印刷〉レポート(R48504)では、最初に〈請求書のバージョン UBE〉、次に〈請求書のバージョン〉、〈請求書ワークテーブル明細選択〉の処理オプションが使用されます。これらの処理オプションに値が入力されていると、指定の請求書印刷プログラムおよびバージョンが印刷用に選択したすべての請求書に使用されます。この場合、その他のテーブルの設定は一時変更されます。

これらの処理オプションに値が入力されていると、[請求書フォーマット名]オプションの値を使用して請求書印刷のプログラムが、請求書印刷バージョン相互参照テーブル(F48S58)を使用してバージョンがそれぞれ選択されます。

[印刷]タブの処理オプションが空白の場合、各請求書に固有の情報を使用して、請求書印刷プログラムとバージョンが決まります。まずサービス請求システムの場合、請求書集計ワークテーブル(F4822)の請求書フォーマット・コード(INVF)のフィールドに値が入力されているかどうかをチェックされます。契約請求システムの場合は、契約マスター(F5201)が使用されます。このフィールドに値が

入力されている場合、指定されたフォーマット・コードを使用して請求書印刷プログラムが選択され、請求書印刷バージョン相互参照テーブルによってバージョンも決まります。請求書フォーマット・コードのフィールドが空白の場合、各請求書のキー・タイプを使用して請求書印刷プログラムが選択され、請求書印刷バージョン相互参照テーブルによってバージョンも決まります。

次の表は、使用する請求書バージョンの確定方法を示します。まず、テーブルの最初の行のシナリオが検証されます。シナリオが事実であれば、それに対応する方策が取られます。シナリオが事実でない場合には、テーブルの 2 行目で説明されているシナリオが検証されます。

注:

特に明記されていない限り、いずれの場合も〈請求書の印刷〉プログラムの処理オプションの[選択]タブで請求書タイプが決まります。請求書タイプと請求書フォーマット名を使用して、使用するプログラムと印刷バージョンが決まります。

IF	Then
請求書バージョン UBE、請求書バージョン、および請求書ワークテーブル明細選択の 3 つの処理オプションは、請求書印刷選択のバージョンで値が入力されます。	請求書バージョン UBE、請求書のバージョン、請求書ワークテーブル明細選択の処理オプションを使用します。請求書フォーマットタイプ]処理オプションは使用されません。
[請求書のフォーマット名]処理オプションは、請求書印刷選択のバージョンで値が入力されます。	請求書のフォーマット名と請求書フォーマット・タイプの処理オプションを使用して、請求書の印刷相互参照テーブルから UBE 名、バージョン名およびワークテーブル明細選択を検索します。
サービス請求の請求書集計ワークテーブル(F4822)、または契約請求の契約マスター(F5201)で、[請求書フォーマット・コード]フィールドが更新済みである。	請求書のフォーマット名と請求書フォーマット・タイプの処理オプションを使用して、請求書の印刷相互参照テーブルから UBE 名、バージョン名およびワークテーブル明細選択を検索します。
前述のいずれにも該当しない。	請求書のフォーマット・タイプ処理オプションと共に、(作業オーダー、作業オーダー・クラス、契約などの)請求書集計ワークテーブルから特定の情報を使用して、請求書印刷相互参照テーブルから UBE 名、バージョン名、およびワークテーブル明細選択を検索する。

通貨処理オプション

[通貨]処理オプションは、金額スマート・フィールド(SFAMT)と組み合わせて使用されます。SFAMTを使用して請求明細ワークテーブル(F4812)と請求ワークテーブル履歴(F4812H)から金額を取り込んで印刷した場合、この処理オプションを使用して国内通貨と外貨のどちらを印刷するか、またはレコードのモードに基づいて印刷対象を確定するかを制御できます。

▶ 請求書印刷バージョン相互参照テーブルを設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈システム・セットアップ〉メニュー(G48S40)から、〈請求書印刷バージョン相互参照〉を選択します。

〈システム・セットアップ〉メニュー(G5240)から〈請求書印刷バージョン相互参照〉を選択します。

1. 〈請求書印刷バージョン相互参照の処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft

請求書印刷バージョン相互参照の改訂

OK 削除 キャンセル ツール

UBE名: R48507 Invoice Print with Smart Field
 請求書タイプ: D Draft Version
 バージョン名: XJDE0002 Generic Sample Invoice #1
 ワークテーブル明細の選択: Include Base & Burden Only

ワークテーブルのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	請求書 フォーマット	フォーマット・コード 記述	キー・タ イプ	キー・タイプ 記述	テーブル・キ ー	契約 タイプ	契約 会社	テーブル・キー 記述	<input checked="" type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>			9	Default	7ALL			Default Table	<input checked="" type="checkbox"/>

2. 〈請求書印刷バージョン相互参照の改訂〉で、次のフィールドに情報を入力します。
 - UBE 名
 - 請求書タイプ
 - バージョン名
 - ワークテーブル明細の選択
3. この請求書印刷バージョンをキー・タイプ/テーブル・キーの組合せ別に検索する場合は、次のフィールドに情報を入力します。
 - キー・タイプ
 - テーブル・キー
 - 契約タイプ
 - 契約会社

[キー・タイプ記述]と[テーブル・キー記述]フィールドには自動的に情報が入力されます。

キー・タイプ/テーブル・キーの組合せを入力すると、[請求書フォーマット・コード]と[フォーマット・コード記述]フィールドは使用されません。

[契約タイプ]と[契約会社]が使用されるのは、キー・タイプ 3(契約番号)とキー・タイプ 4(親契約番号)の場合のみです。

4. 請求書印刷バージョンを請求書フォーマット・コード別に検索する場合は、次のフィールドに情報を入力します。

- 請求書フォーマット・コード
- フォーマット・コード記述

[キー・タイプ]と[キー・タイプ記述]、[テーブル・キー]、「テーブル・キー記述」の各フィールドには自動的に情報が入力されます。

注:

キー・タイプとテーブル・キーの組合せ、および請求書フォーマット・コードを使用すると、特定の請求書について同じ請求書印刷バージョンが選択されることがあります。

5. [OK]をクリックします。

請求書フォーマットの設定

請求書を生成したら、カスタマイズした請求書印刷バージョンを使用して顧客用に請求書を印刷できます。

契約請求システムでは、請求書フォーマットは〈レポート設計ツール〉を使用して作成するバージョンを指します。〈請求書印刷バージョン相互参照〉プログラム(P48S58)を使用すると、顧客の請求書を印刷する際の請求書フォーマットを指定できます。

EnterpriseOne で用意されているテンプレート以外の印刷フォーマットが必要な場合があります。たとえば、次のような場合などです。

- 顧客の要望により、請求書情報を伝票の特定の部分に印刷したい。
- 社内と社外用に異なる請求書フォーマットが必要である。
- 請求タイプごとに異なる請求書フォーマットを使用する。

請求書フォーマット・テンプレート

請求書フォーマット・テンプレートは、請求書のカスタマイズに使用できる特殊フィールドと特性がすべて含まれた基本バージョンです。請求書フォーマットをカスタマイズするには、既存バージョンのテンプレートをコピーして、それを修正します。請求システムは、請求書の印刷-スマート・フィールド・テンプレート(R48507)と共にインストールされます。このテンプレートと関連バージョンでは、スマート・フィールドが使用されます。スマート・フィールドは、〈レポート設計ツール〉の実行中に請求書フォーマットに挿入できる変数です。スマート・フィールドは、固定情報や計算が関連付けられているビジネス・ビュー・フィールドに似ています。フォーマット内でそれらを作成する際は、スマート・フィールドにより入力のプロンプトが表示されます。請求書の印刷時には、変更内容と一部のプログラミング・ロジックを使用して、請求書にユーザー定義情報が取り込まれて印刷されます。

レポート設計ツール(RDA)を使用すると、標準請求書フィールドの表示/非表示を切り替えたり移動して、請求書の体裁を変更できます。RDA(レポート設計ツール)やイベント・ルールの詳細に関する知識は不要です。

〈請求書の印刷-スマート・フィールド〉プログラムの標準バージョンは XJDE0001 から XJDE0009 です。XJDE0001 はテンプレート・バージョンです。スマート・フィールドを使用した請求書印刷の場合、請求書にさまざまなフィールドを印刷できますが、請求書に印刷できるすべてのフィールドを組み込むことはできません。〈請求書の印刷-スマート・フィールド〉プログラムのテンプレート・バージョンにはフィールドは含まれていないため、請求書フォーマットをカスタマイズできます。ヘッダー・セクション、カラム詳細セクション、およびフッターセクションは、いずれも空白になっています。

必要な請求書に似た〈請求書の印刷-スマート・フィールド〉プログラムの既存バージョンがない場合、XJDE0001 のコピーを作成してからそれをカスタマイズできます。XJDE0001 の詳細セクションには、選択した請求ワークテーブル・レコードがすべて表示されます。希望の請求書フォーマットに詳細レコードの集計や分類が必要な場合、条件セクションを組み込む必要があります。条件セクションにはユーザー定義のレベル区切りを使用します。

はじめる前に

- 請求書印刷バージョン相互参照テーブル(P48S58)を設定します。『サービス請求』ガイドの「請求書印刷バージョン相互参照テーブルの設定」を参照してください。

スマート・フィールドを使用した請求書フォーマット・テンプレートの修正

必要な請求書印刷バージョンを作成して、ビジネス・ビュー・フィールド、固定情報およびスマート・フィールドを追加できます。

注意:

製品に用意されているバージョンやテンプレートを変更しないようお勧めします。標準バージョンの 1 つをコピーしてから、そのバージョンに変更を加えるようにしてください。

既存バージョンに基づかない〈スマート・フィールドを使用した請求書フォーマットの改訂〉プログラム (R48507) の新しいバージョンを作成できます。たとえば、用意されているバージョンでは請求要件に対応できないために、新バージョンの作成が必要となる場合があります。最初に XJDE バージョンをコピーして、独自のバージョンを作成できます。これにより、オリジナルのバージョンはそのまま残り、テンプレート専用として使用することになります。次のリストから必要なバージョンを選択してコピーできます。

- XJDE0001 スマート・フィールドを使用した請求書印刷(空白のテンプレート)
- XJDE0002 汎用サンプル請求書番号 1
- XJDE0003 AIA - 集計テキスト・バージョン
- XJDE0004 AIA - カラム・バージョン
- XJDE0005 - 契約バージョン(支払項目別/変更オーダーあり)
- XJDE0006 - 作業オーダー請求書 - 作業オーダー1 件に 1 行
- XJDE0007 - 主科目または補助科目別勘定科目
- XJDE0008 - 支払項目別
- XJDE0009 - 進捗請求バージョン

請求書印刷バージョンをコピーすると、基本レポート・スペックと同様に、そのバージョンのスペック・レコードはユーザーのワークステーションにのみ存在することになります。バージョンを他のユーザ

ーが使用できるようにするには、そのバージョンをサーバーにチェックインする必要があります。バージョンをチェックインすると、バージョンのスペック・レコードが、現行環境のパス・コードに従ってセントラル・オブジェクト・データ・ソース(サーバー)にコピーされます。

請求書印刷スマート・フィールド

請求書の設計時に挿入できるように、80以上のスマート・フィールドが用意されています。これらのスマート・フィールドは、プレフィックス S に続いてテーブル番号、A(名称)や C(文字)、D(日付)、N(数値)などのデータ・タイプ ID によって名前がついています。たとえば、ビジネスユニット・マスター(F0006)から数値情報を取り込んで印刷するためのスマート・フィールドの名称は SF0006N です。大多数のスマート・フィールドは、各種テーブルに保存された情報を請求書に印刷するために取り込む際に使用します。請求書関連の情報を含むテーブルごとに、スマート・フィールドを使用して次の操作を実行できます。

- 名称情報の取得と印刷
- 1文字からなる情報の取込み
- 日付情報の取得
- 数値情報の取込み
- 請求明細ワークテーブル(F4812)および請求ワークテーブル履歴テーブル(F4812H)の金額を印刷します。
- テキスト・ブロックの印刷
- 他のフィールドに基づく値の計算と印刷
- ユーザー定義のメモリ位置に保存されている累計値の印刷

請求書の設計時には、次のスマート・フィールドを使用してテーブル情報を取り込むことができます。

テーブル	テーブル名	名称スマート・フィールド	文字スマート・フィールド	数値スマート・フィールド	日付スマート・フィールド
F0006	ビジネスユニット・マスター	SF0006A	SF0006C	SF0006N	SF0006D
F0014	支払条件	SF0014A	SF0014A	SF0014N	SF0014D
F0101	住所録マスター	SF0101A	SF0101C	SF0101N	SF0101D
F0111	住所録 - 人名録	SF0111A	SF0111C	SF0111N	SF0111D
F0115	住所録 - 連絡先電話番号	SF0115A	SF0115C	SF0115N	SF0115D
F0116	日付別住所	SF0116A	SF0116C	SF0116N	SF0116D
F03012	会社別顧客マスター	SF03012A	SF03012C	SF03012N	SF03012D
F0401	仕入先マスター	SF0401A	SF0401C	SF0401N	SF0401D
F00692	ビジネスユニット補足データ・コード	SF0692A	SF0692C	SF0692N	SF0692D
F0901	勘定科目マスター	SF0901A	SF0901C	SF0901N	SF0901D

テーブル	テーブル名	名称スマート・フィールド	文字スマート・フィールド	数値スマート・フィールド	日付スマート・フィールド
F1201	固定資産マスター	SF1201A	SF1201C	SF1201N	SF1201D
F1721	契約詳細	SF1721A	SF1721C	SF1721N	SF1721D
F4801	作業オーダー・マスター	SF4801A	SF4801C	SF4801N	SF4801D
F4812	請求明細ワークテーブル	SF4812A	SF4812C	SF4812N	SF4812D
F4822	請求書集計ワークテーブル	SF4822A	SF4822C	SF4822N	SF4822D
F48520	請求書集計アクセス	--	--	SF48520N	--
F5201	契約マスター	SF5201A	SF5201C	SF5201N	SF5201D
F5202	契約請求行明細	SF5202A	SF5202C	SF5202N	SF5202D
F5216	マイルストーン/進捗請求情報	SF5216A	SF5216C	SF5216N	SF5216D
F4201	受注見出し			SF4201N	
F00693	ビジネスユニット補足データ・テキスト	SF0693A	--	--	--
F4802	作業オーダー指示	SF4802A	--	--	--
F00165	メディア・オブジェクト	SFABTXT SFCNTTXT SFINVTXT			
F0005	ユーザー定義コード	SF0005A			

テーブルに保存されていない情報を提供する特殊なスマート・フィールドは、次のとおりです。

スマート・フィールド	フィールド名称	機能
SFAMT	金額	F4812/F4812H テーブルからの金額の印刷に使用します。間接費と追加料金の金額を組み込むか除外するかを選択できます。また、〈請求書の印刷〉プログラム (R48504) の [通貨] オプションと併用し、必要に応じて外貨金額または国内通貨金額を印刷できます。
SFADD	計算 - 追加	複数のフィールド値を合計して結果値を印刷する際に使用します。
SFSUB	計算 - 減算	フィールド値を引き算して差異を印刷するときに使用します。
SFMUL	計算 - 乗算	フィールド値を掛け算して結果を印刷する際に使用します。
SFDIV	計算 - 除算	フィールド値を割り算して結果を印刷する際に使用します。

スマート・フィールド	フィールド名称	機能
SFTOTAL	レジスタ合計	このスマート・フィールドは、必要に応じてフィールドの累計額の印刷および登録(スマート・フィールドの値を保存および累積するために請求書のフォーマット作成者が使用する変数メモリ位置)の初期化に使用されます。
SFCALC	レジスタ計算	このスマート・フィールドは、複数のレジスタ値を使用して計算を実行し、結果を印刷するために使用します。

▶ 請求書フォーマット・テンプレートへスマート・フィールドを追加するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈システム・セットアップ〉メニュー(G48S40)から〈請求書フォーマットの改訂 - スマート・フィールド〉を選択します。

〈システム・セットアップ〉メニュー(G5240)から〈請求書フォーマットの改訂 - スマート・フィールド〉を選択します。

1. 〈バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン〉で、バージョンを選択して[コピー]をクリックします。
2. 〈バージョン・コピー〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 新しいバージョン
- セキュリティ
- バージョン・タイトル

3. 〈バッチ・バージョンの設計〉で、[ツール]タブを表示して[レポート設計]をクリックします。
レポート設計ツールが起動し、請求書バージョンに対して変更や追加を加えることができます。

セクションごとに、バージョン・スペックを一時変更し、イベント・ルール、データ選択または順序設定のレイアウトを修正する必要があります。

4. バージョンのスペックを一時変更するには、変更するセクションで右クリックして[Override Version Specifications (バージョン・スペックの一時変更)]を選択します。
5. 〈Group Section (グループ・セクション)〉で、変更する項目のオプションを選んで[OK]をクリックします。
6. スマート・フィールドを組み込むセクションを探して、[Insert (挿入)]メニューから[Smart Field (スマート・フィールド)]を選択します。
7. 〈Create New Smart Field (新しいスマート・フィールドの作成)〉で、追加するスマート・フィールドを選んで[Next (次へ)]をクリックします。

このリストには、請求書印刷について使用可能なスマート・フィールドが表示されます。

8. 〈Smart Field Name (スマート・フィールド名)〉で、スマート・フィールド変数名を指定します。
後で参照しやすいようにデフォルト名を変更できます。

9. [Next(次へ)]をクリックします。

選択したスマート・フィールドに基づいて、このスマート・フィールドで取り込んで表示する情報の定義に関連するプロンプトが表示されます。

10. 各質問に対して、回答を入力し、次に[Next(次へ)]をクリックします。

注:

テーブルのフィールド記述については、すべて大文字で入力します。テーブル・フィールド記述入力した内容については、検証は実行されません。[Next(次へ)]をクリックする前に、入力した情報に間違いがないか確認します。

すべてのプロンプトに回答を入力すると、最後にクリックした箇所の隣にスマート・フィールドが表示されます。

11. スマート・フィールドが正しい位置に表示されない場合は、スマート・フィールドをドラッグし、セクション内の適切な部分に配置してください。
12. 修正が終わったら、変更内容を保存して<レポート設計ツール>を終了します。
13. <バッチ・バージョンの設計>で、[キャンセル]をクリックします。

▶ **新しい請求書印刷バージョンをチェックインするには**

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

<システム・セットアップ>メニュー(G48S40)から<請求書フォーマットの改訂 - スマート・フィールド>を選択します。

<システム・セットアップ>メニュー(G5240)から<請求書フォーマットの改訂 - スマート・フィールド>を選択します。

1. <バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン>で、修正したバージョンをハイライトして[選択]をクリックします。
2. <バージョン・プロンプト>で、[フォーム]メニューから[上級]を選択します。
3. <上級バージョン・プロンプト>で、[バージョン・スペックのみを投入]オプションをオンにします。
4. [OK]をクリックします。
5. <バージョン・プロンプト>で[投入]をクリックします。
6. <バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン>で、[フォーム]メニューから[投入済みジョブ]を選択します。
7. <投入済みジョブの検索>で、ジョブ状況が完了(D)になったことを確認し、[閉じる]をクリックします。
8. <バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン>で、新しいバージョンをハイライトして[ロー]メニューから[上級設定]を選択します。
9. <上級設定>で、作成したバージョンをサーバーにチェックインするには、バージョンをハイライトして[ロー]メニューから[バージョンのチェックイン]を選択します。

参照

- 既存のバージョンのコピーして、ニーズに応じてバージョンをカスタマイズすることについては、『基本操作』の「バッチ・バージョンのコピー」
- バージョンをチェックアウトしてレポート設計ツールのバージョンを修正することについては、『基本操作』の「バッチ・バージョンのチェックアウトまたはチェックイン」
- バージョンをチェックアウトしているが変更しない場合は、『基本操作』の「バージョンのチェックアウト・レコードの消去」
- スマート・フィールドの使用、配置、および名前付けについては『サービス請求』ガイドの「請求書のデザイン」
- 複数のスマート・フィールドに関わる計算については『エンタープライズ・レポート・ライティング』ガイドの「計算カラムの定義」
- レポート・オブジェクトの体裁または機能の変更については、『エンタープライズ・レポート・ライティング』ガイドの「レポート・オブジェクトの外観の変更」
- プロセスへのカスタム・ロジックの挿入については、『エンタープライズ・レポート・ライティング』ガイドの「イベント・ルールの処理」
- 請求書の印刷に関連するスマート・フィールドおよびパラメータについては、『サービス請求』ガイドの「スマート・フィールド」。

多通貨の設定

グローバルな顧客のネットワークを確立するためには、多通貨処理を理解する必要があります。ここでは、請求システムでの多通貨取引の処理を理解する際に役に立つ概念を説明します。

参照

- システムの多通貨設定については、『多通貨処理』ガイドの「多通貨処理の概要」

通貨モード

請求システムでは、外貨モードと国内モードのどちらかを選択する必要があります。通貨モードにより、請求システムでの金額の計算方法と保存方法を管理します。他の固定情報と同様に、通貨モードは請求システム固定情報で設定するため、設定後は変更しないようお勧めします。一括の設定内容は、サービス請求の場合は元帳クラス/留保金情報テーブル(F48128)で一時変更できます。また、契約請求の場合、契約マスター(F5201)で一時変更が可能です。請求システム固定情報で通貨モードが外貨に設定されているが、特定の作業を国内通貨で管理する必要がある場合、元帳クラス/留保金情報テーブルでその作業の通貨モードを国内通貨に設定します。

固定金額と非固定金額

〈一般会計固定情報〉フォームの[多通貨変換]オプションの値が Y か Z で取引が 2 つの通貨にまたがっている場合は、金額は請求システム内で両方の通貨で計算および保存されます。国内通貨金額のフィールドは、常に作業を所有する会社の通貨で表示されます。外貨金額のフィールドは、契約マスター(F5201)で一時変更されない限り、顧客の通貨で表示されます(契約請求システムの場合のみ)。これらの通貨のうちどれか 1 つは、請求固定情報で設定した通貨モードに基づいて、「固定」として定義する必要があります。固定通貨がワークテーブル取引の制御通貨となり、システムに

より管理されます。固定金額は変動しませんが、非固定金額は為替の変動に影響を受けることがあります。

請求書の通貨モード

請求書処理の場合、顧客との請求のやりとりを管理するために、使用する通貨を決定する必要があります。たとえば、会社が米国にあって米ドル(USD)を国内通貨として使用している場合を考えます。営業担当がカナダでのプロジェクト契約を締結し、顧客が全請求書をカナダ・ドル(CAD)で受け取りたいとします。為替レートの変動に関係なく、特定のサービスに対してカナダ・ドル建ての料金を支払うことに顧客は合意しています。この場合、請求書システムで外貨モードにより処理をすることになり、外貨金額は固定です。逆に、顧客の通貨に関係なく、取引の大半を米ドルで処理する場合、請求システムを国内通貨に設定し、国内通貨が固定となります。

多通貨取引

多通貨環境では、取引は多くの異なる通貨で作成されます。〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)および〈総勘定元帳取引の選択〉プログラム(P48124)では、最初に取りが入力された通貨に関係なく、取引明細(F0911)の実績金額(AA)元帳から費用金額を読み込み、この金額がワークテーブルの[国内通貨原価]フィールドに入力されます。

これとは対照的に、給与計算取引は従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)から読み込まれます。従業員は所属ビジネスユニットの通貨で支払われます。この通貨は、請求対象の作業や作業オーダーの通貨、および顧客の通貨と比較されます。

たとえば、作業の通貨が米ドルで顧客の通貨が仏フラン、所属ビジネスユニットの通貨が米ドルだとします。この場合、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)テーブルに記録されている費用(米ドル)が国内通貨での費用として使用され、外貨金額に換算されます。逆に、所属ビジネスユニットが仏フランなら、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)テーブルからの費用(仏フラン)が外貨の費用として使用され、国内通貨の費用はこの金額を基に換算されます。所属ビジネスユニットの通貨がベルギー・フラン(BEF)の場合、費用はまず米ドル(国内通貨)に換算され、外貨金額はこの国内通貨金額から換算されます。

請求明細ワークテーブル(F4812)で費用金額が更新されると、請求固定情報で指定した日付基準の為替レート・テーブルを使用して、非固定金額が計算されます。続いてプログラムにより、請求固定情報で定義した固定通貨によるレコードの割増情報が読み込まれます。割増情報は固定通貨の場合にのみ読み込まれます。固定費用金額と割増金額の合計が、この取引の課税対象金額となります。非固定の課税対象金額は、為替レートを使用して固定課税対象金額について計算されます。さらに、各通貨について税率および割引率がそれぞれ別々に計算されます。

給与計算以外の取引の場合、国内通貨および外貨での金額の計算は次の数式に基づいて行われます。計算の順序は表示されているものとは異なる場合があります。

国内通貨モードの計算

次の計算式は、国内通貨モードでのさまざまな金額の計算方法を示します。

- 国内通貨費用金額 + 割増金額 = 国内通貨課税対象金額
- 国内通貨課税対象金額 x 税率 = 国内通貨税額
- 国内通貨課税対象金額 + 国内通貨税額 = 国内通貨請求書金額合計
- 国内通貨課税対象金額 x 割引率 = 国内通貨割引金額

- 国内通貨費用金額 × 為替レート = 外貨費用金額
- 国内通貨課税対象金額 × 為替レート = 外貨課税対象金額
- 外貨課税対象金額 × 税率 = 外貨税額
- 外貨課税対象金額 + 外貨税額 = 外貨請求書金額合計
- 外貨課税対象金額 × 割引率 = 外貨割引金額

外貨モードの計算

次の計算式は、外貨モードでのさまざまな金額の計算方法を示します。

- 国内通貨費用金額 × 為替レート = 外貨費用金額
- 外貨費用金額 + 割増金額 = 外貨課税対象金額
- 外貨課税対象金額 × 税率 = 外貨税額
- 外貨課税対象金額 + 外貨税額 = 外貨請求書金額合計
- 外貨課税対象金額 × 割引率 = 外貨割引金額
- 外貨課税対象金額 × 為替レート = 国内通貨課税対象金額
- 国内通貨課税対象金額 × 税率 = 国内通貨税額
- 国内通貨課税対象金額 + 国内通貨税額 = 国内通貨請求金額合計
- 国内通貨課税対象金額 × 割引率 = 国内通貨割引金額

請求書金額の計算(国内通貨モード)

次の計算式は、国内通貨モードでの請求書金額の計算方法を示します。すべてのフィールドは、請求明細ワークテーブルの値が使用されます。

- 費用(AA) + 割増金額(ADCI) = 課税対象金額(ITXA)
- 課税対象金額(ITXA) × 税率 = 税額(ITAM)
- 課税対象金額(ITXA) + 税額(ITAM) = 合計金額(ITOL)
- 費用(AA) × 為替レート = 外貨金額(AA2)
- 課税対象金額(ITXA) × 税率 = 外貨課税対象金額(CITA)
- 外貨課税対象金額(CITA) × 税率 = 外貨税額(CITX)
- 外貨課税対象金額(CITA) + 外貨税額(CITX) = 外貨金額合計(CITL)
- 課税対象金額(ITXA) × 割引率 = 割引額(IDSC)
- 外貨課税対象金額(CITA) × 割引率 = 外貨割引金額(CIDS)
- (費用(AA) ÷ 数量) = 単価(PRIC)
- 外貨金額(AA2) ÷ 数量 = 外貨単価(PRIF)

注:

これらの計算式は、給与計算取引の所属ビジネスユニットが作業と同じ通貨を使用しているという前提に基づきます。

請求書金額の計算(外貨モード)

次の計算式は、外貨モードでの請求書金額の計算方法を示します。すべてのフィールドは、請求明細ワークテーブルの値が使用されます。

- 費用(AA) x 為替レート = 外貨金額(AA2)
- 外貨金額(AA2) + 割増金額(ADCI) = 外貨課税対象金額(CITA)
- 外貨課税対象金額(CITA) x 為替レート = 課税対象金額(ITXA)
- 課税対象金額(ITXA) x 税率 = 税額(ITAM)
- 課税対象金額(ITXA) + 税額 (ITAM) = 合計金額(ITOL)
- 外貨課税対象金額(CITA) x 税率 = 外貨税額(CITX)
- 外貨課税対象金額(CITA) + 外貨税額(CITX) = 外貨金額合計(CITL)
- 課税対象金額(ITXA) x 割引率 = 割引額(IDSC)
- 外貨課税対象金額(CITA) x 割引率 = 外貨割引金額(CIDS)
- (費用(AA) ÷ 数量) = 単価(PRIC)
- 外貨金額(AA2) ÷ 数量 = 外貨単価(PRIF)

多通貨固定情報の設定

〈サービス請求固定情報〉フォーム(W48091A)で、次の2つのオプションが正しく設定されていることを確認してください。

- 為替レート基準日

この日付は、〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)および〈ワークテーブルの再計算〉プログラム(R481202)実行時にワークテーブル・レコードに適用する為替レートを制御します。

- 外貨

このオプションでは、請求処理でどの通貨を固定とするかを制御します。このオプションを選択すると、顧客の通貨が固定通貨となり、ビジネスユニットまたは会社の通貨が非固定とみなされます。この場合、顧客の通貨で割増しが計算され、計算する外貨に基づいて国内通貨金額が再計算されます。

このオプションをオフにすると、国内通貨または会社の通貨が請求処理で固定通貨となります。この場合、会社の通貨で割増しが計算され、計算する国内通貨に基づいて外貨金額が再計算されます。このフィールドは、〈ワークテーブルの改訂〉プログラム(P4812)で使用されるモードも制御します。

多通貨の請求料金/割増テーブルの設定

PeopleSoft
請求料金/割増しテーブルの処理

選択 検索 追加 コピー 削除 開く レポート ロー ツール

キータイプ
テーブルキ

レコード 1 - 10

	作成タイプ	作成タイプ記述	キータイプ	キータイプ記述	テーブル・キー	テーブル・キー記述	通貨コード	開始日付	終了日付
<input type="checkbox"/>	1	InwRevComp Amounts	2	Work order class	C01	コンコース・セキュリティ	USD	05/01/01	08/12/31
<input type="checkbox"/>	1	InwRevComp Amounts	2	Work order class	PER	周辺部ガード	USD	05/01/01	08/12/31
<input type="checkbox"/>	1	InwRevComp Amounts	2	Work order class	SCR	スクリーン・ガード	USD	05/01/01	08/12/31
<input type="checkbox"/>	1	InwRevComp Amounts	2	Work order class	SUP	監督者	USD	05/01/01	08/12/31
<input type="checkbox"/>	1	InwRevComp Amounts	3	Contract number	3	BC Highway	CAD	05/01/01	05/12/31
<input type="checkbox"/>	1	InwRevComp Amounts	3	Contract number	5350	Wet and Willy Wildernes	USD	05/01/01	06/12/31
<input type="checkbox"/>	1	InwRevComp Amounts	3	Contract number	5351	Baseball Ballpark Build	USD	05/01/01	05/12/31
<input type="checkbox"/>	1	InwRevComp Amounts	5	Customer	150	Property Management C	USD	05/01/01	08/12/31
<input type="checkbox"/>	1	InwRevComp Amounts	5	Customer	12388	Compagnie Provencale	FRF	05/01/01	05/12/31
<input type="checkbox"/>	1	InwRevComp Amounts	6	Job or Business Unit	50	Project Management Cc	USD	05/01/01	08/12/31

〈請求料金/割増テーブル〉プログラム(P48096)で、次のオプションが正しく設定されているかどうかを確認してください。

- 通貨コード

この通貨コードはフォームでの小数点表示を制御し、〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)および〈ワークテーブルの再計算〉プログラム(R481202)実行時のキーの一部として使用されます。[通貨コード]フィールドは、〈一般会計固定情報〉フォームの[多通貨返還]オプションの値が Y または Z の場合のみ、表示されます。

通貨コードは、マスターのレコードから次のテーブルに基づいて以下のキー・タイプについて読み込まれます。ただし、新しい割増テーブルを追加する際には一時変更が可能です。

1 - 作業オーダー	作業オーダー・マスター(F4801)
3 - 契約	契約マスター(F5201)
4 - 親契約	契約マスター(F5201)
5 - 顧客	顧客マスター(F0301)
6 - ビジネスユニット(作業)	ビジネスユニット・マスター(F0006)
8 - 会社	会社固定情報(F0010)

〈一般会計固定情報〉フォームの[多通貨変換]オプションの値が Y または Z の場合は、次のキー・タイプの通貨コードを入力します。

- 2 - 作業オーダー・クラス(WR07)
- 7 - 作業クラス(RP11)
- 9 - デフォルト

例: 請求料金/割増テーブルの処理

〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)および〈ワークテーブルの再計算〉プログラム(R481202)実行時に選択される割増テーブルは、請求料金および割増テーブルのキー・フィールドおよび次のプログラムで設定するモードにより決定されます。

サービス請求固定情報(P48091)

元帳クラスおよび留保金テーブル(F48128)(サービス請求用)

固定情報マスターの改訂(P5201)(契約請求用)

[通貨]フィールドの値は、原価取引に適用する割増規則を請求料金/割増テーブル(F48096)から検索する際にキー・フィールドとして使用されます。次の表でこのプロセスについて説明します。

- ビジネスユニット 1234 は会社 0062 に属します。通貨コードはベルギー・フラン(BEF)です。
- 顧客番号(3333)は、仏フラン(FRF)で設定されています。
- 顧客番号(3333)は、ビジネスユニット 1234 に所有者として添付済みです。
- 300 ベルギー・フラン(BEF)の取引が請求対象勘定 1234.1350.02200 に転記されています。

請求料金/割増テーブル(F48128)には次の 2 つの割増規則が設定されています。

表 1

生成タイプ	1 - 請求書
キー・タイプ	5 - 顧客
テーブル・キー	3333
通貨コード	FRF
日付範囲	2005/01/01 から 2005/12/31 まで
主科目の範囲	1340 から 1399
割増率(パーセント)	150

表 2

生成タイプ	1 - 請求書
キー・タイプ	6 - 作業
テーブル・キー	1234
通貨コード	BEF
日付範囲	2005/01/01 から 2005/12/31 まで
主科目の範囲	1340 から 1399
割増率(パーセント)	150

〈一般会計固定情報〉フォームの[多通貨返還]オプションの値が N で通貨コードが未入力の場合は、通貨コードが検索キーの一部ではないため、表 1 が割増として使用されます。したがって、残りの主キーのうちで階層の順にキー・タイプ 5 が最初に見つかります。

〈一般会計固定情報〉フォームの[多通貨変換]オプションの値が Y か Z でシステム固定情報が外貨モードに設定されている場合は、〈ワークテーブルの生成〉プログラムは外貨または顧客通貨で設定された表 1 を使用して取引の請求可能額を計算します。

請求システム固定情報が国内通貨モードの場合、取引の請求対象金額は〈ワークテーブルの生成〉プログラムの実行時に表 2 を使用して計算されます。この金額は国内通貨または会社通貨で設定します。

サービス請求システムの場合、表の通貨がシステム固定情報で定義した固定通貨と一致しなかったり、通貨モードが〈元帳クラス/留保金テーブル〉プログラムで一時変更されていれば、システム固定情報で設定したデフォルトの割増率が使用されます。

契約請求については、テーブルの通貨がシステム固定情報または〈契約マスターの改訂〉プログラムで設定した固定通貨と一致しない場合は、システム固定情報で設定したデフォルトの割増率が使用されます。

注:

〈一般会計固定情報〉フォームの[多通貨変換]オプションの値が N の場合は、[通貨コード]フィールドは〈請求料金/割増しの改定〉フォームに表示されません。追加したテーブルの[通貨コード]フィールドは空白になります。[多通貨変換]オプションの値を Y または Z に変更して添付元の有効な通貨コードを持つ取引を入力すると、〈ワークテーブルの生成〉プログラムは値が空白の請求料金/割増テーブルに一致する有効なレコードを検索しません。

逆の場合も同様です。[多通貨変換]オプションが Y または Z で、通貨コードが有効な請求料金/割増しテーブルを作成して、取引入力前にオプションを N に変更すると、[取引通貨]フィールドは空白ですが割増テーブルは空白ではありません。この場合も該当するレコードはシステムにより検索されません。この理由から、多通貨変換の値は変更しないでください。

多通貨の追加料金の設定

PeopleSoft
追加料金テーブルの処理

選択 検索 追加 コピー 削除 閉じる ロー ツール

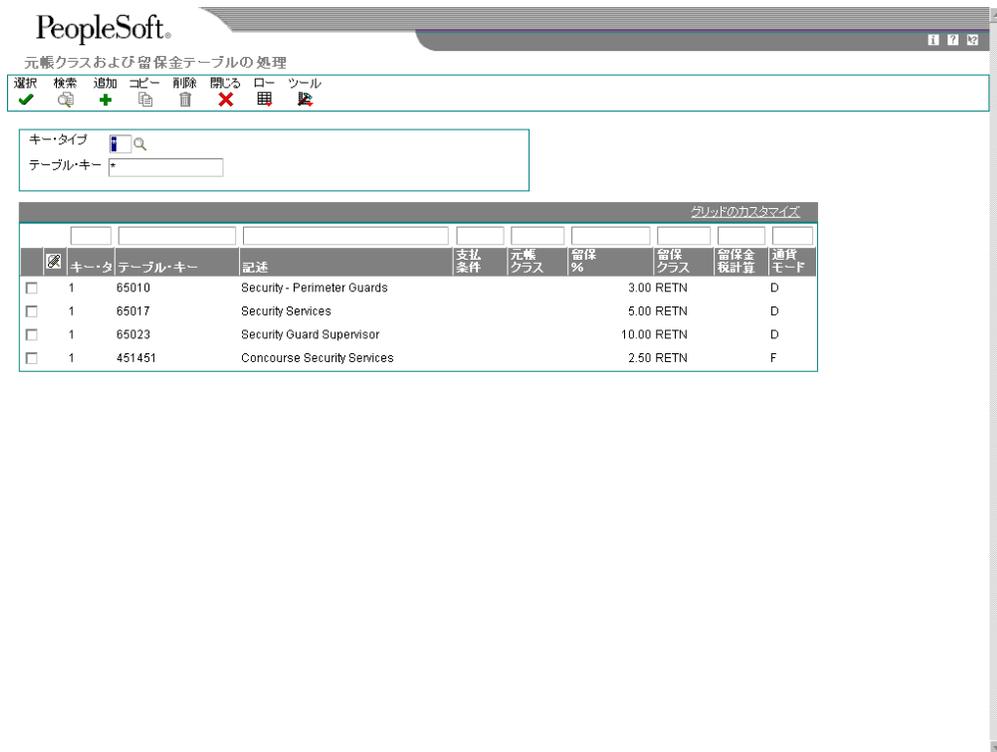
追加料金テーブル 通貨コード
有効開始日付 有効終了日付

追加料金テーブル	記述	通貨コード	開始日付	終了日付
<input checked="" type="checkbox"/> 2.5% FEE	G & A 2.5% Fee	USD	05/01/01	06/12/31
<input type="checkbox"/> G&AADDONS	G&A with Additional Burden	USD	05/01/01	06/12/31
<input type="checkbox"/> LABOR	Labor Markup Components	USD	05/01/01	06/12/31
<input type="checkbox"/> OHCOM	OHCOM	USD	05/01/01	06/12/31
<input type="checkbox"/> OHMU	Overhead & Markup	USD	05/01/01	06/12/31
<input type="checkbox"/> OVH & COM	Overhead & Cost of Money	USD	05/01/01	06/12/31
<input type="checkbox"/> SUR	Surcharge	CAD	05/01/01	05/12/31
<input type="checkbox"/> UNIONDUES	Hourly Cost of Union Dues	USD	05/01/01	06/12/31

〈追加料金テーブル〉プログラム(P4860)で、通貨コードが添付元の請求料金/割増テーブルの通貨コードと一致する必要があります。

追加料金テーブルの通貨コードは、フォームの小数点表示を制御し、〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)および〈ワークテーブルの再計算〉プログラム(R481202)がこのテーブルを処理する際にキーの一部として使用されます。[通貨コード]フィールドは、〈一般会計固定情報〉フォームの[多通貨返還]オプションの値が Y または Z の場合のみ、表示されます。

元帳クラス/留保金テーブルの多通貨設定



〈元帳クラスおよび留保金テーブル〉プログラム(P48128)で通貨モードのオプションが適切に設定されていることを確認してください。

- 通貨モード

このオプションでは、請求処理でどの通貨を固定とするかを決定します。元帳クラス・テーブルで外貨にこのオプションを選択すると、顧客の通貨が固定通貨となり、ビジネスユニットまたは会社の通貨が非固定とみなされます。この場合、顧客の通貨で請求金額が計算され、計算する外貨金額に基づいて国内通貨金額が換算されます。

国内通貨にこのオプションを設定すると、国内通貨または会社の通貨が請求処理で固定通貨となります。会社の通貨で割増しが計算され、計算する国内通貨に基づいて外貨金額が換算されます。この設定は、請求固定情報の設定よりも優先して適用されます。

請求書印刷バージョン相互参照の多通貨処理用の設定

〈請求書印刷バージョン相互参照の改訂〉プログラム(P48S58)で、必ず次のフィールドに適切な値を入力します。

- 請求書タイプ

このフィールドを使用して、印刷する請求書フォーマットの国内通貨や外貨を一時変更できます。ここが請求書処理中に一時変更を設定しない場合、請求取引で指定されたモードに基づいて請求書が印刷されます。新規の請求書フォーマットを設定した場合は、請求書が国内通貨と外貨の両方で必要になる場合もあるため注意してください。

ワークテーブル生成の多通貨処理

〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)は、〈一般会計固定情報〉フォームの[多通貨変換]オプションの値に影響されません。同様に、〈ワークテーブルの改訂〉プログラム(P4812)の[フォーム]メニューから[元帳取引選択]を選択する場合も、多通貨処理用の設定/データ選択は必要ありません。多通貨処理の変更は、〈請求固定情報〉プログラム(P48091)、請求料金/割増テーブルにより決定されます。さらにサービス請求では元帳クラス/留保金テーブル、契約請求では〈契約マスターの改訂〉プログラム(P5201)がこれに加わります。

ワークテーブル改訂の多通貨処理

〈一般会計固定情報〉フォームの[多通貨変換]オプションの値がYまたはZの場合は、〈ワークテーブルの改訂〉プログラム(P4812)で、次の例で示すとうり初期の明細表示の検査に国内通貨と外貨の両方が使用可能です。

The screenshot shows the 'ワークテーブルの処理' (Work Table Processing) form in PeopleSoft. The form includes a search and filter section at the top with buttons for '選択' (Select), '検索' (Search), '追加' (Add), '削除' (Delete), '閉じる' (Close), 'フォーム' (Form), 'ロー' (Low), and 'ツール' (Tools). Below this is a section for selecting a tab and entering customer information (顧客, 作業No., 元帳日付範囲, 補助元帳タイプ). The main part of the form is a grid of transaction data with the following columns: 取益(含追加), 請求通貨, 外貨残債, 外貨(含追加), 外貨請求額, 外貨請求額(含追加料金), 外貨取益, 外貨取益(含追加), and 通格性コード. The data rows show transactions in CAD and USD with various amounts and status codes (N, Y).

取益(含追加)	請求通貨	外貨残債	外貨(含追加)	外貨請求額	外貨請求額(含追加料金)	外貨取益	外貨取益(含追加)	通格性コード
935.00	CAD						0	N
935.00	CAD						0	N
19.97	USD						0	Y
19.97	USD						0	Y
1,338.48	CAD	1,727.49	2,072.99	1,853.60	2,224.32	1,727.49	2,072.99 0	Y
1,338.48	CAD	1,727.49	2,072.99	1,853.60	2,224.32	1,727.49	2,072.99 0	Y
669.24	CAD	863.75	1,036.50	926.80	1,112.16	863.75	1,036.50 0	Y
1,375.00	USD						0	Y
660.00	USD						0	Y
831.60	USD						0	Y

〈一般会計固定情報〉フォームの[多通貨返還]オプションの値がNの場合は、国内通貨金額のみが表示されます。

注:

作業と顧客の通貨コードが同じ場合、請求固定情報で設定したモードに関係なく、請求プロセスが終了するまでモードは国内通貨となります。〈ワークテーブルの処理〉フォームでは、グリッドに表示されるのは国内通貨金額のみで、外貨金額フィールドは空白になります。

〈ワークテーブルの処理〉フォームで取引を選択すると、その取引の情報は〈作業/金額の改訂〉フォームに請求固定情報、相手科目、および留保金テーブル(サービス請求)または〈契約マスターの改訂〉

訂)プログラム(P5201)(契約請求)の値に基づいて設定されたモードで表示されます。[外貨]ボックスをクリックすると、代替モード(外貨または国内通貨)を参照することができます。[請求書割増し%]フィールドには、固定通貨の割増率しか表示されません。金額のフィールドは、取引のモードと同じ場合にのみ変更可能です。原価フィールドは、どちらの通貨のフィールドも更新できません。

非固定モードでは割増金額は表示されません。また、すべての金額フィールドは変更不可になります。

請求書生成の多通貨処理

〈請求書の生成〉プログラム(サービス請求システムでは R48121、契約請求では R52121)を実行する際は、必ず次の処理オプションを正しく設定してください。

- 為替レート基準日

この処理オプションでは、請求書日付と処理オプションで指定した元帳日付のどちらを基準にして為替レート・テーブル検索するかを指定します。為替レート・テーブルを毎日変更し、すべての取引を月末日に転記する場合、請求書日付の為替レート・テーブルを選択します。

逆に、すべての通貨取引を転記日付に基づいて計算する場合、元帳日付を基準にして為替レートを読み込みます。[為替レート基準日]処理オプションの指定は、請求書をバッチ形式と対話形式のどちらの方法で作成する場合でも必要です。[為替レート基準日]を指定しない場合、デフォルトとして1(請求書日付)が使用されます。〈請求書の生成〉プログラムで使用される為替レートは、請求明細ワークテーブル(F4812)の[請求書為替レート]フィールドで更新されます。

〈請求書の生成〉プログラムが印刷するレポートは、会社の通貨または国内通貨で請求書金額を反映します。

請求書改訂の多通貨処理

PeopleSoft.

請求書の処理

選択 検索 削除 閉じる フォーム ロー ツール

バッチ No. 新しいバッチNo.

バッチ日付

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	請求 No.	伝票 タイプ	顧客 顧客 名称	元帳日付	総合計	基本 通貨	外貨	請求 通貨
<input type="checkbox"/>	3044 RI		150 Property Management Comp	05/06/30	4,748.84 USD			USD
<input type="checkbox"/>	3045 RI		150 Property Management Comp	05/06/30	20,216.88 USD			USD
<input type="checkbox"/>	Σ		合計		24,965.72			

請求書情報には、〈バッチの検討〉プログラム(P48221)によりアクセスします。〈バッチの処理〉フォームに表示される合計金額は、常に国内通貨です。〈バッチの処理〉フォームでバッチを選択すると、〈請求書の処理〉フォームが表示されます。〈請求書の処理〉では、国内通貨と外貨の両方で金額が表示されます。別の通貨で複数の請求書がバッチにある場合は、合計はフォームに表示されません。

PeopleSoft.
サービス請求書の入力

OK 検索 削除 キャンセル フォーム ロー ツール

バッチ No. 5455 会社 00050 USD
顧客 150 Property Management Company 外貨
請求書 No. 3044 RI 課税額
請求書日付 05/06/30 税額
元帳日付 05/06/30 非課税額 4,748.84
代替受取人 150 留保額
請求書フォーマットバージョン 請求金額合計 4,748.84
伝票会社 00050 請求書為替レート

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 支払項目	総額	課税対象額	税額	非課税金額	留保%	留保金額	割引可能額	税率/税減
<input checked="" type="checkbox"/>	001	4,748.84			4,748.84				

〈請求書の処理〉フォームで請求書を選択すると、〈サービス請求書の入力〉フォームが表示されます。〈サービス請求書の入力〉では、デフォルト・モードは実行中のモードです。[外貨]オプションをクリックして、代替通貨でも表示できます。また請求金額の計算に使用する為替レートも表示できます。

PeopleSoft.
作業/金額の改訂

OK キャンセル フォーム ツール

元帳日付 05/06/30 計算プレビュー
連格性コード 1
 外貨

請求書金額 収益額 作業履歴 契約 補足 通貨

通貨コード USD
当初為替レート
請求書為替レート
為替レート基準日 1
為替レート日付 05/05/31

〈サービス請求書の入力〉フォームで[ロー]メニューから[請求明細]を選択すると、〈請求書明細の改訂〉フォームに請求書に含まれる取引の請求明細が表示されます。〈請求書明細の改訂〉フォームで明細レコードを選択すると、〈作業/金額の改訂〉フォームが表示されます。〈作業/金額の改訂〉フォームの[通貨]タブにある次のフィールドを検討してください。

- 当初為替レート

このレートは、〈ワークテーブルの生成〉プログラム(R48120)または〈ワークテーブルの再計算〉プログラム(R481202)実行時に使用されます。

- 請求書為替レート

請求書の生成に、このレートが使用されます。

- 為替レート基準日

- 為替レート日付

〈ワークテーブルの生成〉プログラムまたは〈ワークテーブルの再計算〉プログラム実行時にこれらのフィールドが更新され、[当初の為替レート]フィールドの基準が認識されます。

〈請求書の生成〉プログラム(R48121)を実行すると、最初に請求書内の非固定金額レコードが履歴金額フィールドにコピーされます。次に非固定金額が〈請求書の生成〉プログラム実行時に指定した新しい為替レートで再計算されます。〈請求書の処理〉フォームで非固定金額が表示されます。請求書にアクセスして個々の取引を監査する場合、請求書為替レートに基づいて再計算された金額が表示されます。当初の金額はワークテーブルの履歴金額フィールドに保存されています。これにより、請求書が削除されても、履歴金額フィールドにコピーされた金額から現行の非固定金額を再度計算できます。

取引が作成されたときのモードで金額または割増しのみを変更できます。[外貨]ボックスをオンにして非固定モードに移行すると、金額のフィールドに入力できなくなります。

請求書印刷の多通貨処理

〈請求書の印刷〉プログラム(R48504)の処理オプションを使用して、データ選択に基づいて、請求書に印刷する金額を一時変更できます。

請求書仕訳自動作成の多通貨処理

〈請求書の生成〉プログラム(R48121)の実行後に生成されるレポート(請求書レジスタを含む)は、通貨モードに関係なく国内通貨で印刷されます。

売掛金仕訳/総勘定元帳仕訳の作成の多通貨処理

この処理では、〈請求書の生成〉プログラム(R48121)実行時と同じレポートが作成されます。これらのレポートは、通貨処理の設定に関係なく国内通貨で作成されます。

〈請求書仕訳の検討〉プログラム(P0011)からバッチにアクセスすると、合計金額は国内通貨で表示され、外貨金額フィールドには請求書の外貨金額が表示されます。

転記プログラムの多通貨処理

取引を転記すると、国内通貨金額は AA 元帳に転記され、外貨金額が作成されます。この後で外貨金額は CA 元帳に転記されます。この 2 つの元帳は、バッチ転記前に貸借が一致している必要があります。

請求書無効化の多通貨処理

請求書が作成された後に入金が記録されていなければ、その請求書を無効にすることができます。請求書を無効にすると、請求明細ワークテーブル(F4812)の対応する取引が再計算時または当初のワークテーブル生成時のどちらか新しい方の為替レートを使用して計算された金額と共に、履歴から読み込まれます。

請求時の会計処理

請求時の会計処理は、請求 AAI で指定した規則により制御されます。この規則を使用して次の処理が実行されます。

- ワークテーブル取引の識別と処理
- 相手科目への仕訳項目の自動作成

仕訳の処理は、次の規則を使って行われます。

- 基本規則によって、請求および収益認識の処理で仕訳を作成する際にどの勘定科目を使用するかを指定します。システムは基本規則を使用して、基本金額および追加料金の合計金額に対する仕訳を作成します。
- 再配賦規則は、勘定科目間で金額を振り替えるために使用します。再配賦規則は、貸借を一致させるための複数の仕訳項目で構成されます。最初の相手科目の仕訳項目は、基本勘定科目からの減額を意味します。2 番目の仕訳項目は、新しい勘定科目の増額を表します。

契約請求固定情報の[仕訳作成の制御]オプションによって、次のプロセスに対して定義する請求 AAI 規則のタイプが制御されます。

- 請求のみ収益認識は適用されません。
- 収益認識のみ収益認識は適用されません。
- 収益認識および請求（次のタイプを含む）
 - 見越売掛金勘定から請求済み収益および売掛金勘定への調整なし。見越売掛金勘定の金額はゼロになりません。見越売掛金と実際の売掛金を異なる金額にすることができます。
 - 見越収益および見越売掛金から請求済み収益および売掛金勘定への調整あり。見越収益および見越売掛金の金額は、請求書の生成後にゼロになる必要があります。見越勘定の金額差異は認められません。

基本規則

3 種類の請求 AAI が収益認識および請求書仕訳の作成に使用されます。請求固定情報で選択した [仕訳作成の制御] オプションにより、使用する請求 AAI キー・タイプが制御されます。各キー・タイプごとに基本規則を含める必要があります。基本規則により、システムによる仕訳の作成方法を定義します。

次の表は、請求固定情報の [仕訳作成の制御] オプションと請求 AAI テーブル番号の関係を示します。

処理	仕訳作成制御の設定	請求 AAI テーブル番号情報
請求書のみ	1	<ul style="list-style-type: none">• 4811 (貸)実績収益
収益認識のみ	2	<ul style="list-style-type: none">• 4832 見越売掛金• 4811 (貸)実績収益
請求書および収益認識(収益調整なし)	3	<ul style="list-style-type: none">• 4832 見越売掛金• 4811 (貸)実績収益

処理	仕訳作成制御の設定	請求 AAI テーブル番号情報
請求書および収益認識(収益調整あり)	4	<ul style="list-style-type: none"> 4831 見越収益 4832 見越売掛金 4811 (貸)実績収益

注:

請求書を生成する際は、売掛金 AAI である RC AAI が使用されます。収益認識のみを処理する場合は、RC AAI は適用されません。

基本規則は、仕訳の作成時に次のように使用されます。金額基準は、請求書作成と収益認識のどちらかにより決まります。

仕訳作成の制御	テーブル番号	処理	借方/貸方	システム生成項目
1 請求書	4811 (貸)実績収益	請求書	貸方	実績収益
	RC AAI	請求書	借方	売掛管理
2 収益認識	4832 見越売掛金	収益認識	貸方	実績収益
	4811 (貸)実績収益	収益認識	借方	見越売掛金
3 収益調整なしの請求書/収益認識	4832 見越売掛金	収益認識	貸方	実績収益
	4811 (貸)実績収益	収益認識	借方	見越売掛金
	4811 (貸)実績収益	請求書	貸方	見越売掛金
	RC AAI	請求書	借方	売掛管理
4 収益調整ありの請求書/収益認識	4832 見越売掛金	収益認識	貸方	見越収益
	4811 (貸)実績収益	収益認識	借方	見越売掛金
	4811 (貸)実績収益	請求書	貸方	Actual Revenue(実績収益)
	4831 見越収益	請求書	借方	見越収益
	4832 見越売掛金	請求書	貸方	見越売掛金
	RC AAI	請求書	借方	売掛管理

例:請求書のみ

請求のみを処理する場合は、次の情報が該当します。

- [仕訳作成の制御]は1(請求書のみ)
- 収益認識は適用しない
- 実績収益と売掛金は同額
- 実績収益と売掛金は同時に計算
- 売掛金科目は RC AAI により決定される

たとえば、ワークテーブル取引の費用が100ドルで、割増率が15%の場合、請求書金額(実績収益)と売掛金の金額は115ドルになります。仕訳は次のようになります。

売掛金	115.00	
実績収益		(115.00)

総勘定元帳の T 勘定形式で表すと、次のようになります。

売掛管理		実績収益	
借方	貸方	借方	貸方
115			115

売掛金科目は、RC AAI の指定により決まります。4811(実績収益科目の基本規則を設定)

例:収益認識のみ

収益認識のみを処理する場合は、次の情報が該当します。

- [仕訳作成の制御]は2(収益のみ)
- 請求書は適用しない
- 実績収益と見越売掛金は同額で計算される。
- 実績収益と見越売掛金は同時に計算される。
- 請求書は存在しないため RC AAI は適用しない

たとえば、ワークテーブル取引の費用が100ドルで割増率が25%の場合、見越売掛金と実績収益の金額は125ドルになります。仕訳は次のようになります。

見越売掛金	125.00	
実績収益		(125.00)

総勘定元帳の T 勘定形式で表すと、次のようになります。

見越売掛金		実績収益	
借方	貸方	借方	貸方
125			125

仕訳は、次の 2 つの請求 AAI 番号を使用して作成されます。

- 4811(実績収益科目の基本規則を設定)
- 4832(見越売掛金科目の基本規則を設定)

例:収益調整なしの収益認識および請求書処理

請求書と認識した収益の間に差異を許可すると都合がよい場合があります。たとえば、毎月収益を計上するが、作業の完了までは請求書を生成しない場合、次のように収益や見越売掛金、請求書勘定を処理することができます。

- 請求書仕訳が作成されるまで差異を持たせる。
- 完了したプロジェクトの請求書仕訳が生成されて取引明細テーブルに転記されまで、金額を調整する。

収益認識を処理して調整なしの請求書を生成する場合は、次の情報が該当します。

- [仕訳作成の制御]オプションが 3(調整なしの請求書/収益)に設定されている。
- 収益計上の処理をする際に請求書処理が適用されない。
- 実績収益と見越売掛金は同額で計算される。
- 実績収益と見越売掛金は同時に計算される。

作業が終了して請求書を処理する際に、システムにより次の処理が実行されます。

- 見越売掛金および売掛金について同じ金額が計算される。
- 見越売掛金および売掛金について金額が同時に計算される。
- 売掛金科目が RC AAI により決定される。

たとえば、6 月 15 日にプロジェクトを開始して、90 日後に完了したとします。プロジェクトの合計費用は 1,000.00 ドルです。15 パーセントの費用への割増しを入れてワークテーブル取引を毎週生成します。収益の認識は 6 月から毎月末に処理します。請求書は 9 月 25 日に処理されます。

システムにより、プロジェクトで発生した費用について次の仕訳が作成されます。

06/30/05	プロジェクト原価	350.00	
	買掛金		(350.00)
07/31/05	プロジェクト原価	500.00	
	買掛金		(500.00)
09/30/05	プロジェクト原価	150.00	
	買掛金		(150.00)

総勘定元帳の転記額と残高を T 勘定で表すと次のようになります。

プロジェクト原価			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	350.00		350.00

07/31/05	500.00		850.00
08/31/05			850.00
09/30/05	150.00		1,000.00

次の2つの請求 AAI 番号により、システムが使用する仕訳の基本規則が決まります。

- 請求 AAI 番号 4811 により、実績収益の基本規則が設定されます。
- 請求 AAI 番号 4832 により、見越売掛金の基本規則が設定されます。

6月の収益認識

6月30日に収益を計上します。ワークテーブルには402.50ドルの新しい取引が含まれています。ワークテーブル取引について次の計算式が使用されます。

- 原価 350.00 × 割増し 15% = 52.50
- 原価 350.00 + 52.50 = 402.50

収益認識の仕訳は次のようになります。

06/30/05	見越売掛金	402.50	
	実績収益		(402.50)

総勘定元帳の6月の転記額と残高のT勘定は次のようになります。

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	402.50		402.50

請求 AAI 番号 4832 により、見越売掛金の基本規則が設定されます。認識する収益金額の仕訳項目が借方に作成されます。

実績収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		402.50	(402.50)

請求 AAI 番号 4811 により、実績収益の基本規則が設定される。認識収益分の金額が貸方に記録されます。

7月の収益認識

7月31日に収益を計上します。ワークテーブルには575.00ドルの新しい取引が含まれています。ワークテーブル取引について次の計算式が使用されます。

- 原価 500.00 × 割増し 15% = 75.00
- 原価 500.00 + 75.00 = 575.00

収益認識の仕訳は次のようになります。

07/31/05 見越売掛金 575.00

実績収益 (575.00)

総勘定元帳の7月の転記額と残高のT勘定は次のようになります。

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	402.50		402.50
07/31/05	575.00		977.50

請求 AAI 番号 4811 により、見越売掛金の基本規則が設定されます。認識する収益金額の仕訳項目が借方に作成されます。

実績収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		402.50	(402.50)
07/31/05		575.00	(977.50)

請求 AAI 番号 4832 により、実績収益の基本規則が設定される。認識収益分の金額が貸方に記録されます。

8月の収益認識

8月にはプロジェクトについて新規の費用がありませんでした。プロジェクトには新規ワークテーブル取引はありません。総勘定元帳の8月の残高は次のようになります。

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	402.50		402.50
07/31/05	575.00		977.50
08/31/05			977.50

実績収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		402.50	(402.50)
07/31/05		575.00	(977.50)
08/31/05			(977.50)

9月の請求処理

9月25日に請求書进行处理します。ワークテーブルには172.50ドルの新しい取引が含まれています。ワークテーブル取引について次の計算式が使用されます。

- 原価 150.00 × 割増し 15% = 22.50
- 原価 150.00 + 22.50 = 172.50

システムにより、請求書について次の仕訳が作成されます。

09/25/05	売掛金	1,150.00	
	実績収益		(1,150.00)

6月、7月、9月のワークテーブル取引は、まだ請求書に反映されていません。この3ヵ月分の請求書金額が追加されて、請求書金額は1,150.00ドルとなります。

請求書仕訳が転記された後の総勘定元帳の9月の転記額と残高をT勘定で表すと次のようになります。

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	402.50		402.50
07/31/05	575.00		977.50
08/31/05			977.50
09/25/05		1,150.00	(172.50)

請求 AAI 番号 4832 により、見越売掛金の基本規則が設定されます。仕訳が作成されると、請求書金額が見越売掛金勘定の貸方に計上されます。見越売掛金には、未調整の残高 172.50 ドルが含まれます。

売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05			0
07/31/05			0
08/31/05			0
09/25/05	1,150.00		1,150.00

売掛金には実際の請求書金額が含まれます。RC AAI を使用して売掛金の仕訳が作成されます。

9月の収益認識の調整

請求書仕訳を生成する際には、収益認識の調整仕訳も生成されます。請求書バッチのワークテーブル取引を使用して、前回の収益認識の仕訳に対して調整を加えるかどうかが決まります。調整は次のような場合に作成します。

- 現行のバッチの請求済みワークテーブル取引を前回の収益仕訳に含めていなかった。
- 主科目や費用勘定、適格性コードなどのワークテーブル取引の情報が、最初に収益バッチに含めた時点から変更になった。

請求書は月末より前に処理されています。請求書金額に含まれた 172.50ドルのワークテーブル取引については収益は計算されていません。収益認識の調整仕訳は次のようになります。

09/25/05 見越売掛金 172.50
 実績収益 (172.50)

調整仕訳を転記すると、実績収益が売掛金と等しくなり、見越売掛金の差異は自動的に調整されます。総勘定元帳の 9 月の転記額と残高を T 勘定で表すと次のようになります。

実績収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		402.50	(402.50)
07/31/05		575.00	(977.50)
08/31/05			(977.50)
09/25/05		172.50	(1,150.00)

請求 AAI 番号 4811 により、実績収益の基本規則が設定される。認識収益分の金額が貸方に記録されます。

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	402.50		402.50
07/31/05	575.00		977.50
08/31/05			977.50
09/25/05		1,150.00	(172.50)
09/25/05	172.50		0

請求 AAI 番号 4832 により、見越売掛金の基本規則が設定される。認識する収益金額の仕訳項目が借方に作成されます。

注:

企業では各月に複数の請求書バッチを処理するのが一般的です。会社の方針に応じて、月に 2 回以上収益の認識処理を行う場合もあります。収益認識と請求書処理の間には常に時間が空きます。このため、見越売掛金勘定には差異金額が含まれ、毎月残高がゼロになるとは限りません。

例: 収益調整ありの収益認識および請求書処理

請求書と計上した収益金額に差異があるのは望ましくありません。こういう場合、収益と売掛金は見込まれる見積金額です。実際の収益と売掛金は請求書金額に等しくなります。請求書を処理すると、見積金額はすべて調整されます。

たとえば、収益を月次で計上するが、請求書は作業の完了を待ってから生成する場合、その請求書の実績収益と売掛金の処理が終わってから見越収益と見越売掛金が調整されます。

収益調整を必要とする請求書を処理する際は、[仕訳作成の制御]オプションで4(調整ありの請求書/収益)を選択します。

収益認識のみを処理する場合は、次の情報が該当します。

- 月末に収益を計上する場合に請求書処理は適用されない。
- 見越収益と見越売掛金は同額になる。
- 見越収益と見越売掛金は同時に計算される。
- 仕訳は次の2つの請求 AAI 番号を使用して作成される。
 - 請求 AAI 番号 4811 により、実績収益の基本規則が設定される。
 - 請求 AAI 番号 4832 により、見越売掛金の基本規則が設定される。

後日作業を完了して請求書を処理すると、次の処理が行われます。

- 見越売掛金および売掛金について同じ金額が計算される。
- 見越売掛金および売掛金が同時に計算される。
- 売掛金科目が RC AAI により決定される。
- 請求 AAI 規則と AAI を使用して仕訳が作成される。請求 AAI 番号 4832 を使用して見越売掛金の基本規則が、RC AAI を使用して売掛金の情報がそれぞれ設定される。

システムは次の処理も実行します。

- 収益調整仕訳が処理される。
- 見越収益および見越売掛金が調整される。
- 実績収益金額が作成される。
- 次の3種類のテーブル・タイプの請求 AAI 規則を使用して仕訳が作成される。
 - AAI 番号 4811 によって実績収益金額が調整される。
 - AAI 番号 4831 によって見越収益金額が貸方に計上される。
 - AAI 番号 4832 によって見越売掛金が調整される。

たとえば、6月15日にプロジェクトを開始して、30日後に完了したとします。プロジェクトの合計費用は1,000.00ドルです。15パーセントの費用への割増しを入れてワークテーブル取引を毎週生成します。収益の認識は6月から毎月末に処理します。請求書は7月25日に処理されます。

システムにより、プロジェクトで発生した費用について次の仕訳が作成されます。

06/25/05	プロジェクト原価	350.00	
	買掛金		(350.00)
07/25/05	プロジェクト原価	650.00	
	買掛金		(650.00)

総勘定元帳の転記額と残高を T 勘定で表すと次のようになります。

プロジェクト原価			
日付	借方	貸方	残高
06/25/05	350.00		350.00
07/25/05	650.00		1,000.00

6月の収益認識

6月30日に収益を計上します。ワークテーブルには402.50ドルの新しい取引が含まれています。ワークテーブル取引について次の計算式が使用されます。

- 原価 350.00 × 割増し 15% = 52.50
- 原価 350.00 + 52.50 = 402.50

見越収益と見越売掛金について、次の収益認識仕訳が作成されます。

06/30/05	見越売掛金	402.50	
	実績収益		(402.50)

総勘定元帳の6月の転記額と残高の T 勘定は次のようになります。

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	402.50		402.50

請求 AAI 番号 4832 により、見越売掛金の基本規則が設定されます。認識する収益金額の仕訳項目が借方に作成されます。

見越収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		402.50	(402.50)

請求 AAI 番号 4811 により、見越収益の基本規則が設定されます。認識収益分の金額が貸方に記録されます。

7月の請求処理(6月分を含む)

7月25日に請求書进行处理します。ワークテーブルには747.50ドルの新しい取引が含まれています。ワークテーブル取引について次の計算式が使用されます。

- 原価 650.00 x 割増し 15% = 97.50
- 原価 650.00 + 97.50 = 747.50

請求書に充当される402.50と747.50を合計することにより、6月と7月のワークテーブル取引の仕訳が次のように作成されます。

07/25/05	売掛金	1,150.00
	見越売掛金	(1,150.00)

総勘定元帳の7月の転記額と残高のT勘定は次のようになります。

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	402.50		402.50
07/25/05		1,150.00	(747.50)

請求 AAI 番号 4832 により、見越売掛金の基本規則が設定されます。請求書金額が貸方に記録されます。

売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05			0
07/25/05	1,150.00		1,150.00

売掛金科目は、RC AAI の指定により決まります。請求書金額を使用して、借方に売掛金が計上されます。

7月の収益認識

請求書金額に含まれた747.50ドルのワークテーブル取引については、見越収益および見越売掛金は計算されていません。収益認識金額の調整仕訳は次のようになります。

07/25/05	見越売掛金	747.50
	見越収益	(747.50)

総勘定元帳の転記額と残高は次のようになります。

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	402.50		402.50

07/25/05		1,150.00	(747.50)
07/25/05	747.50		0

請求 AAI 番号 4832 により、見越売掛金の基本規則が設定される。認識する収益金額の仕訳項目が借方に作成されます。

見越収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		402.50	(402.50)
07/25/05		747.50	(1,150.00)

請求 AAI 番号 4831 により、見越収益の基本規則が設定されます。認識収益分の金額が貸方に記録されます。

7月の収益金額の収益調整

請求処理では見越売掛金が収益認識のための仮勘定として、また収益調整処理では請求書金額が同じ目的で使用されます。

収益認識金額の調整仕訳は次のようになります。

07/25/05	見越収益	1,150.00	
	見越売掛金		(1,150.00)

仕訳の総勘定元帳の転記額と残高は次のようになります。

見越収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		402.50	(402.50)
07/25/05		747.50	(1,150.00)
07/25/05	1,150.00		0

請求 AAI 番号 4831 により、見越収益の基本規則が設定されます。認識する収益金額の仕訳項目が借方に作成されます。

収益			
日付	借方	貸方	残高
07/25/05		1,150.00	(1,150.00)

請求 AAI 番号 4811 により、実績収益の基本規則が設定される。請求書金額が貸方に記録されます。

すべての仕訳が転記された後で、見越勘定が調整されます。実際の収益勘定および売掛金勘定のみが請求済みワークテーブル取引の金額を含みます。

再配賦規則

サービス請求システムまたは契約請求システムにより仕訳を転記するときに必要な仕訳を分析することにより、再配賦規則が必要かどうかを判断できます。

例: 請求書のみ

1,200ドルの請求書を作成するとします。数量 100 に対する単価は 10ドルです。1 個ずつの原価は仕掛勘定に記録します。数量を請求した後、原価は仕掛勘定から売上原価に振り替えられます。1 個の販売価格を 12ドルとします。

仕訳は次のようになります。

06/30/05	仕掛勘定	1,000.00	
	買掛管理		(1,000.00)
07/31/05	売掛管理	1,200.00	
	売上		(1,200.00)
07/31/05	売上原価	1,000.00	
	仕掛勘定		(1,000.00)

請求 AAI 番号 4811 により、請求金額 1,200.00ドルが売上原価に計上されます。AAI を使用して、仕訳の売掛金勘定レコードが作成されます。続いて、請求 AAI 番号 4841 により、仕掛勘定から原価分の金額が差し引かれ、請求 AAI 番号 4842 によって同じ金額で売上原価が計上されます。

総勘定元帳の 6 月の転記額と残高は次のようになります。

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	1,000.00		1,000.00

買掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		1,000.00	(1,000.00)

総勘定元帳の 7 月の転記額と残高は次のようになります。

売掛金			
日付	借方	貸方	残高
07/31/05	1,200.00		1,200.00

売上			
日付	借方	貸方	残高
07/31/05		1,200.00	(1,200.00)

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	1,000.00		1,000.00
07/31/05		1,000.00	0

売上原価			
日付	借方	貸方	残高
07/31/05	1,000.00		1,000.00

注:

たとえば、請求固定情報の[仕訳作成の制御]で[請求書のみ]が選択されているとします。収益レコードの作成に必要な請求 AAI は 4811 のみです。再配賦仕訳は、請求 AAI 番号 4841 および 4842 から作成されます。

請求 AAI テーブル規則

請求書処理のみを行う場合は、請求 AAI テーブル規則を次のように設定します。

AAI テーブル番号	勘定科目	借方/貸方	必須/任意
4811	(貸)実績収益	WDUTAM	必須
RC + 元帳クラス	売掛金	WDITOL	必須
4841	(貸)仕掛勘定	WDAA	任意
4842	(借)売上原価	WDAA	任意

注:

RC AAI によって、借方に計上する売掛金勘定情報が指示されます。

例: 収益認識のみ

1,200.00ドルの収益を計上するとします。数量 100 に対する単価は 10ドルです。1 個ずつの原価は仕掛勘定に記録します。数量分の収益を計上した後、原価は仕掛勘定から売上原価に振り替えられます。1 個あたりの収益は 12ドルとして計上されます。割増しは 200 です。

仕訳は次のようになります。

06/30/05	仕掛勘定	1,000.00	
	買掛管理		(1,000.00)
07/31/05	見越売掛金	1,200.00	
	収益		(1,200.00)
07/31/05	売上原価	1,000.00	
	仕掛勘定		(1,000.00)

請求 AAI 番号 4811 により、請求金額 1,200.00ドルが収益勘定に計上されます。請求 AAI 番号 4832 により、見越売掛金 1,200.00ドルが見越売掛金勘定に計上されます。続いて、請求 AAI 番号 4841 により、仕掛勘定から原価分の金額が差し引かれ、請求 AAI 番号 4842 によって同じ金額で売上原価が計上されます。

総勘定元帳の 6 月の転記額と残高は次のようになります。

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05			1,000.00

買掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		1,000.00	(1,000.00)

総勘定元帳の 7 月の転記額と残高は次のようになります。

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
07/31/05	1,200.00		1,200.00

収益			
日付	借方	貸方	残高
07/31/05		1,200.00	(1,200.00)

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	1,000.00		1,000.00
07/31/05		1,000.00	0

売上原価			
日付	借方	貸方	残高
07/31/05	1,000.00		1,000.00

請求 AAI テーブル規則

収益認識のみを行う場合は、請求 AAI テーブル規則を次のように設定します。

AAI テーブル番号	勘定科目	借方/貸方	必須/任意
4811	(貸)実績収益	WDBTOL	必須
4832	見越売掛金	WDBTOL	必須
4841	(貸)仕掛勘定	WDAA	任意
4842	(借)売上原価	WDAA	任意

例: 収益調整なしの収益認識および請求書処理

2 ヶ月で 1,200 ドルの収益を計上するとします。2 ヶ月目に 1,200 ドルの請求書を 1 件処理します。数量 100 に対する単価は 10 ドルです。1 個ずつの原価は仕掛勘定に記録します。数量分の収益を計上した後、原価は仕掛勘定から売上原価に振り替えられます。1 個あたりの収益は 12 ドルとして計上されます。割増しはそれぞれ 6 月が 120 ドル、7 月が 80 ドルです。

仕訳は次のようになります。

06/30/05	仕掛勘定	600.00	
	買掛管理		(600.00)
06/30/05	見越売掛金	720.00	
	収益		(720.00)
06/30/05	売上原価	600.00	
	仕掛勘定		(600.00)
07/31/05	仕掛勘定	400.00	
	買掛管理		(400.00)

07/31/05	売掛管理	1,200.00	
	見越売掛金		(1,200.00)
07/31/05	見越売掛金	480.00	
	収益		(480.00)
07/31/05	売上原価	400.00	
	仕掛勘定		(400.00)

6月の収益認識処理の際に、請求 AAI 番号 4811(実績収益)によって収益 720ドルが収益勘定に計上されます。請求 AAI 番号 4832(見越売掛金)により、見越売掛金 720ドルが見越売掛金勘定に計上されます。

7月の請求処理(収益認識あり)では、RC AAI を使用して請求書の金額が売掛金勘定の借方に計上されます。続いて、請求 AAI 番号 4832(見越売掛金)によって、1,200ドルが貸方に計上されます。

また、1,200ドルの請求書を構成するワークテーブル取引に調整が必要かどうか、システムにより決定されます。この例では、請求書の作成前には480ドルのワークテーブル取引は収益バッチに含まれていません。ワークテーブル取引に適用可能な収益調整に対して、仕訳があと2件作成されます。

請求 AAI 番号 4811(実績収益)によって、収益バッチに含まれなかった480ドルが調整され、貸方に収益が計上されます。続いて、請求 AAI4832(見越収益)を使用して、見越売掛金に480ドルの調整が加えられ、借方に見越売掛金が計上されます。

注:

この例では、収益認識と請求処理の間に時間があるため、見越売掛金勘定はゼロに調整されました。通常は、見越残高を調整するための調整仕訳は作成されないため、差異が毎月発生します。

最後に、請求 AAI 番号 4841 により、仕掛勘定から原価分の金額が毎月差し引かれ、請求 AAI 番号 4842 によって同じ金額で売上原価が毎月計上されます。

総勘定元帳の6月の転記額と残高は次のようになります。

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	600.00		600.00

買掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		600.00	(600.00)

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	720.00		720.00

収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		720.00	(720.00)

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	600.00		600.00
06/30/05		600.00	0

売上原価			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	600.00		600.00

総勘定元帳の7月の転記額と残高は次のようになります。

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
07/31/05	400.00		400.00

買掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		600.00	(600.00)
07/31/05		400.00	(1,000.00)

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高

06/30/05	720.00		720.00
07/31/05		1,200.00	(480.00)

売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05			
07/31/05	1,200.00		1,200.00

収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		720.00	(720.00)
07/31/05		480.00	(1,200.00)

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	720.00		720.00
07/31/05		1,200.00	(480.00)
07/31/05	480.00		0

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
07/31/05	400.00		400.00
07/31/05			0

売上原価			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	600.00		600.00
07/31/05	400.00		1,000.00

請求 AAI テーブル規則

収益調整なしで収益認識と請求書処理を行う場合は、請求 AAI テーブル規則を次のように設定します。

AAI テーブル番号	勘定科目	借方/貸方	必須/任意
4811	(貸)実績収益	WDBTOL	必須
4832	見越売掛金	WDBTOL / WDTOL	必須
4841	(貸)仕掛勘定	WDAA	任意
4842	(借)売上原価	WDAA	任意

注:

売掛金科目は、RC AAI の指定により決まります。請求書金額を使用して、借方に売掛金が計上されます。

例:収益調整ありの収益認識および請求書処理

2ヵ月で1,200ドルの収益を計上するとします。2ヵ月目に1,200ドルの請求書を1件処理します。数量100に対する単価は10ドルです。1個ずつの原価は仕掛勘定に記録します。数量分の収益を計上した後、原価は仕掛勘定から売上原価に振り替えられます。1個あたりの収益は12ドルとして計上されます。割増はそれぞれ6月が120ドル、7月が80ドルです。

6月の仕訳は次のようになります。

06/30/05	仕掛勘定	600.00	
	買掛管理		(600.00)
06/30/05	見越売掛金	720.00	
	収益		(720.00)
06/30/05	売上原価	600.00	
	仕掛勘定		(600.00)

総勘定元帳の6月の転記額と残高(収益認識)は次のようになります。

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	600.00		600.00

買掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		600.00	(600.00)

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	720.00		720.00

見越収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		720.00	(720.00)

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	600.00		600.00
06/30/05		600.00	0

売上原価			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	600.00		600.00

6 月には、請求 AAI 番号 4811(実績収益)によって収益 720ドルが収益勘定に計上されます。請求 AAI 番号 4831(見越売掛金)により、見越収益 720ドルが見越収益勘定に計上されます。

7 月の仕訳は次のようになります。

07/31/05	見越売掛金	480.00	
	見越収益		(480.00)
07/31/05	売上原価	400.00	
	仕掛勘定		(400.00)
07/31/05	売掛管理	1,200.00	

	見越売掛金	(1,200.00)
07/31/05	見越収益	1,200.00
	収益	(1,200.00)

総勘定元帳の7月の転記額と残高(請求処理および収益認識)は次のようになります。

仕掛勘定			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	600.00		600.00
07/31/05			1,000.00
07/31/05			600.00
07/31/05		(600.00)	

売上原価			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05	600.00		600.00
07/31/05	400.00		1,000.00

買掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		600.00	(600.00)
07/31/05		400.00	

見越収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05		720.00	(720.00)
07/31/05		480.00	(1,200.00)
07/31/05	1,200.00		0

見越売掛金			
日付	借方	貸方	残高

06/30/05	720.00		720.00
07/31/05			1,200.00
07/31/05		1,200.00	

売掛金			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05			
07/31/05	1,200.00		1,200.00

収益			
日付	借方	貸方	残高
06/30/05			
07/31/05		1,200.00	(1,200.00)

請求 AAI テーブル規則

収益調整ありで収益認識と請求書処理を行う場合は、請求 AAI テーブル規則を次のように設定します。

AAI テーブル番号	勘定科目	借方/貸方	必須/任意
4811	(貸)実績収益	WDBTOL	必須
4831	見越収益	WDBTOL / WDITOL	必須
4832	見越売掛金	WDBTOL / WDITOL	必須
4841	(貸)仕掛勘定	WDAA	任意
4842	(借)売上原価	WDAA	任意

注:

売掛金科目は、RC AAI の指定により決まります。請求書金額を使用して、借方に売掛金が計上されます。

請求料金/割増規則の検索

割増は、間接費と利益を確保するために費用に追加する金額です。割増金額は、請求システムのセットアップ時に定義した割増規則に基づいて、ワークテーブル取引を生成したり改訂する際に計算されます。

割増規則を定義するには、主キーと補助キーの値を指定します。これらの値を組み合わせ、個々のソース取引に適用する特定の割増規則が識別されます。正しい割増規則を識別するために、システムは次のことを実行します。

- 割増規則にアクセスする。
- 特定のソース取引で指定した値と一致する主キーの情報を検索する。
- 補助キー情報をソース取引で指定した値と突き合わせて検索を絞り込む。
- 該当する割増計算規則に基づいて、個々の取引の割増金額が計算されます。
- ワークテーブル取引が該当する割増金額で更新されます。

識別された結果、最も限定的な規則を使用して、取引の割増しが計算されます。

主キーの値

割増テーブルに定義した主キーの情報は、システムによって請求可能なワークテーブル取引の情報と突き合わせられます。

次の表は、主キーについて使用可能な検索方法を示します。

検索レベル	キー・タイプ	検索条件	確認用テーブル
1 番目	1	作業オーダー	作業オーダー・マスター(F4801)
2 番目	2	作業オーダー・クラス	ユーザー定義コード(00/W7)
3 番目	3	契約番号	契約マスター(F5201)
4 番目	4	親契約番号	契約マスター(F5201)
5 番目	5	顧客番号	住所録マスター(F0101)
6 番目	6	作業/ビジネスユニット	ビジネスユニット・マスター(F0006)
7 番目	7	職務分類	ユーザー定義コード(00/11)
8 番目	8	会社	会社固定情報(F0010)
9 番目	9	システム・デフォルト	検証なし

前のレベルのいずれもが一致しない場合は、キー・タイプ 9 が使用されます。残りの適格な取引が、このキー・タイプを持つテーブルに充当されます。キー・タイプ 9 に該当がなければ、システム固定情報で指定したデフォルトの割増率が使用されます。

補助キーの値

給与計算取引

給与計算取引は、伝票タイプ T2、T4、T5 を使用して識別します。T2、T4、T5 の伝票があると、システムは 2 つの方法により関連の補助キー値を検索します。

第 1 レベル検索

最初の検索の第 1 レベルで、従業員番号、職階、職務タイプ、支払タイプを含む取引の該当レコードが検索されます。

これらの検索は特定のキーから汎用キーの順で実行されることに注意してください。

検索レベル	検索条件 従業員(AN8)	職階(JBST)	職務タイプ(JBCD)	支払タイプ(PDBA)
1 番目	X	X	X	X
2 番目	X	X	X	
3 番目	X	X		X
4 番目	X	X		
5 番目	X		X	X
6 番目	X		X	
7 番目	X			X
8 番目	X			

第 2 レベル検索

最初のレベル検索中に割増テーブルのレコードが検索されない場合は、検索が続行されます。給与計算取引の第 2 検索では、職階、職務タイプ、支払タイプ、所属ビジネスユニット、原価プールが使用されます。

注:

従業員番号、所属ビジネスユニット、原価プールはそれぞれ単独でしか使用できないため、第 2 検索では使用しません。

検索レベル	検索条件 職階(JBST)	職務タイプ (JBCD)	支払タイプ (PDBA)	所属ビジネス ユニット (HMCU)	原価プール (RP12)
1 番目	X	X	X	X	
2 番目	X	X	X		X
3 番目	X	X	X		
4 番目	X	X		X	
5 番目	X	X			X
6 番目	X	X			
7 番目	X		X	X	
8 番目	X		X		X
9 番目	X		X		
10 番目	X			X	
11 番目	X				X
12 番目	X				
13 番目		X	X	X	
14 番目		X	X		X
15 番目		X	X		
16 番目		X		X	
17 番目		X			X
18 番目		X			
19 番目				X	
20 番目			X		X
21 番目			X		
22 番目			X	X	
23 番目					X

検索レベル	検索条件 職階(JBST)	職務タイプ (JBCD)	支払タイプ (PDBA)	所属ビジネス ユニット (HMCU)	原価プール (RP12)
24 番目					

設備の非給与計算取引

設備用の非給与計算取引は、伝票タイプ TE を使用して識別されます。伝票タイプ TE の取引には次の検索条件が適用されます。

注:

設備番号、所属ビジネスユニット、原価プールはそれぞれ単独でしか使用できません。

検索レベル	検索条件(NUMB)	レート・グループ (ACL0)	レート・コード (ERC)	所属ビジネス ユニット (HMCU)	原価プール (RP12)
1 番目	X		X		
2 番目	X				
3 番目		X	X	X	
4 番目		X	X		X
5 番目		X	X		
6 番目		X		X	
7 番目		X			X
8 番目		X			
9 番目			X	X	
10 番目			X		X
11 番目			X		
12 番目				X	
13 番目					X
14 番目					

その他のすべての取引

残りの適格な取引(伝票タイプ T2、T4、T5、TE 以外)については、補助キー値が次のように検索されます。

注:

この検索では、設備番号、所属ビジネスユニット、原価プールは共に使用できます。

検索レベル	検索条件 従業員(AN8)	職階(JBST)	所属ビジネスユニット (HMCU)	原価プール(RP12)
1 番目	X	X	X	
2 番目	X	X		X
3 番目	X	X		
4 番目	X		X	
5 番目	X			X
6 番目	X			
7 番目		X	X	
8 番目		X		X
9 番目		X		
10 番目			X	
11 番目				X
12 番目				

主科目と補助科目の検索

補助キー値と請求する取引に該当レコードがあった場合、割増テーブル規則と請求対象の取引から主科目と補助科目の情報が検索されます。

検索レベル	検索条件 OBJ(主科目)	SUB(補助科目)
1 番目	X	X
2 番目	X	
3 番目		X
4 番目		

設備情報を持つ給与計算取引 T2

割増規則にレート・グループ(ACLO)や設備番号(EQCG)、レート・コード(ERC)が含まれる場合、設備情報をもつ伝票タイプ T2 の給与計算取引は、割増テーブル規則の設備情報と一致する必要があります。情報が一致しないと、システムは正しい規則の検索を続けます。次の 3 つの例で、この検索について説明します。

- 割増テーブル規則で設備番号を 180 と指定し、給与計算取引 T2 に設備番号 100 が含まれるとします。設備番号が一致しないため、システムは検索を続行します。
- 割増テーブルで設備番号を 180 と指定し、給与計算取引 T2 に設備番号が含まれないとします。この場合、設備番号が一致しないため、システムは続けて別の規則を検索します。
- 割増規則で設備番号を指定せず、給与計算取引 T2 に設備番号 100 が含まれるとします。規則で設備番号を指定しないと、設備番号を含むかどうかに関係なく、すべての給与計算取引 T2 が適用されます。この場合、システムは検索を停止してこの規則を使用します。

請求書の設計

この付録には、請求システムで請求書の設計や修正を行う場合に必要な重要な情報が含まれます。具体的には、スマート・フィールドの使用方法や配置、名称設定、セクション・サイズおよびフォント・サイズのフォーマット設定の重要な情報について説明します。

SF4812*スマート・フィールドを使用せずに、請求明細印刷ワークテーブル(F4812)からヘッダー・セクションと詳細セクションに直接ビジネス・ビュー・フィールドを挿入できますが、フッター・セクションには SF4812*スマート・フィールドを使用する必要があります。請求書設計プロセスを簡素化するには、ビジネス・ビュー・フィールドを使用せずに、スマート・フィールドを使用してください。

J.D. Edwards では、スマート・フィールドを挿入する際に変数名をより特定のものに変更するようお勧めします。デフォルトの変数名は、データ辞書に定義されたスマート・フィールド名です。この名称を変更しないと、特に、同じスマート・フィールドを複数の請求書フィールドに使用する場合に、混同する恐れがあります。また、同じフィールドを複数のセクション(ヘッダーとフッター、詳細セクションなど)に配置する場合、セクションの参照情報を変数名に含めると便利です。

選択した変数名は、関連テキストとして変数と共に印刷されます。したがって、変数とともにテキストを請求書に表示する場合は、表示するテキストを変数名として指定する必要があります。テキストを表示するが、変数名を同じにしなくてもよい場合は、後でテキストの[プロパティ]で名称を変更し、関連テキストを修正できます。関連テキストを変数と共に表示しない場合は、請求書にスマート・フィールドを配置した後で、テキストを分離して削除できます。関連テキストを削除すると、スマート・フィールドのパラメータを変更できなくなるため、この方法は最善ではありません。ただし、関連テキストを表示せずにスマート・フィールドのみを表示する場合、関連テキストの名称を1文字のブランク・フィールドに変更するようお勧めします。

すべての名称スマート・フィールドは、最初は40文字のフィールドとして挿入されます。後でスマート・フィールドの[プロパティ]で[表示長]を変えれば、文字数を変更できます。すべての数値スマート・フィールドは、最初は小数点以下2桁の15桁のフィールドとして挿入されます。非通貨の数値フィールドの場合は、いずれも後でスマート・フィールドの[プロパティ]の[表示長]と[表示小数点以下桁数]を変更し、桁数と小数点以下桁数の設定を変更できます。通貨数値フィールドを修正する必要はありません。適切な通貨のプロパティの設定に従って印刷されます。

デフォルト行のセクション・サイズやフォント・サイズを修正する場合、請求書ヘッダー・セクションの[Initialize section]で次の3つの変数の変更が必要になることがあります。

```
// Set the number of detail lines that can print on a page that DOES NOT have the // Set the number of
detail lines that can print on a page that DOES NOT have the
// Total Section print // Total Section print
VA rpt_MaxDetailLines_MATH01 = "45" VA rpt_MaxDetailLines_MATH01 = "45"
// Set the number of detail lines that can print on a page that DOES have the // Set the number of detail
lines that can print on a page that DOES have the
// Total Section print // Total Section print
VA rpt_MaxDetLinesWithTots_MATH01 = "25" VA rpt_MaxDetLinesWithTots_MATH01 = "25"
// Set the number of lines (detail and blank lines) that are between the Detail // Set the number of lines
(detail and blank lines) that are between the Detail
// Heading and the Total Section // Heading and the Total Section
VA rpt_LinesBeforeTotals_MATH01 = "30" VA rpt_LinesBeforeTotals_MATH01 = "30"
```

BlankLine 変数を表示可能な式に設定する代入行を有効にすると、修正を含む行をテストできます。次のコード・セクションで示されているとうり、使用不可能な割当行は空白行セクションの Do セクションにあります。

```
// This value to be set to <blank>, but can be set to something visible (i.e. . // This value to be set to  
<blank>, but can be set to something visible (i.e.  
// blankline) for testing purposes. // blankline) for testing purposes.  
! RV Blank Line = "BlankLineeeeeeeeeeeeeeeeeeeee" RV Blank Line = "BlankLineeeeeeeeeeeeeeeee"
```

スマート・フィールド

次の表は、請求書の設計時に請求書に挿入できるスマート・フィールドを示します。また、請求書設計者がこれらのスマート・フィールドの挿入時に回答する必要のあるパラメータ・プロンプトも示しています。

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
SF0006x (x は A(名称), C(文字), D(日付) または N(数字))	ビジネスユニット・マスター (F0006)	1	R01PCC.このパラメータを使用して、ビジネスユニット・マスター (F0006) から情報を取り込みます。
SF0014x (x は A、C、D または N)	支払条件 (F0014)	1	R01PPT.支払条件テーブル (F0014) から情報を取り込みます。
SF0101x (x は A、C、D または N)	住所録マスター (F0101)	1	R01PAB.住所録マスター (F0101) から情報を取り込みます。
SF0111x (x は A、C、D または N)	人名録 (F0111)	1	R01PWW.人名録 (F0111) から情報を取り込みます。
SF0115x (x は A、C、D または N)	住所録 - 連絡先電話番号 (F0115)	1	R01PPN.住所録 - 連絡先電話番号テーブル (F0115) から情報を取得します。
		5	R22P.請求電話番号の表示方法を指定します。
SF0116x (x は A、C、D または N)	日付別住所テーブル (F0116)	1	R01PAD.日付別住所テーブル (F0116) から情報を取り込みます。
		5	R23P.前回入力したデータ項目を一時変更して、指定した詳細な住所のフォーマットを表示するかどうかを指定します。
SF03012x (x は A、C、D または N)	会社別顧客マスター (F03012)	1	R01PCM.会社別顧客マスター (F03012) からの情報を取り込みます。
SF0401x (x は A、C、D または N)	仕入先マスター (F0401)	1	R01PSP.仕入先マスター (F0401) から情報を取り込みます。
SF0692x (x は A、C、D または N)	ビジネスユニット補足データ・コード (F00692)	1	R01PSC.ビジネスユニット補足データ・コード・テーブル (F00692) から情報を取り込みます。
		5 (SF0692N のみ)	R25P.取込コード情報を保存するレジスタを識別します。

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
SF0901x (x は A、C、D または N)	勘定科目マスター(F0901)	1	R01PAM.勘定科目マスター(F0901)から情報を取り込みます。
SF0693A	ビジネスユニット補足データ・テキスト(F00693)	1	R05P.作業に関連するビジネスユニットや所属ビジネスユニットの情報、作業マスターに記録されたプロジェクトを印刷するかどうかを指定します。
		2	R26P.取り込む補足データの最初のカラムに関連するデータ・タイプを入力する際に使用します。
		3	R18P.取り込む補足データの最初のカラムに関連する値を入力する際に使用します。
		4	R27P.テキスト中の位置に関連する数値を指定します。請求書のこの行で印刷される最初の文字になります。このパラメータは R28P と共に使用されます。
		5	R28P.請求書でのテキストの印刷を制御します。このパラメータは R27P と共に使用されます。
SF1201x (x は A、C、D または N)	固定資産マスター(F1201)	1	R01PEQ.固定資産マスター(F1201)から情報を取り込みます。
SF1721x (x は A、C、D または N)	CSMS 契約詳細 (F1721)	1	R01PCD.CSMS 契約詳細テーブル(F1721)から情報を取り込みます。
SF4201N	前払取引(F004201)	1	R29P.特定の行番号の CSMS サービス契約、または請求書全体のうちどちらの前払金額を印刷するかを指定します。
		2	R25P.取込コード情報を保存するレジスタを指定します。
SF4801x (x は A、C、D または N)	作業オーダー・マスター(F4801)	1	R01PWO.作業オーダー・マスター(F4801)から情報を取り込みます。
SF4802A	作業オーダー指示(F4802)	1	R06P.作業オーダーの記述を、作業オーダーのレコード・タイプに関連付ける際に使用します。

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
		2	R27P.テキスト中の位置に関連する数値を指定します。請求書のこの行で印刷される最初の文字になります。このパラメータは R28P と共に使用されます。
		3	R28P.請求書でのテキストの印刷を制御します。このパラメータは R27P と共に使用されます。
SF4812x (x は A、C、D または N)	サービス請求ワークテーブル(F4812) 請求ワークテーブル履歴(F4812H)	1	R01PBD.サービス請求ワークテーブル(F4812)から情報を取り込みます。
SF4822x (x は A、C、D または N)	請求書集計ワークテーブル(F4822)	1	R01PIS.請求書集計ワークテーブル(F4822)から情報を取り込みます。
SF48520N	請求書集計アクセス(F48520)	1	R01PSA.請求書集計アクセス・テーブル(F48520)から情報を取り込みます。
		2	R12P.累計請求金額を集計するかどうかを指定します。金額を集計するよう指定した場合、契約番号、変更オーダー、所有者支払項目のどれを基準にしてソートするかも指定することができます。
		3	R13P.勘定科目別の集計レベルを指定します。この集計レベルを使用して、累計請求金額の合計が集計されます。
		4	R14P.従業員番号または仕入先番号を、累計請求金額を集計する際の基準に含めるかどうかを指定します。
		5	R16P.特定の追加料金コードに関連する金額を印刷するかどうかを指定します。
		6	R25P.取込コード情報を保存するレジスタを識別します。
SF5201x (x は A、C、D または N)	契約マスター(F5201)	1	R01PCBM.CSMS 契約詳細テーブル(F5201)から情報を取り込みます。

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
SF5202x (x は A、C、D または N)	契約請求行明細テーブル (F5202)	1	R01PCBD.契約請求行明細テーブル(F5202)から情報を取り込みます。
SF5216x (x は A、C、D または N)	マイルストーン/進捗請求 行明細(F5216) マイルストーン/進捗請求 行相互参照詳細(F52161)	1	R01PMP.マイルストーン/進捗請求 行相互参照詳細テーブル (F52161)から情報を取り込みます。
SFAMT 金額	ソース・テーブルなし	1	R04P.単価や収益合計、課税対象 額、割引可能金額などさまざまな 金額を請求書に含めるかどうかを 指定します。
		2	R08P.印刷する金額が明細行を集 計した結果である場合、このパラメ ータを使用して、合計に含まれる 労務費または間接労務費追加料 金を印刷するかどうかを指定します。
		3	R16P.特定の追加料金コードに関 連する金額を印刷するかどうかを 指定します。
		4	R25P.取込コード情報を保存するレ ジスタを指定します。
SFABTXT	メディア・オブジェクト (F00165)	1	R02P.住所録の情報を取り込む際 に使用する住所番号を指定しま す。
		2	R03P.代替住所番号を使用するか どうかを指定します。使用する場 合は、代替住所番号を指定でき ます。
		3	R27P.テキスト中の位置に関連す る数値を指定します。請求書のこ の行で印刷される最初の文字にな ります。このパラメータは R28P と 共に使用されます。
		4	R28P.請求書でのテキストの印刷 を制御します。このパラメータは R27P と共に使用されます。
SFCNTTXT	メディア・オブジェクト (F00165)	1	R30P.印刷するテキストのレベルを 指定します。(契約請求のみに使用)

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
		2	R27P.テキスト中の位置に関連する数値を指定します。請求書のこの行で印刷される最初の文字になります。このパラメータは R28P と共に使用されます。
		3	R28P.請求書でのテキストの印刷を制御します。このパラメータは R27P と共に使用されます。
SFINVTXT	メディア・オブジェクト (F00165)	1	R15P.請求書バッチ内でどのレベルのテキストを印刷するかを指定します。
		2	R27P.テキスト中の位置に関連する数値を指定します。請求書のこの行で印刷される最初の文字になります。このパラメータは R28P と共に使用されます。
		3	R28P.請求書でのテキストの印刷を制御します。このパラメータは R27P と共に使用されます。
SFADD SFSUB SFMUL SFDIV 加算/減算/乗算/除算 計算式	ソース・テーブルなし	1-4	R24P.以前に定義したレポートの変数を指定します。
SFTOTAL レジスタ合計	ソース・テーブルなし	1	R10P.99 のレジスタ(繰越合計金額)のうちどれを印刷するかを指定します。
		2	R11P.選択したレジスタをゼロにしてクリアするかどうかを指定します。
		3	R25P.取込コード情報を保存するレジスタを識別します。

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
SF005A	ユーザー定義コード (F0005)	1	R31P.使用するユーザー定義コード・テーブルを指定します。ユーザー定義コードのテーブル・タイプに関連するパラメータとともに使用します。
		2	R32P.使用するユーザー定義コード・テーブルを指定します。ユーザー定義コードの製品タイプに関連するパラメータと共に使用します。
		3	R33P.以前に定義したレポート変数を、ドロップ・ダウン・リストを使用して選択する際に使用します。選択したレポート変数は、定義したUDC テーブルに関連する有効な値を含む必要があります。
		4	R35P.関連付けられたユーザー定義製品コードとレコード・タイプを使用してユーザー定義コード・テーブルを取り込むための、データ辞書項目を指定します。
SFCALC レジスタ計算	ソース・テーブルなし	1	R34P.複数のレジスタに保存されている値について操作を実行することにより、計算および表示の際に使用される等式を指定します。
		2	R25P.取込コード情報を保存するレジスタを識別します。

時間会計の多通貨処理

時間会計の多通貨処理には、システム・セットアップ、時間入力、ワークテーブルの生成があります。

人事管理での会社オプション設定の考慮事項

時間会計の多通貨を可能にするには、〈会社オプション〉プログラム(P05001C)でデフォルト会社00000 に対して次のフィールドに値を入力します。

- 有効多通貨機能フィールドに“Y”と入力します。
- 元帳インテグレーションこのフィールドには“T”(時間会計)と入力します。

この設定によって、従業員取引履歴テーブル(F0618)は必ず更新されます。

参照

- 『Workforce Management Foundation(人事管理基本操作)』ガイドの「Setting Up Company Options(会社オプションの設定)」

一般会計固定情報の設定の考慮事項

時間会計の多通貨を可能にするには、〈一般会計固定情報〉プログラム(P0000)で次のフィールドに値を入力します。

- 多通貨換算 Y(多通貨勘定乗数を使用)または Z(多通貨勘定除数を使用)を使用
- 多通貨会社間取引の許可このオプションを有効にします。
- 会社間決済 2(任意勘定科目を使用。ハブなしで会社間決済仕訳を作成)を入力。

参照

- 『一般会計』ガイドの「一般会計固定情報の設定」

為替レートの設定の考慮事項

会社の基本通貨と顧客および仕入先の通貨間に通貨為替レートを設定する必要があります。

参照

- 『多通貨処理』ガイドの「為替レート」

ユーザー定義コード 48/MT(割増生成タイプ)の設定の考慮事項

ユーザー定義生成タイプを作成して、ユーザー定義コード 48/MT に給与計算再請求レート(P)を追加することで〈請求料金/割増テーブル〉プログラム(P48096)から給与計算請求料金を取り込む必要があります。

ユーザー定義コード 48/MT に次の値を追加します。

コード	P
記述 1	給与計算の再請求レート
ハードコード	N

参照

- 『基本操作』ガイドの「ユーザー定義コードの変更」

時間入力 MBF の処理オプション設定の考慮事項

〈時間入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P050002A)のバージョンの処理オプションの[振替請求]タブで、次の値を入力します。

- 多通貨機能の有効化多通貨機能を設定するには“1”を入力してください。
- 基本金額のビジネスユニット通貨再請求ビジネスユニット通貨を指定するには“1”を、従業員マスター情報テーブル(F060116)から所属ビジネスユニット通貨を使用するには“0”を入力します。

この処理オプションでは、請求レートか海外請求レートのどちらを基本レートとみなすか、つまり変換されるレートを決定します。選択したレートに応じて、タイムカードの多通貨フィールドが有効になります。1 を選んで再請求ビジネスユニットの通貨を固定通貨として使用する場合は、多通貨タイムカード・フィールドのうち海外請求レートのみが有効になります。このオプションをブランクにすると、従業員の所属ビジネスユニットの通貨が固定通貨とみなされ、唯一の有効な多通貨タイムカード・フィールドは、請求レート・フィールドです。

たとえば、カナダの会社で働くアメリカ人の従業員の請求レートは、アメリカ・ドルもしくはカナダ・ドルが想定されます。請求レートがアメリカ・ドルの場合は、このレートはカナダ・ドルに換算され海外請求レートが決定されます。このシナリオでは、[基本金額]処理オプションのビジネスユニット通貨の設定が 0 で、従業員マスター情報テーブルから固定通貨または基本通貨として所属ビジネスユニット通貨を使用するものとします。海外請求レートがカナダ・ドルの場合は、このレートはアメリカ・ドルに換算され請求レートが決定されます。このシナリオでは、[基本金額]処理オプションのビジネスユニット通貨の設定が 1 で、固定通貨または基本通貨として再請求ビジネスユニット通貨を使用するものとします。

- 従業員の所属ビジネスユニットが 9(USドル会社 00001)の場合、請求料金/割増テーブルは USドルで定義する必要があります。
- カナダ・ドルの通貨を使用する会社で再請求ビジネスユニットがビジネスユニット 77(労務費)の場合、請求料金/割増テーブルにカナダ・ドルを定義する必要があります。
- レート検索に請求割増テーブルを使用します。1 を入力して請求料金/割増テーブル(F48096)を使用して、レートを取り込みます。
- レート検索の生成タイプ P を入力します。(再請求レート)
- 請求割増レートはアクションを検知しません。1 を入力して、従業員原価レートを使用します。
- 請求料金/割増テーブルのバージョン(F48096)ZJDE0001 を入力します。
- 動的科目作成機能を使用します。(任意)1 を入力して動的科目作成機能を使用します。

動的科目の作成処理によって、システムで無効な勘定科目番号を含むタイムカードを入力すると、有効な勘定科目が作成されます。ただし、勘定科目コードはモデル・ビジネスユニットに存在する必要があります。勘定科目を自動的に作成しても請求料金/割増テーブルにはレコードは作成されません。

参照

- 処理オプションの設定については、『基本操作』ガイドの「対話型バージョンの処理」

請求料金/割増テーブルの設定の考慮事項

次のアプローチのいずれかで、請求料金/割増テーブルに請求レートを作成します。

- 料金一時変更。
- 原価割増し

請求料金一時変更を作成するには、通常の従業員レートよりも高い特定の請求レートを定義します。原価割増しを定義するには、通常レートに追加する値をパーセントで指定します。

- 見出し域に次の情報を入力します。
 - 生成タイプ P を入力します。(再請求レート)
 - キー・タイプキー・タイプ 6(作業またはビジネスユニット)、またはその他の有効なキー・タイプを入力します。
 - テーブル・キー再請求ビジネスユニット、またはその他の有効なテーブル・キーを入力します。
 - 開始日付
 - 終了日付
- 詳細域の次のフィールドに値を入力します。
 - [開始主科目]および[終了主科目]
 - [割増し金額]、[割増しパーセント]、[割増料金一時変更]のうち業務要件に応じて必要なフィールド

注:

〈請求料金/割増テーブル〉プログラム(P48096)から〈追加料金テーブル〉プログラム(P4860)にアクセスできても、多通貨時間会計は〈追加料金テーブル〉プログラムを使用しません。

参照

- 『サービス請求』ガイドの「請求料金/割増規則の定義」

従業員給与計算情報の設定に関する考慮事項

選択した各従業員について、次の従業員給与計算情報を設定します。

- [レコード・タイプ]フィールドに値を入力します。2(給与計算および再請求処理)または 3(再請求処理のみ)を入力します。

注:

従業員レコードでのこのオプションの設定は任意です。タイムカードを入力する際に[レコード・タイプ]フィールドに、“2”(給与計算および再請求)または“3”(再請求のみ)と入力できます。

- 配賦レートを追加するか、レコードにレートがあることを確認します。

参照

- 『Workforce Management Foundation(人事管理ファンデーション)』ガイドの「Entering Payroll Information for Employees(従業員の給与計算情報の入力)」

多通貨タイムカードの入力についての考慮事項

- 〈従業員別時間入力〉プログラム(P051121)または〈スピード時間入力〉プログラム(P051121)の処理オプションで、〈時間入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P050002A)について設定したバージョンを、[時間入力]タブの[時間入力バージョン]処理オプションに入力します。
- 〈個別時間入力の改訂〉または〈スピード時間入力の改訂〉で、次の必須フィールドに情報を入力します。
 - 日付
 - バッチ
- 再請求タイムカードの処理を完了するには、次のフィールドに情報を入力します。
 - 住所番号
 - 支払
 - 時間
 - 勘定科目 No.
 - 勘定科目番号が確実でない場合は、[フォーム]メニューから[マークアップ(割増し)・テーブル]を選択して、QBE の[生成タイプ]フィールドに P と入力し、[検索]をクリックして再請求する項目用に設定した勘定科目を検索します。
 - 作業日
 - レコード・タイプ
 - 従業員レコードのレコード・タイプに 2 と入力した場合、タイムカードの[レコード・タイプ]フィールドを変更する必要はありません。レコード・タイプに“2”と入力しなかった場合は、タイムカードのレコード・タイプを“2”(給与計算および再請求処理)に一時変更してください。再請求取引に使用できるのはレコード・タイプ 2 および 3 のみです。
- グリッドの次のフィールドの値を検討します。
 - 外貨請求レート
 - 請求料金は、請求料金/割増テーブルに設定された情報から、〈時間入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P050002A)の処理オプションの設定および従業員マスター・レコードの所属ビジネスユニットの通貨と、請求料金のビジネスユニットを基に生成されます。
 - 基本通貨
 - 従業員の所属ビジネスユニットの通貨です。
 - 通貨コード
 - 時間を請求する作業の通貨です。
 - 請求料金

請求料金は、請求料金/割増テーブルに設定された情報から、〈時間入力 MBF 処理オプション〉プログラムの処理オプションの設定および従業員マスター・レコードの所属ビジネスユニットの通貨と、請求料金のビジネスユニットを基に生成されます。

注:

再請求料金または請求料金が正しくない場合、請求料金/割増テーブルの勘定科目の開始および終了日付を検討してください。タイムカードの日付が有効期間内になれば、従業員マスター・レコードからデフォルトのレート情報が使用されます。

- 請求レートを検証します。次の例では、カナダドル(CAD)を US ドル(USD)に換算します。会社固定情報の多通貨換算オプションでは、除数として 0.66666667 を使用するよう設定してあります。250.00 を 0.66666667 で割ると 375.00 となります。

請求料金	外貨請求レート	基本通貨コード	再請求通貨コード
375.000	250.000	USD	CA

次のフィールドは、[多通貨時間会計]オプションがオンの場合のみ表示されます。

- 請求料金
- 外貨請求レート
- 基本通貨コード
- 再請求通貨コード
- バッチを記入してください。
- [OK]をクリックすると、従業員トランザクション詳細テーブル(F06116)にレコードが作成されます。

参照

- 「Time Accounting(時間入力)」ガイドの「Entering Timecards for Employees(従業員のタイムカード入力)」

タイムカード仕訳生成の考慮事項

〈タイムカード転記/履歴更新〉メニュー(G05BT11)から、〈タイムカード仕訳の作成〉を選択します。

次の手順を実行してください。

1. 処理オプションの元帳日付を確認します。
2. データ選択で、バッチ番号(F06116)にタイムカードのバッチ番号を指定します。
3. レポートを検討して、元帳のバッチ番号を記録します。

バッチの承認と転記の考慮事項

バッチを転記すると、従業員トランザクション履歴(F0618)および取引明細(F0911)が更新され、従業員トランザクション詳細テーブル(F06116)がクリアされます。

参照

- 「Time Accounting(時間入力)」ガイドの「Posting Journal Entries for Payroll or Time Accounting(給与計算または時間会計の仕訳の転記)」

タイムカードのワークテーブル取引生成の考慮事項

データ選択で、バッチ番号(F06116)に元帳のバッチ番号を指定します。

参照

- 『サービス請求』ガイドの「ワークテーブルの生成」

ワークテーブル取引の検討の考慮事項

元帳日付、会社、顧客、伝票タイプについて検索します。次のとおり請求明細ワークテーブル(F4812)が更新されます。

データ項目	記述
AA	外貨建ての取引の作業原価
U	時間入力で入力された数量
PRIC	単価。請求レート/割増テーブルで設定されたレートと同じになります。生成タイプはPです。
CRCD	作業の通貨コード
CRCF	顧客の通貨コード
CRCE	従業員の所属ビジネスユニットの通貨コード
AA2	顧客の通貨による取引の作業原価
PRIF	顧客の通貨による単価
BRT および BRTI	モードの通貨での割増レート

請求書および収益金額は、その他の多通貨取引の場合と同じように計算されます。

注:

取引明細テーブル(F0911)の仕訳に 2 行の項目がある場合でも、T4 の取引が 1 件のみ作成されます。

参照

- 『サービス請求』ガイドの「ワークテーブル取引の検討」

例:タイムカードの多通貨入力

セットアップ

従業員情報

時給 (PHRT、従業員の基本給・諸手当フォームの時間給) = 25.00

配賦レート (PBRT - 従業員給与計算フォーム) = 45.00

所属ビジネスユニット = 9 (会社 00001 に関連付けられており、通貨は US ドル)

為替レート

USD から CAD への換算

日付	乗数	除数
01/01/05	2.0	.50
02/01/05	1.50	.6666667
03/01/05	1.50	.6666667

CAD から USD への換算

日付	乗数	除数
04/01/05	1.50	.6666667
05/01/05	1.50	.6666667
06/01/05	1.1764706	.85

一般会計固定情報

多通貨の換算 = Y(乗数)

外貨 x 為替レート = 国内通貨

国内通貨 / 為替レート = 外貨

労務費勘定科目

ビジネスユニット、CAD(カナダドル)

注:

ビジネスユニット 77 は、会社 00077 に属しており、〈会社名および番号〉プログラム (P0010)で設定されて通貨コード CAD を使用します。

テスト・ケース

次の例は、従業員(USD)の所属ビジネスユニットを使用した場合に基づいています。

〈時間入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P050002A)の[再請求]タブの[基本金額のビジネスユニット通貨]オプション = 0(従業員の所属ビジネスユニット)

請求料金/割増テーブル

生成タイプ	キー・タイプ	テーブル・キー	通貨コード	開始日付	終了日付	割増料金一時変更	割増率	割増金額
P	6	9	USD	01/01/05	01/31/05	250.00		
P	6	9	USD	02/01/05	02/28/05		150.00	
P	6	9	USD	03/01/05	03/31/05			100.00

一時変更レートありのタイムカード入力

日付	支払	時間	勘定科目 No.	外貨請求 レート	基本通貨	通貨 コード	請求料金	所属
01/01/05	1	1	77.1341	500.00	USD	CAD	250.00	9

請求料金 = 請求料金/割増テーブルからの割増料金一時変更

外貨請求レート = 国内通貨請求レート x 為替レート乗数 (USD から CAD)

$$250.00 \times 2.0 = 500.00$$

注:

元帳日付が作業された日以外の為替レートを持つ場合は、為替レートの乗数は変更します。

パーセントありのタイムカード入力

日付	支払	時間	勘定科目 No.	外貨請求 レート	基本通貨	通貨 コード	請求料金	所属
02/01/05	1	1	77.1341	93.75	USD	CAD	62.50	9

請求レート = 時給(PHRT) + 割増し

$$25 + 150\% \text{割増し} = 62.50$$

外貨請求レート = 国内通貨請求レート x 為替レート乗数 (USD から CAD)

$$62.50 \times 1.50 = 93.75$$

注:

元帳日付が作業された日以外の為替レートを持つ場合は、為替レートの乗数は変更します。

金額ありのタイムカード入力

日付	支払	時間	勘定科目 No.	外貨請求 レート	基本 通貨	通貨 コード	請求料金	所属
03/01/05	1	1	77.1341	187.50	USD	CAD	125.00	9

請求レート = 時給(PHRT) + 割増金額

$$25 + 10 = 125.00$$

外貨請求レート = 国内通貨請求レート x 為替レート乗数 (USD から CAD)

$$125.00 \times 1.50 = 187.50$$

注:

元帳日付が作業された日以外の為替レートを持つ場合は、為替レートの乗数は変更します。

次の例は、再請求ビジネスユニットを使用した場合にに基づいています。

〈時間入力 MBF 処理オプション〉プログラム(P050002A)の[再請求]タブの[基本金額のビジネスユニット通貨]オプション = 1(再請求ビジネスユニット)

請求料金/割増テーブル

生成タイプ	キータイプ	テーブルキー	通貨コード	開始日付	終了日付	割増料金一時変更	割増率	割増金額
P	6	77	CAD	04/01/05	04/31/05	250.00		
P	6	77	CAD	05/01/05	05/28/05		150.00	
P	6	77	CAD	06/01/05	06/31/05			100.00

一時変更レートありのタイムカード入力

日付	支払	時間	勘定科目 No.	外貨請求レート	基本通貨	通貨コード	請求料金	所属
04/01/05	1	1	77.1341	250.00	USD	CAD	375.00	9

海外請求レートは固定で、請求レートは[時間入力 MBF 処理オプション]プログラム(P050002A)の設定に基づいて計算されます。

請求レート = 外貨請求レート x 為替レート乗数(CAD から USD)

$$250.00 \times 1.50 = 375.00$$

注:

元帳日付が作業された日以外の為替レートを持つ場合は、為替レートの乗数は変更します。

パーセントありのタイムカード入力

日付	支払	時間	勘定科目 No.	外貨請求レート	基本通貨	通貨コード	請求料金	所属
05/01/05	1	1	77.1341	62.50	USD	CAD	93.75	9

外貨請求レート = 時給(PHRT) + 割増し

$$25 + 150\% \text{割増し} = 62.50$$

請求レート = 外貨請求レート × 為替レート乗数 (CAD から USD)

$$62.50 \times 1.50 = 93.75$$

注:

元帳日付が作業された日以外の為替レートを持つ場合は、為替レートの乗数は変更します。

金額ありのタイムカード入力

日付	支払	時間	勘定科目 No.	外貨請求レート	基本通貨	通貨コード	請求料金	所属
06/01/05	1	1	77.1341	125.00	USD	CAD	147.059	9

外貨請求レート = 時給(PHRT) + 割増金額

$$25 + 10 = 125.00$$

請求レート = 外貨請求レート × 為替レート乗数 (CAD から USD)

$$125.00 \times 1.1764706 = 147.06$$

注:

元帳日付が作業された日以外の為替レートを持つ場合は、為替レートの乗数は変更します。

請求明細ワークテーブル(F4812)のフィールド決定基準

次の表は、請求明細ワークテーブル(F4812)の各フィールドの情報ソースを示します。多くのフィールドの場合、ソースは特定の条件や他の取込み情報に応じて決定されます。

次のテーブル ID と名称のリストを参考にして、後述の表で指定されているソースを識別してください。

F0005	ユーザー定義コード
F0006	ビジネスユニット・マスター
F0014	支払条件
F0101	住所録マスター
F0411	買掛金元帳
F06116	従業員トランザクション詳細テーブル
F0618	従業員トランザクション履歴
F0724	間接費配賦テーブル
F069116	給与計算トランザクション固定情報
F0901	勘定科目マスター
F0911	取引明細
F1201	固定資産マスター
F4111	品目元帳
F4311	購買明細
F4801	作業オーダー・マスター
F48091	請求システム固定情報
F48096	請求料金/割増テーブル
F4812	請求明細ワークテーブル
F48127	税額決定基準情報
F5201	契約マスター
F5202	契約請求行明細
F5212	T&M 相互参照勘定科目

テーブル F4812 のデータ項目	条件および取込情報	データ項目/ソース・テーブル
WDAA(金額)	デフォルト	GLAA/F0911
	F0911 レコードの GLDCT(伝票タイプ)フィールドには T2 が含まれます。	YTGPA(総支払)/F0618 または F06116
	F0911 レコードの GLDCT フィールドには T2 が含まれます。間接費の再調整に関連する取引です。	J#BDA(間接費金額)/F06116
	F0911 レコードの GLDCT フィールドには T4 が含まれます。	YTRCPY(再請求金額)/F0618 または F06116
	F0911 レコードの GLDCT フィールドには T5 が含まれます。	YTEQGR(総設備)/F0618 または F06116
WDAA2(外貨建て原価金額)		計算済み
WDACL0(料金グループ)	F0911 レコードの GLASID(シリアル番号)フィールドはブランクではありません。	FAACL0/F1201
WDADCI(請求書割増し金額)	F48096 レコードの WQGTYP(生成タイプ)フィールドには 1 が含まれます。	WQAA(金額)/F48096
WDADCR(収益割増し)	F48096 レコードの WQGTYP(生成タイプ)フィールドには 2 が含まれます。	WQAA(金額)/F48096
WDAGS(年齢調べ停止)		未使用
WDAID(勘定科目ID)	デフォルト	GLAID/F0911
WDAID5(勘定科目ID)	カスタマー・サービス管理システム F5202 レコードの G6ACCO(勘定科目一時変更フラグ)フィールドはブランクです。	G6MCU、G6OBJ、G6SUB(ビジネスユニット、主科目、補助科目)/F5202
WDAID6(勘定科目ID)		未使用
WDAN8(住所番号)	デフォルト	GLAN8/F0911
	F0911 レコードの GLDCT(伝票タイプ)フィールドには T2、T4 または T5 が含まれます。	YTAN8/F0618 または F06116

テーブル F4812 の データ項目	条件および取込情報	データ項目/ソース・テーブル
WDAN80 (顧客/売掛金 住所番号)	デフォルト	関連ビジネスユニット/F0006 の MCAN80
	F0911 レコードの GLMCU(ビジネスユニット)フ ィールド	
	F0911 レコードの GLSBL(補助元帳)フィールドは ブランクではありません。 F0911 レコードの GLSBLT(補助元帳タイプ)フ ィールドには W が含まれます。 F48091 レコードの WZCNBS(顧客番号基準)フ ィールドには 1 が含まれます。	関連の補助元帳/F4801 の WAAN8(住 所番号)
	契約請求	G4AN80/F5201
WDAREX(支払時に 請求から免税)	契約請求	WDAREX/F4812
WDBCI (請求制御 ID)		自動採番機能(48/02)により自動的に 割り当てられます。
WBDPN (間接費保留)		自動割当て
WDBLKK(複合キー のブロック)		未使用
WDBRT(収益率)	F48096 レコードの WQGTYP(生成タイプ)フ ィールドには 2 が含まれます。	WQBRT(請求レート)/F48096
WDBRTI (請求書レート)	F48096 レコードの WQGTYP フィールドには 1 が 含まれます。	WQBRT/F48096
WDBTOL(請求済み 金額合計)		自動計算
WDCAP(キャップま たは一時変更レ ート)	F48096 レコードの WQGTYP(生成タイプ)フ ィールドには 2 が含まれます。	WQCAP/F48096
WDCAP1(キャップま たは一時変更レ ート)	F48096 レコードの WQGTYP(生成タイプ)フ ィールドには 1 が含まれます。	WQCAP/F48096
WDCBLC(コーディ ング・ブロック変更)		自動割当て

テーブル F4812 の データ項目	条件および取込情報	データ項目/ソース・テーブル
WDCCOD(追加料金 コード)		AFCCOD/F4860
WDCCR(追加料金 の原価レート・テー ブル)	F48096 レコードの WQCCR フィールドは空白 ではありません。	WQCCR/F48096
WDCIDS(外貨建て 請求書割引)		計算済み
WDCINR(追加料金 の請求書レート・テ ーブル)	F48096 レコードの WQCINR フィールドは空白 ではありません。	WQCINR/F48096
WDCITA(外貨建て 請求書の課税額)		計算済み
WDCITL(外貨建て 請求額)		計算済み
WDCITX(外貨建て 請求書の税額)		計算済み
WDCLNK(追加料金 リンク)	追加料金あり	自動割当て
WDCO(会社)		GLCO/F0911
WDCOCH(契約変更 オーダー番号)	契約請求	G6COCH/F5202
WDCRCD (通貨コード)	F0911 レコードの GLCO(会社)フィールド	会社/F0010 関連の CCCRCO
WDCRCE (通貨コード)		未使用
WDCRCF (通貨コード)		請求通貨 CRDC/F0301 CRCF/F5202
WDCRR (為替レート)		自動割当て
WDCRRD(為替レ ート - 分母)		自動割当て
WDCRRM(モード F)		自動割当て/CRRM/F5202
WDCRVR(追加料金 の収益レート)	F48096 レコードの WQGTYP(生成タイプ)フィー ルドには 2 が含まれます。	WQCRVR/F48096
WDCTRY(世紀)		GLCTRY/F0911

テーブル F4812 の データ項目	条件および取込情報	データ項目/ソース・テーブル
WDDAGO(年齢一時 変更日付 - B)		WDDAGO
WDDC(記述比較)	F0618 または F06116 レコードの YTAN8(住所番 号)フィールド	ABDC/F0101
WDDCP(割引率)	WDAN80 F4812 レコードの(顧客/売掛管理住所番号)フ ィールド F0101 の ABATR(売掛管理 Y/N)フィールドには Y が含まれます。	PMDCP/F0014
WDDCT (伝票タイプ)		GLDCT/F0911
WDDCT1 (伝票タイプ)	契約請求	〈請求書の生成〉プログラム(R52121) の処理オプション
	サービス請求	〈請求書の生成〉プログラム(R48121) の処理オプション
WDDCTO (オーダー・タイプ)	契約請求	G6DCTO/F5202
WDDEJ(入力日付)		自動割当て
WDDGJ(元帳日付)	契約請求	〈請求書の生成〉プログラム(R52121) の処理オプション
	サービス請求	〈請求書の生成〉プログラム(R48121) の処理オプション
WDDGL(元帳日付)		GLDGJ(元帳日付)/F0911
WDDI(請求書日付)	F0911 レコードの GLICUT(バッチ・タイプ)フ ィールドには V または W が含まれます。	RPDGJ(元帳日付)/F0411
WDDOC(伝票番号)		GLDOC/F0911
WDDOCM (支払/品目番号)		未使用
WDDOCO (オーダー番号)	契約請求	G6DOCO/F5202
WDDOCZ (オーダー番号)		自動採番機能(03/01)により自動的に 割り当てられます。
WDDSVJ (サービス/税日付)	デフォルト	GLDSVJ/F0911

テーブル F4812 のデータ項目	条件および取込情報	データ項目/ソース・テーブル
	GLICUT フィールドには V が含まれています。	RPDSVJ/F0411
	GLDSVJ および RPDSVJ フィールドは空白です。	ILTRDJ(オーダー日付)/F4111
WDDWNL(ダウンロード・フラグ)		自動割当て
WDELGC (適格性コード)	デフォルト F0911 レコードの GLMCU、GLOBJ、GLSUB(ビジネスユニット、主科目、補助科目)フィールド	GMBILL(請求可能 Y/N)/F0901
	間接費 F0624 レコードの J#MCU、J#OBJ、および J#SUB(ビジネスユニット、主科目および補助科目)フィールド	GMBILL/F0901
	F48091 レコードの WZPRRR(仕訳生成制御)フィールドには 3 または 4 が含まれます。F0901 レコードの GMBILL フィールドには 1、2、3 または 4 が含まれます。	GMBILL/F0901
	WZPRRR フィールドには 3 または 4 が含まれません。	GMBILL/F0901
	F48091 レコードの WZPRRR フィールドには 3 または 4 は含まれません。	WZPRRR/F48091
WDEQCG (使用設備)	F0911 レコードの GLDCT(伝票タイプ)フィールドには TE が含まれます。	GLASID(シリアル番号)/F0911
	GLDCT フィールドには T5 が含まれます。	YTEQCG/F0618 または F06116
	GLDCT フィールドには TE、T2、T4、T5 は含まれていません。	Blank(空白)
WDEQWO (作業設備)	GLDCT フィールドに TE が含まれます。	Blank(空白)
	GLDCT フィールドには T5 が含まれます。	YTEQWO/F0618 または F06116
	GLDCT フィールドには TE、T2、T4、T5 は含まれていません。	GLASID(シリアル番号)/F0911
WDERC(設備料金コード)	GLDCT フィールドに TE が含まれます。	GLALTY(ID タイプ)/F0911
	GLDCT フィールドには T5 が含まれます。	YTERC/F0618 または F06116

テーブル F4812 の データ項目	条件および取込情報	データ項目/ソース・テーブル
	GLDCT フィールドには TE、T2、T4、T5 は含まれていません。	Blank(ブランク)
WDEXA (説明 - 名称 A)	デフォルト	GLEXA/F0911
	GLDCT フィールドに T2、T4 または T5 が含まれます。 F0618 または F06116 レコードの YTAN8(住所番号)フィールド	ABALPH(名称)/F0101
WDEXR (説明 - 備考)	F48096 レコードの WQEXR フィールドはブランクです。 GLDCT フィールドに T2、T4、T5 は含まれません。	GLEXR/F0911
	F48096 レコードの WQEXR フィールドはブランクです。 GLDCT フィールドに T2、T4 または T5 が含まれます。	YTEXR/F0618 または F06116
	F48096 レコードの WQEXR フィールドはブランクではありません。	WQEXR/F48096
	間接費次の条件のうち、最初に検出された条件によってソースが決定されます。 A) F0624 レコードの J#FRTY(追加給付タイプ)フィールドに FB が含まれている場合。	追加給付タイプ/F0005 に関連する DRDL01(記述)
	B) F0624 レコードの J#PTAX(税タイプ)フィールドがブランクでない場合。 C) F0624 レコードの J#PDBA(PDBA コード)フィールドの値が 0 より大きい場合。	税タイプ/F0005 に関連する DRDL01 YCDL01/F069116
F069116 レコードの YCDL01 フィールドはブランクではありません。 F069116 レコードの YCDL01 フィールドはブランクです。	YCEXA(説明 - 名称 A)/F069116	
WDEXR1 (税目コード)	契約請求	G6EXR1/F5202 または処理オプション
	サービス請求	WOEXR1/F48127

テーブル F4812 の データ項目	条件および取込情報	データ項目/ソース・テーブル
WDFRTN(外貨留保 可能)		計算済み
WDFTOL(外貨建て の請求済み合計)		計算済み
WDFY(会計年度)		GLFY/F0911
WDGLC (元帳クラス)		F48127/F5202
WDHBTL (収益金額 - 履歴)		計算済み 請求通貨コードと基本通貨コードが異 なり、ワークテーブルが替レートと請求 為替レートが異なる場合は、新しい為 替レートで請求書が計算される前にワ ークテーブルの金額で HBTL、HITL、 HITX、および HTAM に値が入力されま す。
WDHITL(請求金額合 計 - 履歴)		計算済み 請求通貨コードと基本通貨コードが異 なり、ワークテーブルが替レートと請求 為替レートが異なる場合は、新しい為 替レートで請求書が計算される前にワ ークテーブルの金額で HBTL、HITL、 HITX、および HTAM に値が入力されま す。
WDHITX(請求書課税 対象金額 - 履歴)		計算済み 請求通貨コードと基本通貨コードが異 なり、ワークテーブルが替レートと請求 為替レートが異なる場合は、新しい為 替レートで請求書が計算される前にワ ークテーブルの金額で HBTL、HITL、 HITX、および HTAM に値が入力されま す。
WDHLD(保留コード)		ユーザー割当て
WDHMCU(所属ビジ ネスユニット)	デフォルト	GLHMCU/F0911
	GLHMCU フィールドは空白です。 F0911 レコードの GLDCT(伝票タイプ) フィールド には T2、T4、T5 は含まれません。 GLMCU フィールドは空白です。	シリアル番号/F1201 に関連する FAMCU(ビジネスユニット)

テーブル F4812 の データ項目	条件および取込情報	データ項目/ソース・テーブル
	F0911 レコードの GLASID(シリアル番号)フィールド	
	GLHMCU フィールドは空白です。 GLICUT フィールドには V または W が含まれます。 GLDOC、GLDCT、および GLKCO フィールド	RPMCU/F0411
	GLHMCU フィールドは空白です。 GLICUT フィールドには G が含まれます。 F0911 レコードの GLMCU フィールド	MCMCUS(プロジェクト番号)/F0006
	GLDCT フィールドには T2、T4 または T5 が含まれます。	YTHMCU/F0618 または F06116
WDHTAM (税情報履歴)		計算済み 請求通貨コードと基本通貨コードが異なり、ワークテーブルが替レートと請求為替レートが異なる場合は、新しい為替レートで請求書が計算される前にワークテーブルの金額で HBTL、HITL、HITX、および HTAM に値が入力されます。
WDICU(バッチ番号)		自動採番機能(00/01)により自動的に割り当てられます。
WDICUA(アクティブ・バッチ番号)		自動採番機能(00/01)により自動的に割り当てられます。
WDICUJ (収益バッチ番号)		自動採番機能(00/01)により自動的に割り当てられます。
WDIDSC (請求書割引金額)		自動計算
WDIJST (請求書仕訳状況)		自動計算
WDITAM (請求書の税)		自動計算
WDITOL(請求済み金額合計)		自動計算
WDITXA(請求書の課税額)		自動計算

テーブル F4812 のデータ項目	条件および取込情報	データ項目/ソース・テーブル
WDIVD (請求書日付)		自動計算
WDJBCD (職務タイプ)	F0911 レコードの GLDCT(伝票タイプ)フィールドには T2、T4、T5 は含まれません。	GLJBCD/F0911
	GLDCT フィールドに T2、T4 または T5 が含まれます。	YTJBCD/F0618 または F06116
WDJBST(職階)	GLDCT フィールドに T2、T4、T5 は含まれません。	GLJST/F0911
	GLDCT フィールドに T2、T4、T5 は含まれません。	YTJBST/F0618 または F06116
WDJELN(仕訳行番号)		GLJELN/F0911
WDJMCU(担当ビジネスユニット)	デフォルト	MCMCUS(プロジェクト番号)/F0006
	契約請求システム F0911 レコードの GLDCT(伝票タイプ)フィールドには T2、T4 または T5 が含まれます。	
	契約の F5201 レコードの G4JMCU フィールドはブランクではありません。 契約は存在しません。	G4JMCU/F5201 MCMCUS/F0006
WDJOB(ワークステーション ID)		プログラム状況データ構造体からのジョブ名
WDJRSP (仕訳状況コード)		自動割当て
WDJRST (仕訳状況コード)		自動割当て
WDJTAX (仕訳対象税)	F4812 レコードの WDEXR1(税目コード)フィールドには C、E、または V が含まれます。	自動割当て
	WDEXR1 フィールドには、C、E、V は含まれません。	自動割当て
WDJTXF (仕訳対象税)		未使用
WDKCO(伝票会社)		GLKCO/F0911
WDKCOI(伝票会社)	契約請求	G6KCOO/F5202

テーブル F4812 の データ項目	条件および取込情報	データ項目/ソース・テーブル
	サービス請求	請求書の伝票 GLCO/F0911
WDKCOO (受注番号 /伝票会社)	契約請求	G6KCOO/F5202
	サービス請求	GLCO/F0911
WDLNID (行番号)	契約請求	G6LNID/F5202
WDLSPM (支払完了)	収益は計上済みです。	自動割当て
WDLSSQ (最終順序)	請求処理は完了しています。	自動割当て
WDLT (元帳タイプ)		GLLT/F0911/"AA" (非タイム・アンド・ マテリアル契約請求)
WDMCU (ビジネスユ ニット)	デフォルト	GLMCU/F0911
	間接費	J#MCU/F0724
WDOBJ (主科目)	デフォルト	GLOBJ/F0911
	間接費	J#OBJ/F0724
WDODCT (当初伝票タイプ)		GLODCT/F0911
WDODOC (当初伝票タイプ)		GLODOC/F0911
WDOGNO (当初行番号)		GLLNID (行番号)/F0911
WDOKCO (当初オーダー伝票)		GLOKCO/F0911
WDOPIM (契約請求行)	契約請求	G6OPIM/F5202
WDOPSQ (作業順序)		GLOPSQ/F0911
WDOSFX (当初支払項目)		GLOSFX/F0911
WDPCFG (間接費フラグ)	デフォルト	Blank (ブランク)
	間接費レコードは F0624 テーブルにあります。	自動的に 1 が割り当てられます。
WDPCIM (パーセンテージ)	生成タイプは 1 です。	WQPERT (パーセンテージ)/F48096
WDPCKO (伝票会社)		GLPKCO (購買オーダーの伝票会社) /F0911

テーブル F4812 の データ項目	条件および取込情報	データ項目/ソース・テーブル
WDPCTN (親契約番号)	契約請求	G4PCTN/F5201
WDPCTT (親契約タイプ)	契約請求	G4PCTT/F5201
WDPDBA (PDBA コード)	デフォルト	Blank(ブランク)
	F0911 レコードの GLDCT(伝票タイプ)フィールド には T2、T4 または T5 が含まれます。	YTPDBA/F0618 または F06116
	間接費	J#PDBA/F0724
WDPDCT (購買オーダー伝票)		GLPDCT/F0911
WDPERT (パーセンテージ)	生成タイプは 2 です。	WQPERT(パーセンテージ)/F48096
WDPID (プログラム ID)		プログラム名
WDPKCO(購買オー ダー伝票会社)		GLPKCO/F0911
WDPSMQ (支払順序番号)		未使用
WDPN (元帳期間番号)		GLPN/F0911
WDPO(購買オーダ ー番号)		GLPO/F0911
WDPRET(留保率)	サービス請求	WIPRET/F48127
WDPRIC(単価)		自動計算
WDPRSQ (親順序番号)		自動割当て
WDPRTF (印刷済みフラグ)		自動割当て
WDPRTTR (取引番号)	F0911 レコードの GLDCT(伝票タイプ)フィールド には T2、T4 または T5 が含まれます。	YTPRTR/F0618 または F06116
WDPSFX(購買オー ダー・サフィックス)		GLPSFX/F0911
WDPTAX(税タイプ)	デフォルト	ブランク
	間接費	J#PTAX/F0724
WDPTFG (パス・スルー請求)		未使用

テーブル F4812 の データ項目	条件および取込情報	データ項目/ソース・テーブル
WDRDJ (リリース日付)		WDRDJ
WDRGLC (留保元帳クラス)		WIRGLC/F48128
WDRP11(カテゴリ・ コード 011)	F4812 レコードの WDMCU(ビジネスユニット)フ ィールド	MCRP11/F0006
WDRP12(カテゴリ・ コード 012)	F4812 レコードの WDHMCU(所属ビジネスユニッ ト)フィールド	MCRP12/F0006
WDRPNG(留保金)		自動計算
WDRTPS (前期留保金)		自動計算
WDR001 (請求項目コード)		ソース取引/F0901 の勘定科目コードの GMR001
WDR002(カテゴリ・コ ード 002)		ソース取引/F0901 の勘定科目コードの GMR002
WDR003(事業所)		ソース取引/F0901 の勘定科目コードの GMR003
WDSBAR (理由コード)	ユーザー定義コード 48/AR 再計算および NTE 理由コード	WDSBAR
WDSBL(補助元帳)	サービス請求	GLSBL/F0911
	契約請求	G6SBL/F5202
WDSBLT (補助元帳タイプ)	サービス請求	GLSBLT/F0911
	契約請求	G6SBLT/F5202
WDSBL5(補助元帳)	契約請求	G6SBL/F5202
WDSBL6(補助元帳)		未使用
WDSBSK(集計キー)		自動割当て
WDSBSQ (順序番号)		自動割当て

テーブル F4812 のデータ項目	条件および取込情報	データ項目/ソース・テーブル
WDSBT5 (補助元帳タイプ)	契約請求	G6SBLT/F5202
WDSBT6 (補助元帳タイプ)		未使用
WDSCSQ (第 2 順序番号)		自動割当て
WDSFX(支払項目)		自動割当て
WDSLNK (分割リンク)		自動割当て
WDSUB(補助科目)	デフォルト	GLSUB/F0911
	間接費	J#SUB/F0724
WDTBDT(テーブル基準日付)	F48091 レコードの WZEBAS(有効基準日付)フィールドに 1 が含まれます。	GLDGL(元帳日付)/F0911
	WZEBAS フィールドに 2 が含まれます。	GLDSVJ(サービス/税日付)/F0911
WDTCLS(分類)	追加料金(暫定間接費)	0
	F0911 レコードの GLDCT(伝票タイプ)フィールドには、T2 または T4 が含まれます。	1
	間接費	2
	GLDCT フィールドに TE が含まれます。	3
	GLDCT フィールドに T2、T4、T5 は含まれません。	
	A) 関連レコードが F0911 および F1202 テーブルにあります。どちらのレコードにも同じシリアル番号(それぞれ GLASID と FAASID)が付いています。	3
	B) F0911 レコードの GLICUT(バッチ・タイプ)フィールドに N が含まれます。	4
	F0911 レコードの GLDOC、GLDCT、GLKCO、GLDGL(伝票番号、タイプ、会社、元帳日付)フィールド	
C) GLICUT フィールドに V または W が含まれます。F0911 レコードの GLD0C、GLDCT、および GLKCO フィールド。	5	

テーブル F4812 の データ項目	条件および取込情報	データ項目/ソース・テーブル
	D) GLICUT フィールドには G が含まれます。関連レコードが F0006 テーブルにあります。	6
	前述の条件はいずれも満たされず、F0911 レコードの GLPO(購買オーダー番号)フィールドはブランク以外の値。	値は 5 です。
	カスタマー・サービス管理システム C = サービス契約 D = サービス・オーダー E = 保証請求 F = コール	
WDTOG (課税または総額)	契約請求 F4812 レコードには税率/税域および税目コードが含まれます。	値は 1 です。
	サービス請求 F48127 レコードには税率/税域および税目コードが含まれます。	値は 1 です。
	前述の条件はどちらも存在しません。	ブランク
WDTX(購買課税)	契約請求 F4812 レコードには税率/税域および税目コードが含まれます。	値は Y です。
	サービス請求 F48127 レコードには税率/税域および税目コードが含まれます。	値は Y です。
	前述の条件はどちらも存在しません。	値は N です。
WDTXA1 (税率/税域)	契約請求	G6TXA1/F5202
	サービス請求	WOTXA1/F48127
WDTYKY (キー・タイプ)		未使用
WDU(数量)	デフォルト	GLU/F0911
	F0911 レコードの GLDCT(伝票タイプ)フィールドには、T2 または T4 が含まれます。	YTPHRW(月次標準勤務時間)/F0618 または F06116

テーブル F4812 のデータ項目	条件および取込情報	データ項目/ソース・テーブル
	GLDCT フィールドには T5 が含まれます。	YTEQHR(設備時間)/F0618 または F06116
WDUM(計量単位)	デフォルト	GLUM/F0911
	GLDCT フィールドに T2、T4 または T5 が含まれます。	HR
WDUPMJ (更新日付)		自動割当て
WDUPMT (最終更新時刻)		自動割当て
WDUSER (ユーザーID)		自動割当て
WDINV (請求書番号)		GLVINV/F0911
WDVOID(無効 - V)		自動割当て
WDWR01(フェーズ)		GLWR01/F0911
WDWR07 (サービス・タイプ)	F0911 レコードの GLSBL(補助元帳)フィールドはブランクです。 GLSBLT(補助元帳タイプ)フィールドには W が含まれます。	WAWR07/F4801
VGCSF (出荷元 Geocode)		MCU の Geocode(ブランク)
		MCU の AN8 の Geocode(ブランク)
		MCU の会社の住所番号の Geocode(ブランク)
WDVGCOA(オーダー検収 Geocode)		VGCSF の値
WDVVTY (Vertex 取引タイプ)	サービス請求	VVTY/F48127
	契約請求	VVTY/F5202
WDVVTC(Vertex 製品カテゴリ)	サービス請求	VVTC/F48127
	契約請求	VVTC/F5202
WDVINV(仕入先請求書番号)	伝票タイプが PV 時	GLVINV/F0911

テーブル F4812 の データ項目	条件および取込情報	データ項目/ソース・テーブル
WDIDGJ (請求書元帳日付)	請求書作成時割り当てられる請求書元帳日付	
WDITM (品目番号(略式))		未使用
WDPAID (合計原価/価格)		未使用
WDFEA (外貨合計価格)		未使用
WDERDB (為替レート基準日)	通貨がオン時	WZERDB / F48091
WDERDT (為替レート日付)	通貨がオン時	為替レート基準日に基づいた割り当て
WDSUBA (代替補助科目)	MCU, OBJ, SUB を使用した勘定科目マスターからの取り込み	GMSUBA / F0901
WDBCTK (バッチ制御キー)		未使用
WDPARS (親作業オ ーダー番号)	補助元帳入力完了時に作業オーダー・マスター から取り込み	WAPARS / F4801
WDPRGR (品目価格グループ)		未使用
WDCPGP (顧客価格 グループ)		未使用
WDBBF (請求基準フラグ)	デフォルト(DD から 1)	未使用
WDMKRP (手数料(%))		未使用
WDFBAS (請求書金額基準)		未使用
WDTKM1 (キー・タイ プ(割増テーブル・タ イプ 1))	使用済み割増テーブルから	WQTYKY / F48096
WDTKM2 (キー・タイ プ(割増テーブル・タ イプ 2))	使用済み割増テーブルから	WQTYKY / F48096
WDTKM3 (キー・タイ プ(割増テーブル・タ イプ 3))	使用済み割増テーブルから	WQTYKY / F48096
WDTKA1 (キー・タイ プ(勘定科目決定基 準テーブル 1))		未使用

テーブル F4812 の データ項目	条件および取込情報	データ項目/ソース・テーブル
WDTKA2(キー・タイプ(勘定科目決定基準テーブル 2))		未使用
WDTKA3(キー・タイプ(勘定科目決定基準テーブル 3))		未使用
WDTKG1(キー・タイプ(元帳クラス・テーブル))	使用済み元帳クラス・テーブルから	WITYKY / F48128
WDTKT1(キー・タイプ(税決定基準テーブル))	使用済み税決定基準テーブルから	WOTYKY / F48127
WDPRIF (単価 - 外貨)	通貨がオンで通貨コードが異なっている場合	計算済み
WDNCTL(上限(NTE)制御フラグ)		未使用

WorldSoftware から J.D. Edwards 5 へのアップグレード

WorldSoftware の A7.3 または A8.1 から J.D. Edwards 5 へのアップグレード・パスが提供されています。

WorldSoftware から ERP 5 へのアップグレード時には、請求システムのテーブルを J.D. Edwards が提供するテーブル変換プログラムを使って ERP 8.0 形式に変換する必要があります。

次の場合を除き、WorldSoftware テーブルのデータは J.D. Edwards 5 テーブルに直接コピーできます。

日付フィールド

WorldSoftware テーブルの日付データはユリウス暦形式のため、jdedate 形式に変換してから J.D. Edwards 5 テーブルにコピーされます。

数値データ・フィールド

WorldSoftware では、数値データの小数点は保存されません。たとえば、数字 12.34 は 1234 として保存されます。J.D. Edwards 5 では 12.34 と保存されます。テーブル・コンバージョン・プログラムは、次のシナリオを使用して数値フィールドの小数点以下を管理します。

	A7.3	A8.1
データ・クラスが通貨でなく、表示小数点以下桁数 = 0 の場合	変換必要なし。WorldSoftware のデータを J.D. Edwards 5 にそのままコピー。	変換必要なし。WorldSoftware のデータを J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
データ・クラスが通貨でなく、表示小数点以下桁数 > 0 の場合	データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。	データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。
データ・クラスが通貨で、WorldSoftware で多通貨処理を使用していない場合	データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。	データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。
データ・クラスが通貨で、WorldSoftware で多通貨処理を使用する	データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。	通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換。国内通貨の場合は CRCD、外貨の場合は CRCF の通貨コードが使用されます。

未変換フィールド

J.D. Edwards 5 テーブルのフィールドに対応する WorldSoftware テーブルのフィールドが存在しない場合があります。たとえば、Vertex は WorldSoftware ではサポートされていなかったため、Vertex 関連フィールドは存在しません。この場合、J.D. Edwards 5 テーブルのフィールドは空白になります。

その他の例外フィールドについては各テーブル変換プログラムの欄を参照してください。

参照

- テーブル・コンバージョン・プログラムの設定と使用については、『テーブル・コンバージョン』ガイドの「テーブル変換の設定」および「テーブル変換の実行」

はじめる前に

- WorldSoftware 環境を有効な J.D. Edwards 5 環境として設定し、各テーブル変換プログラムの入出力環境をマッピングします。『テーブル・コンバージョン』ガイドの「データ変換」を参照してください。

A7.3 サービス請求からのテーブル変換プログラム

WorldSoftware A7.3 のサービス請求テーブルを J.D. Edwards 5 に変換する次のプログラムが提供されています。

F4805 の A7.3 から J.D. Edwards ERP 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F4805 の A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R894805

変換するテーブル: 請求書の順序/集計テーブル見出し(F4805)

WorldSoftware テーブルのカラム数 7

J.D. Edwards 5 のカラム数 7

	フィールド記述	A7.3	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	集計キー	SBSK	SBSK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	記述	DESC	DESC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
4	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
5	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
6	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
7	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

F48051 の A7.3 から J.D. Edwards ERP 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F48051 の A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R8948051

変換するテーブル: 請求書の順序/集計テーブル詳細(F48051)

WorldSoftware テーブルのカラム数 10

J.D. Edwards 5 のカラム数 10

	フィールド記述	A7.3	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	集計キー(サービス請求)	SBSK	SBSK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	データ項目	DTAI	DTAI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	データ項目サイズ	DTAS	DTAS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
4	行番号(一般)	LIN	LIN	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
5	集計コード(サービス請求)	SBSC	SBSC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
6	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

F48091 の A7.3 から J.D. Edwards ERP 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F48091 の A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R8948091

変換するテーブル: 請求システム固定情報(F48091)

WorldSoftware テーブルのカラム数 27

J.D. Edwards 5 のカラム数 28

	フィールド記述	A7.3	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	制御フラグ 3	BCT3	BCT3	1 で J.D. Edwards 5 テーブルを更新
2	間接労務費の請求フラグ	BBDR	BBDR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	有効日付基準	EBAS	EBAS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
4	労務有効日基準	LBAS	LBAS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
5	顧客番号基準	CNBS	CNBS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
6	収益割増パーセント	PERT	PERT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
7	個別請求フラグ	INDI	INDI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	未転記請求フラグ	BUNP	BUNP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

9	仕訳作成の制御	PRRR	PRRR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
10	請求書集計アクセス制御	ISAC	ISAC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
11	契約収益フラグ	CNTM	CNTM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
12	請求書日付一時変更制御	INDO	INDO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
13	仕訳振替の制御	JRNL	JRNL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
14	PDBA コード一時変更	PDBO	PDBO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
15	請求書番号制御	ICTL	ICTL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
16	サービス日付基準	DSVB	DSVB	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
17	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
18	為替レート基準日	ERDB	ERDB	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
19	複数のバッチ生成制御フラグ	MBGC	MBGC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
20	データ項目	DTAI	DTAI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
21	通貨モード		CRRM	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
22	上限処理フラグ	BCT1	BCT1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
23	制御フラグ 2	BCT2	BCT2	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
24	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
25	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
26	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
27	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
28	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

F48096 の A7.3 から J.D. Edwards ERP 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S32)から〈F48096 の A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R8948096

変換するテーブル: 請求料金/割増テーブル(F48096)

WorldSoftware テーブルのカラム数 33

J.D. Edwards 5 のカラム数 37

	フィールド記述	A7.3	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	テーブル・キー	TKEY	TKEY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	キー・タイプ	TYKY	TYKY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

3	開始有効日付	EFTB	EFTB	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
4	有効終了日付	EFTE	EFTE	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
5	主科目	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
6	終了主科目	OBJT	OBJT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	終了補助科目	SUBT	SUBT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	職務タイプ(技能)コード	JBCD	JBCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
10	生成タイプ	GTYP	GTYP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
11	職階	JBST	JBST	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
12	DBA コード	PDBA	PDBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
13	収益一時変更割増レート	BRT	BRT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
14	上限料金の適用	CAP	CAP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
15	収益割増パーセント	PERT	PERT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
16	金額	AA	AA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
17	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
18	カテゴリ・コード - ビジネスユニット 12	RP12	RP12	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
19	住所番号	AN8	AN8	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
20	資産番号	NUMB	NUMB	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
21	カテゴリ・コード - F/A 10(料金グループ)	ACL0	ACL0	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
22	品目価格グループ		PRGR	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
23	顧客価格グループ		CPGP	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
24	請求基準フラグ		BBF	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
25	設備料金コード	ERC	ERC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

26	追加料金の原価レート・テーブル	CCR	CCR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
27	追加料金の収益レート・テーブル	CRVR	CRVR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
28	摘要	EXR	EXR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
29	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
30	制御フラグ 1	CTF1	CTF1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
31	制御フラグ 2	CTF2	CTF2	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
32	固有キーID (内部)		UKID	固有キー・テーブル(F00022)から次に使用可能な固有キーを取得
33	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
34	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
35	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
36	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
37	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

F4812 の A7.3 から J.D. Edwards ERP 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F4812 の A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R894812

変換するテーブル: サービス請求ワークテーブル(F4812)

WorldSoftware テーブルのカラム数 168

J.D. Edwards 5 のカラム数 193

	フィールド記述	A7.3	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	伝票タイプ	DCT	DCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	伝票 (伝票、請求書など)	DOC	DOC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	伝票会社	KCO	KCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
4	元帳日付	DGL	DGL	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
5	仕訳行番号	JELN	JELN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
6	略式 ID	AID	AID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	ビジネスユニット	MCU	MCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

8	カテゴリ・コード - ビジネスユニット 11	RP11	RP11	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	主科目	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
10	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
11	補助元帳	SBL	SBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
12	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
13	作業順序番号	OPSQ	OPSQ	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
14	カテゴリ - 作業オーダー01	WR01	WR01	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
15	作業オーダー・カテゴリ・コード 7(JDE サービス・タイプ)	WR07	WR07	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
16	Ledger Type(元帳タイプ)	リットル(LT)	リットル(LT)	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
17	西暦上 2 桁	CTRY	CTRY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
18	会計年度	FY	FY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
19	会計期間 - 総勘定元帳	PN	PN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
20	会社	CO	CO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
21	当初伝票タイプ	ODCT	ODCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
22	当初伝票支払項目	OSFX	OSFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
23	当初伝票	ODOC	ODOC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
24	伝票会社(当初オーダー)	OKCO	OKCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
25	購買オーダー	PO	PO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
26	伝票タイプ - 購買オーダー	PDCT	PDCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
27	伝票会社(購買オーダー)	PKCO	PKCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
28	購買オーダー・サフィックス	PSFX	PSFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
29	当初行番号	OGNO	OGNO	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
30	カテゴリ・コード - G/L 1	R001	R001	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
31	カテゴリ・コード - G/L 2	R002	R002	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
32	カテゴリ・コード - G/L 3	R003	R003	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

33	トランザクション番号 - 給与計算	PRTR	PRTR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
34	職務タイプ(技能)コード	JBCD	JBCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
35	職階	JBST	JBST	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
36	DBA コード	PDBA	PDBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
37	税タイプ	PTAX	PTAX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
38	使用設備	EQCG	EQCG	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
39	作業設備	EQWO	EQWO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
40	カテゴリ・コード - F/A 10(料金グループ)	ACLO	ACLO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
41	設備料金コード	ERC	ERC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
42	住所番号	AN8	AN8	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
43	圧縮記述	DC	DC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
44	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
45	担当ビジネスユニット	JMCU	JMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
46	カテゴリ・コード - ビジネスユニット 12	RP12	RP12	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
47	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
48	経過日付一時変更	DAGO	DAGO	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
49	経過計算停止	AGS	AGS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
50	備考/摘要	EXA	EXA	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
51	摘要	EXR	EXR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
52	労務間接費フラグ	PCFG	PCFG	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
53	基本単位あたり単価	PRIC	PRIC	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
54	数量	U	U	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
55	計量単位	計量単位	計量単位	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

56	金額	AA	AA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
57	照合伝票(支払伝票/支払項目)	DOCM	DOCM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
58	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
59	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
60	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
61	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
62	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
63	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
64	親契約番号	PCTN	PCTN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
65	親契約タイプ	PCTT	PCTT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
66	親契約の伝票会社	PCKO	PCKO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
67	親順序番号	PRSQ	PRSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
68	順序番号	SBSQ	SBSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
69	2次順序番号	SCSQ	SCSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
70	請求制御 ID	BCI	BCI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
71	処理完了	LSSQ	LSSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
72	支払順序番号	PMSQ	PMSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
73	収益計上フラグ	LSPM	LSPM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
74	取引分類	TCLS	TCLS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
75	適格性コード	ELGC	ELGC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
76	仕訳状況コード	JRST	JRST	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
77	収益バッチ番号	ICUJ	ICUJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
78	請求書日付	IVD	IVD	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
79	保留コード(サービス請求)	HLD	HLD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

80	リリース日付(ユリウス暦)	RDJ	RDJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
81	無効(V)	VOID	VOID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
82	活動中バッチ番号	ICUA	ICUA	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
83	前回仕訳状況コード	JRSP	JRSP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
84	労務間接費保留	BDPN	BDPN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
85	分割リンク	SLNK	SLNK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
86	追加料金リンク	CLNK	CLNK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
87	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
88	追加料金の原価レート・テーブル	CCR	CCR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
89	追加料金の請求書レート・テーブル	CINR	CINR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
90	追加料金の収益レート・テーブル	CRVR	CRVR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
91	調整理由コード	SBAR	SBAR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
92	テーブル比較基準日(ユリウス暦)	TBDT	TBDT	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
93	上限レートの使用	CAP	CAP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
94	収益一時変更割増レート	BRT	BRT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
95	収益割増パーセント	PERT	PERT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
96	収益割増金額	ADCR	ADCR	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
97	上限レートの使用(請求書)	CAPI	CAPI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
98	請求書一時変更割増レート	BRTI	BRTI	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。

99	請求書割増パーセント	PCIM	PCIM	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
100	請求書割増金額	ADCI	ADCI	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
101	課税対象(購買時)	TX	TX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
102	課税額または総額	TOG	TOG	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
103	税目コード 1	EXR1	EXR1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
104	税率/税域	TXA1	TXA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
105	割引率(支払条件)	DCP	DCP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
106	仕訳税額	JTAX	JTAX	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
107	仕訳税額(外貨)	JTXF	JTXF	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
108	収益金額	BTOL	BTOL	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
109	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
110	為替レート(乗数)	CRR	CRR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
111	通貨モード	CRRM	CRRM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
112	請求済み合計(外貨)	FTOL	FTOL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
113	請求書金額	ITOL	ITOL	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
114	請求書の課税対象額	ITXA	ITXA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
115	請求書の税額	ITAM	ITAM	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。

116	請求書の割引可能額	IDSC	IDSC	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
117	請求書金額(外貨)	CITL	CITL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
118	請求書の課税対象額(外貨)	CITA	CITA	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
119	請求書の課税対象額(外貨)	CITX	CITX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
120	請求書の割引可能額(外貨)	CIDS	CIDS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
121	請求書仕訳状況コード	IJST	IJST	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
122	印刷済みフラグ	PRTF	PRTF	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
123	バッチ番号	ICU	ICU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
124	作業(A/R)の住所番号	AN80	AN80	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
125	仕入先請求書番号	VINV	VINV	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
126	請求書日付	DI	DI	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
127	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCZ	DOCZ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
128	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
129	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
130	伝票支払項目	SFX	SFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
131	集計キー(サービス請求)	SBSK	SBSK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
132	複合キー・ブロック	BLKK	BLKK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
133	略式 ID	AID5	AID5	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
134	補助元帳	SBL5	SBL5	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
135	補助元帳タイプ	SBT5	SBT5	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
136	略式 ID	AID6	AID6	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
137	補助元帳	SBL6	SBL6	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
138	補助元帳タイプ	SBT6	SBT6	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
139	入金時請求規則の一時変更	AREX	AREX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
140	元帳クラス	GLC	GLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
141	留保金の元帳クラス	RGLC	RGLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

142	留保金のパーセンテージ	PRET	PRET	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
143	留保金	RTNG	RTNG	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
144	保管資材の前回留保金	RTPS	RTPS	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
145	留保金額(外貨)	FRTN	FRTN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
146	ダウンロード・フラグ(サービス請求)	DWNL	DWNL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
147	内部コード・チェック	CBLC	CBLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
148	入力日付	DEJ	DEJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
149	為替レート(除数)	CRRD	CRRD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
150	通貨コード(換算元)	CRCE	CRCE	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
151	当初通貨コード	CRCF	CRCF	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
152	金額	AA2	AA2	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
153	キー・タイプ	TYKY	TYKY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
154	元帳日付(ユリウス暦)	DGJ	DGJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
155	請求書の元帳日付(ユリウス暦)	IDGJ	IDGJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
156	パス・スルー請求フラグ	PTFG	PTFG	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
	再計算基準フラグ	RSBF		J.D. Edwards 5 にはコピーされません。
157	品目番号(略式)	ITM	ITM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
158	合計原価/価格	PAID	PAID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
159	合計価格(外貨)	FEA	FEA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
160	為替レート基準日	ERDB	ERDB	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

161	為替レート日付		ERDT	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
162	代替補助科目	SUBA	SUBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
163	バッチ制御キー	BCTK	BCTK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
164	親作業オーダー番号		PARS	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
165	品目価格グループ		PRGR	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
166	顧客価格グループ		CPGP	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
167	請求基準フラグ		BBF	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
168	割増し率		MKRP	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
169	請求書金額基準		FBAS	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
170	収益金額基準		RFBS	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
171	キー・タイプ(割増テーブル・ タイプ 1)		TKM1	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
172	キー・タイプ(割増テーブル・ タイプ 2)		TKM2	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
173	キー・タイプ(割増テーブル・ タイプ 3)		TKM3	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
174	キー・タイプ(勘定科目決定 基準テーブル 1)		TKA1	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
175	キー・タイプ(勘定科目決定 基準テーブル 2)		TKA2	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
176	キー・タイプ(勘定科目決定 基準テーブル 3)		TKA3	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
177	キー・タイプ(元帳クラス・テ ーブル)		TKG1	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
178	キー・タイプ(税決定基準テ ーブル)		TKT1	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
179	収益金額(履歴)		HBTL	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
180	請求書金額(履歴)		HITL	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
181	請求書の課税対象金額(履 歴)		HITX	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
182	請求書の税額(履歴)		HTAM	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
183	基本単位あたり単価(外貨)		PRIF	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
184	上限(NTE)制御フラグ		NCTL	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
185	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

186	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
187	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
188	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
189	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
190	出荷元地理コード		VGCSF	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
191	オーダー承認地理コード		VGCOA	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
192	Vertex 取引タイプ		VVTY	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
193	Vertex 製品カテゴリ		VVTC	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。

F4812H の A7.3 から J.D. Edwards ERP 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F48012H の A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R894812H

変換するテーブル: 請求ワークテーブル履歴(F4812H)

WorldSoftware テーブルのカラム数 168

J.D. Edwards 5 のカラム数 193

	フィールド記述	A7.3	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	伝票タイプ	DCT	DCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	伝票(伝票、請求書など)	DOC	DOC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	伝票会社	KCO	KCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
4	元帳日付	DGL	DGL	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
5	仕訳行番号	JELN	JELN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
6	略式 ID	AID	AID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	ビジネスユニット	MCU	MCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	カテゴリ・コード - ビジネスユニット 11	RP11	RP11	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	主科目	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
10	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
11	補助元帳	SBL	SBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
12	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

13	作業順序番号	OPSQ	OPSQ	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
14	カテゴリ - 作業オーダー01	WR01	WR01	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
15	作業オーダー・カテゴリ・コード 7(JDE サービス・タイプ)	WR07	WR07	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
16	Ledger Type(元帳タイプ)	リットル(LT)	リットル(LT)	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
17	西暦上 2 桁	CTRY	CTRY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
18	会計年度	FY	FY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
19	会計期間 - 総勘定元帳	PN	PN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
20	会社	CO	CO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
21	当初伝票タイプ	ODCT	ODCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
22	当初伝票支払項目	OSFX	OSFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
23	当初伝票	ODOC	ODOC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
24	伝票会社(当初オーダー)	OKCO	OKCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
25	購買オーダー	PO	PO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
26	伝票タイプ - 購買オーダー	PDCT	PDCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
27	伝票会社(購買オーダー)	PKCO	PKCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
28	購買オーダー・サフィックス	PSFX	PSFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
29	当初行番号	OGNO	OGNO	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
30	カテゴリ・コード - G/L 1	R001	R001	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
31	カテゴリ・コード - G/L 2	R002	R002	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
32	カテゴリ・コード - G/L 3	R003	R003	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
33	トランザクション番号 - 給与計算	PRTR	PRTR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
34	職務タイプ(技能)コード	JBCD	JBCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
35	職階	JBST	JBST	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
36	DBA コード	PDBA	PDBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
37	税タイプ	PTAX	PTAX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

38	使用設備	EQCG	EQCG	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
39	作業設備	EQWO	EQWO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
40	カテゴリ・コード - F/A 10(料金グループ)	ACLO	ACLO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
41	設備料金コード	ERC	ERC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
42	住所番号	AN8	AN8	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
43	圧縮記述	DC	DC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
44	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
45	担当ビジネスユニット	JMCU	JMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
46	カテゴリ・コード - ビジネスユニット 12	RP12	RP12	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
47	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
48	経過日付一時変更	DAGO	DAGO	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
49	経過計算停止	AGS	AGS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
50	備考/摘要	EXA	EXA	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
51	摘要	EXR	EXR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
52	労務間接費フラグ	PCFG	PCFG	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
53	基本単位あたり単価	PRIC	PRIC	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
54	数量	U	U	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
55	計量単位	計量単位	計量単位	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
56	金額	AA	AA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
57	照合伝票(支払伝票/支払項目)	DOCM	DOCM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
58	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
59	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

60	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
61	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
62	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
63	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
64	親契約番号	PCTN	PCTN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
65	親契約タイプ	PCTT	PCTT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
66	親契約の伝票会社	PCKO	PCKO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
67	親順序番号	PRSQ	PRSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
68	順序番号	SBSQ	SBSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
69	2次順序番号	SCSQ	SCSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
70	請求制御 ID	BCI	BCI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
71	処理完了	LSSQ	LSSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
72	支払順序番号	PMSQ	PMSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
73	収益計上フラグ	LSPM	LSPM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
74	取引分類	TCLS	TCLS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
75	適格性コード	ELGC	ELGC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
76	仕訳状況コード	JRST	JRST	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
77	収益バッチ番号	ICUJ	ICUJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
78	請求書日付	IVD	IVD	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
79	保留コード(サービス請求)	HLD	HLD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
80	リリース日付(ユリウス暦)	RDJ	RDJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
81	無効(V)	VOID	VOID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
82	活動中バッチ番号	ICUA	ICUA	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
83	前回仕訳状況コード	JRSP	JRSP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
84	労務間接費保留	BDPN	BDPN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
85	分割リンク	SLNK	SLNK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
86	追加料金リンク	CLNK	CLNK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

87	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
88	追加料金の原価レート・テーブル	CCR	CCR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
89	追加料金の請求書レート・テーブル	CINR	CINR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
90	追加料金の収益レート・テーブル	CRVR	CRVR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
91	調整理由コード	SBAR	SBAR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
92	テーブル比較基準日(ユリウス暦)	TBDT	TBDT	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
93	上限レートの使用	CAP	CAP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
94	収益一時変更割増レート	BRT	BRT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
95	収益割増パーセント	PERT	PERT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
96	収益割増金額	ADCR	ADCR	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
97	上限レートの使用(請求書)	CAPI	CAPI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
98	請求書一時変更割増レート	BRTI	BRTI	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
99	請求書割増パーセント	PCIM	PCIM	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
100	請求書割増金額	ADCI	ADCI	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
101	課税対象(購買時)	TX	TX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
102	課税額または総額	TOG	TOG	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
103	税目コード 1	EXR1	EXR1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
104	税率/税域	TXA1	TXA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

105	割引率(支払条件)	DCP	DCP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
106	仕訳税額	JTAX	JTAX	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
107	仕訳税額(外貨)	JTXF	JTXF	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
108	収益金額	BTOL	BTOL	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
109	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
110	為替レート(乗数)	CRR	CRR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
111	通貨モード	CRRM	CRRM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
112	請求済み合計(外貨)	FTOL	FTOL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
113	請求書金額	ITOL	ITOL	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
114	請求書の課税対象額	ITXA	ITXA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
115	請求書の税額	ITAM	ITAM	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
116	請求書の割引可能額	IDSC	IDSC	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
117	請求書金額(外貨)	CITL	CITL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
118	請求書の課税対象額(外貨)	CITA	CITA	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
119	請求書の課税対象額(外貨)	CITX	CITX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
120	請求書の割引可能額(外貨)	CIDS	CIDS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
121	請求書仕訳状況コード	IJST	IJST	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
122	印刷済みフラグ	PRTF	PRTF	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
123	バッチ番号	ICU	ICU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

124	作業(A/R)の住所番号	AN80	AN80	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
125	仕入先請求書番号	VINV	VINV	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
126	請求書日付	DI	DI	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
127	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCZ	DOCZ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
128	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
129	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
130	伝票支払項目	SFX	SFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
131	集計キー(サービス請求)	SBSK	SBSK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
132	複合キー・ブロック	BLKK	BLKK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
133	略式 ID	AID5	AID5	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
134	補助元帳	SBL5	SBL5	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
135	補助元帳タイプ	SBT5	SBT5	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
136	略式 ID	AID6	AID6	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
137	補助元帳	SBL6	SBL6	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
138	補助元帳タイプ	SBT6	SBT6	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
139	入金時請求規則の一時変更	AREX	AREX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
140	元帳クラス	GLC	GLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
141	留保金の元帳クラス	RGLC	RGLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
142	留保金のパーセンテージ	PRET	PRET	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
143	留保金	RTNG	RTNG	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
144	保管資材の前回留保金	RTPS	RTPS	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
145	留保金額(外貨)	FRTN	FRTN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
146	ダウンロード・フラグ(サービス請求)	DWNL	DWNL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
147	内部コード・チェック	CBLC	CBLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

148	入力日付	DEJ	DEJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
149	為替レート(除数)	CRRD	CRRD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
150	通貨コード(換算元)	CRCE	CRCE	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
151	当初通貨コード	CRCF	CRCF	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
152	金額	AA2	AA2	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
153	キー・タイプ	TYKY	TYKY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
154	元帳日付(ユリウス暦)	DGJ	DGJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
155	請求書の元帳日付(ユリウス暦)	IDGJ	IDGJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
156	パス・スルー請求フラグ	PTFG	PTFG	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
157	品目番号(略式)	ITM	ITM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
158	合計原価/価格	PAID	PAID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
159	合計価格(外貨)	FEA	FEA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
160	為替レート基準日	ERDB	ERDB	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
161	為替レート日付		ERDT	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
162	代替補助科目	SUBA	SUBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
163	バッチ制御キー	BCTK	BCTK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
164	親作業オーダー番号		PARS	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
165	品目価格グループ		PRGR	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
166	顧客価格グループ		CPGP	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
167	請求基準フラグ		BBF	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
168	割増し率		MKRP	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
169	請求書金額基準		FBAS	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
170	収益金額基準		RFBS	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
171	キー・タイプ(割増テーブル・タイプ 1)		TKM1	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。

172	キー・タイプ(割増テーブル・タイプ 2)		TKM2	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
173	キー・タイプ(割増テーブル・タイプ 3)		TKM3	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
174	キー・タイプ(勘定科目決定基準テーブル 1)		TKA1	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
175	キー・タイプ(勘定科目決定基準テーブル 2)		TKA2	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
176	キー・タイプ(勘定科目決定基準テーブル 3)		TKA3	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
177	キー・タイプ(元帳クラス・テーブル)		TKG1	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
178	キー・タイプ(税決定基準テーブル)		TKT1	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
179	収益金額(履歴)		HBTL	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
180	請求書金額(履歴)		HITL	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
181	請求書の課税対象金額(履歴)		HITX	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
182	請求書の税額(履歴)		HTAM	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
183	基本単位あたり単価(外貨)		PRIF	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
184	上限(NTE)制御フラグ		NCTL	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
185	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
186	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
187	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
188	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
189	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
190	出荷元地理コード		VGCSF	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
191	オーダー承認地理コード		VGCOA	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
192	Vertex 取引タイプ		VVTY	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
193	Vertex 製品カテゴリ		VVTC	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。

F48127 の A7.3 から J.D. Edwards ERP 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F48127 の A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R8948127

変換するテーブル: 税額決定基準情報テーブル(F48127)

WorldSoftware テーブルのカラム数 17

J.D. Edwards 5 のカラム数 20

	フィールド記述	A7.3	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	生成タイプ	GTYP	GTYP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	キー・タイプ	TYKY	TYKY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	テーブル・キー	TKEY	TKEY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
4	開始有効日付	EFTB	EFTB	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
5	有効終了日付	EFTE	EFTE	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
6	主科目	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	終了主科目	OBJT	OBJT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	終了補助科目	SUBT	SUBT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
10	税率/税域	TXA1	TXA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
11	税目コード 1	EXR1	EXR1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
12	課税額または総額	TOG	TOG	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
13	固有キーID(内部)		UKID	固有キー・テーブル(F00022)から次に使用可能な固有キーを取得
14	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
15	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
16	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
17	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
18	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
19	Vertex 取引タイプ		VVTY	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
20	Vertex 製品カテゴリ		VVTC	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。

F48128 の A7.3 から J.D. Edwards ERP 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F48128 の A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R8948128

変換するテーブル: 相手科目/留保金情報テーブル(F48128)

WorldSoftware テーブルのカラム数 11

J.D. Edwards 5 のカラム数 13

	フィールド記述	A7.3	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	キー・タイプ	TYKY	TYKY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	テーブル・キー	TKEY	TKEY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	支払条件	TRAR	TRAR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
4	元帳クラス	GLC	GLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
5	留保金のパーセンテージ	PRET	PRET	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
6	留保金の元帳クラス	RGLC	RGLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	留保金税計算フラグ		RCTL	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
8	通貨モード		CRRM	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
11	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
12	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
13	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

F4822 の A7.3 から J.D. Edwards ERP 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F4822 の A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R894822

変換するテーブル: 請求書集計ワークテーブル(F4822)

WorldSoftware テーブルのカラム数 95

J.D. Edwards 5 のカラム数 103

	フィールド記述	A7.3	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
4	親契約番号	PCTN	PCTN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
5	親契約タイプ	PCTT	PCTT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
6	親契約の伝票会社	PCKO	PCKO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	契約請求書番号	APPL	APPL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	調整番号	ADJN	ADJN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
10	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
11	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
12	契約の価格設定タイプ	PRTP	PRTP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
13	請求一時停止	BLSP	BLSP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
14	作業(A/R)の住所番号	AN8O	AN8O	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
15	住所番号 - 代替受取人	AN8J	AN8J	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
16	支払条件コード	PTC	PTC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
17	会社	CO	CO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
18	ビジネスユニット	MCU	MCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
19	補助元帳	SBL	SBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
20	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

21	元帳クラス	GLC	GLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
22	請求期間開始日		BTFR	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
23	請求期間終了日		BTDT	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
24	元帳日付	DGL	DGL	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
25	支払期日	DDJ	DDJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
26	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
27	バッチ番号	ICU	ICU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
28	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCZ	DOCZ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
29	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
30	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
31	伝票支払項目	SFX	SFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
32	契約請求書日付	APDT	APDT	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
33	契約請求書の転記済みコード	APPO	APPO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
34	無効(V)	VOID	VOID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
35	請求書フォーマット・コード	INVF	INVF	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
36	請求書タイプ	INTY	INTY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
37	数量	U	U	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
38	計量単位	計量単位	計量単位	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
39	単価	UP	UP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
40	外貨単価	FUP	FUP	A7.3 のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには 0 が入力されません。
41	前回請求数量(当期)	PUHP	PUHP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。

42	金額	AA	AA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftwareでの値に変換係数を掛けてからJ.D. Edwards 5テーブルに書き込む。
43	外貨建て金額	ACR	ACR	A7.3のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5テーブルには0が入力されません。
44	現行期間	THPD	THPD	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftwareでの値に変換係数を掛けてからJ.D. Edwards 5テーブルに書き込む。
45	現行期間(外貨)	FHPD	FHPD	A7.3のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5テーブルには0が入力されません。
46	現行期間(再計算)	RTHP	RTHP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftwareでの値に変換係数を掛けてからJ.D. Edwards 5テーブルに書き込む。
47	当期請求済み金額	PTHP	PTHP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftwareでの値に変換係数を掛けてからJ.D. Edwards 5テーブルに書き込む。
48	当期請求済み外貨金額	FTHP	FTHP	A7.3のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5テーブルには0が入力されません。
49	税率/税域	TXA1	TXA1	J.D. Edwards 5にそのままコピー。
50	税目コード 1	EXR1	EXR1	J.D. Edwards 5にそのままコピー。
51	税額	STAM	STAM	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftwareでの値に変換係数を掛けてからJ.D. Edwards 5テーブルに書き込む。
52	税額(外貨)	CTAM	CTAM	A7.3のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5テーブルには0が入力されません。
53	前回税額	PTAM	PTAM	A7.3のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5テーブルには0が入力されません。
54	前回税額(外貨)	FPTA	FPTA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftwareでの値に変換係数を掛けてからJ.D. Edwards 5テーブルに書き込む。

55	課税対象額	ATXA	ATXA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftwareでの値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
56	課税対象額(外貨)	CTXA	CTXA	A7.3 のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには 0 が入力されません。
57	前回課税対象額	PATX	PATX	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftwareでの値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
58	前回課税対象額(外貨)	FATX	FATX	A7.3 のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには 0 が入力されません。
59	課税対象外金額	ATXN	ATXN	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftwareでの値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
60	課税対象外金額(外貨)	CTXN	CTXN	A7.3 のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには 0 が入力されません。
61	留保金リリース・フラグ	RTRE	RTRE	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
62	留保金の元帳クラス	RGLC	RGLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
63	留保金のパーセンテージ	PRET	PRET	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftwareでの値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
64	留保金規則	RTNR	RTNR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
65	留保金税計算フラグ	RCTL	RCTL	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
66	留保金	RTNG	RTNG	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftwareでの値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
67	留保金額(外貨)	FTNG	FTNG	A7.3 のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには 0 が入力されません。
68	前回留保金額	RTNP	RTNP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftwareでの値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
69	前回留保金額(外貨)	FTNP	FTNP	A7.3 のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには 0 が入力されません。

70	繰延税額(国内通貨)		DDTR	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
71	繰延税額(外貨)		FDTR	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
72	保存資材の未払/繰延費用	STML	STML	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
73	保存資材の未払/繰延費用(外貨)	FTML	FTML	A7.3 のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには 0 が入力されます。
74	保管資材の請求済み金額	PSMA	PSMA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
75	Prev.保管資材の請求済み金額(外貨)	FSMA	FSMA	A7.3 のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには 0 が入力されます。
76	保管資材の留保金規則	RTN1	RTN1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
77	保管資材の留保金	SMRT	SMRT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
78	保管資材の留保金(外貨)	SMRF	SMRF	A7.3 のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには 0 が入力されます。
79	保管資材の前回留保金	SMRP	SMRP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
80	保管資材の前回留保金(外貨)	SMPF	SMPF	A7.3 のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには 0 が入力されます。
81	労務費合計	TLAB	TLAB	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
82	労務費合計(外貨)	FLAB	FLAB	A7.3 のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには 0 が入力されます。
83	労務間接費合計	TBUR	TBUR	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。

84	労務間接費合計(外貨)	FBUR	FBUR	A7.3 のリリースでは外貨は使用できません。 J.D. Edwards 5 テーブルには 0 が入力されま す。
85	割引可能額	ADSC	ADSC	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み 込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛 けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込 む。
86	割引可能額(外貨)	CDS	CDS	A7.3 のリリースでは外貨は使用できません。 J.D. Edwards 5 テーブルには 0 が入力されま す。
	再計算基準フラグ	RSBF		J.D. Edwards 5 にはコピーされません。
87	通貨モード		CRRM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
88	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
89	当初通貨コード	CRCF	CRCF	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
90	為替レート(乗数)	CRR	CRR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
91	為替レート(除数)	CRRD	CRRD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
92	備考	RMK	RMK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
93	入力値モード	MIVL	MIVL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
94	保管資材の入力モード	MISM	MISM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
95	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
96	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
97	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
98	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使 った変換
99	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
100	出荷元地理コード		VGCSF	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
101	オーダー承認地理コード		VGCOA	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
102	Vertex 取引タイプ		VVTY	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
103	Vertex 製品カテゴリ		VVTC	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。

F48221 の A7.3 から J.D. Edwards ERP 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F48221 の A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R8948221

変換するテーブル: サービス請求留保金リリース相互参照テーブル(F48221)

注意:

請求書集計ワークテーブル(F4822)の変換は、サービス請求留保金リリース相互参照テーブル(F48221)を変換する前に行う必要があります。

WorldSoftware テーブルのカラム数 17

J.D. Edwards 5 のカラム数 19

	フィールド記述	A7.3	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	バッチ番号	ICU	ICU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	作業(A/R)の住所番号	AN80	AN80	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	伝票 (オーダー番号、請求書など)	DOCZ	DOCZ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
4	伝票会社 (請求書)	KCOI	KCOI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
5	伝票タイプ (請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
6	伝票支払項目	SFX	SFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	伝票会社	KCO	KCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	伝票 (伝票、請求書など)	DOC	DOC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	伝票タイプ	DCT	DCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
10	支払項目	SFXM	SFXM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
11	前回留保金額	RTNP	RTNP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
12	前回留保金額 (外貨)	FTNP	FTNP	A7.3 のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには 0 が入力されます。
13	繰延税額 (国内通貨)		DDTR	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
14	繰延税額 (外貨)		FDTR	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
15	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
16	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
17	ユーザー ID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
18	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
19	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

F48520 の A7.3 から J.D. Edwards ERP 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F48520 の A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R8948520

変換するテーブル: 請求書集計アクセス (F48520)

WorldSoftware テーブルのカラム数 21

J.D. Edwards 5 のカラム数 23

	フィールド記述	A7.3	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	元帳日付	DGL	DGL	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
2	住所番号	AN8	AN9	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	ビジネスユニット	MCU	MCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
4	主科目	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
5	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
6	伝票 (オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	オーダー会社	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
10	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
11	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
12	通貨コード		CRCD	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
13	当初通貨コード		CRCF	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
14	請求書金額	ITOL	ITOL	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
15	請求書の課税対象額	ITXA	ITXA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。

16	請求書の税額	ITAM	ITAM	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
17	請求書の割引可能額	IDSC	IDSC	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
18	請求書金額(外貨)	CITL	CITL	A7.3 のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには 0 が入力されます。
19	請求書の課税対象額(外貨)	CITA	CITA	A7.3 のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには 0 が入力されます。
20	請求書の税額(外貨)	CITX	CITX	A7.3 のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには 0 が入力されます。
21	請求書の割引可能額(外貨)	CIDS	CIDS	A7.3 のリリースでは外貨は使用できません。J.D. Edwards 5 テーブルには 0 が入力されます。
22	数量	U	U	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
23	金額	AA	AA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。

F4860 の A7.3 から J.D. Edwards ERP 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F4860 の A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R894860

変換するテーブル: 追加料金テーブル・マスター(F4860)

WorldSoftware テーブルのカラム数 10

J.D. Edwards 5 のカラム数 10

	フィールド記述	A7.3	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	記述	DL01	DL01	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	開始有効日付	EFTB	EFTB	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
4	有効終了日付	EFTE	EFTE	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
5	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
6	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

F4861 の A7.3 から J.D. Edwards ERP 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F4861 の A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R894861

変換するテーブル: 追加料金明細テーブル(F4861)

WorldSoftware テーブルのカラム数 12

J.D. Edwards 5 のカラム数 13

	フィールド記述	A7.3	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	開始有効日付	EFTB	EFTB	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
3	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

4	順序番号	SEQ	SEQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
5	追加料金パーセント	CRTP	CRTP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
6	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
11	追加料金レート基準	UORC	UORC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
12	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
13	固有キーID		UKID	同じ CTBL、CRCD、EFTB の組合せをもつレコード数を記録します。最初の場合は 1、2 回目の場合は 2 が割り当てられます。

F4862 の A7.3 から J.D. Edwards ERP 5 への変換

〈World A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S321)から〈F4862 の A7.3 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム : R894862

変換するテーブル : 追加料金相互参照(F4862)

WorldSoftware テーブルのカラム数 5

J.D. Edwards 5 のカラム数 5

	フィールド記述	A7.3	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	基準追加料金コード	CBSS	CBSS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	開始有効日付	EFTB	EFTB	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
4	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
5	通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

A7.3 サービス請求リリースからのテーブル変換プログラム

WorldSoftware A8.1 のサービス請求テーブルを J.D. Edwards 5 に変換する次のプログラムが提供されています。

F4805 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F4805 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム : R894805B

変換するテーブル : 請求書の順序/集計テーブル見出し(F4805)

WorldSoftware テーブルのカラム数 7

J.D. Edwards 5 のカラム数 7

	フィールド記述	A8.1	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	集計キー	SBSK	SBSK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	記述	DESC	DESC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
4	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
5	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
6	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
7	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

F48051 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F48051 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム : R8948051B

変換するテーブル : 請求書の順序/集計テーブル詳細(F48051)

WorldSoftware テーブルのカラム数 10

J.D. Edwards 5 のカラム数 10

	フィールド記述	A8.1	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	集計キー(サービス請求)	SBSK	SBSK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	データ項目	DTAI	DTAI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	データ項目サイズ	DTAS	DTAS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

4	行番号(一般)	LIN	LIN	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
5	集計コード(サービス請求)	SBSC	SBSC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
6	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

F48091 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F48091 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R8948091B

変換するテーブル: 請求システム固定情報(F48091)

WorldSoftware テーブルのカラム数 28

J.D. Edwards 5 のカラム数 28

	フィールド記述	A8.1	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	制御フラグ 3	BCT3	BCT3	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	間接労務費の請求フラグ	BBDR	BBDR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	有効日付基準	EBAS	EBAS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
4	労務有効日基準	LBAS	LBAS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
5	顧客番号基準	CNBS	CNBS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
6	収益割増パーセント	PERT	PERT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
7	個別請求フラグ	INDI	INDI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	未転記請求フラグ	BUNP	BUNP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	仕訳作成の制御	PRRR	PRRR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
10	請求書集計アクセス制御	ISAC	ISAC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
11	契約収益フラグ	CNTM	CNTM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
12	請求書日付一時変更制御	INDO	INDO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

13	仕訳振替の制御	JRNL	JRNL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
14	PDBA コード一時変更	PDBO	PDBO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
15	請求書番号制御	ICTL	ICTL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
16	サービス日付基準	DSVB	DSVB	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
17	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
18	為替レート基準日	ERDB	ERDB	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
19	複数のバッチ生成制御フラグ	MBGC	MBGC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
20	データ項目	DTAI	DTAI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
21	通貨モード	CRRM	CRRM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
22	上限処理フラグ	BCT1	BCT1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
23	制御フラグ 2	BCT2	BCT2	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
24	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
25	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
26	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
27	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
28	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

F48096 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F48096 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R8948096B9

変換するテーブル: 請求料金/割増テーブル(F48096)

WorldSoftware テーブルのカラム数 37

J.D. Edwards 5 のカラム数 37

	フィールド記述	A8.1	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	テーブル・キー	TKEY	TKEY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	キー・タイプ	TYKY	TYKY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	開始有効日付	EFTB	EFTB	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
4	有効終了日付	EFTE	EFTE	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
5	主科目	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

6	終了主科目	OBJT	OBJT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	終了補助科目	SUBT	SUBT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	職務タイプ(技能)コード	JBCD	JBCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
10	生成タイプ	GTYP	GTYP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
11	職階	JBST	JBST	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
12	DBA コード	PDBA	PDBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
13	収益一時変更割増レート	BRT	BRT	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
14	上限料金の適用	CAP	CAP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
15	収益割増パーセント	PERT	PERT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。World での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
16	金額	AA	AA	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
17	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
18	カテゴリ・コード - ビジネスユニット 12	RP12	RP12	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
19	住所番号	AN8	AN8	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
20	資産番号	NUMB	NUMB	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
21	カテゴリ・コード - F/A 10(料金グループ)	ACL0	ACL0	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
22	品目価格グループ	PRGR	PRGR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
23	顧客価格グループ	CPGP	CPGP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
24	請求基準フラグ	BBF	BBF	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
25	設備料金コード	ERC	ERC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

26	追加料金の原価レート・テーブル	CCR	CCR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
27	追加料金の収益レート・テーブル	CRVR	CRVR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
28	摘要	EXR	EXR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
29	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
30	制御フラグ 1	CTF1	CTF1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
31	制御フラグ 2	CTF2	CTF2	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
32	固有キーID(内部)	UKID	UKID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
33	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
34	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
35	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
36	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
37	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

F4812 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F4812 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R894812B

変換するテーブル: サービス請求ワークテーブル(F4812)

WorldSoftware テーブルのカラム数 189

J.D. Edwards 5 のカラム数 193

	フィールド記述	A7.3	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	伝票タイプ	DCT	DCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	伝票(伝票、請求書など)	DOC	DOC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	伝票会社	KCO	KCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
4	元帳日付	DGL	DGL	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
5	仕訳行番号	JELN	JELN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
6	略式 ID	AID	AID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	ビジネスユニット	MCU	MCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	カテゴリ・コード - ビジネスユニット 11	RP11	RP11	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

9	主科目	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
10	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
11	補助元帳	SBL	SBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
12	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
13	作業順序番号	OPSQ	OPSQ	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
14	カテゴリ - 作業オーダー01	WR01	WR01	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
15	作業オーダー・カテゴリ・コード 7 (JDE サービス・タイプ)	WR07	WR07	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
16	Ledger Type (元帳タイプ)	リットル (LT)	リットル(LT)	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
17	西暦上 2 桁	CTRY	CTRY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
18	会計年度	FY	FY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
19	会計期間 - 総勘定元帳	PN	PN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
20	会社	CO	CO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
21	当初伝票タイプ	ODCT	ODCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
22	当初伝票支払項目	OSFX	OSFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
23	当初伝票	ODOC	ODOC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
24	伝票会社 (当初オーダー)	OKCO	OKCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
25	購買オーダー	PO	PO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
26	伝票タイプ - 購買オーダー	PDCT	PDCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
27	伝票会社 (購買オーダー)	PKCO	PKCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
28	購買オーダー・サフィックス	PSFX	PSFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
29	当初行番号	OGNO	OGNO	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
30	カテゴリ・コード - G/L 1	R001	R001	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
31	カテゴリ・コード - G/L 2	R002	R002	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
32	カテゴリ・コード - G/L 3	R003	R003	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
33	トランザクション番号 - 給与計算	PRTR	PRTR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

34	職務タイプ(技能)コード	JBCD	JBCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
35	職階	JBST	JBST	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
36	DBA コード	PDBA	PDBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
37	税タイプ	PTAX	PTAX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
38	使用設備	EQCG	EQCG	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
39	作業設備	EQWO	EQWO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
40	カテゴリ・コード - F/A 10 (料金グループ)	ACLO	ACLO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
41	設備料金コード	ERC	ERC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
42	住所番号	AN8	AN8	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
43	圧縮記述	DC	DC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
44	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
45	担当ビジネスユニット	JMCU	JMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
46	カテゴリ・コード - ビジネスユ ニット 12	RP12	RP12	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
47	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を 使った変換
48	経過日付一時変更	DAGO	DAGO	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を 使った変換
49	経過計算停止	AGS	AGS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
50	備考/摘要	EXA	EXA	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
51	摘要	EXR	EXR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
52	労務間接費フラグ	PCFG	PCFG	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
53	基本単位あたり単価	PRIC	PRIC	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読 み込む。WorldSoftware での値に変換係数 を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書 き込む。
54	数量	U	U	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読 み込む。WorldSoftware での値に変換係数 を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書 き込む。
55	計量単位	計量単位	計量単位	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
56	金額	AA	AA	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読 み込む。WorldSoftware での値に変換係数 を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書 き込む。

57	照合伝票(支払伝票/支払項目)	DOCM	DOCM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
58	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
59	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
60	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
61	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
62	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
63	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
64	親契約番号	PCTN	PCTN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
65	親契約タイプ	PCTT	PCTT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
66	親契約の伝票会社	PCKO	PCKO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
67	親順序番号	PRSQ	PRSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
68	順序番号	SBSQ	SBSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
69	2次順序番号	SCSQ	SCSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
70	請求制御 ID	BCI	BCI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
71	処理完了	LSSQ	LSSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
72	支払順序番号	PMSQ	PMSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
73	収益計上フラグ	LSPM	LSPM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
74	取引分類	TCLS	TCLS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
75	適格性コード	ELGC	ELGC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
76	仕訳状況コード	JRST	JRST	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
77	収益バッチ番号	ICUJ	ICUJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
78	請求書日付	IVD	IVD	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
79	保留コード(サービス請求)	HLD	HLD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
80	リリース日付(ユリウス暦)	RDJ	RDJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
81	無効(V)	VOID	VOID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
82	活動中バッチ番号	ICUA	ICUA	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

83	前回仕訳状況コード	JRSP	JRSP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
84	労務間接費保留	BDPN	BDPN	次のように WorldSoftware の値を J.D. Edwards の値に変換。 <ul style="list-style-type: none"> • Y = 1 • Y 以外の値をそのままコピーします。
85	分割リンク	SLNK	SLNK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
86	追加料金リンク	CLNK	CLNK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
87	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
88	追加料金の原価レート・テーブル	CCR	CCR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
89	追加料金の請求書レート・テーブル	CINR	CINR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
90	追加料金の収益レート・テーブル	CRVR	CRVR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
91	調整理由コード	SBAR	SBAR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
92	テーブル比較基準日(ユリウス暦)	TBDT	TBDT	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
93	上限レートの使用	CAP	CAP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
94	収益一時変更割増レート	BRT	BRT	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。 CRRM に値 D がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換。 CRRM に値 F がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された海外通貨から変換。
95	収益割増パーセント	PERT	PERT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。

96	収益割増金額	ADCR	ADCR	<p>A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM に値 D がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換。</p> <p>CRRM に値 F がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された海外通貨から変換。</p>
97	上限レートの使用(請求書)	CAPI	CAPI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
98	請求書一時変更割増レート	BRTI	BRTI	<p>A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM に値 D がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換。</p> <p>CRRM に値 F がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された海外通貨から変換。</p>
99	請求書割増パーセント	PCIM	PCIM	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
100	請求書割増金額	ADCI	ADCI	<p>A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM に値 D がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換。</p> <p>CRRM に値 F がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された海外通貨から変換。</p>
101	課税対象(購買時)	TX	TX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
102	課税額または総額	TOG	TOG	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
103	税目コード 1	EXR1	EXR1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
104	税率/税域	TXA1	TXA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
105	割引率(支払条件)	DCP	DCP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

106	仕訳税額	JTAX	JTAX	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
107	仕訳税額(外貨)	JTXF	JTXF	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
108	収益金額	BTOL	BTOL	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
109	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
110	為替レート(乗数)	CRR	CRR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
111	通貨モード	CRRM	CRRM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
112	請求済み合計(外貨)	FTOL	FTOL	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
113	請求書金額	ITOL	ITOL	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
114	請求書の課税対象額	ITXA	ITXA	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
115	請求書の税額	ITAM	ITAM	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。

116	請求書の割引可能額	IDSC	IDSC	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
117	請求書金額(外貨)	CITL	CITL	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
118	請求書の課税対象額(外貨)	CITA	CITA	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
119	請求書の課税対象額(外貨)	CITX	CITX	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
120	請求書の割引可能額(外貨)	CIDS	CIDS	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
121	請求書仕訳状況コード	IJST	IJST	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
122	印刷済みフラグ	PRTF	PRTF	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
123	バッチ番号	ICU	ICU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
124	作業(A/R)の住所番号	AN80	AN80	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
125	仕入先請求書番号	VINV	VINV	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
126	請求書日付	DI	DI	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
127	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCZ	DOCZ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
128	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
129	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
130	伝票支払項目	SFX	SFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

131	集計キー(サービス請求)	SBSK	SBSK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
132	複合キー・ブロック	BLKK	BLKK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
133	略式 ID	AID5	AID5	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
134	補助元帳	SBL5	SBL5	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
135	補助元帳タイプ	SBT5	SBT5	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
136	略式 ID	AID6	AID6	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
137	補助元帳	SBL6	SBL6	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
138	補助元帳タイプ	SBT6	SBT6	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
139	入金時請求規則の一時変更	AREX	AREX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
140	元帳クラス	GLC	GLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
141	留保金の元帳クラス	RGLC	RGLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
142	留保金のパーセンテージ	PRET	PRET	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
143	留保金	RTNG	RTNG	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
144	保管資材の前回留保金	RTPS	RTPS	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
145	留保金額(外貨)	FRTN	FRTN	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
146	ダウンロード・フラグ(サービス請求)	DWNL	DWNL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
147	内部コード・チェック	CBLC	CBLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
148	入力日付	DEJ	DEJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
149	為替レート(除数)	CRRD	CRRD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

150	通貨コード(換算元)	CRCE	CRCE	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
151	当初通貨コード	CRCF	CRCF	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
152	金額	AA2	AA2	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
153	キー・タイプ	TYKY	TYKY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
154	元帳日付(ユリウス暦)	DGJ	DGJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
155	請求書の元帳日付(ユリウス暦)	IDGJ	IDGJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
156	パス・スルー請求フラグ	PTFG	PTFG	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
157	品目番号(略式)	ITM	ITM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
158	合計原価/価格	PAID	PAID	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
159	合計価格(外貨)	FEA	FEA	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
160	為替レート基準日	ERDB	ERDB	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
161	為替レート日付	ERDT	ERDT	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
162	代替補助科目	SUBA	SUBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
163	バッチ制御キー	BCTK	BCTK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
164	親作業オーダー番号	PARS	PARS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
165	品目価格グループ	PRGR	PRGR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
166	顧客価格グループ	CPGP	CPGP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
167	請求基準フラグ	BFF	BBF	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
168	割増し率	MKRP	MKRP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。

169	請求書金額基準	FBAS	FBAS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
170	収益金額基準	RFBS	RFBS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
171	キー・タイプ(割増テーブル・タイプ 1)	TKM1	TKM1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
172	キー・タイプ(割増テーブル・タイプ 2)	TKM2	TKM2	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
173	キー・タイプ(割増テーブル・タイプ 3)	TLM3	TKM3	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
174	キー・タイプ(勘定科目決定基準テーブル 1)	TKA1	TKA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
175	キー・タイプ(勘定科目決定基準テーブル 2)	TKA2	TKA2	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
176	キー・タイプ(勘定科目決定基準テーブル 3)	TKA3	TKA3	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
177	キー・タイプ(元帳クラス・テーブル)	TKG1	TKG1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
178	キー・タイプ(税決定基準テーブル)	TKT1	TKT1	J.D. Edwards 5 テーブルにコピーしない。
179	収益金額(履歴)	HBTL	HBTL	<p>A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM に値 D がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換。</p> <p>CRRM に値 F がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された海外通貨から変換。</p>
180	請求書金額(履歴)	HITL	HITL	<p>A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM に値 D がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換。</p> <p>CRRM に値 F がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された海外通貨から変換。</p>

181	請求書の課税対象金額(履歴)	HITX	HITX	<p>A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM に値 D がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換。</p> <p>CRRM に値 F がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された海外通貨から変換。</p>
182	請求書の税額(履歴)	HTAM	HTAM	<p>A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 で多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM に値 D がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換。</p> <p>CRRM に値 F がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された海外通貨から変換。</p>
183	基本単位あたり単価(外貨)	PRIF	PRIF	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
184	上限(NTE)制御フラグ	NCTL	NCTL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
185	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
186	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
187	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
188	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
189	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
190	出荷元地理コード		VGCSF	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards5 テーブルでは空白になります。
191	オーダー承認地理コード		VGCOA	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards5 テーブルでは空白になります。
192	Vertex 取引タイプ		VVTY	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards5 テーブルでは空白になります。

193	Vertex 製品カテゴリ		VVTC	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards5 テーブルではblankになります。
-----	---------------	--	------	--

F4812H の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F4812H の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R894812HB

変換するテーブル: 請求ワークテーブル履歴(F4812H)

WorldSoftware テーブルのカラム数 189

J.D. Edwards 5 のカラム数 193

	フィールド記述	A8.1	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	伝票タイプ	DCT	DCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	伝票 (伝票、請求書など)	DOC	DOC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	伝票会社	KCO	KCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
4	元帳日付	DGL	DGL	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ) を使った変換
5	仕訳行番号	JELN	JELN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
6	略式 ID	AID	AID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	ビジネスユニット	MCU	MCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	カテゴリ・コード - ビジネスユニット 11	RP11	RP11	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	主科目	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
10	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
11	補助元帳	SBL	SBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
12	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
13	作業順序番号	OPSQ	OPSQ	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
14	カテゴリ - 作業オーダー01	WR01	WR01	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
15	作業オーダー・カテゴリ・コード 7 (JDE サービス・タイプ)	WR07	WR07	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
16	Ledger Type (元帳タイプ)	リットル (LT)	リットル(LT)	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
17	西暦上 2 桁	CTRY	CTRY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

18	会計年度	FY	FY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
19	会計期間 - 総勘定元帳	PN	PN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
20	会社	CO	CO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
21	当初伝票タイプ	ODCT	ODCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
22	当初伝票支払項目	OSFX	OSFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
23	当初伝票	ODOC	ODOC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
24	伝票会社(当初オーダー)	OKCO	OKCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
25	購買オーダー	PO	PO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
26	伝票タイプ - 購買オーダー	PDCT	PDCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
27	伝票会社(購買オーダー)	PKCO	PKCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
28	購買オーダー・サフィックス	PSFX	PSFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
29	当初行番号	OGNO	OGNO	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
30	カテゴリ・コード - G/L 1	R001	R001	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
31	カテゴリ・コード - G/L 2	R002	R002	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
32	カテゴリ・コード - G/L 3	R003	R003	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
33	トランザクション番号 - 給与計算	PRTR	PRTR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
34	職務タイプ(技能)コード	JBCD	JBCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
35	職階	JBST	JBST	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
36	DBA コード	PDBA	PDBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
37	税タイプ	PTAX	PTAX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
38	使用設備	EQCG	EQCG	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
39	作業設備	EQWO	EQWO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
40	カテゴリ・コード - F/A 10(料金グループ)	ACLO	ACLO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
41	設備料金コード	ERC	ERC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
42	住所番号	AN8	AN8	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
43	圧縮記述	DC	DC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
44	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
45	担当ビジネスユニット	JMCU	JMCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

46	カテゴリ・コード - ビジネスユニット 12	RP12	RP12	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
47	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
48	経過日付一時変更	DAGO	DAGO	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
49	経過計算停止	AGS	AGS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
50	備考/摘要	EXA	EXA	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
51	摘要	EXR	EXR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
52	労務間接費フラグ	PCFG	PCFG	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
53	基本単位あたり単価	PRIC	PRIC	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
54	数量	U	U	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
55	計量単位	計量単位	計量単位	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
56	金額	AA	AA	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
57	照合伝票(支払伝票/支払項目)	DOCM	DOCM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
58	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
59	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
60	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
61	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
62	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
63	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
64	親契約番号	PCTN	PCTN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

65	親契約タイプ	PCTT	PCTT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
66	親契約の伝票会社	PCKO	PCKO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
67	親順序番号	PRSQ	PRSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
68	順序番号	SBSQ	SBSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
69	2次順序番号	SCSQ	SCSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
70	請求制御 ID	BCI	BCI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
71	処理完了	LSSQ	LSSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
72	支払順序番号	PMSQ	PMSQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
73	収益計上フラグ	LSPM	LSPM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
74	取引分類	TCLS	TCLS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
75	適格性コード	ELGC	ELGC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
76	仕訳状況コード	JRST	JRST	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
77	収益バッチ番号	ICUJ	ICUJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
78	請求書日付	IVD	IVD	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
79	保留コード(サービス請求)	HLD	HLD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
80	リリース日付(ユリウス暦)	RDJ	RDJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
81	無効(V)	VOID	VOID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
82	活動中バッチ番号	ICUA	ICUA	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
83	前回仕訳状況コード	JRSP	JRSP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
84	労務間接費保留	BDPN	BDPN	次のように WorldSoftware の値を J.D. Edwards の値に変換。 <ul style="list-style-type: none"> • Y = 1 • Y 以外の値をそのままコピーします。
85	分割リンク	SLNK	SLNK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
86	追加料金リンク	CLNK	CLNK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
87	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
88	追加料金の原価レート・テーブル	CCR	CCR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
89	追加料金の請求書レート・テーブル	CINR	CINR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
90	追加料金の収益レート・テーブル	CRVR	CRVR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

91	調整理由コード	SBAR	SBAR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
92	テーブル比較基準日(ユリウス暦)	TBDT	TBDT	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
93	上限レートの使用	CAP	CAP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
94	収益一時変更割増レート	BRT	BRT	<p>A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM に値 D がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換。</p> <p>CRRM に値 F がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された海外通貨から変換。</p>
95	収益割増パーセント	PERT	PERT	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
96	収益割増金額	ADCR	ADCR	<p>A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM に値 D がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換。</p> <p>CRRM に値 F がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された海外通貨から変換。</p>
97	上限レートの使用(請求書)	CAPI	CAPI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
98	請求書一時変更割増レート	BRTI	BRTI	<p>A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM に値 D がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換。</p> <p>CRRM に値 F がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された海外通貨から変換。</p>

99	請求書割増パーセント	PCIM	PCIM	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
100	請求書割増金額	ADCI	ADCI	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。 CRRM に値 D がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換。 CRRM に値 F がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された海外通貨から変換。
101	課税対象(購買時)	TX	TX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
102	課税額または総額	TOG	TOG	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
103	税目コード 1	EXR1	EXR1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
104	税率/税域	TXA1	TXA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
105	割引率(支払条件)	DCP	DCP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
106	仕訳税額	JTAX	JTAX	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
107	仕訳税額(外貨)	JTXF	JTXF	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
108	収益金額	BTOL	BTOL	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
109	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
110	為替レート(乗数)	CRR	CRR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
111	通貨モード	CRRM	CRRM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

112	請求済み合計(外貨)	FTOL	FTOL	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
113	請求書金額	ITOL	ITOL	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
114	請求書の課税対象額	ITXA	ITXA	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
115	請求書の税額	ITAM	ITAM	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
116	請求書の割引可能額	IDSC	IDSC	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
117	請求書金額(外貨)	CITL	CITL	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
118	請求書の課税対象額(外貨)	CITA	CITA	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
119	請求書の課税対象額(外貨)	CITX	CITX	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。

120	請求書の割引可能額(外貨)	CIDS	CIDS	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
121	請求書仕訳状況コード	IJST	IJST	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
122	印刷済みフラグ	PRTF	PRTF	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
123	バッチ番号	ICU	ICU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
124	作業(A/R)の住所番号	AN80	AN80	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
125	仕入先請求書番号	VINV	VINV	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
126	請求書日付	DI	DI	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
127	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCZ	DOCZ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
128	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
129	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
130	伝票支払項目	SFX	SFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
131	集計キー(サービス請求)	SBSK	SBSK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
132	複合キー・ブロック	BLKK	BLKK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
133	略式 ID	AID5	AID5	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
134	補助元帳	SBL5	SBL5	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
135	補助元帳タイプ	SBT5	SBT5	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
136	略式 ID	AID6	AID6	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
137	補助元帳	SBL6	SBL6	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
138	補助元帳タイプ	SBT6	SBT6	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
139	入金時請求規則の一時変更	AREX	AREX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
140	元帳クラス	GLC	GLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
141	留保金の元帳クラス	RGLC	RGLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
142	留保金のパーセンテージ	PRET	PRET	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。

143	留保金	RTNG	RTNG	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
144	保管資材の前回留保金	RTPS	RTPS	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
145	留保金額(外貨)	FRTN	FRTN	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
146	ダウンロード・フラグ (サービス請求)	DWNL	DWNL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
147	内部コード・チェック	CBLC	CBLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
148	入力日付	DEJ	DEJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
149	為替レート(除数)	CRRD	CRRD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
150	通貨コード(換算元)	CRCE	CRCE	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
151	当初通貨コード	CRCF	CRCF	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
152	金額	AA2	AA2	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
153	キー・タイプ	TYKY	TYKY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
154	元帳日付(ユリウス暦)	DGJ	DGJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
155	請求書の元帳日付(ユリウス暦)	IDGJ	IDGJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
156	パス・スルー請求フラグ	PTFG	PTFG	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
157	品目番号(略式)	ITM	ITM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

158	合計原価/価格	PAID	PAID	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
159	合計価格(外貨)	FEA	FEA	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
160	為替レート基準日	ERDB	ERDB	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
161	為替レート日付	ERDT	ERDT	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
162	代替補助科目	SUBA	SUBA	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
163	バッチ制御キー	BCTK	BCTK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
164	親作業オーダー番号	PARS	PARS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
165	品目価格グループ	PRGR	PRGR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
166	顧客価格グループ	CPGP	CPGP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
167	請求基準フラグ	BBF	BBF	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
168	割増し率	MKRP	MKRP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
169	請求書金額基準	FBAS	FBAS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
170	収益金額基準	RFBS	RFBS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
171	キー・タイプ(割増テーブル・タイプ 1)	TKM1	TKM1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
172	キー・タイプ(割増テーブル・タイプ 2)	TKM2	TKM2	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
173	キー・タイプ(割増テーブル・タイプ 3)	TKM3	TKM3	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
174	キー・タイプ(勘定科目決定基準テーブル 1)	TKA1	TKA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
175	キー・タイプ(勘定科目決定基準テーブル 2)	TKA2	TKA2	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
176	キー・タイプ(勘定科目決定基準テーブル 3)	TKA3	TKA3	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

177	キー・タイプ(元帳クラス・テーブル)	TKG1	TKG1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
178	キー・タイプ(税決定基準テーブル)	TKT1	TKT1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
179	収益金額(履歴)	HBTL	HBTL	<p>A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM に値 D がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換。</p> <p>CRRM に値 F がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された海外通貨から変換。</p>
180	請求書金額(履歴)	HITL	HITL	<p>A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM に値 D がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換。</p> <p>CRRM に値 F がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された海外通貨から変換。</p>
181	請求書の課税対象金額(履歴)	HITX	HITX	<p>A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM に値 D がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換。</p> <p>CRRM に値 F がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された海外通貨から変換。</p>

182	請求書の税額(履歴)	HTAM	HTAM	<p>A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、通貨モードの値により表示小数点以下桁数が決まります。</p> <p>CRRM に値 D がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドで指定された国内通貨から変換。</p> <p>CRRM に値 F がある場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された海外通貨から変換。</p>
183	基本単位あたり単価(外貨)	PRIF	PRIF	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
184	上限(NTE)制御フラグ	NCTL	NCTL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
185	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
186	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
187	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
188	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
189	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
190	出荷元地理コード		VGCSF	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards5 テーブルでは空白になります。
191	オーダー承認地理コード		VGCOA	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards5 テーブルでは空白になります。
192	Vertex 取引タイプ		VVTY	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards5 テーブルでは空白になります。
193	Vertex 製品カテゴリ		VVTC	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards5 テーブルでは空白になります。

F48127 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F48127 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R8948127B

変換するテーブル: 税額決定基準情報テーブル(F48127)

WorldSoftware テーブルのカラム数 18

J.D. Edwards 5 のカラム数 20

	フィールド記述	A8.1	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	生成タイプ	GTYP	GTYP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	キー・タイプ	TYKY	TYKY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	テーブル・キー	TKEY	TKEY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
4	開始有効日付	EFTB	EFTB	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
5	有効終了日付	EFTE	EFTE	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
6	主科目	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	終了主科目	OBJT	OBJT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	終了補助科目	SUBT	SUBT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
10	税率/税域	TXA1	TXA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
11	税目コード 1	EXR1	EXR1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
12	課税額または総額	TOG	TOG	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
13	固有キーID(内部)	UKID	UKID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
14	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
15	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
16	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
17	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
18	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
19	Vertex 取引タイプ		VVTY	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards5 テーブルではblankになります。

20	Vertex 製品カテゴリ		VVTC	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards5 テーブルではblankになります。
----	---------------	--	------	--

F48128 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F48128 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R8948128B

変換するテーブル: 相手科目/留保金情報テーブル(F48128)

WorldSoftware テーブルのカラム数 13

J.D. Edwards 5 のカラム数 13

	フィールド記述	A8.1	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	キー・タイプ	TYKY	TYKY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	テーブル・キー	TKEY	TKEY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	支払条件	TRAR	TRAR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
4	元帳クラス	GLC	GLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
5	留保金のパーセンテージ	PRET	PRET	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
6	留保金の元帳クラス	RGLC	RGLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	留保金税計算フラグ	RCTL	RCTL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	通貨モード	CRRM	CRRM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
11	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
12	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
13	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

F4822 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F4822 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R894822B

変換するテーブル: 請求書集計ワークテーブル(F4822)

WorldSoftware テーブルのカラム数 99

J.D. Edwards 5 のカラム数 103

	フィールド記述	A8.1	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
4	親契約番号	PCTN	PCTN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
5	親契約タイプ	PCTT	PCTT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
6	親契約の伝票会社	PCKO	PCKO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	契約請求書番号	APPL	APPL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	調整番号	ADJN	ADJN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
10	行番号	LNID	LNID	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
11	オーナー支払項目	OPIM	OPIM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
12	契約の価格設定タイプ	PRTP	PRTP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
13	請求一時停止	BLSP	BLSP	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
14	作業(A/R)の住所番号	AN8O	AN8O	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
15	住所番号 - 代替受取人	AN8J	AN8J	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
16	支払条件コード	PTC	PTC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
17	会社	CO	CO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
18	ビジネスユニット	MCU	MCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
19	補助元帳	SBL	SBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
20	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

21	元帳クラス	GLC	GLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
22	請求期間開始日	BTFR	BTFR	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
23	請求期間終了日	BTDT	BTDT	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
24	元帳日付	DGL	DGL	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
25	支払期日	DDJ	DDJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
26	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
27	バッチ番号	ICU	ICU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
28	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCZ	DOCZ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
29	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
30	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
31	伝票支払項目	SFX	SFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
32	契約請求書日付	APDT	APDT	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
33	契約請求書の転記済みコード	APPO	APPO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
34	無効(V)	VOID	VOID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
35	請求書フォーマット・コード	INVF	INVF	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
36	請求書タイプ	INTY	INTY	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
37	数量	U	U	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
38	計量単位	計量単位	計量単位	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
39	単価	UP	UP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
40	外貨単価	FUP	FUP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。

41	前回請求数量(当期)	PUHP	PUHP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
42	金額	AA	AA	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
43	外貨建て金額	ACR	ACR	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
44	現行期間	THPD	THPD	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
45	現行期間(外貨)	FHPD	FHPD	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
46	現行期間(再計算)	RTHP	RTHP	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
47	当期請求済み金額	PTHP	PTHP	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
48	当期請求済み外貨金額	FTHP	FTHP	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
49	税率/税域	TXA1	TXA1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

50	税目コード 1	EXR1	EXR1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
51	税額	STAM	STAM	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
52	税額(外貨)	CTAM	CTAM	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
53	前回税額	PTAM	PTAM	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
54	前回税額(外貨)	FPTA	FPTA	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
55	課税対象額	ATXA	ATXA	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
56	課税対象額(外貨)	CTXA	CTXA	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
57	前回課税対象額	PATX	PATX	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。

58	前回課税対象額(外貨)	FATX	FATX	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
59	課税対象外金額	ATXN	ATXN	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
60	課税対象外金額(外貨)	CTXN	CTXN	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
61	留保金リリース・フラグ	RTRE	RTRE	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
62	留保金の元帳クラス	RGLC	RGLC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
63	留保金のパーセンテージ	PRET	PRET	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
64	留保金規則	RTNR	RTNR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
65	留保金税計算フラグ	RCTL	RCTL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
66	留保金	RTNG	RTNG	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
67	留保金額(外貨)	FTNG	FTNG	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
68	前回留保金額	RTNP	RTNP	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。

69	前回留保金額(外貨)	FTNP	FTNP	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
70	繰延税額(国内通貨)	DDTR	DDTR	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
71	繰延税額(外貨)	FDTR	FDTR	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
72	保存資材の未払/繰延費用	STML	STML	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
73	保存資材の未払/繰延費用(外貨)	FTML	FTML	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
74	保管資材の請求済み金額	PSMA	PSMA	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
75	Prev.保管資材の請求済み金額(外貨)	FSMA	FSMA	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
76	保管資材の留保金規則	RTN1	RTN1	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

77	保管資材の留保金	SMRT	SMRT	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
78	保管資材の留保金(外貨)	SMRF	SMRF	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
79	保管資材の前回留保金	SMRP	SMRP	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
80	保管資材の前回留保金(外貨)	SMPF	SMPF	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
81	労務費合計	TLAB	TLAB	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
82	労務費合計(外貨)	FLAB	FLAB	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
83	労務間接費合計	TBUR	TBUR	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
84	労務間接費合計(外貨)	FBUR	FBUR	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。

85	割引可能額	ADSC	ADSC	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
86	割引可能額(外貨)	CDS	CDS	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
87	通貨モード	CRRM	CRRM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
88	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
89	当初通貨コード	CRCF	CRCF	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
90	為替レート(乗数)	CRR	CRR	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
91	為替レート(除数)	CRRD	CRRD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
92	備考	RMK	RMK	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
93	入力値モード	MIVL	MIVL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
94	保管資材の入力モード	MISM	MISM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
95	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
96	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
97	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
98	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
99	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
100	出荷元地理コード		VGCSF	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards5 テーブルでは空白になります。
101	オーダー承認地理コード		VGCOA	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards5 テーブルでは空白になります。
102	Vertex 取引タイプ		VVTY	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards5 テーブルでは空白になります。
103	Vertex 製品カテゴリ		VVTC	Vertex は WorldSoftware では使用できません。J.D. Edwards5 テーブルでは空白になります。

F48221 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F48221 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R8948221B

変換するテーブル: サービス請求留保金リリース相互参照テーブル(F48221)

注意:

請求書集計ワークテーブル(F4822)の変換は、サービス請求留保金リリース相互参照テーブル(F48221)を変換する前に行う必要があります。

WorldSoftware テーブルのカラム数 19

J.D. Edwards 5 のカラム数 19

	フィールド記述	A8.1	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	バッチ番号	ICU	ICU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	作業(A/R)の住所番号	AN80	AN80	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCZ	DOCZ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
4	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
5	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
6	伝票支払項目	SFX	SFX	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	伝票会社	KCO	KCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	伝票(伝票、請求書など)	DOC	DOC	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	伝票タイプ	DCT	DCT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
10	支払項目	SFXM	SFXM	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
11	前回留保金額	RTNP	RTNP	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。 A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、F4822 テーブルの関連レコードの CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。

12	前回留保金額(外貨)	FTNP	FTNP	<p>A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。</p> <p>A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、F4822 テーブルの関連レコードの CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。</p>
13	繰延税額(国内通貨)	DDTR	DDTR	<p>A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。</p> <p>A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、F4822 テーブルの関連レコードの CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。</p>
14	繰延税額(外貨)	FDTR	FDTR	<p>A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。</p> <p>A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、F4822 テーブルの関連レコードの CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。</p>
15	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
16	ワークステーション ID	JOB	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
17	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
18	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
19	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

注:

多通貨処理がオンの場合、RTNP、FTNP、DDTR、FDTR フィールドの値は国内通貨/外貨と関連付けられた表示小数点以下桁数を使用して変換する必要があります。CRCD と CRCF フィールドは F4822 に保存されているので、関連付けられているレコードごとにこれらの情報を F4822 テーブルから読み込む必要があります。F4822 テーブルの固有レコードは、F48221 テーブルの次のフィールドを使用してアクセスされます。

- DOCZ
 - DCTI
 - KCOI
 - SFX
-

F48520 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F48520 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R8948520B

変換するテーブル: 請求書集計アクセス(F48520)

WorldSoftware テーブルのカラム数 23

J.D. Edwards 5 のカラム数 23

	フィールド記述	A8.1	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	元帳日付	DGL	DGL	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
2	住所番号	AN8	AN9	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	ビジネスユニット	MCU	MCU	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
4	主科目	OBJ	OBJ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
5	補助科目	SUB	SUB	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
6	伝票(オーダー番号、請求書など)	DOCO	DOCO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	オーダー会社	KCOO	KCOO	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	契約変更番号	COCH	COCH	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
10	行番号	LNID	LNID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
11	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
12	通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

13	当初通貨コード	CRCF	CRCF	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
14	請求書金額	ITOL	ITOL	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
15	請求書の課税対象額	ITXA	ITXA	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
16	請求書の税額	ITAM	ITAM	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
17	請求書の割引可能額	IDSC	IDSC	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
18	請求書金額(外貨)	CITL	CITL	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
19	請求書の課税対象額(外貨)	CITA	CITA	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
20	請求書の税額(外貨)	CITX	CITX	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。

21	請求書の割引可能額(外貨)	CIDS	CIDS	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCF フィールドに保存された国内通貨から変換されます。
22	数量	U	U	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
23	金額	AA	AA	A8.1 のリリースで通貨処理が OFF の場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換。A8.1 のリリースで多通貨処理がオンの場合、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して、CRCD フィールドに保存された国内通貨から変換されます。

F4860 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F4860 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R894860B

変換するテーブル: 追加料金テーブル・マスター(F4860)

WorldSoftware テーブルのカラム数 10

J.D. Edwards 5 のカラム数 10

	フィールド記述	A8.1	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	記述	DL01	DL01	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	開始有効日付	EFTB	EFTB	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
4	有効終了日付	EFTE	EFTE	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
5	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
6	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

F4861 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F4861 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R894861B

変換するテーブル: 追加料金明細テーブル(F4861)

WorldSoftware テーブルのカラム数 13

J.D. Edwards 5 のカラム数 13

	フィールド記述	A8.1	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	開始有効日付	EFTB	EFTB	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
3	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
4	順序番号	SEQ	SEQ	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
5	追加料金パーセント	CRTP	CRTP	表示小数点以下桁数はデータ辞書から読み込む。WorldSoftware での値に変換係数を掛けてから J.D. Edwards 5 テーブルに書き込む。
6	ユーザーID	USER	USER	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
7	プログラム ID	PID	PID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
8	ワークステーション ID	JOBN	JOBN	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001(ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
11	追加料金レート基準	UORC	UORC	次のように WorldSoftware の値を J.D. Edwards の値に変換。 <ul style="list-style-type: none"> • C = 1 • U = 2
12	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
13	固有キーID	UKD	UKID	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

F4862 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換

〈World A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉メニュー(G48S322)から〈F4862 の A8.1 から J.D. Edwards 5 への変換〉を選択します。

変換プログラム: R894862B

変換するテーブル: 追加料金相互参照(F4862)

WorldSoftware テーブルのカラム数 5

J.D. Edwards 5 のカラム数 5

	フィールド記述	A8.1	J.D. Edwards 5	変換ロジック
1	基準追加料金コード	CBSS	CBSS	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
2	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
3	開始有効日付	EFTB	EFTB	B9100001 (ユリウス暦から JDE 日付へ)を使った変換
4	追加料金コード	CCOD	CCOD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。
5	通貨コード	CRCD	CRCD	J.D. Edwards 5 にそのままコピー。

Vertex 社の Quantum Sales & Use Tax

次の J.D. Edwards システムでは、Vertex 社の Quantum for Sales & Use Tax システムと連動して売上税/消費税を自動計算できます。

- 一般会計
- 売掛管理
- 買掛管理
- 受注管理
- 調達管理
- カスタマー・サービス管理(CSMS)
- 契約請求
- サービス請求

注意:

EnterpriseOne 給与計算システムを使用している場合は、Quantum for Payroll Tax System を使用する必要があります。『Payroll(給与計算)』ガイドの「Setting Up Tax Information(税情報の設定)」を参照してください。

参照

- Vertex Quantum for Sales and Use Tax 製品の使用については「Interface to Vertex Quantum for Sales and Use Tax(Vertex Quantum for Sales and Use Tax とのインターフェイス)」ガイド

